
令和8年度

学習指導計画

(後期課程)



1

千代田区立九段中等教育学校



学習指導計画

(後期課程)

表紙	1
目次	2
教育課程表	3
令和8年度の教育課程	
評価・評定	4
国語	5
学習指導計画、4年、5年、6年	
地理歴史・公民	2 4
学習指導計画、4年、5年、6年	
数学	5 5
学習指導計画、4年、5年、6年	
理科	1 1 3
学習指導計画、4年、5年、6年	
保健体育	1 3 8
学習指導計画、4年、5年、6年	
芸術（音楽）	1 4 9
学習指導計画、4年	
芸術（美術）	1 5 2
学習指導計画、4年	
芸術（書道）	1 5 5
4年	
英語	1 5 7
学習指導計画、4年、5年、6年	
家庭	1 7 4
学習指導計画、5年	
情報	1 7 7
学習指導計画、4年、6年	

令和8年度 教育課程表

単位数 時間数	前期課程			後期課程			単位数 時間数
	基礎学力養成期		充実期	発展期			
	1年(23回生)	2年(22回生)	3年(21回生)	4年(20回生)	5年(19回生)	6年(18回生)	
1	国語	国語	国語	現代の国語	論理国語	論理国語	1
2							2
3				言語文化	古典探究	体育	3
4							4
5	社会			地理総合			5
6		社会	社会		公共	英語	6
7				歴史総合		コミュニケーション	7
8					日本史探究	Ⅲ	8
9	数学			数学Ⅰ	または	論理・表現Ⅲ	9
10		数学	数学	※1	世界史探究		10
11				数学Ⅱ			11
12					数学B	数学演習	12
13					※2	※2	13
14	理科			数学A	または		14
15		理科	理科	※1	数学Ⅲ	※2	15
16				物理基礎	数学C		16
17				化学基礎	化学		17
18	音楽／美術						18
19		音楽	音楽	生物基礎	物理または生物		19
20		美術	美術				20
21	保健体育	保健体育	保健体育	体育		選択	21
22					体育	(0～22)	22
23				保健			23
24	技術・家庭	技術・家庭	技術・家庭	芸術Ⅰ	保健		24
25			英語		英語		25
26	英語	英語		英語	コミュニケーションⅡ		26
27				コミュニケーションⅠ			27
28							28
29				論理・表現Ⅰ	論理・表現Ⅱ		29
30	E・A	E・A	E・A				30
31	道徳	道徳	道徳	情報Ⅰ	家庭基礎		31
32	総合的な学習	総合的な学習	総合的な学習				32
33	の時間	の時間	の時間	総合的な探究の時間	総合的な探究の時間	総合的な探究の時間	33
34	HR	HR	HR	HR	HR	HR	34

※1 4年次 数学Ⅰは4月～9月(週あたり4時間)、数学Aは4月～9月(週あたり2時間)、数学Ⅱは10月～3月(週あたり6時間)
 ※2 5年数学Bは4月～9月(週あたり4時間)、数学演習／数学Ⅲは10月～3月(週あたり4時間)

評価・評定

すべての教科科目の評価・評定基準は以下とする。

・観点別学習状況評価基準

学習状況	実現状況	評価
十分満足できる	75%以上	A
おおむね満足できる	45%以上 75%未満	B
努力を要する	45%未満	C

・評定総括基準

実現状況	評定と標語	
85%以上	5	特に程度が高い
75%以上 85%未満	4	十分満足できる
45%以上 75%未満	3	おおむね満足できる
20%以上 45%未満	2	努力を要する
20%未満	1	一層努力を要する

国語科 学習指導計画

教科の目標		<ol style="list-style-type: none"> 1 自分の考えをもち、目的や場面に応じて的確に書く力、話す力、聞く力、読む力を身に付け、コミュニケーション能力を高める。 2 国語を正確に理解し、心情を豊かにするとともに論理的な思考力を伸ばす。 3 言語文化に対する関心を高め、国語を尊重する態度を身に付ける。 4 近現代の作品や古典作品を多く読むことにより、社会や自己について深く考える力をつける。 			
	学年	区分	区分の目標	学習内容	学習の特色
前期課程	第1学年	基礎学力養成期	国語を正確に理解し、正しく表現し、伝え合う力を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活について、相手を尊重しながら話し合う。 ・構成を工夫して的確に書き、考えをまとめる。 ・要旨を的確にとらえ、読書で見方や考え方を広げる。 ・漢字検定5級相当、口語文法の単位～用言、歴史的仮名遣い、漢文訓読を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他教科との連携による表現活動 ・百人一首
	第2学年			<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活について、相手を尊重しながら話し合う。 ・構成を工夫して的確に書き、考えをまとめる。 ・表現の仕方に注意して読み、読書を広げ役立てる。 ・漢字口語文法の助動詞～敬語、歴史的仮名遣い、係り結びの法則、漢文訓読を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他教科との連携による表現活動 ・百人一首
	第3学年	充実期	論理的に表現する力を身に付ける。言葉を豊かにし、言葉で思考し	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活について、課題の解決に向けて話し合う。 ・論理の展開を工夫して書き、考えを深める。 ・文章の展開や表現の仕方を評価しながら読み、読書を通して自己を向上させる。 ・漢字検定3級相当、古文単語（最頻出語）、古典文法の単位～用言、再読文字を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他教科との連携による表現活動 ・小論文講座 ・古文文法と単語 ・百人一首
	第4学年			<ul style="list-style-type: none"> ・人間、社会、自然について多角的に考え話し合う。 ・論拠に基づいて書き、考えを深める。 ・文章の展開や表現の仕方を評価しながら読み、読書を通して考えを深める。 ・漢字検定準2級相当、古文単語、古典文法の助動詞、副詞、敬語、識別、漢文句法を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他教科との連携による表現活動 ・小論文講座 ・要約練習
後期課程	第5学年	発展期	国語によって、社会や人間の抱える諸問題を発見し、表現する力を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・人間、社会、自然について、文章の批評を通して、考えを豊かにまとめることができる。 ・論理性や表現の仕方を評価し、意図や描写を的確にとらえ、考えを豊かにすることができる。 ・作品の特色を理解して味わい、価値を考察し、日本文化の特質について理解を深める。 ・古文単語、古典文法、漢文句法、漢文における重要漢字、入試頻出漢字最重要語に習熟する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他教科との連携による表現活動 ・小論文講座 ・論述問題対策 ・要約練習
	第6学年			<ul style="list-style-type: none"> ・人間、社会、自然について、文章の批評や情報収集を通して、考えを発展させ、条件や状況に応じた的確に説明する。 ・論理性や表現の仕方を評価し、意図や描写の味わいや人間・社会・自然について考えを的確に説明する。 ・作品の特色を理解して味わい、価値を考察し、日本文化の特質をわかりやすく説明する。 ・古文単語、古典文法、漢文句法、漢文における重要漢字、入試頻出漢字に習熟する。 ・表現意図に沿って構成を考え、的確に表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他教科との連携による表現活動 ・習熟度に応じたきめ細かい指導 ・大学入試を意識した必修授業と入試対策の選択講座

学年	4年	教科・科目 【講座名】	現代の国語	単位数 週の授業時数	2
----	----	----------------	-------	---------------	---

教科書・補助教材

教科書 「現代の国語」 (筑摩書房)
 補助教材 「ちくま文学購読〈初級編〉」 (筑摩書房)
 「☆新訂版 最新国語便覧」 (浜島書店)
 「☆読解評論文キーワード改訂版」 (筑摩書房)
 「☆TOP2500」 (いいずな書店)
 「三訂版プロGRESS 現代文総演習 (標準編)」 (いいずな書店)
 ☆印：次年度以降も使用する予定です。

学習の目標

- 1 主な常用漢字を書き、語彙力を養い、適切に話や文章の中で使っている。
- 2 他者、自己の考えについて、論拠に基づいて書き、考えを深めることができる。
- 3 文章の展開や表現の仕方を評価しながら読み、自分の考えを深めている。
- 4 様々な事象に対して興味を持ち、自己の考えと照らし合わせ、考えを深める話し合いができる。

評価の方法

定期考査の得点と授業中に実施する小テストや提出物、平常の授業態度などを総合的に判断して評価を行います。積極的な授業への参加を求めます。

学習のアドバイス (授業への臨み方、予習や復習の方法)

この授業は、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けることを目標としています。論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしていきましょう。言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養いましょう。

後期課程になると説明文が評論文に、作文が小論文に、などより論理性が求められます。自分の考えをしっかりと持つための材料を蓄積するとともに、それを表現する方法を身につけましょう。同時に、他者の主張を客観的に読み取り、自己の主張と比較・表現できるような力も養いましょう。また、思考のもととなる語彙を増やし様々な場面で実際に用いてください。「国語」は、学習後すぐに結果に表れない教科です。しかし、あきらめず、理解と確認を繰り返し行い続けてください。トレーニングと発見と確認を繰り返しながら、継続的に学習することを求めます。

その他

- ・考査について：試験時間50分、100点満点の考査を作成する予定です。時間割と範囲を確認しましょう。
- ・教材について：昨年度から継続使用するものがあります。また、今後も継続使用する教材もあります。

月	単元	学習目標
4月～ 5月	「問うこと、語ること」 境目 サイエンスの視点、アートの視点 【実践】 「質問する力」を育てよう 「評論文への招待」 ことばとは何か デジタル社会 システムと変異 【実践】 評論文の一節を引用し、自分の意見を述べよう	【知識・技能】 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。 ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解している。 ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感
	前期中間考査	

<p>6月～ 8月</p>	<p>「ことばで伝える思いと考え」 ことばがつくる女と男 身体、この遠きもの 贈り物と商品の違い 【実践】メモ・ノートの取り方・生かし方を学ぼう 「情報と推論」 わかっていることと知らないこと 兎が自分でつづって語る生活の話 【実践】社会を作ることば</p>	<p>を磨き語彙を豊かにしている。 ・引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使っている。 ・比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使っている。</p> <p>【思考・判断・表現】 ・個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。 ・主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 ・目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。 ・目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。 ・読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。 ・論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫している。 ・目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている。 ・自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫している。</p>
前期期末考査		
<p>9月～ 11月</p>	<p>「話し合い」から「議論」へ 誰かの靴を履いてみること (私)時代のデモクラシー 【実践】「議論する力」を育てよう 「根拠」から「主張」へ 魔術化する科学技術 未来は存在しない マルジャーナの知恵 【実践】議論の前提を明確化しよう 「伝えること、受け止めること」 ポスト真実時代のジャーナリズム 会話と対話 記憶する体 【実践】インタビューの作法 【実践】ビブリオバトルに挑戦しよう</p>	<p>【主体的に学習に取り組む態度） ・積極的に要旨を把握し、学習課題に沿って批評しようとしている。 ・粘り強く情報を読み取り、今までの学習を生かして自分の考えを深めようとしている。 ・積極的に資料を用いて、学習の見通しをもって発表しようとしている。 ・積極的に表現を工夫して、学習課題に沿って自分の考えを論述しようとしている。</p>
後期中間考査		
<p>12月～ 2月</p>	<p>「表現のみがき方」 贅沢の条件 瓦を解かないこと 【実践】生活の中のことば一手紙・案内文 【実践】宣伝のことば一ポップ・広告 「主張の論理的な伝え方」 来るべき民主主義 主体という物語 【実践】意見を文章にまとめてみよう 「複眼的な視点」 開かれた文化 リスクと近代社会 名づけと所有</p>	<p>【主体的に学習に取り組む態度） ・積極的に要旨を把握し、学習課題に沿って批評しようとしている。 ・粘り強く情報を読み取り、今までの学習を生かして自分の考えを深めようとしている。 ・積極的に資料を用いて、学習の見通しをもって発表しようとしている。 ・積極的に表現を工夫して、学習課題に沿って自分の考えを論述しようとしている。</p>
学年末考査		
<p>3月</p>	<p>対比の働きを理解しよう</p>	<p>【主体的に学習に取り組む態度） ・積極的に要旨を把握し、学習課題に沿って批評しようとしている。 ・粘り強く情報を読み取り、今までの学習を生かして自分の考えを深めようとしている。 ・積極的に資料を用いて、学習の見通しをもって発表しようとしている。 ・積極的に表現を工夫して、学習課題に沿って自分の考えを論述しようとしている。</p>

学年	4年	教科・科目 【講座名】	言語文化	単位数 週の授業時数	2
----	----	----------------	------	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書	「言語文化」(筑摩書房)				
補助教材	「★☆完全マスター古典文法」(第一学習社) 「★☆古典文法演習ドリル」(旺文社) 「★☆みるみる覚える古文単語」(いいずな出版) 「★☆原色小倉百人一首」(文英堂) 「☆構造から読み解く これからの漢文」(尚文出版) 「☆構造から読み解く これからの漢文ノート」(尚文出版) 「☆新訂版 最新国語便覧」(浜島書店) 「三訂版プログレス 古典総演習(標準編)」(いいずな書店) ★印：購入済みで、継続使用するものです。☆印：次年度以降も使用する予定です。				
学習の目標					
1 様々な事象に対して興味を持ち、自己の考えと照らし合わせ、考えを深める話し合いができる。 2 他者、自己の考えについて、論拠に基づいて書き、考えを深めることができる。 3 文章の展開や表現の仕方を評価しながら読み、読書を通して考えを深めている。 4 古文単語、古典文法の助動詞、副詞、敬語、識別、熟語、古文常識を理解している。 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、言語文化に対する理解を深める。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばす。 (3) 他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。 (4) 言葉がもつ価値への認識を深め、生涯にわたり読書に親しみ自己を向上させる態度を養う。					
評価の方法					
定期考査の得点と授業中に実施する小テストや提出物、平常の授業態度などを総合的に判断して評価を行います。積極的な授業への参加を求めます。					
学習のアドバイス(授業への臨み方、予習や復習の方法)					
この授業は、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けることを目標としています。論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしていきましょう。言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養いましょう。 古文、漢文においては、前期課程で学んだ文法を定着させ、作品を深く理解するために古典世界の知識を身に付けてください。当時の人々の生活様式や、考え方生き方に触れるには、実際に多くの作品を読むのが一番です。教科書だけでなく副教材を用意していますので積極的に活用しましょう。効果的な学習として「音読」があります。授業で行う回数は限られてしまいます。自宅で学習する際は是非取り入れてください。作品を声に出して読むだけでなく、古典文法の活用や漢文の句法の理解を計るのにも有効です。 近代文学においては、まず人物を把握できるようにしましょう。どのような存在でどんな関係にあるか、把握してください。心情は、表情・発言・ふるまい・口調・情景などの描写をヒントに、論理的に読み解くことができます。基礎となる漢字・語彙の習得も欠かさずに行いましょう。 国語は、学習後すぐに結果に表れない教科です。しかし、あきらめず、理解と確認を繰り返し行い続けてください。トレーニングと発見と確認を繰り返しながら、継続的に学習することを求めます。					
その他					
・考査について：試験時間50分、100点満点の考査を作成する予定です。時間割と範囲を確認しましょう。 ・教材について：昨年度から継続使用するものがあります。また、今後も継続使用する教材もあります。					

月	単元	学習目標
4月～5月	言葉の力（大岡信） 宇治拾遺物語 「児のそら寝」「絵仏師良秀」 十訓抄 「大納言顯雅卿」「大江山」 憲法十七条	【古文の知識】 <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的仮名遣いの読み方を学ぶ。 ・古語と現代語の違いについて理解し、辞書の使い方について学ぶ。 ・説話の面白さについて、内容・表現・歴史的背景などの点から理解する。 ・品詞について理解する。特に体言と用言の区別、用言の品詞の区別を理解する。 ・古文法について理解する。
	前期中間考査	【漢文の知識】 <ul style="list-style-type: none"> ・日本語と漢文の構造の違いを理解する。 ・漢文訓読の仕方を学ぶ。 ・返り点の種類と、それに従った読み方を理解する。 ・「書き下し文の原則」を理解する。 ・再読文字の種類と、その読み方・意味を理解する。 ・漢文法について理解する。
6月～8月	伊勢物語 守株、推敲、借虎威、漁父之利、塞翁馬 羅生門（芥川龍之介） 夢十夜（夏目漱石） 待ち伏せ（ティム・オブライエン）	【近代文の知識】 <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の文化の継承、発展、創造を支える働きを理解する。 ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解する。 ・比喩などの表現技巧を整理し、その効果と小説世界の有機的な構造を理解する。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。 ・文章の意味が文脈の中で形成されることを理解する。
	前期期末考査	【読む】 <ul style="list-style-type: none"> ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・各教材に描かれた当時の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。 ・構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価する。
9月～11月	土佐日記、更級日記、徒然草、方丈記、 管鮑之交、刺客荊軻 死諸葛走生仲達、那須宗高 なぜ日本語で書くのか（リービ英雄） 虹の雌雄（蜂飼耳） 失われた両腕（清岡卓行） 物語る声を求めて（津島佑子）	【態度】 <ul style="list-style-type: none"> ・教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもつ。 ・発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、我が国の言語文化に興味・関心を深める。
	後期中間考査	
12月～2月	唐詩 平家物語 近代詩歌 和歌 奥の細道	
	学年末考査	
3月	正徹物語「待つ恋」 玉勝間「いにしへよりも後世まされること」 論語、雑説	

学 年	5 年	教科・科目 【講座名】	論理国語	単位数 週の授業時数	2
--------	-----	----------------	------	---------------	---

教科書・補助教材		
教科書	「論理国語」(明治書院)	
補助教材	「★☆ちくま文学購読〈上級編〉」(筑摩書房) 「★☆新訂版 最新国語便覧」(浜島書店) 「★☆読解評論文キーワード改訂版」(筑摩書房) 「★☆TOP2500」(いっずな書店) 「★☆改訂版プログレス 現代文総演習(発展編)」(いっずな書店)	
	☆印：次年度以降も使用する予定です。	
	★印：昨年からの継続。	
学習の目標		
1 言葉の特徴や使い方を理解し、語彙を増やし、文章の構成や展開のしかたについて理解を深める。 2 主張とその前提や反証、抽象と具体の関係、推論のしかたなど、情報の扱い方を理解する。 3 読書の意義と効用について理解を深める。 4 自分の主張が的確に伝わるように書き、向上心を持って改善する。 5 主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、資料の妥当性や信頼性を吟味して読む。		
評価の方法		
定期考査の得点と授業中に実施する小テストや提出物、平常の授業態度などを総合的に判断して評価を行います。積極的な授業への参加を求めます。		
学習のアドバイス(授業への臨み方、予習や復習の方法)		
この授業は、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けることを目標としています。論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしていきましょう。言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養いましょう。後期課程になると説明文が評論文に、作文が小論文に、などより論理性が求められます。自分の考えをしっかりと持つための材料を蓄積するとともに、それを表現する方法を身につけましょう。同時に、他者の主張を客観的に読み取り、自己の主張と比較・表現できるような力も養いましょう。また、思考のもととなる語彙を増やし様々な場面で実際に用いてください。「国語」は、学習後すぐに結果に表れない教科です。しかし、あきらめず、理解と確認を繰り返し行い続けてください。トレーニングと発見と確認を繰り返しながら、継続的に学習することを求めます。		
その他		
・考査について：試験時間50分、100点満点の考査を作成する予定です。時間割と範囲を確認しましょう。 ・教材について：昨年度から継続使用するものがあります。今後も継続使用する教材もあります。		
月	単元	学習目標
4月～ 5月	第1章 世界・地域 2100年の世界地図(峯陽一) 「流域地図」の作り方(岸由二) 第2章 社会行動 行動変容を起こす有効な方法 (大竹文雄) 「家族の幸せ」の経済学 (山口慎太郎) 現代日本人の意識構造	・世界や身近な地域が直面する課題を考える 世界の課題について、情報を収集し、目的に応じて整理する。また、情報を整理する活動を通して、習課題に沿って論述するなかで、自らの学習を調整する。 ・社会において何に基づいて行動しているか考える 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深める。主張とその前提や反証など情報相互の関係について理解を深める。

		前期中間考査	
6月～ 8月	第3章 日本文化 「間」の感覚（高階英爾） 日本文化の雑種性（加藤周一）	<ul style="list-style-type: none"> ・日本を知り、世界を知る 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深める。 	
	第4章 哲学・認知 猫は後悔するか（野矢茂樹） 学びとは何か（今井むつみ） 生命倫理と自由（大澤真幸）	<ul style="list-style-type: none"> ・ものの見方・考え方を知る 筆者の主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。 	
		前期期末考査	
9月～ 11月	第5章 環境・科学 なぜ科学を学ぶのか（池内了） 人類による環境への影響（鷺谷いづみ）	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の中での人間のあり方について考える 新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深める。文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価する。 	
	第6章 技術・規範 いのちのかたち（西谷修） AIと憲法的価値（小塚荘一郎）	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の発展によって何が起こるのか考える 「生命」「いのち」という表現について考え、的確に伝わるようにまとめる。情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深める。 	
		後期中間考査	
12月～ 2月	第7章 芸術 水墨画入門（島尾新） 白（原研） 石上私淑言（本居宣長）	<ul style="list-style-type: none"> ・感性について学ぶ 言葉の働きについて理解を深めると共に、関連する資料で裏付けを取る。また、芸術について異なる論点をもつ複数の文章を批評し、解釈を深める。 	
	第8章 経済・資本 熱帯の贈与論（奥野克巳） 貨幣は言葉である（丸山圭三郎）	<ul style="list-style-type: none"> ・資本主義や経済について考える 人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深める。貨幣の捉え方について異なる論点を持つ複数の文章を読み比べ、自分の考える「貨幣」の定義をまとめる。 	
		学年末考査	
3月	第8章 経済・資本 経済学の宇宙（岩井克人） 問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・視野を広げ、自身の考えを見直す 人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深める。 ・今までの学びを生かして次年度に繋げる 	

学年	5年	教科・科目 【講座名】	古典探究	単位数 週の授業時数	3
----	----	----------------	------	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書 「古典探究 古文編」 (明治書院) 「古典探究 漢文編」 (明治書院)					
補助教材 「★☆☆新訂版 最新国語便覧」 (浜島書店) 「★☆☆これでわかる古典文法」 (いいずな書店) 「★☆☆理解を深める核心古文単語351」 (尚文出版) 「★☆☆原色小倉百人一首」 (文英堂) 「★☆☆構造から読み解く これからの漢文」 (尚文出版) 「★☆☆構造から読み解く これからの漢文ノート」 (尚文出版) 「三訂版プロGRESS 古典総演習 (発展編)」 (いいずな書店) 「新版古典習得のための助詞マスターワーク」 (数研出版) 「敬語マスターノート」 (数研出版)					
★印：購入済みで、継続使用するものです。☆☆印：次年度以降も使用する予定です。					
学習の目標					
・古典としての古文・漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。					
標準的な目標					
1 文語のきまり、訓読のきまりなどを理解する。 2 思想や感情を読み取り、人間、社会、自然などについて考察できる。 3 古典特有の表現を味わうこと、現代の言葉とのつながりを理解できる。 4 漢字を習熟し、古文単語 (最頻出語)、古典文法の単位や用言、再読文字を理解できる。					
評価の方法					
定期考査の得点と授業中に実施する小テストや提出物、平常の授業態度などを総合的に判断して評価を行う。課題への取り組み方も評価材料に含める。					
学習のアドバイス (授業への臨み方、予習や復習の方法)					
1 表現の仕方や文章の特徴に注意して読み、古人のものの見方、考え方を理解する。 2 古文…音読する → 構成の把握、文章の大意を理解する → 品詞分解、単語を確認し、逐語訳を試みる → 再度、構成を意識し音読する 3 漢文…音読をして、独特のリズムをつかむ → 書き下し文に直す → 句法などを確認しながら現代語訳する → 構成と内容を意識し再度音読する 4 古文単語や古典文法、修辞法など、繰り返し学習して自分の力にしていく。 5 古典授業は、必ず予習をして授業に臨む。予習 → 授業 → 復習の学習サイクルを早く身に付ける。授業では、予習をして間違ったところを訂正、理解し、復習して、文法書などで再確認していく。 6 作者、成立時期、ジャンル、作品の特徴を把握し、各作品とのつながりを意識した学習を行う。 7 授業においては、読解に必要な文法事項や単語、古典常識を繰り返し確認する。自分の苦手な部分、忘れがちな部分の発見に努めてほしい。また、どのように学習を進めるのかといった方法についても多角的に指導するので、自分に合った方法をより集めて実践してほしい。					
その他					
古文、漢文と教科書が分かれているが、総合的に評価をするので、偏りのない学習をすること。					

月	単元	学習目標
4月～ 5月	宇治拾遺物語・徒然草 〔古文常識・敬語（尊敬語） 文学史〕 故事「漱石枕流」他 伊勢物語・大和物語 〔古文常識・敬語（謙讓語・丁寧語）・文学史〕 文章「桃花源記」他	<ul style="list-style-type: none"> ・話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・故事成語の由来を正確に理解し、現代における故事成語の使い方を習得する。 ・歌物語における和歌の役割を理解する。 ・表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむ。 ・話の展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・当時の中国の人々のものの見方、考え方を理解する。
前期中間考査		
6月～ 8月	枕草子 〔古文常識・助詞・文学史〕 史伝「十八史略」 源氏物語 〔古文常識・助詞・文学史〕 史伝「史記」 漢詩「竹里館」他	<ul style="list-style-type: none"> ・話の構成や展開を把握し、登場人物の心情を読み味わう。 ・なじみのある作品を読んで、古文に親しむ。 ・随筆を読んで、人間、社会、自然などに対する作者の思想や感情を読み取る。 ・文章の構成を理解し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・平安朝の文体の特色を味わう。 ・漢詩の表現に慣れ、その世界を味わう力を身につけ、漢詩に親しむ。
前期期末考査		
9月～ 11月	源氏物語 〔古文常識・助詞・文学史〕 史伝「史記」 更級日記 〔古文常識・助詞・文学史〕 小説「売鬼」他 大鏡 〔古文常識・和歌・文学史〕	<ul style="list-style-type: none"> ・優れた文体に触れ、文章の内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・「史記」に描かれた登場人物の心情を読み取る。 ・「史記」の面白さに触れ、中国の史伝への関心を深める。 ・長い漢文を読む姿勢を育み、登場人物の心情や話の面白さを味わう。 ・日記文学を読み、作者の感情を読み味わう。 ・当時の常識や人々の暮らしを理解して、文章を味わう。 ・歴史物語の特色を理解する。
後期中間考査		
12月 ～2月	平家物語 〔識別・文学史〕 儒家の思想 思想「論語」「孟子」 詩歌 〔識別・和歌・文学史〕 思想「老子」「莊子」	<ul style="list-style-type: none"> ・戯曲的な構成を理解し、内容を的確に捉える。 ・人々に多大な影響を与えた思想に触れ、関心を持つ。 ・中国の当時の人々の考え方に触れ、自身の考えを深める契機とする。 ・軍記物語の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・表現上の特色を理解し、音読する。 ・和歌や俳諧の優れた表現に親しむ。 ・作品にこめられた感情を読み取る。 ・時代ごとの和歌の修辞技巧や表現上の特色を理解する。 ・思想の違いを学び、自身の考えを深める契機とする。
学年末考査		
3月	世間胸算用 〔文学史・文法復習〕 小説「人面桃花」他 句法・用語の確認と復習	<ul style="list-style-type: none"> ・近世の文学を読み、時代の変遷と共に変化する文化や価値観などにも思いをはせる。 ・既習内容について確認する。
定期的に単語の小テストを行う。プログレスや模試などで取り組んだ問題を教材として扱うことがある。		

学年	6年	教科・科目 【講座名】	論理国語	単位数 週の授業時数	2
----	----	----------------	------	---------------	---

教科書・副教材					
教科書	「★論理国語」(筑摩書房)				
副教材	「★新訂版 最新国語便覧」(浜島書店)				
	「★読解評論文キーワード改訂版」(筑摩書房)				
	「★TOP2500」(いいずな書店)				
	「ニューフェイス現代文3」(第一学習社)				
	「大学入学共通テスト演習現代文」(いいずな書店)				
	☆印：次年度以降も使用する予定です。				
	★印：昨年からの継続。				
学習の目標					
1	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。				
2	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。				
3	他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。				
4	評論用語や近現代思想の知識を身につけることで、文章を読解する力を高める。また、文章の論理構造を見抜く力を養い、文章を要約する力を培う。				
評価の方法					
定期考査(前期中間・前期期末・後期中間)の得点と提出物や授業中に実施する小テストや提出物、平常の授業態度や活動への積極性などを総合的に判断して評価を行う。					
学習のアドバイス(授業への臨み方、予習や復習の方法)					
評論文の読み方、漢字、小論文の書き方等、5年生までの既習事項について6年生では繰り返し復習しつつ、より深く広く考える。また、近代思想が根底にある抽象的な文章を読み解くため、評論用語や小説に出てくる表現の仕方を覚え、語彙力を身に付ける必要がある。そのために、日々の授業の予習、復習や授業内の小テストに積極的に取り組んでほしい。					
授業中は大切だと思う事柄を主体的に書きまとめたり、本文を要約でまとめ直したりして、内容を整理することが必要である。また、学びを定着させるために、多くの演習と豊かな読書量を確保することを推奨する。主体的に学ぶ意識で日々の学習に取り組んでほしい。					
大学入学試験はこれまでの学びの一つの集大成と捉え、目先の入試対策だけに翻弄されるのではなく、毎時間の授業を大切にすること。「マーク力」は「記述力」「読解力」である。					
その他					
現代文を読解するには文章構造を見抜き、論理を追う力が必要になる。評論文では主に近現代の思想が問われているため、文章の抽象度が高い。評論用語を身に付け、日ごろから社会問題に意識を持っていないと正確に読むことは難しい。ニュース等で世界や社会の情勢について新たな情報を取り入れると共に、さまざまな観点の意見についても触れてほしい。そこで得た知見と他の教科を含めた既習内容とを踏まえて授業で出会う文章を精読することにより、重層的な理解となる。また、それを基に自分なりの考えを形成するよう努めることも大切である。					
また試験においては記述解答力が必要となる。漫然と書くことなく、論理構造を意識して、求められた内容に対して解答をまとめ作り上げること。これは国語のみならず、他の受験教科すべてに求められることである。					

月	授業内容	標準的な学習目標	発展的な学習目標
4月	「ピジンという生き方」 「『自然を守る』ということ」 「貨幣共同体」 「ぼくらの民主主義なんだぜ」	左記の文章で、次のような読解と表現ができる。	左記の文章で、次のような読解と表現ができる。
5月	演習問題	①語句の意味を正確に押さえる。	①語句の意味を正確に押さえる。
前期中間考査			
6月	「真実の百面相」 「物語としての自己」 「ポピュリズムとは何か」	②具体—抽象、対比、因果関係を把握する。	②具体—抽象、対比、因果関係を的確に把握する。
7・8月	演習問題	③筆者の問題意識や表現意図を捉える。	③筆者の問題意識や表現意図を的確に捉える。
前期期末考査			
9月	「思考の誕生」 「絵画の二十世紀」 「日本文化私観」 「何のための自由か」	④主題や表現の意図を捉える。	④主題や表現の意図を的確に捉える。
10月	共通テスト対策演習	⑤自分の考えを表現する。	⑤自分の考えを広げ、深め、発展させて表現する。
11月			
後期中間考査			
12月	「記憶の満天」 共通テスト対策演習		⑥今までの既習事項を生かして様々な問題に対応する。
1月	個別試験対策演習		
2月	個別指導		
3月	個別指導		

学 年	6年	教科・科目 【講座名】	国語演習α	単位数 週の授業時数	2
--------	----	----------------	-------	---------------	---

教科書・副教材					
教科書	「論理国語」(筑摩書房)★ 「古典探究 古文編」(筑摩書房)★ 「古典探究 漢文編」(筑摩書房)★				
副教材	「ちくま文学購読〈上級編〉」(筑摩書房)★ 「新しい共通テスト国語対策問題集 合冊版」(桐原書店) 「基礎からのジャンプアップノート 漢文句法・演習ドリル」(旺文社) 「2027 共通テスト実践問題パックV国語」(駿台文庫) ★印：購入済みで、継続使用するものです。				
学習の目標					
1 現代文、近代文語文及び古典を読むことを通し、生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付ける。 2 現代文、近代文語文及び古典を読むことを通し、単元横断的かつ発展的な内容を取り入れた大学入試に対応する実践力を身に付ける。 3 対話的な学びを通し、言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。					
評価の方法					
定期考査(前期中間・前期期末・後期中間)の得点、小テストと提出物や平常の授業態度などを総合的に判断して評価を行う。					
学習のアドバイス(授業への臨み方、予習や復習の方法)					
1 授業への臨み方 目標・目的意識をもって臨むこと。入試を見据えた長期的な目標、考査や模試などの中期的な目標、そして一時間一時間の授業で何を学ぶかという短期的目標などを常に考え意識して授業に臨むこと。また、全体の学習の中でこの授業をどのように位置づけるかを意識することも大切である。これまでの学習歴によって、皆さんの到達度は異なると思います。自ら課題を見つけ積極的に授業に参加してください。					
2 予習や復習の方法 年末に向けて問題演習、講義が多くなると考えられます。特に古典では、復習として一つの文章の意味を考えながら何度も読み、現代語に置き換えなくても内容が十分理解できる段階まで読みこむこと。予習課題を解いてくるように指定された場合は、しっかりと解答したうえで授業に臨むこと。授業で確認する。考査前に復習する。といったサイクルが望ましいと思います。					

月	授業内容	学習目標
4月	「論理国語」(筑摩書房)「古典探究 古文編」(筑摩書房)「古典探究 漢文編」(筑摩書房)古文法教材、漢文句法教材を活用し、語彙力、古文法、漢文句法など基礎基本の定着を図る。	古文、漢文、現代文の各分野で、左記の文章について、次のような読解と表現ができる。
5月		古文 <ul style="list-style-type: none"> ・ 語句の読みと意味を正確に押さえる。 ・ 助動詞や助詞の用法を正確に把握する。 ・ 敬語の用法を正確に把握する。 ・ 修辞法を押さえ、イメージを広げて和歌を読み取る。 ・ 古文常識を押さえる。 ・ 場面の状況を的確に把握する。 ・ 主語を的確に押さえる。 ・ 人物の心情や性格を的確にとらえる。 ・ 主題をとらえ、自分の生活や社会の在り方に引き付けて考える。 ・ 自分の考えを発展させて書く。 漢文 <ul style="list-style-type: none"> ・ 漢字の読みと意味を正確に押さえる。 ・ 再読文字の用法を正確に把握する。 ・ 句形を押さえて的確に意味を把握する。 ・ 修辞法を押さえ、イメージを広げて漢詩を読み取る。 ・ 漢文常識を押さえる。 ・ 場面の状況を的確に把握する。 ・ 主語を的確に押さえる。 ・ 人物の心情や性格を的確にとらえる。 ・ 主題をとらえ、自分の生活や社会の在り方に引き付けて考える。 ・ 対比されている内容を的確にとらえる。 ・ 自分の考えを発展させて書く。 現代文 <ul style="list-style-type: none"> ・ 話題や主語を明確にして説明する。 ・ 描写の効果を考察する。 ・ 作品に表れているものの見方や感じ方、考え方を理解する。 ・ 文脈と全体の構造を明確にして、わかりやすく説明する。 ・ 指示内容を明確にして説明する。 ・ 同意表現を明確にして説明する。 ・ 具体と抽象の関係を明確にして説明する。 ・ 展開や対比を明確にして説明する。 ・ 根拠や強調点を明確にして説明する。 ・ 比喩や象徴を明確にして説明する。
前期中間考査		
6月	大学入試問題を中心として、次のような作品を読む。 古文 俊頼髄脳 無名抄 宇治拾遺物語 一条 摂政御集 漢文 隋唐嘉話 漢詩の歴史	
7・8月	現代文(作者) 堀田恭子 幸田文 高橋英夫 鷲田清一 石牟礼道子	
前期期末考査		
9月	大学入試問題を中心として、次のような作品を読む。 古文 風に紅葉 近代秀歌 源氏物語 漢文 譚海 韓昌黎集 資治通鑑 読通鑑論	
10月	現代文(作者) 岡田暁生 生田久美子 小川洋子 広井良典 加藤楸頓 中澤渉 菊池寛	
11月		
後期中間考査		
12月	共通テスト対策演習、個別試験対策演習	
1月	個別指導	
2月		
学年末考査		
3月	個別指導	

学年	6年	教科・科目 【講座名】	国語演習β	単位数 週の授業時数	2
----	----	----------------	-------	---------------	---

教科書・副教材					
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ★『論理国語』（筑摩書房） ★『古典探究 古文編』（筑摩書房） ★『古典探究 漢文編』（筑摩書房） 				
副教材	<ul style="list-style-type: none"> ★『新訂版 最新国語便覧』（浜島書店） ★『読解評論文キーワード改訂版』（筑摩書房） 『国公立二次過去問選 現代文編』（数研出版） 『国公立二次過去問選 古典編』（数研出版） 『四訂版古典文法マスタードリル2』（数研出版） 『基礎からのジャンプアップノート漢文句法演習ドリル三訂版』（旺文社） 『現代文キーワード読解』 ★『TOP2500』（いいずな書店） ★『完全マスター 古典文法』（第一学習社） ★『Key&Point 古文単語330』（いいずな書店） ★『構造から読み解く これからの漢文』（尚文出版） ★は昨年度までに購入済み 				
学習の目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1 現代文、近代文語文及び古典を読むことを通し、生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付ける。 2 現代文、近代文語文及び古典を読むことを通し、単元横断的かつ発展的な内容を取り入れた大学入試に対応する実践力を身に付ける。 3 対話的な学びを通し、言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 					
評価の方法					
定期考査(前期中間・前期期末・後期中間)の得点、小テストと提出物や平常の授業態度などを総合的に判断して評価を行う。					
学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）					
<ol style="list-style-type: none"> 1 授業への臨み方 目標・目的意識をもって臨むこと。入試を見据えた長期的な目標。考査や模試などの中期的な目標、そして一時間一時間の授業で何を学ぶかという短期的目標などを常に考え意識して授業に臨むこと。また、全体の学習の中でこの授業をどのように位置づけるか、を意識することも大切である。これまでの学習歴によって、皆さんの到達度は異なると思います。自ら課題を見つけ積極的に授業に参加すること。 2 予習や復習の方法 年末に向けて問題演習、講義が多くなると考えられる。予習をしっかりと授業で確認し、考査前に復習する、といったサイクルが望ましい。 					

月	授業内容	学習目標
4月	『論理国語』（筑摩書房）、『古典探究 古文編』（筑摩書房）、『古典探究 漢文編』（筑摩書房）、古文法副教材、漢文句法副教材を活用して、基礎の徹底をはかる。	古文、漢文、現代文の各分野で、左記の文章について、次のような読解と表現ができる。
5月		古文 ・語句の読みと意味を正確に押さえる。 ・助動詞や助詞の用法を正確に把握する。
	前期中間考査	・敬語の用法を正確に把握する。 ・修辭法を押さえ、イメージを広げて和歌を読み取る。 ・古文常識を押さえる。 ・場面の状況を的確に把握する。 ・主語を的確に押さえる。 ・人物の心情や性格を的確にとらえる。 ・主題をとらえ、自分の生活や社会の在り方に引き付けて考える。 ・自分の考えを發展させて書く。
6月	大学入試問題を中心として、次のような作品を読む。 古文 宇治拾遺物語 栄花物語 落窪物語 漢文 世説神話 莊子 三戒 現代文（作者） 丸山真男 熊野純彦 田川健三 中井久雄 河野裕子 永田和弘	
7・8月		
	前期期末考査	漢文 ・漢字の読みと意味を正確に押さえる。 ・再読文字の用法を正確に把握する。 ・句形を押さえて的確に意味を把握する。 ・修辭法を押さえ、イメージを広げて漢詩を読み取る。 ・古文常識を押さえる。 ・場面の状況を的確に把握する。 ・主語を的確に押さえる。 ・人物の心情や性格を的確にとらえる。 ・主題をとらえ、自分の生活や社会の在り方に引き付けて考える。
9月	大学入試問題を中心として、次のような作品を読む。 古文 俊頼髓脳 讃岐典侍日記 源氏物語 漢文 搜神後記 後漢書 五山堂詩話 共通テスト過去問など	・対比されている内容を的確にとらえる。 ・自分の考えを發展させて書く。
10月		
11月	現代文（作者） 梶茂樹 藤幡正樹 鷺田清一 橋本治 高畑通敏 幸田文 吉田修一 内田樹	
	後期中間考査	現代文 ・話題や主語を明確にして説明する。 ・文脈と全体の構造を明確にして、わかりやすく説明する。 ・指示内容を明確にして説明する。 ・同意表現を明確にして説明する。 ・具体と抽象の関係を明確にして説明する。 ・展開や対比を明確にして説明する。 ・根拠や強調点を明確にして説明する。 ・比喩や象徴を明確にして説明する。
12月	個別試験対策演習	
1月	個別指導	
2月		
	学年末考査	
3月	個別指導	

学年	6年	教科・科目 【講座名】	国語演習γ	単位数 週の授業時数	2
----	----	----------------	-------	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書	『論理国語』（筑摩書房）★ 『古典探究 古文編』（筑摩書房）				
副教材	「完全マスター古典文法」（第一学習社）★ 「古文単語330」（いいずな書店）★ 「読解評論文キーワード改訂版」（筑摩書房）★ 「過程の演習 新国語問題集 アシスト 第23集 現代文編」（啓隆社） 「過程の演習 新国語問題集 アシスト 第23集 古文編」（啓隆社） ★印：購入済みで、継続使用するものです。				
学習の目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1 説明的文章を中心とした現代文及び古文を読むことを通し、生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付ける。 2 説明的文章を中心とした現代文及び古文を読むことを通し、単元横断的かつ発展的な内容を取り入れた大学入試に対応する実践力を身に付ける。 3 対話的な学びを通し、言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 					
評価の方法					
定期考査(前期中間・前期期末・後期中間)の得点と小テスト、提出物や平常の授業態度などを総合的に判断して評価を行う。					
学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）					
<ol style="list-style-type: none"> 1 授業への臨み方 なるべく様々な分野に関する文章を読み、知識や関心を広げることが重要である。じっくり本文を読み、評論では論理構造、小説ではシチュエーションを踏まえた心情についての理解を深めて欲しい。部分の意識とともに、全体の意識をもち、両者を対応させながら文章を読み、内容をきちんと把握できるよう努めてほしい。 古文については、本文の原義を正確に解釈することに重点を置いて授業を進める。勘や雰囲気を読むのではなく、なぜそのように解釈するのか、根拠を明確にして読むように心がけてほしい。基本的な語法や文法に習熟し、それらを論理的に組み立てて解釈に直結させよう。さらに、作品に描かれた古人の見方や感じ方、考え方を知り、自分の生き方を思索する姿勢も大切にしたい。 現代文については、本文の論理展開を考察しながら、傍線部を適切に説明できるように演習を繰り返す。まずは自分で書いてみて、添削指導をもとに書き直す学習を継続することが必要である。 2 予習や復習の方法 現代文の復習については、正解に至るまでの思考過程を確認するだけでなく、話題や設定、主張や論点、論理展開や心情推移、表現などの観点から本文をよく読み返すことも重要である。 現代文と古文ともに、予習課題を解いてくるように指定された場合は、しっかりと解答したうえで授業に臨むこと。その場合、問題を解き終えていることを前提として、実践的な解説を聞いたり、ディスカッションを行ったりする。また、作品の価値を自分の言葉で簡潔に説明することによって、出会った文章を自分の中に蓄積し、以前読解した文章の理解を次の読解に生かしていくことも意識してほしい。 					
その他					

月	単元	学習目標
4月	現代文 「過程の演習 新国語問題集 アシスト 第23集 現代文編」中の読解問題演習	<p>現代文、古文の各分野で、左記の文章について、次のような読解と表現ができる。</p> <p>現代文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話題や主語を押さえて説明する。 ・文脈と全体の構造を正確に押さえて説明する。 ・指示内容を的確に踏まえて説明する。 ・同意表現を的確に踏まえて説明する。 ・具体と抽象の関係を的確に押さえて説明する。 ・展開や対比を的確に押さえて説明する。 ・根拠や強調点を的確に押さえて説明する。 ・比喩や象徴を的確に押さえて説明する。 <p>古文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語句の読みと意味を押さえる。 ・助動詞や助詞の用法を正確に把握する。 ・敬語の用法を正確に把握する。 ・修辞法を的確に押さえて和歌を読み取る。 ・古文常識を正確に押さえる。 ・場面の状況を把握する。 ・主語を的確に押さえる。 ・人物の心情や性格を的確にとらえる。 ・主題を的確にとらえる。 ・自分の考えを発展させて書く。
5月	古文 「過程の演習 新国語問題集 アシスト 第23集 古文編」中の読解問題演習	
前期中間考査		
6月	現代文 「過程の演習 新国語問題集 アシスト 第23集 現代文編」中の読解問題演習	
7・8月	古文 「過程の演習 新国語問題集 アシスト 第23集 古文編」中の読解問題演習	
前期期末考査		
9月	現代文 「過程の演習 新国語問題集 アシスト 第23集 現代文編」中の読解問題演習 各大学入試問題対策演習	
10月	古文 「過程の演習 新国語問題集 アシスト 第23集 古文編」中の読解問題演習 各大学入試問題対策演習	
11月		
後期中間考査		
12月	現代文 各大学入試問題対策演習	
1月	古文 各大学入試問題対策演習	
2月	個別指導	
3月	各大学入試問題対策演習 個別指導	

学年	6年	教科・科目 【講座名】	国語演習△	単位数 週の授業時数	2
----	----	----------------	-------	---------------	---

教科書・副教材					
教科書	「古典探究 古文編」(筑摩書房)★ 「古典探究 漢文編」(筑摩書房)★				
副教材	「ちくま文学購読<上級編>」(筑摩書房)★ 「古文単語330」(いいずな書店)★ 「完全マスター古典文法」(第一学習社)★ 「構造から読み解く これからの漢文」(いいずな書店)★ 「小説読み解き講座+文学史 場面の読み取りから、解答力養成まで」(桐原書店) 「大学入学共通テスト演習古典」(いいずな書店) 「2027 共通テスト実践問題パックV国語」(駿台文庫) ★印：購入済みで、継続使用するものです。				
学習の目標					
1 文学的な文章及び古典を読むことを通し、生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付ける。 2 文学的な文章及び古典を読むことを通し、単元横断的かつ発展的な内容を取り入れた大学入試に対応する実践力を身に付ける。 3 対話的な学びを通し、言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。					
評価の方法					
定期考査(前期中間・前期期末・後期中間)の得点と授業内小テスト、提出物や平常の授業態度などを総合的に判断して評価を行う。					
学習のアドバイス(授業への臨み方、予習や復習の方法)					
1 授業への臨み方 主に文学的文章、古文と漢文をバランス良く学習する。文学的文章と古典の授業では正確に解釈することに重点を置いて授業を進める。勘や雰囲気を読むのではなく、なぜそのように解釈するのか、根拠を明確にして読むように心がけてほしい。基本的な語法や文法に習熟し、それらを論理的に組み立てて解釈に直結させること。さらに、受身の姿勢で読解するのではなく、作品に描かれた世界のものの見方・感じ方・考え方を知り、私たちの生き方やあり方を思索すること、言葉の変遷を知り、自らの言葉づかいや言語生活を豊かにする姿勢で授業に臨んでほしい。					
2 家庭学習の方法 文学的文章では作品を精読し、「描写」に着目する習慣をつけること。言動や情景が何を表しているのか常に考えられるようにすること。 古典では復習で一つの文章を、意味を考えながら何度も読み、現代語に置き換えなくても内容が十分理解できる段階まで読みこんで欲しい。この繰り返しによって、語法や文法、読みの早さを自然に身に付けることができる。古文単語については、あくまで文脈の流れの中でその語句の意味を突き詰めてゆく学習が有効である。高い頻度で用いられ、多様な意味をもつ語句について、本文中での解釈を丁寧に繰り返すこと。さらに、和歌は頻出するので、文章中に和歌があれば、枕詞・序詞・掛詞・縁語などの技巧を整理し、景色と心情を把握しておくことが望ましい。 さらに、本文から読み取った古人の思想や感情から、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにすることや、作品の価値を自分の言葉で簡潔に説明することによって、出会った文章を自分の中に蓄積し、以前読解した文章の理解を次の読解に生かしていくことも意識してほしい また、予習課題を解いてくるように指定された場合は、しっかりと解答したうえで授業に臨むこと。その場合、問題を解き終えていることを前提として、実践的な解説を聞いたり、ディスカッションを行ったりする。					
その他					

月	授業内容	学習目標
4月	現代文（文学的文章） 森鷗外、村上春樹、夏目漱石など 古文（作品） 十訓抄、発心集、増鏡、など 漢文（作品） 十八史略、貞観政要、韓非子など	文学的文章と古文、漢文の各分野で、左記の文章について、次のような読解と表現ができる。 現代文（文学的文章） ・語句の意味、文体の特徴や表現技法、文の構造を理解する ・内容、構成、展開、描写の仕方を理解する。 ・描写の効果を考察する。 ・作品に表れているものの見方や感じ方、考え方を理解する。
5月	他に、最近の私立大学の入試問題	
	前期中間考査	
6月	現代文（文学的文章） 吉本ばなな、芥川龍之介、川端康成など 古文 琴後集、更級日記、狭衣物語など 漢文 貞観政要、白氏文集、弁名など	古文 ・語句の読みと意味を正確に押さえる。 ・助動詞や助詞の用法を正確に把握する。 ・敬語の用法を正確に把握する。 ・修辞法を押さえ、イメージを広げて和歌を読み取る。 ・古文常識を押さえる。 ・場面の状況を的確に把握する。 ・主語を的確に押さえる。 ・人物の心情や性格を的確にとらえる。 ・主題をとらえ、自分の生活や社会の在り方に引き付けて考える。 ・自分の考えを発展させて書く。
7・8月	他に、最近の私立大学の入試問題	
	前期期末考査	
9月	現代文（文学的文章） 太宰治、三島由紀夫、津村記久子など 古文 枕草子、落窪物語、住吉物語など 漢文 史記、芳野、近世先哲叢談など	
10月	他に、最近の私立大学の入試問題	
11月		
	後期中間考査	
12月	共通テスト対策演習	
1月	個別試験対策演習	
2月	個別指導	
3月	個別指導	

社会・地理歴史・公民科 学習指導計画

教科の目標		<ol style="list-style-type: none"> 1 広い視野に立って、現代の社会に対する関心を高める。 2 我が国および世界の形成の歴史的過程と、生活・文化の地域的特色について、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察する。 3 国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な自覚と公民的資質を身に付ける。 4 主体的に考えたり、判断したりするための基礎知識を学び、教養を身に付ける。 					
		学年	区分	区分の目標	学習内容		学習の特色
前期課程	第1学年	基礎 学力 養成 期	社会の知識と好奇心を高め、広い視野を身に付ける。	[地理的分野] ・世界と日本の地域構成 ・人々の生活と環境 ・世界の諸地域 ・日本の地域的特色	[歴史的分野] ・歴史へのとびら ・古代までの日本	・地理総合、日本史探究、世界史探究の内容を取り入れた学習 ・千代田区の資料の活用 ・総合的な探究の時間と連携した情報技術の活用 ・世界の地域に関する調査学習の実施	
	第2学年			[地理的分野] ・日本の諸地域 ・地域の在り方(地域調査)	[歴史的分野] ・中世の日本 ・近世の日本 ・開国と近代日本の歩み		・地理総合、日本史探究、世界史探究の内容を取り入れた学習 ・総合的な探究の時間と連携して、情報の収集、史資料の読み方、レポートの書き方などの技法を習得
	第3学年	充 実 期	現代社会の課題を認識し、分析的思考を身に付ける。	[公民的分野] ・現代社会と私たち ・個人の尊重と日本国憲法 ・現代の民主政治と社会 ・私たちの暮らしと経済 ・地域社会と私たち	[歴史的分野] ・二度の世界大戦と日本 ・現代の日本と私たち	・日本史探究、世界史探究、公共、政治・経済、倫理の内容を取り入れた学習 ・金融学習の実施	
	第4学年			[地理総合] ・地図 ・自然環境	[歴史総合] ・近代化と私たち ・国際秩序の変化や大衆化と私たち ・グローバル化		・地理的・歴史的事象の根拠をとらえるために資料を積極的に活用した授業 ・大学の入試問題などを活用した学習
後期課程	第5学年	発 展 期	国際社会の課題を探究し、系統的思考を身に付ける。	[世界史探究] ・古代～中世	[日本史探究] ・古代～中世	[公共] ・公共の扉 ・自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち ・持続可能な社会づくりの主体となる私たち	
	第6学年			[世界史探究] [日本史探究] [地理探究] [公共] [倫理] [政治・経済] を自身の進路に応じて選択、学習する。	・現代社会の課題を考えるテーマ学習を実施 ・大学の入試に向けた演習の実施(過去問などを活用し、基本事項の定着と応用力を身に付ける。)		

学 年	4 年	教科・科目 【講座名】	地理総合	単位数 週の授業時数	2
--------	-----	----------------	------	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書	「高等学校新地理総合」(帝国書院)				
	「新詳高等地図」(帝国書院)				
補助教材	「新詳地理資料 COMPLETE」(帝国書院)				
学習の目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1 地理的事象を系統地理的に考察し、地理的な見方や考え方を身に付ける。 2 地域性を世界的視野から考察し、現代世界を構成する多様な特色を理解する。 3 地図、GIS、地形図、写真、統計、グラフなどを活用し、地理的技能を身に付ける。 4 入試問題を解くための基礎力を身に付ける。 					
評価の方法					
定期考査、平常点、課題の提出状況などを総合的に判断して評価する。					
学習のアドバイス(授業への臨み方、予習や復習の方法)					
<ol style="list-style-type: none"> 1 地図学習・大地形・小地形・気候・農工業などの系統地理や、各地域の地誌について学習する。 2 地理的な位置と分布を身に付けたい。(経線と緯線、地体構造、自然地形、気候区分、海拔高度、国名、首都名や都市名など) 3 分布や統計の背景や法則性を読み取ることが重要なので、論理的な思考力や判断力を身に付けたい。 4 知らない地名などが出てきたら、地図帳を積極的に見ること。 5 入試問題演習を行うこともあるので、発展的な学力を身に付けられるように心がけること。 					
その他					
地理は学習した内容を積み重ねていく科目です。用語を暗記するだけで終わらせず、さまざまな場面で応用させて考えられるように知識や思考力を定着させましょう。					

月	単元	標準的な学習目標	発展的な学習目標
4月	地球上の位置と時差 地図の役割	位置の違いが生活に与える影響を考察する。地図の役割や地図用語を理解する。	分布や統計の背景や法則性を読み取ることができる。
5月	地図の種類 現代世界の国家と領域	地図の種類を理解し、GISを活用する。国家の領域や日本の領域の特徴を理解する。	分布や統計の背景や法則性を読み取ることができる。
前期中間考査			
6月	グローバル化する世界	グローバル化にともなう変化を考察する。貿易や交通などの世界を結びつける要素を理解する。	分布や統計の背景や法則性を読み取ることができる。
7・8月	世界の地形と人々の生活	世界の多様な地形を理解し、それらと人間との関わりを考察する。	分布や統計の背景や法則性を読み取ることができる。
前期期末考査			
9月	気温・降水・大気大循環と植生	様々な気候要素や植生を理解し、それらが人々の生活に与える影響を考察する。	分布や統計の背景や法則性を読み取ることができる。
10月	オセアニア・東南アジアの生活	オセアニア・東南アジアの自然環境を理解し、それらが人々の生活や産業に与える影響を考察する。	分布や統計の背景や法則性を読み取ることができる。
11月	世界の言語・宗教と人々の生活	様々な言語や宗教を理解し、それらが人々の生活に与える影響を考察する。	分布や統計の背景や法則性を読み取ることができる。
後期中間考査			
12月	歴史的背景と人々の生活	ラテンアメリカやサハラ以南アフリカ、ロシアの歴史的背景を理解し、それらが人々の生活に与える影響を考察する。	分布や統計の背景や法則性を読み取ることができる。
1月	世界の産業と人々の生活	アメリカや東アジア、ヨーロッパの産業を理解し、それらが人々の生活に与える影響を考察する。	分布や統計の背景や法則性を読み取ることができる。
2月	地球的課題と国際協力	様々な地球的課題を理解し、その解決に向けた取組について考察する。	分布や統計の背景や法則性を読み取ることができる。
3月	自然環境と防災	日本の自然環境を理解し、災害に強い地域づくりについて考察する。	分布や統計の背景や法則性を読み取ることができる。

学年	4年	教科・科目 【講座名】	歴史総合	単位数 週の授業時数	2
----	----	----------------	------	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書「歴史総合 近代から現代へ」(山川出版社) 補助教材「ウィニング コンパス 歴史総合の整理と演習」(とうほう)					
学習の目標					
1 世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉えるとともに、多様な史資料の活用と考察により、歴史的思考力を身につける。					
2 歴史に見られる課題や現代的な諸課題について、学習したことをもとに複数の立場や意見を踏まえて表現する力を身につける。					
3 我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め社会人として必要な能力や態度を身につける。					
評価の方法					
定期考査の得点、提出物などを総合的に判断して評価する。					
学習のアドバイス(授業への臨み方、予習や復習の方法)					
<p>歴史の学習が単なる暗記作業にならないためには、常に「なぜ?」という視点をもつことが重要です。歴史的事象には必ずその原因・理由があります。まずは点(=歴史的事象)を理解し、点と点をつないで線にしていく(=流れをつかむ)。さらに面にしていく(=世界史・日本史の大きな時間の流れに位置付ける)イメージをもってください。その上で、次の事項を意識して学習しましょう。</p> <p>【 予習 】教科書をしっかり読んでください。行間に隠れている話がきっとあるはずです。それに気づくことで、より理解を深めることができます。また、疑問に思ったことは自分で調べる癖をつけましょう。</p> <p>【 授業 】教科書を中心に様々な資料を用いて歴史を読み解いていきます。板書やスライドの他、気づいたこと、疑問に思ったことなどを、その都度プリント等を書いてください。また、積極的に発言しましょう。他者との意見交換でより深い学びにすることができます。思考力・表現力・判断力をつけるチャンスだと思ってください。</p> <p>【 復習 】知識の定着にはインプット・アウトプットの繰り返しが効果的です。教科書やプリントを参考に授業を再現してみてください。疑問に思ったことは解決するようにしましょう。また、学習した内容に関連する本を探して読んでみると、新たな発見があるはずです。図書館を活用しましょう。</p>					
その他					
<p>新聞、テレビだけでなく、電車の広告や歩道の看板など、身の回りをよく見ると歴史の情報はたくさんあります。アンテナを張り巡らせ、常に歴史の情報を収集して歴史のイメージを持つようにしましょう。論述問題に解答する際にも、この歴史イメージが土台となります。</p> <p>また、授業で用いた問いは必ず振り返り、知識の定着を図りましょう。</p>					

月	単元	標準的な学習目標	発展的な学習目標
4月	・ 諸地域世界の形成 ・ 歴史の扉 ・ 近代化への問い	資料にもとづいて歴史が叙述されていることを理解する。	資料の性格をふまえて批判的に読みとることについて理解する。
5月	・ 1 結びつく世界 ・ 2 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	18世紀のアジア諸国と欧米諸国の特徴、相互の関係などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、工業化と世界市場の形成を理解する。	対立・協調／平等・格差／統合・分化の観点から、近代化を主題に問いを設定し、諸資料を活用して追究したり解決したりする活動を通して、主題について多面的・多角的に考察、表現し、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解する。
	前期中間考査		
6月	・ 3 明治維新と日本の立憲体制	政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、立憲体制と国民国家の形成を理解する。	
7・8月	・ 4 帝国主義の展開とアジア ・ 近代化と現代的な諸課題 ・ 国際秩序の変化や大衆化への問い	帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。	対立・協調／平等・格差／統合・分化の観点から、国際秩序の変化や大衆化を主題に問いを設定し、諸資料を活用して追究したり解決したりする活動を通して、主題について多面的・多角的に考察、表現し、現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解する。
	前期期末考査		
9月	・ 5 第一次世界大戦と大衆社会	第一次世界大戦の性格と惨禍、社会主義革命の意味や影響、国際協調体制の特徴、戦後社会の変容などを、多面的・多角的に考察し、表現することを通して、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。	
10月	・ 6 経済危機と第二次世界大戦	世界恐慌の特徴、国際協調体制の動揺の要因、第二次世界大戦の性格と惨禍、戦下の社会状況などを考察し、表現することを通して、国際協調体制の動揺や第二次世界大戦の勃発の背景に関する事柄を理解する。	歴史総合の学習のまとめとして、持続可能な社会の実現を視野に入れ、主題を設定し、諸資料を活用し探究する活動を通して、主題について多面的・多角的に考察、構想、表現し、歴史的経緯を踏まえて現代的な諸課題を理解する。
11月	・ 7 戦後の国際秩序と日本の改革	日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを考察し、表現することを通して、戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。	
	後期中間考査		
12月	・ 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題、グローバル化への問い	地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、国際政治の変容を理解する。	分析や考察の結果を他者と共有・比較して、自分の考えをより良いものに改善する。
1月	・ 8 冷戦と世界経済	冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解する。	
2月	・ 9 グローバル化する世界	冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、グローバル世界の変容と課題を理解する。	
	学年末考査		
3月	・ 10 現代の課題 ・ 現代的な諸課題の形成と展望	みずから問いを立て、分析の方法や視点を設定し、その答えを追究する。	

学 年	5 年	教科・科目 【講座名】	日本史探究	単位数 週の授業時数	3
--------	-----	----------------	-------	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書 「詳説日本史」 (山川出版社)					
補助教材 「図説日本史通覧」 (帝国書院) 「新詳説日本史史料集」 (実教出版)					
「新課程 4 ステージ演習ノート 日本史」 (数研出版)					
学習の目標					
1 世界史的視野に立って、我が国の歴史の展開を総合的に考察する。					
2 我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め社会人として必要な能力や態度を身に付ける。					
3 史資料の活用、多面的な歴史の把握により、歴史的思考力を身に付ける。					
4 大学入試問題演習を通じて、大学入試に対応できる実践力を身に付ける。					
評価の方法					
定期考査の得点、プリント提出や課題の取り組み状況などを総合的に判断して評価する。					
学習のアドバイス (授業への臨み方、予習や復習の方法)					
<p>あらかじめ大きな歴史の流れを理解したうえで授業に臨んでください。授業では学習内容に関する問いに対して、自分の考えを言葉で説明できるようにしましょう。復習の際には、歴史用語の単なる暗記に走らず、歴史的事象を大きな「たての流れ」の中にきちんと位置づけて理解し、その時代の“政治”“外交”“社会経済”“文化”を「よこのつながり」として把握することが大切です。</p> <p>家庭学習の方法の一例として、以下を紹介します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 予習で教科書を精読し、疑問点や不明点を明らかにする。 ② 授業中に個別の歴史的事象について整理して理解したうえで、課題(MQ や SQ)や論述問題に取り組む。 ③ 授業後、プリントを見直して疑問点等を洗い出すとともに、自分で問いをたててみる。 ④ 教科書等を用いてさらに復習する。 					
その他					
<p>日本史の内容を理解して定着させるためには、当時の社会の雰囲気や人々の暮らしぶり等、歴史のイメージを持っているかどうかのカギになります。この時代感覚をもってすれば膨大な量の知識の取得が可能となります。歴史の大きな流れの中に、様々な人物や個々の歴史的事象を位置づけていくこと、そしてそれらに関連づけていくことを心がけましょう。</p> <p>また時事問題にも目を向けてみてください。過去の事象が必ず現在につながるということがわかります。書籍、ニュース、映画、TV番組(歴史、地理、教養、ドラマ)、など、日本史に関する情報は身近のいたるところにあります。来年度国公立等の論述問題に挑む際にも、この歴史イメージが土台となります。あせらず、授業のペースに合わせて学習していきましょう。</p>					

月	単元	標準的な学習目標	発展的な学習目標
4月	第1章 日本文化のあけぼの	黎明期の日本列島の環境を理解し、農耕社会の成立を経て、小国およびヤマト政権が成立する過程をふまえて、中国・朝鮮半島などとの交流を通じた、古代の対外交流の実態を理解している。	古墳時代までの歴史事象を、社会背景や因果関係をふまえて適切に記述することができる。
5月	第2章 古墳とヤマト政権		
6月	前期中間考査 第3章 律令国家の形成	隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響に着目して、東アジア情勢の変容と政治の関係、律令体制の成立過程などを理解し、かつ天智朝・天武朝・持統朝の政治動向を理解している。	律令国家形成の歴史事象を、社会背景や因果関係をふまえて適切に記述することができる。
7・8月	第4章 貴族政治の展開	律令体制の完成期としての奈良時代と、律令体制の状況を多角的・多面的にとらえている。藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について理解する。	貴族社会の歴史事象を、社会背景や因果関係をふまえて適切に記述することができる。
9月	前期期末考査 第5章 院政と武士の躍進	武士が台頭する契機や、この時期の土地制度の仕組みなどを考察し、古代から中世への時代の転換について明らかにしようとしている。	土地制度変遷について因果関係をふまえて適切に記述することができる。
10月	第6章 武家政権の成立	鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解しつつ、武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を理解する。	鎌倉幕府の確立に関する歴史事象を、社会背景や因果関係をふまえて適切に記述することができる。
11月	第7章 武家社会の成長 後期中間考査	南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察しつつ、庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、幕府の動揺や下剋上の風潮を考察する。	室町時代に関する歴史事象を、社会背景や因果関係をふまえて適切に記述することができる。
12月	第8章 近世の幕開け	大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察しつつ、織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について理解する。	織豊政権に関する歴史事象を、社会背景や因果関係をふまえて適切に記述することができる。
1月	第9章 幕藩体制の成立と展開	江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解するとともに、幕藩体制の確立期の経済・社会を、兵農分離や村落・都市支配などの観点から、多面的・多角的に考察する。	幕藩体制に関する歴史事象を、社会背景や因果関係をふまえて適切に記述することができる。
2月	学年末考査	17世紀後半から18世紀前半までの江戸幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の視点で考察しつつ、農業・商工業などの発展について、諸産業相互の関係やその社会的役割を踏まえて理解する。	江戸時代安定期に関する歴史事象を、社会背景や因果関係をふまえて適切に記述することができる。
3月	第10章 幕藩体制の動揺	農村や都市の変容により幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩がおこなった諸改革の意義とその影響を考察する。近代化の基盤の形成について、雄藩の浮上という地方からの視点から考察する。	江戸時代動揺期に関する歴史事象を、社会背景や因果関係をふまえて適切に記述することができる。

学年	5年	教科・科目 【講座名】	世界史探究	単位数 週の授業時数	3
----	----	----------------	-------	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書「新詳 世界史探究」（帝国書院） 補助教材「最新世界史図説 タペストリー」（帝国書院） 「世界史 重要語句 Check List」（啓隆社）					
学習の目標					
1 世界の歴史について基礎的・基本的な事項に重点を置いて概観し、多面的・多角的な視点から世界の一体化の過程についての知識を深め、歴史的思考力を育む。 2 世界史の中の日本という視点を重視し、現代世界を生きる上で重要な、異文化を理解しようとする国際理解の態度を涵養する。					
評価の方法					
年4回行われる定期考査の得点、課題、ポートフォリオ等を総合的に判断して評価する。評価の観点としては、以下の通りである。 ①各時代・各地域の基礎的・基本的な知識の獲得 ②知識を関連させ、多角的・多面的に思考・判断・表現する能力 ③問いや疑問を持ち、意欲的に探究しようとする主体性。					
学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）					
1 学習のポイント ・毎時間の授業を大切に、基礎的・基本的な知識を身に付けていく。 ・歴史の多面的・多角的な理解のために地図・史料・写真などを丁寧に確認し、日常的に復習を行うことで知識の定着を図っていく。 ・獲得した知識をもとに、なぜそのようなようになったのか、諸地域にどのような影響をもたらしたのか、他の地域との比較・考察を通して、多面的・多角的な視点から歴史的な事象を考える。 ・発表や文章を書くことで、的確に自分の考えや歴史的な事象を説明する。					
2 世界史を学ぶ上で大切なこと ・歴史の大きな枠組みを理解する（マクロな視点） ・歴史の細部を理解する（ミクロな視点） ・通史と共時（同時代史）を重ねる（時間の視点） ・地図などを用い、地理的把握をする（空間の視点） ・歴史を見る視点を鍛える。（分析視角） ・史資料を使いこなす（資料活用） ・事象の因果関係を捉えることができる ・国家・人物の関連性やその立場になり考察することができる					
歴史の学習は、「覚える」ことが中心になりがちだが、歴史的な事項や人物を覚えるのが学習の核心ではない。歴史的な事項・人物などの基礎的・基本的知識を「覚える」ことは歴史学習のために前提にしか過ぎない。そうではなく、歴史学習の第一義的目標は、なぜそのようなことが起きたのかを「問う」ことにある。また、その「問い」をたよりに、その事象にどのような意味（意義）があるのかを「考える」ことにある。世界史という科目の特性を強調するのであれば、そうした事象が他の地域にどのような影響を及ぼしたのか、ある地域で起きた事象がなぜ他の地域では異なるのかといった「分析」「比較」の視点も重要である。何より、興味関心を持ち、主体的に他者と協働しながら歴史的な事象を多様な視角から考察し、対話、発表、文章化をする力が世界史学習を進める上で最も要求される。					
その他					
歴史＝過去の事実の集積（アーカイブ）というイメージがあるが、現代の視点も欠かせない。そもそも、現代の諸問題を解決するための方法として歴史的アプローチが採用されている。また、現代の諸問題は歴史にその原因をたどることが多い。そういった意味で現代史への視座は非常に重要である。近年の入試問題の傾向に鑑みても、現代史と過去の関連性の視点は抜き差しならない。そのため、普段の生活から現代に起きている出来事に興味・関心をもつことが歴史学習を進める上でアドバンテージとなる。					

月	単元	標準的な学習目標	発展的な学習目標
4月	2部 諸地域の歴史的特質の形成 序章 古代文明の歴史的特質	・各地域の古代文明の特質を理解している。	・古代文明の歴史的特質について考察し、自分の言葉で表現している。
5月	1章 東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質	・東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を理解している。	・東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質について考察し、自分の言葉で表現している。 ・東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を主体的に追究しようとしている。
前期中間考査			
6月	1章 東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質 2章 南アジアと東南アジアの歴史的特質	・東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を理解している。 ・南アジアと東南アジアの歴史的特質を理解している。	・東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質について考察し、自分の言葉で表現している。 ・南アジアと東南アジアの歴史的特質について考察し、両者の共通点や相違点を挙げながら自分の言葉で表現している。 ・東南アジアの歴史的特質を主体的に追究しようとしている。
7・8月			
前期期末考査			
9月	3章 西アジアと地中海周辺の歴史的特質	・西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解している。	・西アジアと地中海地域周辺の歴史的特質について考察し、自分の言葉で表現している。
10月			
11月			
後期中間考査			
12月	3部 諸地域の交流・再編 1章 ユーラシア大交流圏の成立	・イスラームとモンゴルによって形成された陸と海のネットワークを理解している。	・イスラームとモンゴルによるネットワークの広がりやユーラシアや諸地域をどのように変えたのかについて考察し、自分の言葉で表現している。 ・ユーラシア大陸をつなぐネットワークについての理解を主体的に追究しようとしている。
1月			
2月	2章 アジア諸地域の成熟とヨーロッパの進出	・14～17世紀にかけてアジア諸地域間の交易が拡大したことを理解している。	・交易の拡大による諸地域の変化のうち、最も大きな変化について根拠を示しながら自分なりに評価し、表現している。 ・アジア諸地域間の交流について主体的に追究しようとしている。
学年末考査			
3月	2章 アジア諸地域の成熟とヨーロッパの進出	・14～17世紀にかけてアジア諸地域間の交易が拡大したことを理解している。	・交易の拡大による諸地域の変化のうち、最も大きな変化について根拠を示しながら自分なりに評価し、表現している。 ・アジア諸地域間の交流について主体的に追究しようとしている。

学年	5年	教科・科目 【講座名】	公共	単位数 週の授業時数	2
----	----	----------------	----	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書 「詳述 公共」 (実教出版)					
補助教材 「最新公共資料集」 (第一学習社)					
学習の目標					
1 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。					
2 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、構想したことを議論する力を養う。					
3 現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。					
評価の方法					
1 出席状況 (履修条件)					
2 授業中の発言や演習の取り組み状況の観察					
3 年4回の定期考査の素点					
4 課題への取り組み状況					
学習のアドバイス (授業への臨み方、予習や復習の方法)					
「公共」は、これからの社会を創りだしていく皆さんが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために必要な資質・能力を効果的に育むための中核を担う科目として設置された新しい科目です。単なる暗記科目と認識せず、次の事項を意識して学習しましょう。					
【予習】					
教科書を読み、疑問に思ったことをノートにメモし、授業で解決できるようにしましょう。					
【授業】					
様々な資料を用いて現代社会の諸課題について考えていきます。板書の他、気づいたこと、疑問に思ったことなどを、ノートにメモしましょう。また、積極的に発言し、他者との意見交換を行うことで、より深い学びを実現していきましょう。					
【復習】					
知識の定着にはインプット・アウトプットの繰り返しが効果的です。教科書やノートを参考に授業を再現してみてください。疑問に思ったことは解決するようにしましょう。また、学習した内容に関連する本を探して読んでみてください。新たな発見があるはずです。図書館を活用しましょう。					
その他					
時事問題についても取り上げるので、授業と現実社会の動向を結び付けていきましょう。					

月	単元	標準的な学習目標	発展的な学習目標
4月	第1章 社会をつくる私たち ・青年期と自己形成 ・職業生活社会参加 ・現代社会と青年の生き方	公共的な空間をつくる人間、青年期などについて理解し、現代の諸課題について考えることができる。	公共的な空間をつくる人間、青年期などについて理解し、現代の諸課題の解決策を考えることができる。
5月	第2章 人間としてよく生きる ・ギリシア思想 ・宗教の教え	伝統や文化と自らの行動様式や価値観との関係について考えることができる。	伝統や文化と自らの行動様式や価値観との関係について考察し、文化の継承のための方法を考えることができる。
	前期中間考査		
6月	・西洋近現代の思想 ・現代の諸課題と倫理 第3章 民主社会の倫理 ・人間の尊厳と平等 ・自由・権利と責任・義務	先人の取り組みや、社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を理解し、現代の諸課題について考えることができる。	先人の取り組みや、社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を理解し、現代の諸課題の解決策を考えることができる。
7・8月	第4章 民主国家における基本原理 ・人権保障の発展と民主政治 第5章 日本国憲法の基本的性格 ・日本国憲法と基本的人権 ・人権の広がり	個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本原理について理解している。	公共的な空間における基本原理について理解し、表現することができる。
	前期期末考査		
9月	第6章 日本の政治機構と政治参加 ・日本の政治機構 ・国会 ・内閣 ・裁判制度 ・選挙制度と政党 ・地方自治	日本の政治機構について理解し、課題について考えることができる。 選挙制度や政党の役割、地方自治の課題について理解している。	日本の政治機構について理解し、課題解決策を考えることができる。 政治参加と民主政治が機能するための課題解決策を考えることができる。
10月	第7章 現代の経済社会 ・経済社会の形成と変容 ・市場のしくみ ・現代の企業	労働、企業、市場経済について理解し、課題について考えることができる。	労働、企業、市場経済について理解し、課題解決策を考えることができる。
11月	・経済成長と景気変動 ・財政 ・金融 ・金融政策	財政や金融について理解し、課題について考えることができる。	財政や金融について理解し、課題解決策を考えることができる。
	後期中間考査		
12月	第8章 経済活動のあり方と国民福祉 ・経済の歩みと近年の課題 ・消費者問題 ・労働問題 ・社会保障	消費者問題・労働問題・社会保障について理解し、現状の課題について考えることができる。	消費者問題・労働問題・社会保障について理解し、現状の課題に対する解決策を考えることができる。
1月	第9章 国際政治の動向と課題 ・国際政治における政治と法 ・国家安全保障と国際連合 ・冷戦終結後の国際政治	国際情勢と安全保障について理解し、国際政治の諸課題について考えることができる。	国際政治における諸課題を理解し、日本の役割として解決策を考えることができる。
2月	第10章 国際経済の動向と課題 ・国際経済のしくみ ・国際経済体制の変化	貿易や外国為替などのしくみについて理解し、国際情勢の現状について考えることができる。	国際社会が置かれている経済環境について、現状の課題に対する解決策を考えることができる。
	学年末考査		
3月	・経済のグローバル化と地域経済統合	経済のグローバル化について理解し、課題について考えることができる。	国際経済における課題を理解し、解決策について考えることができる。

学 年	6年	教科・科目 【講座名】	発展地理総合	単位数 週の授業時数	2
--------	----	----------------	--------	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書	「新詳地理探究」「新詳地理総合」（帝国書院）「新詳高等地図」（帝国書院）				
補助教材	「新詳地理資料 COMPLETE」（帝国書院） 「大学受験対策用 地理データファイル」（帝国書院） 「共通テスト実践問題パックⅤ（地理探究）」（駿台文庫） 「共通テスト対策【実力完成】直前演習地理総合, 地理探究」（ランズ）				
学習の目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1 持続可能な社会づくりに必要な地誌学の知識や技能を身に付ける。 2 既習事項を活用し、地誌学に関する応用力を身に付ける。 3 地図、地形図、写真、統計、グラフなどを活用し、地理的技能を身に付ける。 4 入試問題に対応できる実践力を身に付け、共通テストで8割以上の得点を目指す。 					
評価の方法					
定期考査と課題の提出状況などを総合的に判断して評価する。					
学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）					
<ol style="list-style-type: none"> 1 地理的な位置と分布については確実に身に付けたい。（経線と緯線、地体構造、自然地形、気候区分、海拔高度、国名、首都名や都市名など） 2 分布や統計の背景や法則性を読み取ることが重要なので、論理的な思考力や判断力を身に付けたい。 3 知らない地名や位置が不明な都市名などが出てきたら、地図帳で調べること。 4 4年次に学習した地形と気候を復習しておくこと。 5 授業に合わせて教科書、資料集、参考書などを読み、ノートや白地図などを作成するとよい。 					
その他					
10月までは教科書の内容に基づいて授業を進めます。理解の確認のため大学入試問題の過去問にも取り組みます。11月からは共通テスト対策の問題演習を行います。					

月	単元	標準的な学習目標	発展的な学習目標
4月	衣食住 民族・宗教と民族問題	衣食住、民族・宗教と民族問題について考察する。	分布や統計の背景や法則性を読み取ることができる。
5月	国家の領域と領土問題 中国	国家の領域と領土問題、中国について考察する。	分布や統計の背景や法則性を読み取ることができる。
前期中間考査			
6月	韓国 ASEAN 諸国 インド	韓国、ASEAN 諸国、インドについて考察する。	分布や統計の背景や法則性を読み取ることができる。
7・8月	西アジアと中央アジア 北アフリカとサハラ以南アフリカ	西アジアと中央アジア、北アフリカとサハラ以南アフリカについて考察する。	分布や統計の背景や法則性を読み取ることができる。
前期期末考査			
9月	EU 諸国 ロシア	EU 諸国、ロシアについて考察する。	分布や統計の背景や法則性を読み取ることができる。
10月	アメリカ ラテンアメリカ オーストラリアとニュージーランド	アメリカ、ラテンアメリカ、オーストラリアとニュージーランドについて考察する。	分布や統計の背景や法則性を読み取ることができる。
11月	共通テスト問題演習	共通テストの過去問や模試の問題について根拠をもって解答する力を身に付ける。	共通テストの過去問や模試の問題について8割程度得点し、地理的思考力をさらに高める。
後期中間考査			
12月	共通テスト問題演習	共通テストの過去問や模試の問題について根拠をもって解答する力を身に付ける。	共通テストの過去問や模試の問題について8割程度得点し、地理的思考力をさらに高める。
1月	共通テスト問題演習	共通テストに必要な知識の整理を行う。	共通テストに必要な知識の整理を行う。
2月	個別指導	国公立大学前期試験の対策を行う。	国公立大学前期試験の対策を行う。
3月	個別指導	国公立大学後期試験の対策を行う。	国公立大学後期試験の対策を行う。

学年	6年	教科・科目 【講座名】	地理探究	単位数 週の授業時数	2
----	----	----------------	------	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書	「新詳地理探究」(帝国書院) 「新詳高等地図」(帝国書院)				
補助教材	「新詳地理資料 COMPLETE」(帝国書院) 「大学受験対策用 地理データファイル」(帝国書院) 「共通テスト実践問題パックV(地理探究)」(駿台文庫) 「共通テスト対策【実力完成】直前演習地理総合, 地理探究」(ラーンズ)				
学習の目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1 持続可能な社会づくりに必要な系統地理学の知識や技能を身に付ける。 2 既習事項を活用し、系統地理学に関する応用力を身に付ける。 3 地図、地形図、写真、統計、グラフなどを活用し、地理的スキルを身に付ける。 4 入試問題に対応できる実践力を身に付け、共通テストで8割以上の得点を目指す。 					
評価の方法					
定期考査と課題の提出状況などを総合的に判断して評価する。					
学習のアドバイス(授業への臨み方、予習や復習の方法)					
<ol style="list-style-type: none"> 1 地理的な位置と分布については確実に身に付けたい。(経線と緯線、地体構造、自然地形、気候区分、海拔高度、国名、首都名や都市名など) 2 分布や統計の背景や法則性を読み取ることが重要なので、論理的な思考力や判断力を身に付けたい。 3 知らない地名や位置が不明な都市名などが出てきたら、地図帳で調べる。 4 4年次に学習した地形と気候を復習しておくこと。 5 授業に合わせて教科書、資料集、参考書などを読み、ノートや白地図などを作成するとよい。 					
その他					
10月までは教科書の内容に基づいて授業を進めます。理解の確認のため大学入試問題の過去問にも取り組みます。11月からは共通テスト対策の問題演習を行います。					

月	単元	標準的な学習目標	発展的な学習目標
4月	地形 気候 日本の自然環境	世界の地形・気候、日本の自然環境について考察する。	分布や統計の背景や法則性を読み取ることができる。
5月	地球環境問題 農林水産業 食料問題	地球環境問題、農林水産業、食料問題について考察する。	分布や統計の背景や法則性を読み取ることができる。
前期中間考査			
6月	エネルギー・鉱産資源 資源・エネルギー問題 工業	エネルギー・鉱産資源、資源・エネルギー問題、工業について考察する。	分布や統計の背景や法則性を読み取ることができる。
7・8月	第3次産業 交通・通信	第3次産業、交通・通信について考察する。	分布や統計の背景や法則性を読み取ることができる。
前期期末考査			
9月	観光 貿易と経済圏 人口	観光、貿易と経済圏、人口について考察する。	分布や統計の背景や法則性を読み取ることができる。
10月	人口問題 村落と都市 都市・居住問題	人口問題、村落と都市、都市・居住問題について考察する。	分布や統計の背景や法則性を読み取ることができる。
11月	共通テスト問題演習	共通テストの過去問や模試の問題について根拠をもって解答する力を身に付ける。	共通テストの過去問や模試の問題について8割程度得点し、地理的思考力をさらに高める。
後期中間考査			
12月	共通テスト問題演習	共通テストの過去問や模試の問題について根拠をもって解答する力を身に付ける。	共通テストの過去問や模試の問題について8割程度得点し、地理的思考力をさらに高める。
1月	共通テスト問題演習	共通テストに必要な知識の整理を行う。	共通テストに必要な知識の整理を行う。
2月	個別指導	国公立大学前期試験の対策を行う。	国公立大学前期試験の対策を行う。
3月	個別指導	国公立大学後期試験の対策を行う。	国公立大学後期試験の対策を行う。

学年	6年	教科・科目 【講座名】	日本史探究 α	単位数 週の授業時数	4
----	----	----------------	---------	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書 「詳説日本史」 (山川出版社)					
補助教材 「図説日本史通覧」 (帝国書院) 「新詳説日本史史料集」 (実教出版)					
「新課程 4ステージ演習ノート 日本史」 (数研出版)					
「ウィニング コンパス 歴史総合の整理と演習」 (とうほう)					
「実力をつける日本史100題」 (Z会)					
学習の目標					
1 世界史的視野に立って、我が国の歴史の展開を総合的に考察する。					
2 我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、社会人として必要な能力や態度を身に付ける。					
3 史資料の活用、多面的な歴史の把握により、歴史的思考力を身に付ける。					
4 大学入試問題演習を通じて、大学入試に対応できる実践力を身に付ける。					
評価の方法					
定期考査や小テストの得点、課題への取り組み状況などを総合的に判断して評価する。					
学習のアドバイス (授業への臨み方、予習や復習の方法)					
<p>あらかじめ、大きな歴史の流れを理解している状態で授業に臨んでください。また、授業では学習内容に関する問いに対して、自分の考えを言葉で説明できるようにしましょう。復習の際には、歴史用語の単なる暗記に走らず、歴史的事象を大きな「たての流れ」の中にきちんと位置づけて理解し、その時代の<政治><軍事・外交><社会経済><文化>の内容を「よこのつながり」として把握することが大切です。</p> <p>家庭学習として、以下の例を推奨します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 教科書や時代ごとにまとめたプリント、資料集等を用いて、大きな時代の流れを把握する。 ② 授業中にプリントや用語集を用いて、個別の歴史的な事象について理解を深める。 ③ 授業後、プリントや教科書、資料集を見直して疑問点を明らかにする。 ④ さまざまな史資料を活用して疑問点を解消する。 ⑤ 記述力、論述力を高めるために論述問題の演習を行う。 ⑥ 日本史100題や4ステージ、過去問などの演習に取り組む。 					
その他					
<p>日本史の内容を理解して定着させるためには、当時の社会の雰囲気や人々の暮らしぶり等、歴史のイメージを持っているかどうかがかぎになります。この時代感覚をもってすれば膨大な量の情報の暗記が可能となります。また時事問題にも目を向けましょう。過去の事象が必ず現在につながるということがわかります。事象に興味関心を持つということでも重要な視点であり、歴史探究力につながります。ニュース、TV番組(歴史、地理、教養、ドラマ)など、日本史に関する情報は身近のいたるところにあります。国公立等の論述問題に解答する際にも、この歴史イメージが土台となります。あせらず、授業のペースに合わせて学習してください。</p>					

月	単元	標準的な学習目標	発展的な学習目標
4月	第10章 幕藩体制の動揺	農村や都市の変容により幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩がおこなった諸改革の意義とその影響を考察する。近代化の基盤の形成について、雄藩の浮上という視点から考察する。 欧米列強によるアジア進出のさなか、対外的危機を乗り越えた政治体制の推移を考察する。富国強兵を目指し殖産興業に力を注いだ、明治期の経済発展を考察する。	江戸時代の動揺に関する歴史事象を、社会背景や因果関係をふまえて適切に記述することができる。 明治維新、自由民権運動、大日本帝国憲法に関する歴史事象を、社会背景や因果関係をふまえて適切に記述することができる。
5月	第11章 近世から近代へ 第12章 近代国家の成立		
6月	前期中間考査 第13章 近代国家の展開	自由民権運動をへて大日本帝国憲法が成立する流れ、日清・日露戦争をへて日本が台湾・朝鮮を植民地支配していく流れを理解する。 西洋から技術や文化の導入を背景に産業革命が進み、金本位制も導入して資本主義が確立させていく流れを考察する。 満州事変から日中戦争、アジア・太平洋戦争と進む中で、国際関係を考察する。また経済・貿易的な側面からも、戦争への道へつながっていくことを理解する。	日清・日露戦争や近代産業の発展、帝国主義の伸長と二度の世界大戦に関する歴史事象を、社会背景や因果関係をふまえて適切に記述することができる。 国際関係の中で日本がどう動いていくのか昭和の戦争期に関する歴史事象を、適切に記述することができる。
7月	第14章 近代の産業と生活 第15章 恐慌と第二次世界大戦		
8月	前期期末考査	占領期の国際関係に関して、特に冷戦下の政策転換に関する内容を考察する。また経済復興に向けての動きが理解できている。国際社会に復帰して高度成長していく日本の経済政策を考察する。また諸外国との国交回復の内容を理解できている。高度成長後の経済政策に関する内容を考察する。	国際関係の中で日本がどう動いていくのか昭和の戦争期に関する歴史事象を、適切に記述することができる。占領・冷戦・逆コースに関する歴史事象を、社会背景や因果関係をふまえて適切に記述することができる。
9月	第16章 占領下の日本 第17章 高度成長の時代		
10月	第18章 激動する世界と日本	冷戦終結について内容を理解できている。	高度成長後に関する歴史事象を、社会背景や因果関係をふまえて適切に記述することができる。
11月	問題演習 後期中間考査		
12月	総まとめ	さまざまな考察事項をまとめる。	国公立2次試験の問題演習を行う。
1月	個別対応		
2月	個別対応		
3月			

学年	6年	教科・科目 【講座名】	日本史探究 β	単位数 週の授業時数	2
----	----	----------------	---------	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書 「詳説日本史」 (山川出版社) 補助教材 「図説日本史通覧」 (帝国書院) 「新詳述日本史史料集」 (実教出版)					
学習の目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1 世界史的視野に立って、我が国の歴史の展開を総合的に考察する。 2 我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、社会人として必要な能力や態度を身に付ける。 3 史資料の活用、多面的な歴史の把握により、歴史的思考力を身に付ける。 4 大学入試問題演習を通じて、大学入試に対応できる実践力を身に付ける。 					
評価の方法					
小テストや授業態度などを総合的に判断して評価する。					
学習のアドバイス (授業への臨み方、予習や復習の方法)					
<p>大学入試では、時代を1つの大きなまとまりとして各問が出題される場合もあれば、ある大きなテーマにしたがっていくつもの時代をまたがった出題がされる場合もあります。それをふまえて日本史探究βの授業では、通史を学ぶ日本史探究αを補完するものとして、大きなテーマごとに日本史をとらえなおし、「よこのつながり」として今まで学習してきた内容を、「たてのつながり」に構成しなおせるように、授業を組み立てていきます。</p> <p>よって、授業の前に各時代の大きな流れをとらえておくことはもちろん、それぞれのテーマについてもある程度理解したうえで授業に臨めると、学習の効果が高まるでしょう。</p> <p>また、日本史探究αと重ねてになりますが、日本史の学習においては復習と演習の時間をいかに充実させられるかが大切になってきます。毎時間で扱っていくテーマについて、教科書やプリント、資料集、史料集等を用いてまずは復習しましょう。そのうえで「100題」や過去問を使った演習をすることで定着させましょう。</p>					
その他					
<p>日本史の内容を理解して定着させるためには、当時の社会の雰囲気や人々の暮らしぶり等、歴史のイメージを持っているかどうかがかぎになります。この時代感覚をもってすれば膨大な量の情報の暗記が可能となります。また時事問題にも目を向けましょう。過去の事象が必ず現在につながるということがわかります。事象に興味関心を持つということでも重要な視点であり、歴史探究力につながります。ニュース、TV番組(歴史、地理、教養、ドラマ)など、日本史に関する情報は身近のいたるところにあります。来年度国公立等の論述問題に解答する際にも、この歴史イメージが土台となります。あせらず、授業のペースに合わせて学習してください。</p>					

月	単元	標準的な学習目標	発展的な学習目標
4月	「政治・法・支配体制」等についての演習 ＜政治分野＞	「政治・法・支配体制」等に関する知識や史資料を読みとる技能を習得させ、それを活用して諸課題について考察させる。	「政治・法・支配体制」等に関する知識や史資料を読みとる技能を習得させ、それを活用して諸課題について考察させる。
5月			
6月	課題提出 「土地制度・社会経済」等についての演習＜経済分野＞	「土地制度・社会経済」等に関する知識や史資料を読みとる技能を習得させ、それを活用して諸課題について考察させる。	「土地制度・社会経済」等に関する知識や史資料を読みとる技能を習得させ、それを活用して諸課題について考察させる。
7月			
8月	課題提出 「帝国主義・国際社会と日本」等についての演習＜外交分野＞	「帝国主義・国際社会と日本」等に関する知識や史資料を読みとる技能を習得させ、それを活用して諸課題について考察させる。	「帝国主義・国際社会と日本」等に関する知識や史資料を読みとる技能を習得させ、それを活用して諸課題について考察させる。
9月			
10月	「日本の文化」等についての演習＜文化分野＞	「日本の文化」等に関する知識や史資料を読みとる技能を習得させ、それを活用して諸課題について考察させる。	「日本の文化」等に関する知識や史資料を読みとる技能を習得させ、それを活用して諸課題について考察させる。
11月			
12月	総まとめ	さまざまな考察事項をまとめる。	国公立2次試験の問題演習を行う。
1月	個別対応		
2月	個別対応		
3月			

学年	6年	教科・科目 【講座名】	世界史探究 α	単位数 週の授業時数	4
----	----	----------------	---------	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書「新詳 世界史探究」（帝国書院） 補助教材「最新世界史図説 タペストリー」（帝国書院） 「世界史 重要語句 Check List」（啓隆社）					
学習の目標					
年3回行われる定期考査の得点、課題、ポートフォリオ等を総合的に判断して評価する。評価の観点としては、以下の通りである。 ①各時代・各地域の基礎的・基本的な知識の獲得 ②知識を関連させ、多角的・多面的に思考・判断・表現する能力 ③問いや疑問を持ち、意欲的に探究しようとする主体性。					
評価の方法					
年3回行われる定期考査の得点、課題、ポートフォリオ等を総合的に判断して評価する。評価の観点としては、以下の通りである。 ①各時代・各地域の基礎的・基本的な知識の獲得 ②知識を関連させ、多角的・多面的に思考・判断・表現する能力 ③問いや疑問を持ち、意欲的に探究しようとする主体性。					
学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）					
1 学習のポイント ・毎時間の授業を大切にして、基礎的・基本的な知識を身に付けていく。 ・歴史の多面的・多角的な理解のために地図・史料・写真などを丁寧に確認し、日常的に復習を行うことで知識の定着を図っていく。 ・獲得した知識をもとに、なぜそのようになったのか、諸地域にどのような影響をもたらしたのか、他の地域では同様のことが起きなかったのかなど、多面的・多角的な視点から歴史的事象を考える。 ・発表や文章を書くことで、的確に自分の考えや歴史的事象を説明する。					
2 世界史を学ぶ上で大切なこと 歴史の学習は、「覚える」ことが中心になりがちだが、歴史的事項や人物を覚えるのが学習の核心ではない。歴史的事項・人物などの基礎的・基本的知識を「覚える」ことは歴史学習のために前提にしか過ぎない。そうではなく、歴史学習の第一義的目標は、なぜそのようなことが起きたのかを「問う」ことにある。また、その「問い」をたよりに、その事象にどのような意味（意義）があるのかを「考える」ことにある。世界史という科目の特性を強調するのであれば、そうした事象が他の地域にどのような影響を及ぼしたのか、ある地域で起きた事象がなぜ他の地域では異なるのかといった「分析」「比較」の視点も枢要である。何より、興味関心を持ち、主体的に他者と協働しながら歴史的事象を多様な視角から考察し、対話、発表、文章化をする力世界史学習を進める上で最も要求される。					
その他					
・歴史＝過去の事実の集積（アーカイブ）というイメージがあるが、現代の視点も欠かせない。そもそも、現代の諸問題を解決するための方法として歴史的アプローチが採用されている。また、現代の諸問題は歴史にその原因をたどることが多い。そういった意味で現代史への視座は非常に重要である。近年の入試問題の傾向に鑑みても、現代史と過去の関連性の視点は抜き差しならない。そのため、普段の生活から現代に起きている出来事に興味・関心をもつことが歴史学習を進める上でアドバンテージとなる。					

月	単元	標準的な学習目標	発展的な学習目標
4月	歴史の流れ 近世ヨーロッパ世界の形成 1：ヨーロッパ世界の拡大	16世紀から17世紀半ばまでのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を理解する。	16世紀から17世紀半ばまでのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を理解しつつ、地域ごとの差異を比較する。
5月	2：ルネサンス 3：宗教改革 4：ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成。		
前期中間考査			
6月	近世ヨーロッパ世界の展開 1：重商主義と啓蒙専制主義 2：ヨーロッパ諸国の海外進出 3：17～18世紀ヨーロッパの文化と社会	17世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を理解する。	17世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を比較しながら理解する。
7・8月	近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 1：産業革命 2：アメリカ独立革命 3：フランス革命とナポレオン	18世紀後半から19世紀初めまでの近代ヨーロッパ・アメリカにおける、資本主義社会の確立と人民主権に基づく民主主義の形成の始まりを理解する。	18世紀後半から19世紀初めまでの近代ヨーロッパ・アメリカにおける資本主義社会の確立と人民主権に基づく民主主義の形成を理解し、その課題を考察する。
前期期末考査			
9月	欧米における近代国民国家の発展 1：ウィーン体制の成立 2：ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生	19世紀から20世紀にかけての近代国民国家の形成・世界市場の形成・帝国主義政策の成立背景とその影響を理解する。	19世紀から20世紀にかけての近代国民国家の形成・世界市場の形成・帝国主義政策の成立背景とその影響を理解し、地域ごとの特質とその差異を比較しながら論じることができる。
10月	3：南北アメリカの発展 4：19世紀欧米の文化 アジア諸地域の動揺 1：オスマン帝国支配の動揺と西アジア地域の変容		
11月	2：南アジア・東南アジアの植民地化 3：東アジアの激動 帝国主義とアジアの民族運動 1：帝国主義と列強の展開		
後期中間考査			
12月	2：世界分割と列強対立 3：アジア諸国の改革と民族運動 二つの世界大戦 1：第一次世界大戦とロシア革命 2：ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 3：アジア・アフリカ地域の民族運動 4：世界恐慌とファシズム諸国の侵略 5：第二次世界大戦 冷戦と第三世界の独立 1：戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立 2：米ソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復興 3：第三世界の台頭と米ソの歩み寄り 4：石油危機と世界経済の再編 現在の世界 1：社会主義世界の変容とグローバリゼーションの進展 2：途上国の民主化と独裁政権の動揺 3：地域紛争の激化と深刻化する貧困 4：現代文明の諸相	二度の大戦における各国の動向と社会の特質について理解する。 戦後の冷戦体制や被支配諸地域の独立とその後の課題、平和共存の模索などについて理解する。 現代社会の諸課題を理解する。	二度の大戦における各国の動向と社会の特質について理解し、大戦の意義を考える。 戦後の冷戦体制や被支配諸地域の独立とその後の課題、平和共存の模索などについて理解し、戦前・戦後の連続／断絶を考える。 現代社会の諸改題を理解し、その解決に際して歴史的アプローチを使って考える。
1～3月	個別指導		

学年	6年	教科・科目 【講座名】	世界史探究 β	単位数 週の授業時数	2
----	----	----------------	---------	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書「新詳 世界史探究」（帝国書院） 補助教材「最新世界史図説 タペストリー」（帝国書院） 「世界史 重要語句 Check List」（啓隆社）					
学習の目標					
年3回行われる定期考査の得点、課題、ポートフォリオ等を総合的に判断して評価する。評価の観点としては、以下の通りである。 ①各時代・各地域の基礎的・基本的な知識の獲得 ②知識を関連させ、多角的・多面的に思考・判断・表現する能力 ③問いや疑問を持ち、意欲的に探究しようとする主体性。					
評価の方法					
年3回行われる定期考査の得点、課題、ポートフォリオ等を総合的に判断して評価する。評価の観点としては、以下の通りである。 ①各時代・各地域の基礎的・基本的な知識の獲得 ②知識を関連させ、多角的・多面的に思考・判断・表現する能力 ③問いや疑問を持ち、意欲的に探究しようとする主体性。					
学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）					
1 学習のポイント ・毎時間の授業を大切にして、基礎的・基本的な知識を身に付けていく。 ・歴史の多面的・多角的な理解のために地図・史料・写真などを丁寧に確認し、日常的に復習を行うことで知識の定着を図っていく。 ・獲得した知識をもとに、なぜそのようなようになったのか、諸地域にどのような影響をもたらしたのか、他の地域では同様のことが起きなかったのかなど、多面的・多角的な視点から歴史的事象を考える。 ・発表や文章を書くことで、的確に自分の考えや歴史的事象を説明する。					
2 世界史を学ぶ上で大切なこと 歴史の学習は、「覚える」ことが中心になりがちだが、歴史的事項や人物を覚えるのが学習の核心ではない。歴史的事項・人物などの基礎的・基本的知識を「覚える」ことは歴史学習のために前提にしか過ぎない。そうではなく、歴史学習の第一義的目標は、なぜそのようなことが起きたのかを「問う」ことにある。また、その「問い」をたよりに、その事象にどのような意味（意義）があるのかを「考える」ことにある。世界史という科目の特性を強調するのであれば、そうした事象が他の地域にどのような影響を及ぼしたのか、ある地域で起きた事象がなぜ他の地域では異なるのかといった「分析」「比較」の視点も重要である。何より、興味関心を持ち、主体的に他者と協働しながら歴史的事象を多様な視角から考察し、対話、発表、文章化をする力世界史学習を進める上で最も要求される。					
その他					
・歴史＝過去の事実の集積（アーカイブ）というイメージがあるが、現代の視点も欠かせない。そもそも、現代の諸問題を解決するための方法として歴史的アプローチが採用されている。また、現代の諸問題は歴史にその原因をたどることが多い。そういった意味で現代史への視座は非常に重要である。近年の入試問題の傾向に鑑みても、現代史と過去の関連性の視点は抜き差しならない。そのため、普段の生活から現代に起きている出来事に興味・関心をもつことが歴史学習を進める上でアドバンテージとなる。					

月	単元	標準的な学習目標	発展的な学習目標
4月	先史時代～中世の世界 問題演習（共通テスト、国公立 2次、私大対策）	共通テスト、国公立二次試験、私大入試に対応した演習を行う。	大学入試問題に対応できる応用力を身に付ける。
5月			
前期中間考査			
6月	近世の世界 問題演習（共通テスト、国公立 2次、私大対策）	共通テスト、国公立二次試験、私大入試に対応した演習を行う。	大学入試問題に対応できる応用力を身に付ける。
7・8月	特別講座（文化史）	文化史についてまとめ、演習を通して理解を深める。	大学入試問題に対応できる応用力を身に付ける。
前期期末考査			
9月	近代の世界 問題演習（共通テスト、国公立 2次、私大対策）	共通テスト、国公立二次試験、私大入試に対応した演習を行う。	大学入試問題に対応できる応用力を身に付ける。
10月	現代の世界 問題演習（共通テスト、国公立 2次、私大対策）	共通テスト、国公立二次試験、私大入試に対応した演習を行う。	大学入試問題に対応できる応用力を身に付ける。 。
11月			
後期中間考査			
12月	通史 問題演習（共通テスト、国公立 2次、私大対策）	志望大学に対応した個別演習を行う。	志望大学の入試問題に対応できる実践力を身に付ける。
1～3月	個別対応	志望大学に対応した個別演習を行う。	志望大学の入試問題に対応できる実践力を身に付ける。

学年	6年	教科・科目 【講座名】	政治・経済	単位数 週の授業時数	2
----	----	----------------	-------	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書 「詳述 政治・経済」 (実教出版) 補助教材 「最新政治・経済資料集 新版」 (第一学習社) 「用語集 政治・経済」 (清水書院) 「共通テスト対策【実力完成】直前演習 公共、政治経済」 (進研学参)					
学習の目標					
<p>社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。</p> <p>(3) よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。</p>					
評価の方法					
1 出席状況 (履修条件) 2 授業中の発言や演習の取り組み状況の観察 3 年3回の定期考査の素点 4 課題や問題集への取り組み状況					
学習のアドバイス (授業への臨み方、予習や復習の方法)					
<p>【授業の概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 公共 α と連動して授業を展開する。 2 11月中に教科書の範囲を終え、以降は模試形式の問題演習に取り組む。 3 共通テストの公共+政治・経済、私立文系の政治・経済を受験する生徒が履修するので、受験を意識した授業を行う。 <p>【学習のポイント】</p> <p>復習を中心に行うとよい。できれば授業前の数分でよいから「今日学習するところは、どんな内容だろうか」と教材を確認し、疑問点をもって授業に臨んでほしい。</p>					
その他					
右頁の計画ではおもなテーマを掲げており、その他の分野については年間の授業をとおして随時触れていく。					

月	単元	学習目標
4月	第1編 現代日本の政治・経済の諸課題 第1章 現代日本の政治・経済 第1節 日本国憲法と現代政治のあり方	政治、法、統治機構、日本国憲法などについて理解し、その意義や課題などについて多面的・多角的に考察し、表現している。
5月		
前期中間考査		
6月	第2節 望ましい政治のあり方と主権者としての政治参加のあり方	地方自治、政党、選挙制度などについて理解し、その意義や課題などについて多面的・多角的に考察し、表現している。
7・8月	第3節 市場経済の機能と限界 第4節 持続可能な財政および租税のあり方	市場経済、企業、消費者問題、財政、租税などについて理解し、その意義や課題などについて多面的・多角的に考察し、表現している。
前期期末考査		
9月	第5節 金融を通じた経済活動の活性化 第6節 経済活動と福祉の向上	金融、日本経済、労働、社会保障制度などについて理解し、その意義や課題などについて多面的・多角的に考察し、表現している。
10月	第2編 グローバル化する国際社会の諸課題 第1章 現代の国際政治・経済 第1節 国際法の果たす役割 第2節 国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割	国際法、国連、紛争、平和主義などについて理解し、その意義や課題などについて多面的・多角的に考察し、表現している。
11月	第3節 相互依存関係が深まる国際経済の特質 第4節 国際経済において求められる日本の役割	国際収支、為替、地域的経済統合などについて理解し、その意義や課題などについて多面的・多角的に考察し、表現している。
後期中間考査		
12月	模試形式の実戦問題演習	実戦問題演習を通じて大学入試に対応できる実戦力を身に付ける。
1月	個別対応	個別試験の対応力・実戦力を身に付ける。
2月	個別対応	個別試験の対応力・実戦力を身に付ける。
3月	個別対応	個別試験の対応力・実戦力を身に付ける。

学 年	6 年	教科・科目 【講座名】	公共 α	単位数 週の授業時数	2
--------	-----	----------------	------	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書 「新版 公共」 (数研出版)					
補助教材 「最新公共資料集」 (第一学習社) 「用語集 公共+政治・経済」 (清水書院) 「4 ステージ演習ノート 公共」 (数研出版) 「共通テスト対策【実力完成】直前演習 公共、政治経済」 (進研学参)					
学習の目標					
<p>人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 特に政治や経済に関する現代の諸課題を深く考察するための概念や知識を理解し、諸資料から情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。</p> <p>(2) 事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を身につけるとともに、単元横断的かつ発展的な内容を取り入れた大学入試に対応できるようにする。</p> <p>(3) 協働学習や対話的な学習を通して、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。</p>					
評価の方法					
<ol style="list-style-type: none"> 1 出席状況 (履修条件) 2 授業中の発言や演習の取り組み状況の観察 3 年3回の定期考査の素点 4 課題や問題集への取り組み状況 					
学習のアドバイス (授業への臨み方、予習や復習の方法)					
<p>【授業の概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 政治・経済と連動して授業を展開する。 2 11月中旬に教科書の範囲を終え、以降は模試形式の問題演習に取り組む。 3 共通テストの公共+政治・経済、私立文系の政治・経済を受験する生徒が履修するので、受験を意識した授業を行う。 <p>【学習のポイント】</p> <p>復習を中心に行うとよい。できれば授業前の数分でよいから「今日学習するところは、どんな内容だろうか」と教材を確認し、疑問点をもって授業に臨んでほしい。</p>					
その他					
<p>右頁の計画ではおもなテーマを掲げており、その他の分野については年間の授業をとおして随時触れていく。</p>					

月	単元	学習目標
4月	民主政治や法に関する現代の諸課題についての演習	民主政治、法、基本的人権などについて理解し、その意義や課題などについて多面的・多角的に考察し、表現している。
5月		
前期中間考査		
6月	経済社会や職業生活に関する現代の諸課題についての演習	市場経済、雇用と労働問題などについて理解し、その意義や課題などについて多面的・多角的に考察し、表現している。
7・8月		
前期期末考査		
9月	国際政治や国際経済に関する現代の諸課題についての演習	国際社会と国家主権、経済のグローバル化などについて理解し、その意義や課題などについて多面的・多角的に考察し、表現している。
10月		
11月	現代の諸課題を倫理的側面から捉え、人間のあり方について考察及び演習	先人の取り組みや考え方などについて理解し、その概念的な枠組みを用いて、社会的事象を多面的に考察し、表現している。
後期中間考査		
12月	単元横断的な総合演習	実戦問題演習を通じて大学入試に対応できる実戦力を身に付ける。
1月	個別対応	個別試験の対応力・実戦力を身に付ける。
2月	個別対応	個別試験の対応力・実戦力を身に付ける。
3月	個別対応	個別試験の対応力・実戦力を身に付ける。

数学科 学習指導計画

教科の目標		1 中学数学で学んだ基礎的な概念や原理・法則を高校数学につなげて体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高める。 2 数学的活動を通して、その楽しさを実感しながら、創造性の基礎を培う。 3 数学のよさを認識し、既習事項を積極的に活用して、数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる。 4 目標に応じた学力を身に付け、自己の進路実現を図る。		
学年	区分	区分の目標	学習内容	学習の特色
前期課程	第1学年	基礎学力養成期	<ul style="list-style-type: none"> 正負の数 ・ 文字式の計算 1次方程式 ・ 連立方程式 ・ 1次不等式 (I) 資料の整理と活用 ・ 平面図形 ・ 空間図形 比例と反比例 ・ 1次関数 図形と合同 ・ 資料の整理と活用 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別の少人数展開授業
	第2学年		<ul style="list-style-type: none"> 三角形と四角形 ・ 確率 展開と因数分解 ・ 平方根・2次方程式 円、図形と相似 三平方の定理 関数 $y = ax^2$ 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別の少人数展開授業 図形分野では、操作活動や作図と証明による言語活動を行う。
	第3学年	充実期	<ul style="list-style-type: none"> 数と式 (指数法則含む) (I・II) 複素数と方程式 (II) 2次関数とグラフ (I) 平面図形、空間図形 (A) 確率と標本調査 (I・A) 集合と論理 (A) 	<ul style="list-style-type: none"> 高校数学の内容に入る 習熟度別の少人数展開授業
第4学年	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> [数学I] ・ 三角比 ・ データの分析 </div> <div style="width: 45%;"> [数学A] ・ 場合の数と確率 ・ 数学と人間の活動 ・ 平面図形の復習 空間図形の復習 </div> </div>		<ul style="list-style-type: none"> 数学I、Aともに習熟度別の少人数展開授業 年度の途中で数学IIを履修する 	
後期課程	発展期	[数学II] ・ 三角関数 ・ 指数関数、対数関数 ・ 図形と方程式 ・ 微分法と積分法		[数学B] ・ 数列 ・ 統計的な推測
		<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> [数学III] ・ 極限 ・ 微分法 ・ 積分法 </div> <div style="width: 30%;"> [数学演習] ・ 数学I A II B Cの演習 </div> <div style="width: 30%;"> [数学C] ・ ベクトル ・ 式と曲線 </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 数学II、B、Cでは習熟度別の少人数展開授業 数学III、数学演習は進路別の展開授業 	
	第6学年	[数学探究III C] [理系数学探究演習] [文系数学探究演習] [総合数学I A]、[総合数学II BC] ・ 大学入試総合演習	<ul style="list-style-type: none"> 総合数学I A・II BC以外は習熟度 進路別の少人数展開授業 	

学年	4年	教科・科目 【講座名】	数学A【発展クラス】	単位数	1
				週の授業時数	2

教科書・補助教材					
教科書「数学A」（数研出版） 補助教材「新課程 4STEP 数学I+A」（数研出版） 「新課程 チャート式 基礎からの数学 I+A」（数研出版）					
学習の目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1 場合の数と確率、数学と人間の活動における考え方に興味・関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断できる。 2 場合の数と確率、数学と人間の活動において、事象を数学的に考察して表現し、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えることができる。 3 場合の数と確率、数学と人間の活動において、事象を数学的な表現・処理や推論ができる。 4 場合の数と確率、数学と人間の活動における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付ける。 					
評価の方法					
<ol style="list-style-type: none"> 1 出席状況（履修条件） 2 授業中の発言や演習の取り組み状況の観察 3 定期考査及び小テストの素点 4 課題や問題集への取り組み状況（平常点） 					
学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）					
<p>毎日、授業の復習や問題集の課題に取り組み、前回の授業で学んだことを復習してから授業に臨んでほしい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業について 授業中は、教員の話をしっかり聞くだけでなく、その内容を思考しながら板書をかくことが大切である。ノートにかくことで、内容についての理解は一層深まり、問題を解く上での正しい記述方法を身に付けることもできる。復習にも活用できるノート作りを心がけよう。また、授業中の問題演習では、どのような点に着眼すると解答を導くことができるのかそのポイントを学び、考査等でそれを活用して問題を解けるようになってほしい。さらに、授業中に疑問に思ったことがあれば、授業中や授業後に、教員または周囲の友人に積極的に質問しよう。疑問に思ったことをすぐに解決しようとする習慣が、自主的に学習する姿勢につながり、数学への理解を深めたり定着させたりすることに役立つ。 2 復習について 授業で出された課題や、その範囲の問題集を解き、解法への理解を深めよう。授業ノートや教科書を活用し、あきらめず自力で完答できるまで取り組んでほしい。問題集の答え合わせでは解答を細部まで確認し、自分に厳しく丸付けを行ってほしい。特に、発展クラスの生徒は、数学の他分野との関連問題にも触れ、総合的な理解を目指してほしい。問題集の丸付け後には、間違った問題の解法を理解するまで考え、分からない問題はそのままにしないようにしよう。さらに、解き直しはノートなど何も見ないで後日に行い、間違った場合はできるようになるまでこのプロセスを繰り返そう。 					
その他					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 習熟度別の少人数展開授業を実施する。定期考査の結果等によりクラス編成を見直す。 					

月	単元	学習目標
4月	第1章 場合の数と確率 第2節 確率 ・事象と確率 ・確率の基本性質 ・独立な試行の確率 ・反復試行の確率	・積事象と和事象の関係や余事象の関係を効果的に用いて確率を求めることができる。 ・玉を取り出す、くじを引くなどしたときの複雑な事象の確率を求めることができる。 ・数直線上の動点や、先に規程数に達すると勝敗が決まる事象（反復試行）の確率を求めることができる。
5月	・条件付き確率 ・原因の確率 ・期待値	・条件付き確率の意味を理解し、適切な問いについて条件付き確率を求めることができる。 ・原因の確率を求めることができる。 ・確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用したりすることができる。
前期中間考査		
6月	第3章 数学と人間の活動 ・約数と倍数 ・素数と素因数分解 ・最大公約数と最小公倍数 ・整数の割り算	・倍数判定法を調べ、判定できる理由を理解した上で、倍数を求めることができる。 ・ $n!$ の素因数の個数を求めることができる。 ・最大公約数と最小公倍数の性質や互いに素であることを用いて発展的な問題を解くことができる。
7・8月	・ユークリッドの互除法 ・1次不定方程式 ・合同式 ・2次の不定方程式	・ユークリッドの互除法を利用して1 ・合同式を利用して剰余系の問題を解くことができる。 ・3変数や分数形の不定方程式を解くことができる。
前期期末考査		
9月	・記数法 ・座標の考え方 ・ゲーム・パズルの中の数学 ・総合問題	・数量や図形に関する概念などと人間の活動の関わりについて理解する。 ・ゲームやパズルに数学的な要素を見だし、目的に応じて数学を活用して考察する。 ・数量や図形に関する基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な考察をより深めることで、やや発展的な問題を解くことができる。

※前期期末考査までの成績をもって、単位認定を行う。

学年	4年	教科・科目 【講座名】	数学A【標準クラス】	単位数	1
				週の授業時数	2

教科書・補助教材					
教科書「数学A」（数研出版） 補助教材「新課程 4STEP 数学I+A」（数研出版） 「新課程 チャート式 基礎からの数学 I+A」（数研出版）					
学習の目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1 場合の数と確率、数学と人間の活動における考え方に興味・関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断できる。 2 場合の数と確率、数学と人間の活動において、事象を数学的に考察して表現し、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えることができる。 3 場合の数と確率、数学と人間の活動において、事象を数学的な表現・処理や推論ができる。 4 場合の数と確率、数学と人間の活動における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付ける。 					
評価の方法					
<ol style="list-style-type: none"> 1 出席状況（履修条件） 2 授業中の発言や演習の取り組み状況の観察 3 定期考査及び小テストの素点 4 課題や問題集への取り組み状況（平常点） 					
学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）					
<p>毎日、授業の復習や問題集の課題に取り組み、前回学んだことを復習してから授業に臨んでほしい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業について 授業中は、教員の話をしっかり聞くだけでなく、その内容を思考しながら板書をかくことが大切である。ノートにかくことで、内容についての理解は一層深まり、問題を解く上での正しい記述方法を身に付けることもできる。復習にも活用できるノート作りを心がけよう。また、授業中の問題演習では、どのような点に着眼すると解答を導くことができるのかそのポイントを学び、それもノートに書き込むようにしてほしい。さらに、授業中に疑問に思ったことがあれば、授業中や授業後に、教員または周囲の友人に積極的に質問しよう。疑問に思ったことを一つでも解決しようとする習慣が、自主的に学習する姿勢につながり、数学の力を高めることに役立つ。 2 復習について 授業ノートや教科書を見直し、授業で出された課題や、その範囲の問題集に取り組もう。分からない問題でも、あきらめず思考する習慣を身に付けてほしい。問題集の答え合わせでは、解答を細部まで確認し、自分に厳しく丸付けをしよう。特に、標準クラスの生徒は、解答の際に必要な説明や条件文を省略してしまう傾向にあるため、丸付けの際には、その部分を丁寧に直してほしい。そして、授業で扱った問題は理解して解けるようになるまで復習しよう。また、問題集の応用問題も、考査までに理解して解ける問題の種類を増やしておこう。 					
その他					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 習熟度別の少人数展開授業を実施する。定期考査の結果等によりクラス編成を見直す。 					

月	単元	学習目標
4月	第1章 場合の数と確率 第2節 確率 ・事象と確率 ・確率の基本性質 ・独立な試行の確率 ・反復試行の確率	・積事象と和事象の関係や余事象の関係を効果的に用いて確率を求めることができる。 ・玉を取り出す、くじを引くなどしたときの複雑な事象の確率を求めることができる。 ・数直線上の動点や、先に規程数に達すると勝敗が決まる事象（反復試行）の確率を求めることができる。
5月	・条件付き確率 ・原因の確率 ・期待値	・条件付き確率の意味を理解し、適切な問いについて条件付き確率を求めることができる。 ・原因の確率を求めることができる。 ・確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用したりすることができる。
前期中間考査		
6月	第3章 数学と人間の活動 ・約数と倍数 ・素数と素因数分解 ・最大公約数と最小公倍数 ・整数の割り算	・倍数判定法を調べ、判定できる理由を理解した上で、倍数を求めることができる。 ・ $n!$ の素因数の個数を求めることができる。 ・最大公約数と最小公倍数の性質や互いに素であることを用いて発展的な問題を解くことができる。
7・8月	・ユークリッドの互除法 ・1次不定方程式 ・合同式 ・2次の不定方程式	・ユークリッドの互除法を利用して1 ・合同式を利用して剰余系の問題を解くことができる。 ・3変数や分数形の不定方程式を解くことができる。
前期期末考査		
9月	・記数法 ・座標の考え方 ・ゲーム・パズルの中の数学 ・総合問題	・数量や図形に関する概念などと人間の活動の関わりについて理解する。 ・ゲームやパズルに数学的な要素を見だし、目的に応じて数学を活用して考察する。 ・数量や図形に関する基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な考察をより深めることで、やや発展的な問題を解くことができる。

※前期期末考査までの成績をもって、単位認定を行う。

学年	4年	教科・科目 【講座名】	数学A【基礎クラス】	単位数	1
				週の授業時数	2

教科書・補助教材					
教科書「数学A」（数研出版） 補助教材「新課程 4STEP 数学I+A」（数研出版） 「新課程 チャート式 基礎からの数学 I+A」（数研出版）					
学習の目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1 場合の数と確率、数学と人間の活動における考え方に興味・関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断できる。 2 場合の数と確率、数学と人間の活動において、事象を数学的に考察して表現し、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えることができる。 3 場合の数と確率、数学と人間の活動において、事象を数学的な表現・処理や推論ができる。 4 場合の数と確率、数学と人間の活動における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付ける。 					
評価の方法					
<ol style="list-style-type: none"> 1 出席状況（履修条件） 2 授業中の発言や演習の取り組み状況の観察 3 定期考査及び小テストの素点 4 課題や問題集への取り組み状況（平常点） 					
学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）					
<p>毎日、授業の復習や問題集の課題に取り組み、前回学んだことを復習してから授業に臨んでほしい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業について 授業中は、教員の話をしっかり聞くだけでなく、板書をしっかりと写すことが大切である。ノートを書くことで、内容についての理解は一層深まり、問題を解く上での正しい記述方法を身に付けることもできる。復習にも活用できるノート作りを心がけよう。また、授業中の問題演習では、どのような点に着眼すると解答を導くことができるのかそのポイントを学び、それもノートに書き込むようにしてほしい。さらに、教科書の例題の解法で疑問に思ったことがあれば、授業中や授業後に、教員または周囲の友人に積極的に質問しよう。その習慣が、自主的に学習する姿勢につながり、数学の力を高めることに役立つ。さらに、教科書の応用例題を、理解して解けるようになることが望ましい。 2 復習について 授業ノートや教科書を見直し、授業で出された課題や、その範囲の問題集に取り組もう。分からない問題でも、あきらめず思考する習慣を身に付けてほしい。特に、基礎クラスの生徒は、問題集のAレベルの問題の解法を考査までに完璧に身に付けてほしい。そのためには、考査前だけでなく、定期的に復習する習慣を身に付け、解けるようになるまで繰り返して解くとよい。そして、この繰り返しが、計算力を向上させることにも役立つ。また、問題集の応用問題も、考査までに理解して解ける問題の種類を増やしておこう。 					
その他					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 習熟度別の少人数展開授業を実施する。定期考査の結果等によりクラス編成を見直す。 					

月	単元	学習目標
4月	第1章 場合の数と確率 第2節 確率 ・事象と確率 ・確率の基本性質 ・独立な試行の確率 ・反復試行の確率	・積事象と和事象の関係や余事象の関係を効果的に用いて確率を求めることができる。 ・玉を取り出す、くじを引くなどしたときの複雑な事象の確率を求めることができる。 ・数直線上の動点や、先に規程数に達すると勝敗が決まる事象（反復試行）の確率を求めることができる。
5月	・条件付き確率 ・原因の確率 ・期待値	・条件付き確率の意味を理解し、適切な問いについて条件付き確率を求めることができる。 ・原因の確率を求めることができる。 ・確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用したりすることができる。
前期中間考査		
6月	第3章 数学と人間の活動 ・約数と倍数 ・素数と素因数分解 ・最大公約数と最小公倍数 ・整数の割り算	・倍数判定法を調べ、判定できる理由を理解した上で、倍数を求めることができる。 ・ $n!$ の素因数の個数を求めることができる。 ・最大公約数と最小公倍数の性質や互いに素であることを用いて発展的な問題を解くことができる。
7・8月	・ユークリッドの互除法 ・1次不定方程式 ・合同式 ・2次の不定方程式	・ユークリッドの互除法を利用して1 ・合同式を利用して剰余系の問題を解くことができる。 ・3変数や分数形の不定方程式を解くことができる。
前期期末考査		
9月	・記数法 ・座標の考え方 ・ゲーム・パズルの中の数学 ・総合問題	・数量や図形に関する概念などと人間の活動の関わりについて理解する。 ・ゲームやパズルに数学的な要素を見だし、目的に応じて数学を活用して考察する。 ・数量や図形に関する基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な考察をより深めることで、やや発展的な問題を解くことができる。

※前期期末考査までの成績をもって、単位認定を行う。

学年	4年	教科・科目 【講座名】	数学Ⅰ【発展クラス】	単位数	2
				週の授業時数	4

教科書・補助教材					
教科書「数学Ⅰ」（数研出版） 補助教材「新課程 4STEP 数学Ⅰ+A」（数研出版） 「新課程 チャート式 基礎からの数学Ⅰ+A」（数研出版）					
学習の目標					
<ol style="list-style-type: none"> データの分析、図形と計量における考え方に興味・関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断できる。 データの分析、図形と計量において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることができる。 データの分析、図形と計量において、事象を数学的な表現・処理や推論ができる。 データの分析、図形と計量における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、発展的な知識を身に付ける。 					
評価の方法					
<ol style="list-style-type: none"> 出席状況（履修条件） 授業中の発言や演習の取り組み状況の観察 定期考査及び小テストの素点 課題や問題集への取り組み状況 					
学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）					
<p>毎日、授業の復習や問題集の課題に取り組み、前回の授業で学んだことを復習してから授業に臨んでほしい。そのためにも、予習や復習は大切である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業について 授業中は、教員の話をしっかり聞くだけでなく、その内容を思考しながら板書をかくことが大切である。ノートにかくことで、内容についての理解は一層深まり、問題を解く上での正しい記述方法を身に付けることもできる。復習にも活用できるノート作りを心がけよう。また、授業中の問題演習では、どのような点に着眼すると解答を導くことができるのかそのポイントを学び、考査等でそれを活用して問題を解けるようになってほしい。さらに、授業中に疑問に思ったことがあれば、授業中や授業後に、教員または周囲の友人に積極的に質問しよう。疑問に思ったことをすぐに解決しようとする習慣が、自主的に学習する姿勢につながり、数学への理解を深めたり定着させたりすることに役立つ。 復習について 授業で出された課題や、その範囲の問題集を解き、解法への理解を深めよう。授業ノートや教科書を活用し、あきらめず自力で完答できるまで取り組んでほしい。問題集の答え合わせでは、解答を細部まで確認し、自分に厳しく丸付けを行ってほしい。特に、発展クラスの生徒は、数学の他分野との関連問題にも触れ、総合的な理解を目指してほしい。問題集の丸付け後には、間違った問題の解法を理解するまで考え、分からない問題はそのままにしないようにしよう。さらに、解き直しはノートなど何も見ないで後日に行い、間違った場合はできるようになるまでこのプロセスを繰り返そう。 					
その他					
<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別の少人数展開授業を実施する。定期考査の結果によりクラス編成を見直す。 基本的な内容は、標準と同様だが、授業の進度は早い。余剰時間にて、入試問題等応用問題に取り組む。 					

月	単元	学習目標
4月	第4章 図形と計量 第1節 三角比 ・三角比 ・三角比の相互関係 ・三角比の拡張	<ul style="list-style-type: none"> 三角比を利用して、図形の中の辺の長さや角の大きさを求めることができる。 三角比の相互関係や三角比を鈍角まで拡張する方法を理解し、式の値を求めることができる。
5月	第2節 三角形への応用 ・正弦定理 ・余弦定理 ・正弦定理と余弦定理の応用 ・三角形の面積 ・空間図形への応用	<ul style="list-style-type: none"> 正弦定理を利用して、複雑な図形の中の辺の長さや角の大きさを求めることができる。 正弦定理、余弦定理を利用して、図形の中の辺の長さや角の大きさを求めることができる。 三角比を利用して、三角形の面積を求めることができる。 三角比を用いた計量の考え方を理解し、それらを空間図形などの考察に活用することができる。
	前期中間考査	
6月	<ul style="list-style-type: none"> 三角比の拡張 三角比の応用 	<ul style="list-style-type: none"> 三角比の考え方をより深め、三角比を拡張することで、正弦、余弦、正接を座標で用いる方法を考察し、正弦、余弦、正接の値を求めることができる。
7・8月	第5章 データの分析 ・データの整理、代表値 ・データの散らばりと四分位範囲 ・分散と標準偏差 ・2つの変量の間関係 ・仮説検定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 四分位偏差、分散及び標準偏差などの意味について理解し、それらを用いてデータの傾向を把握し、説明することができる。 散布図や相関係数の意味を理解し、それらを用いて二つのデータの相関を把握し説明することができる。 具体的な事象において、仮説検定の考え方を理解するとともに、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりできる。
	前期期末考査	
9月	数I総合演習	数学I全般の考え方を確認し、数学II分野へスムーズに移行できる準備をする。

※前期期末考査までの成績をもって、単位認定を行う。

学年	4年	教科・科目 【講座名】	数学Ⅰ【標準クラス】	単位数	2
				週の授業時数	4

教科書・補助教材					
教科書「数学Ⅰ」（数研出版） 補助教材「新課程 4STEP 数学Ⅰ+A」（数研出版） 「新課程 チャート式 基礎からの数学Ⅰ+A」（数研出版）					
学習の目標					
<ol style="list-style-type: none"> データの分析、図形と計量における考え方に興味・関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断できる。 データの分析、図形と計量において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることができる。 データの分析、図形と計量において、事象を数学的な表現・処理や推論ができる。 データの分析、図形と計量における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、発展的な知識を身に付ける。 					
評価の方法					
<ol style="list-style-type: none"> 出席状況（履修条件） 授業中の発言や演習の取り組み状況の観察 定期考査及び小テストの素点 課題や問題集への取り組み状況 					
学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）					
<p>毎日、授業の復習や問題集の課題に取り組み、前回の授業で学んだことを復習してから授業に臨んでほしい。そのためにも、予習や復習は大切である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業について 授業中は、教員の話をしっかり聞くだけでなく、その内容を思考しながら板書をかくことが大切である。ノートをかくことで、内容についての理解は一層深まり、問題を解く上での正しい記述方法を身に付けることもできる。復習にも活用できるノート作りを心がけよう。また、授業中の問題演習では、どのような点に着眼すると解答を導くことができるのかそのポイントを学び、考査等でそれを活用して問題を解けるようになってほしい。さらに、授業中に疑問に思ったことがあれば、授業中や授業後に、教員または周囲の友人に積極的に質問しよう。疑問に思ったことをすぐに解決しようとする習慣が、自主的に学習する姿勢につながり、数学への理解を深めたり定着させたりすることに役立つ。 復習について 授業で出された課題や、その範囲の問題集を解き、解法への理解を深めよう。授業ノートや教科書を活用し、あきらめず自力で完答できるまで取り組んでほしい。問題集の答え合わせでは、解答を細部まで確認し、自分に厳しく丸付けを行ってほしい。特に、発展クラスの生徒は、数学の他分野との関連問題にも触れ、総合的な理解を目指してほしい。問題集の丸付け後には、間違った問題の解法を理解するまで考え、分からない問題はそのままにしないようにしよう。さらに、解き直しはノートなど何も見ないで後日に行い、間違った場合はできるようになるまでこのプロセスを繰り返そう。 					
その他					
<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別の少人数展開授業を実施する。定期考査の結果によりクラス編成を見直す。 					

月	単元	学習目標
4月	第4章 図形と計量 第1節 三角比 ・三角比 ・三角比の相互関係 ・三角比の拡張	<ul style="list-style-type: none"> ・三角比を利用して、図形の中の辺の長さや角の大きさを求めることができる。 ・三角比の相互関係や三角比を鈍角まで拡張する方法を理解し、式の値を求めることができる。
5月	第2節 三角形への応用 ・正弦定理 ・余弦定理 ・正弦定理と余弦定理の応用 ・三角形の面積 ・空間図形への応用	<ul style="list-style-type: none"> ・正弦定理を利用して、複雑な図形の中の辺の長さや角の大きさを求めることができる。 ・正弦定理、余弦定理を利用して、図形の中の辺の長さや角の大きさを求めることができる。 ・三角比を利用して、三角形の面積を求めることができる。 ・三角比を用いた計量の考え方を理解し、それらを空間図形などの考察に活用することができる。
	前期中間考査	
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・三角比の拡張 ・三角比の応用 	<ul style="list-style-type: none"> ・三角比の考え方をより深め、三角比を拡張することで、正弦、余弦、正接を座標で用いる方法を考察し、正弦、余弦、正接の値を求めることができる。
7・8月	第5章 データの分析 ・データの整理、代表値 ・データの散らばりと四分位範囲 ・分散と標準偏差 ・2つの変量の間関係 ・仮説検定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・四分位偏差、分散及び標準偏差などの意味について理解し、それらを用いてデータの傾向を把握し、説明することができる。 ・散布図や相関係数の意味を理解し、それらを用いて二つのデータの相関を把握し説明することができる。 ・具体的な事象において、仮説検定の考え方を理解するとともに、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりできる。
	前期期末考査	
9月	数I総合演習	数学I全般の考え方を確認し、数学II分野へスムーズに移行できる準備をする。

※前期期末考査までの成績をもって、単位認定を行う。

学年	4年	教科・科目 【講座名】	数学Ⅰ【基礎クラス】	単位数	2
				週の授業時数	4

教科書・補助教材					
教科書「数学Ⅰ」（数研出版） 補助教材「新課程 4STEP 数学Ⅰ+A」（数研出版） 「新課程 チャート式 基礎からの数学Ⅰ+A」（数研出版）					
学習の目標					
<ol style="list-style-type: none"> データの分析、図形と計量における考え方に興味・関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断できる。 データの分析、図形と計量において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることができる。 データの分析、図形と計量において、事象を数学的な表現・処理や推論ができる。 データの分析、図形と計量における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、発展的な知識を身に付ける。 					
評価の方法					
<ol style="list-style-type: none"> 出席状況（履修条件） 授業中の発言や演習の取り組み状況の観察 定期考査及び小テストの素点 課題や問題集への取り組み状況 					
学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）					
<p>毎日、授業の復習や問題集の課題に取り組み、前回の授業で学んだことを復習してから授業に臨んでほしい。そのためにも、予習や復習は大切である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業について 授業中は、教員の話をしっかり聞くだけでなく、その内容を思考しながら板書を書くことが大切である。ノートを書くことで、内容についての理解は一層深まり、問題を解く上での正しい記述方法を身に付けることもできる。復習にも活用できるノート作りを心がけよう。また、授業中の問題演習では、どのような点に着眼すると解答を導くことができるのかそのポイントを学び、考査等でそれを活用して問題を解けるようになってほしい。さらに、授業中に疑問に思ったことがあれば、授業中や授業後に、教員または周囲の友人に積極的に質問しよう。疑問に思ったことをすぐに解決しようとする習慣が、自主的に学習する姿勢につながり、数学への理解を深めたり定着させたりすることに役立つ。 復習について 授業で出された課題や、その範囲の問題集を解き、解法への理解を深めよう。授業ノートや教科書を活用し、あきらめず自力で完答できるまで取り組んでほしい。問題集の答え合わせでは、解答を細部まで確認し、自分に厳しく丸付けを行ってほしい。特に、発展クラスの生徒は、数学の他分野との関連問題にも触れ、総合的な理解を目指してほしい。問題集の丸付け後には、間違った問題の解法を理解するまで考え、分からない問題はそのままにしないようにしよう。さらに、解き直しはノートなど何も見ないで後日に行い、間違った場合はできるようになるまでこのプロセスを繰り返そう。 					
その他					
<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別の少人数展開授業を実施する。定期考査の結果によりクラス編成を見直す。 基本的な内容は、標準と同様。章末問題等の応用問題については、一部扱わない問題もある。 					

月	単元	学習目標
4月	第4章 図形と計量 第1節 三角比 ・三角比 ・三角比の相互関係 ・三角比の拡張	<ul style="list-style-type: none"> 三角比を利用して、図形の中の辺の長さや角の大きさを求めることができる。 三角比の相互関係や三角比を鈍角まで拡張する方法を理解し、式の値を求めることができる。
5月	第2節 三角形への応用 ・正弦定理 ・余弦定理 ・正弦定理と余弦定理の応用 ・三角形の面積 ・空間図形への応用	<ul style="list-style-type: none"> 正弦定理を利用して、複雑な図形の中の辺の長さや角の大きさを求めることができる。 正弦定理、余弦定理を利用して、図形の中の辺の長さや角の大きさを求めることができる。 三角比を利用して、三角形の面積を求めることができる。 三角比を用いた計量の考え方を理解し、それらを空間図形などの考察に活用することができる。
	前期中間考査	
6月	<ul style="list-style-type: none"> 三角比の拡張 三角比の応用 	<ul style="list-style-type: none"> 三角比の考え方をより深め、三角比を拡張することで、正弦、余弦、正接を座標で用いる方法を考察し、正弦、余弦、正接の値を求めることができる。
7・8月	第5章 データの分析 ・データの整理、代表値 ・データの散らばりと四分位範囲 ・分散と標準偏差 ・2つの変量の間関係 ・仮説検定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 四分位偏差、分散及び標準偏差などの意味について理解し、それらを用いてデータの傾向を把握し、説明することができる。 散布図や相関係数の意味を理解し、それらを用いて二つのデータの相関を把握し説明することができる。 具体的な事象において、仮説検定の考え方を理解するとともに、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりできる。
	前期期末考査	
9月	数I総合演習	数学I全般の考え方を確認し、数学II分野へスムーズに移行できる準備をする。

※前期期末考査までの成績をもって、単位認定を行う。

学年	4年	教科・科目 【講座名】	数学Ⅱ【発展クラス】	単位数	3
				週の授業時数	6

教科書・補助教材					
教科書「数学Ⅱ」（数研出版） 補助教材「新課程 数学 4STEP Ⅱ」（数研出版） 「新課程 チャート式 基礎からの数学Ⅱ」（数研出版）					
学習の目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1 三角関数、指数関数と対数関数、図形と方程式、微分積分における考え方に興味・関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断できる。 2 三角関数、指数関数と対数関数、図形と方程式、微分積分において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることができる。 3 三角関数、指数関数と対数関数、図形と方程式、微分積分において、事象を数学的な表現・処理や推論ができる。 4 三角関数、指数関数と対数関数、図形と方程式、微分積分における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、発展的な知識を身に付ける。 5 					
評価の方法					
<ol style="list-style-type: none"> 1 出席状況（履修条件） 2 授業中の発言や演習の取り組み状況の観察 3 定期考査及び小テストの素点 4 課題や問題集への取り組み状況（平常点） 					
学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）					
<p>毎日、授業の復習や問題集の課題に取り組み、前回の授業で学んだことを復習してから授業に臨んでほしい。そのためにも、予習や復習は大切である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業について 授業中は、教員の話をしっかり聞くだけでなく、その内容を思考しながら板書をかくことが大切である。ノートにかくことで、内容についての理解は一層深まり、問題を解く上での正しい記述方法を身に付けることもできる。復習にも活用できるノート作りを心がけよう。また、授業中の問題演習では、どのような点に着眼すると解答を導くことができるのかそのポイントを学び、考査等でそれを活用して問題を解けるようになってほしい。さらに、授業中に疑問に思ったことがあれば、授業中や授業後に、教員または周囲の友人に積極的に質問しよう。疑問に思ったことをすぐに解決しようとする習慣が、自主的に学習する姿勢につながり、数学への理解を深めたり定着させたりすることに役立つ。 2 復習について 授業で出された課題や、その範囲の問題集を解き、解法への理解を深めよう。授業ノートや教科書を活用し、あきらめず自力で完答できるまで取り組んでほしい。問題集の答え合わせでは、解答を細部まで確認し、自分に厳しく丸付けを行ってほしい。特に、発展クラスの生徒は、数学の他分野との関連問題にも触れ、総合的な理解を目指してほしい。問題集の丸付け後には、間違った問題の解法を理解するまで考え、分からない問題はそのままにしないようにしよう。さらに、解き直しはノートなど何も見ないで後日に行い、間違った場合はできるようになるまでこのプロセスを繰り返そう。 					
その他					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 習熟度別の少人数展開授業を実施する。定期考査の結果によりクラス編成を見直す。 ・ 基本的な内容は、標準と同様だが、授業の進度は早い。余剰時間にて、入試問題等応用問題に取り組む。 					

月	単元	学習目標
10月	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 <ul style="list-style-type: none"> ・直線上の点 ・平面上の点 ・直線の方程式 ・2直線の関係 第4章 三角関数 第1節 三角関数 <ul style="list-style-type: none"> ・一般角と弧度法 ・一般角の三角関数 ・三角関数の性質 ・三角関数のグラフ ・三角関数の応用 	<ul style="list-style-type: none"> ・座標平面上において、線分の内分点、外分点の座標を求めることができる。 ・公式を利用して、直線の方程式を求め、平行条件や垂直条件を利用して、平行な直線や垂直な直線の式を求めることができる。 ・連立方程式の解の状況を、2直線の位置関係から考察することができる。 ・点と直線の距離の公式を理解し、利用できる。 ・弧度法を利用して、扇形の弧の長さや面積を求めることができる。 ・三角関数の相互関係を利用して等式の証明をすることができる。 ・三角関数のおき換えによる方程式、不等式の解を求めることができる。
11月	第3章 図形と方程式 第2節 円 <ul style="list-style-type: none"> ・円の方程式 ・円と直線 ・2つの円 第4章 三角関数 第2節 加法定理 <ul style="list-style-type: none"> ・三角関数の加法定理 ・加法定理の応用 ・三角関数の合成 第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 <ul style="list-style-type: none"> ・指数の拡張 ・指数関数 	<ul style="list-style-type: none"> ・中心と半径の関係を理解し、円の方程式を求めることができる。 ・$kF(x, y) + G(x, y) = 0$の形を利用して、円の方程式を求めることができる。 ・倍角の公式を利用して、三角方程式・不等式を解くことができる。 ・$\triangle ABC$において、関係式からどのような形の三角形か求めることができる。 ・指数が有理数の場合の累乗の定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を利用した計算をすることができる。 ・拡張された指数法則やグラフの特徴を理解し、それらの事象を考察することができる。
	後期中間考査	
12月	第3節 軌跡と領域 <ul style="list-style-type: none"> ・軌跡と方程式 ・不等式の表す領域 ・放物線を境界線とする領域 第5章 指数関数と対数関数 第2節 対数関数 <ul style="list-style-type: none"> ・対数とその性質 ・対数関数 ・常用対数 	<ul style="list-style-type: none"> ・不等式や連立不等式の表す領域を図示することができる。 ・領域を利用する1次式の最大値・最小値の求め方を理解し、それを利用できる。 ・対数の意味や基本的な性質、グラフの特徴を理解し、それらの事象を考察する事ができる。 ・常用対数を用いて、自然数の桁数を判断する過程を考察し、常用対数の値を利用して、自然数の桁数を求めることができる。

1月	第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 ・微分係数 ・関数の極限值 ・導関数 第2節 導関数の応用 ・接線 ・関数の値の変化 ・最大値・最小値 ・関数のグラフと方程式・不等式	・導関数、微分係数の意味を理解する。 ・導関数の性質を利用して、基本的な計算ができる。 ・曲線上にある点を通る接線の方程式を求めることができる。 ・導関数の符号から関数の増減を調べることができる。 ・3次関数について、導関数を利用し、増減表を作成することでグラフをかくことができる。 ・3次関数の最大値と最小値を、増減表やグラフを活用して求めることができる。 ・3次方程式の異なる実数解の個数を、グラフを活用して求めることができる。
2月	第3節 積分法 ・不定積分 ・定積分 ・面積 ・面積 ・放物線と直線で囲まれた図形の面積 ・ $(x+a)^n$ の微分と積分	・与えられた条件を満たす関数や曲線の方程式を、不定積分を利用して求めることができる。 ・不定積分及び定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分の値を求めることができる。 ・直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。 ・定積分を用いて、2本の曲線で囲まれた部分の面積を求めることができる。 ・定積分を用いて、2本の曲線で囲まれた部分の面積を求めることができる。 ・微分と積分の関係に着目し、積分の考えを用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める方法について考察することができる。
	学年末考査	
3月	数学Ⅱ 総合問題演習	・入試を意識した知識の習得と技能の習熟を図る。

※後期開始から学年末考査までの成績をもって、単位認定を行う。

学年	4年	教科・科目 【講座名】	数学Ⅱ【標準クラス】	単位数	3
				週の授業時数	6

教科書・補助教材					
教科書「数学Ⅱ」（数研出版） 補助教材「新課程 数学 4STEP Ⅱ」（数研出版） 「新課程 チャート式 基礎からの数学Ⅱ」（数研出版）					
学習の目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1 三角関数、指数関数と対数関数、図形と方程式、微分積分における考え方に興味・関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断できる。 2 三角関数または指数関数と対数関数、図形と方程式において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的に考えたりすることができる。 3 三角関数、指数関数と対数関数、図形と方程式、微分積分において、事象を数学的な表現・処理や推論ができる。 4 三角関数、指数関数と対数関数、図形と方程式、微分積分における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、標準的な知識を身に付ける。 					
評価の方法					
<ol style="list-style-type: none"> 1 出席状況（履修条件） 2 授業中の発言や演習の取り組み状況の観察 3 定期考査及び小テストの素点 4 課題や問題集への取り組み状況（平常点） 					
学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）					
<p>毎日、授業の復習や問題集の課題に取り組み、前回学んだことを復習してから授業に臨んでほしい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業について 授業中は、教員の話をしっかり聞くだけでなく、その内容を思考しながら板書をかくことが大切である。ノートにかくことで、内容についての理解は一層深まり、問題を解く上での正しい記述方法を身に付けることもできる。復習にも活用できるノート作りを心がけよう。また、授業中の問題演習では、どのような点に着眼すると解答を導くことができるのかそのポイントを学び、それもノートに書き込むようにしてほしい。さらに、授業中に疑問に思ったことがあれば、授業中や授業後に、教員または周囲の友人に積極的に質問しよう。疑問に思ったことを一つでも解決しようとする習慣が、自主的に学習する姿勢につながり、数学の力を高めることに役立つ。 2 復習について 授業ノートや教科書を見直し、授業で出された課題や、その範囲の問題集に取り組もう。分からない問題でも、あきらめず思考する習慣を身に付けてほしい。問題集の答え合わせでは、解答を細部まで確認し、自分に厳しく丸付けをしよう。特に、標準クラスの生徒は、解答の際に必要な説明や条件文を省略してしまう傾向にあるため、丸付けの際には、その部分を丁寧に直してほしい。そして、授業で扱った問題は理解して解けるようになるまで復習しよう。また、問題集の応用問題も、考査までに理解して解ける問題の種類を増やしておこう。 					
その他					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 習熟度別の少人数展開授業を実施する。定期考査の結果によりクラス編成を見直す。 					

月	単元	学習目標
10月	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 <ul style="list-style-type: none"> ・直線上の点 ・平面上の点 ・直線の方程式 ・2直線の関係 第4章 三角関数 第1節 三角関数 <ul style="list-style-type: none"> ・一般角と弧度法 ・一般角の三角関数 ・三角関数の性質 ・三角関数のグラフ ・三角関数の応用 	<ul style="list-style-type: none"> ・座標平面上において、線分の内分点、外分点の座標を求めることができる。 ・公式を利用して、直線の方程式を求め、平行条件や垂直条件を利用して、平行な直線や垂直な直線の式を求めることができる。 ・連立方程式の解の状況を、2直線の位置関係から考察することができる。 ・点と直線の距離の公式を理解し、利用できる。 ・弧度法を利用して、扇形の弧の長さや面積を求めることができる。 ・三角関数の相互関係を利用して等式の証明をすることができる。 ・三角関数のおき換えによる方程式、不等式の解を求めることができる。
11月	第3章 図形と方程式 第2節 円 <ul style="list-style-type: none"> ・円の方程式 ・円と直線 ・2つの円 第4章 三角関数 第2節 加法定理 <ul style="list-style-type: none"> ・三角関数の加法定理 ・加法定理の応用 ・三角関数の合成 第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 <ul style="list-style-type: none"> ・指数の拡張 ・指数関数 	<ul style="list-style-type: none"> ・中心と半径の関係を理解し、円の方程式を求めることができる。 ・$kF(x, y) + G(x, y) = 0$の形を利用して、円の方程式を求めることができる。 ・倍角の公式を利用して、三角方程式・不等式を解くことができる。 ・$\triangle ABC$において、関係式からどのような形の三角形か求めることができる。 ・指数が有理数の場合の累乗の定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を利用した計算をすることができる。 ・拡張された指数法則やグラフの特徴を理解し、それらの事象を考察することができる。
	後期中間考査	
12月	第3節 軌跡と領域 <ul style="list-style-type: none"> ・軌跡と方程式 ・不等式の表す領域 ・放物線を境界線とする領域 第5章 指数関数と対数関数 第2節 対数関数 <ul style="list-style-type: none"> ・対数とその性質 ・対数関数 ・常用対数 	<ul style="list-style-type: none"> ・不等式や連立不等式の表す領域を図示することができる。 ・領域を利用する1次式の最大値・最小値の求め方を理解し、それを利用できる。 ・対数の意味や基本的な性質、グラフの特徴を理解し、それらの事象を考察する事ができる。 ・常用対数を用いて、自然数の桁数を判断する過程を考察し、常用対数の値を利用して、自然数の桁数を求めることができる。

1月	<p>第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・微分係数 ・関数の極限值 ・導関数 <p>第2節 導関数の応用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接線 ・関数の値の変化 ・最大値・最小値 ・関数のグラフと方程式・不等式 	<ul style="list-style-type: none"> ・導関数、微分係数の意味を理解する。 ・導関数の性質を利用して、基本的な計算ができる。 ・曲線上にある点を通る接線の方程式を求めることができる。 ・導関数の符号から関数の増減を調べることができる。 ・3次関数について、導関数を利用し、増減表を作成することでグラフをかくことができる。 ・3次関数の最大値と最小値を、増減表やグラフを活用して求めることができる。 ・3次方程式の異なる実数解の個数を、グラフを活用して求めることができる。
2月	<p>第3節 積分法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不定積分 ・定積分 ・面積 ・面積 ・放物線と直線で囲まれた図形の面積 ・$(x+a)^n$の微分と積分 	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられた条件を満たす関数や曲線の方程式を、不定積分を利用して求めることができる。 ・不定積分及び定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分の値を求めることができる。 ・直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。 ・定積分を用いて、2本の曲線で囲まれた部分の面積を求めることができる。 ・定積分を用いて、2本の曲線で囲まれた部分の面積を求めることができる。 ・微分と積分の関係に着目し、積分の考えを用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める方法について考察することができる。
	学年末考査	
3月	数学Ⅱ 総合問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・入試を意識した知識の習得と技能の習熟を図る。

※後期開始から学年末考査までの成績をもって、単位認定を行う。

学年	4年	教科・科目 【講座名】	数学Ⅱ【基礎クラス】	単位数	3
				週の授業時数	6

教科書・補助教材					
教科書「数学Ⅱ」（数研出版） 補助教材「新課程 数学 4STEP Ⅱ」（数研出版） 「新課程 チャート式 基礎からの数学Ⅱ」（数研出版）					
学習の目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1 三角関数、指数関数と対数関数、図形と方程式、微分積分における考え方に興味・関心をもつとともに、数学のよさを認識することができる。 2 三角関数、指数関数と対数関数、図形と方程式、微分積分において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り、考えたりすることができる。 3 三角関数、指数関数と対数関数、図形と方程式、微分積分において、事象を数学的な表現・処理や推論ができる。 4 三角関数、指数関数と対数関数、図形と方程式、微分積分における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付ける。 					
評価の方法					
<ol style="list-style-type: none"> 1 出席状況（履修条件） 2 授業中の発言や演習の取り組み状況の観察 3 定期考査及び小テストの素点 4 課題や問題集への取り組み状況（平常点） 					
学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）					
<p>毎日、授業の復習や問題集の課題に取り組み、前回学んだことを復習してから授業に臨んでほしい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業について 授業中は、教員の話をしっかり聞くだけでなく、板書をしっかりと写すことが大切である。ノートにかくことで、内容についての理解は一層深まり、問題を解く上での正しい記述方法を身に付けることもできる。復習にも活用できるノート作りを心がけよう。また、授業中の問題演習では、どのような点に着眼すると解答を導くことができるのかそのポイントを学び、それもノートに書き込むようにしてほしい。さらに、教科書の例題の解法で疑問に思ったことがあれば、授業中や授業後に、教員または周囲の友人に積極的に質問しよう。その習慣が、自主的に学習する姿勢につながり、数学の力を高めることに役立つ。さらに、教科書の応用例題を理解して解けるようになることが望ましい。 2 復習について 授業ノートや教科書を見直し、授業で出された課題や、その範囲の問題集に取り組もう。分からない問題でも、あきらめず思考する習慣を身に付けてほしい。特に、基礎クラスの生徒は、問題集のAレベルの問題の解法を考査までに完璧に身に付けてほしい。そのためには、考査前だけでなく、定期的に復習する習慣を身に付け、解けるようになるまで繰り返して解くとよい。そして、この繰り返しが、計算力を向上させることにも役立つ。また、問題集の応用問題も、考査までに理解して解ける問題の種類を増やしておこう。 					
その他					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 習熟度別の少人数展開授業を実施する。定期考査の結果によりクラス編成を見直す。 ・ 基本的な内容は、標準と同様。章末問題等の応用問題については、一部扱わない問題もある。 					

月	単元	学習目標
10月	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 <ul style="list-style-type: none"> ・直線上の点 ・平面上の点 ・直線の方程式 ・2直線の関係 第4章 三角関数 第1節 三角関数 <ul style="list-style-type: none"> ・一般角と弧度法 ・一般角の三角関数 ・三角関数の性質 ・三角関数のグラフ ・三角関数の応用 	<ul style="list-style-type: none"> ・座標平面上において、線分の内分点、外分点の座標を求めることができる。 ・公式を利用して、直線の方程式を求め、平行条件や垂直条件を利用して、平行な直線や垂直な直線の式を求めることができる。 ・連立方程式の解の状況を、2直線の位置関係から考察することができる。 ・点と直線の距離の公式を理解し、利用できる。 ・弧度法を利用して、扇形の弧の長さや面積を求めることができる。 ・三角関数の相互関係を利用して等式の証明をすることができる。 ・三角関数のおき換えによる方程式、不等式の解を求めることができる。
11月	第3章 図形と方程式 第2節 円 <ul style="list-style-type: none"> ・円の方程式 ・円と直線 ・2つの円 第4章 三角関数 第2節 加法定理 <ul style="list-style-type: none"> ・三角関数の加法定理 ・加法定理の応用 ・三角関数の合成 第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 <ul style="list-style-type: none"> ・指数の拡張 ・指数関数 	<ul style="list-style-type: none"> ・中心と半径の関係を理解し、円の方程式を求めることができる。 ・$kF(x, y) + G(x, y) = 0$の形を利用して、円の方程式を求めることができる。 ・倍角の公式を利用して、三角方程式・不等式を解くことができる。 ・$\triangle ABC$において、関係式からどのような形の三角形か求めることができる。 ・指数が有理数の場合の累乗の定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を利用した計算をすることができる。 ・拡張された指数法則やグラフの特徴を理解し、それらの事象を考察することができる。
	後期中間考査	
12月	第3節 軌跡と領域 <ul style="list-style-type: none"> ・軌跡と方程式 ・不等式の表す領域 ・放物線を境界線とする領域 第5章 指数関数と対数関数 第2節 対数関数 <ul style="list-style-type: none"> ・対数とその性質 ・対数関数 ・常用対数 	<ul style="list-style-type: none"> ・不等式や連立不等式の表す領域を図示することができる。 ・領域を利用する1次式の最大値・最小値の求め方を理解し、それを利用できる。 ・対数の意味や基本的な性質、グラフの特徴を理解し、それらの事象を考察する事ができる。 ・常用対数を用いて、自然数の桁数を判断する過程を考察し、常用対数の値を利用して、自然数の桁数を求めることができる。

1月	第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 <ul style="list-style-type: none"> ・微分係数 ・関数の極限值 ・導関数 第2節 導関数の応用 <ul style="list-style-type: none"> ・接線 ・関数の値の変化 ・最大値・最小値 ・関数のグラフと方程式・不等式 	<ul style="list-style-type: none"> ・導関数、微分係数の意味を理解する。 ・導関数の性質を利用して、基本的な計算ができる。 ・曲線上にある点を通る接線の方程式を求めることができる。 ・導関数の符号から関数の増減を調べることができる。 ・3次関数について、導関数を利用し、増減表を作成することでグラフをかくことができる。 ・3次関数の最大値と最小値を、増減表やグラフを活用して求めることができる。 ・3次方程式の異なる実数解の個数を、グラフを活用して求めることができる。
2月	第3節 積分法 <ul style="list-style-type: none"> ・不定積分 ・定積分 ・面積 ・面積 ・放物線と直線で囲まれた図形の面積 ・$(x+a)^n$の微分と積分 	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられた条件を満たす関数や曲線の方程式を、不定積分を利用して求めることができる。 ・不定積分及び定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分の値を求めることができる。 ・直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。 ・定積分を用いて、2本の曲線で囲まれた部分の面積を求めることができる。 ・定積分を用いて、2本の曲線で囲まれた部分の面積を求めることができる。 ・微分と積分の関係に着目し、積分の考えを用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める方法について考察することができる。
	学年末考査	
3月	数学Ⅱ 総合問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・入試を意識した知識の習得と技能の習熟を図る。

※後期開始から学年末考査までの成績をもって、単位認定を行う。

学年	5年 (前期)	教科・科目 【講座名】	数学B【発展クラス】	単位数	2
				週の授業時数	4

教科書・補助教材					
教科書「数学B」(数研出版)					
補助教材「新課程 4STEP 数学B」(数研出版)					
「新課程 チャート式 基礎からの数学B」(数研出版)					
学習の目標					
1 数列、統計的な推測における考え方に興味・関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断できる。					
2 数列、統計的な推測において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることができる。					
3 数列、統計的な推測において、事象を数学的な表現・処理や推論ができる。					
4 数列、統計的な推測における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付ける。					
評価の方法					
1 出席状況(履修条件) <u>※週の授業時数が4時間に対して、単位数が2であるから、欠時数に注意すること。</u> <u>※前期「数学B」と後期「数学Ⅲ」「数学演習」の欠時数は切り離して数える。</u>					
2 前期2回の定期考査及び単元テスト等の素点					
3 授業における課題への取り組みや学習状況の振り返り					
4 提出課題や問題集への取り組み状況(平常点)					
学習のアドバイス(授業への臨み方、予習や復習の方法)					
1 授業について 重要な定理や公式は、証明方法を理解し、例題の解説を通して、その利用方法を身につけてほしい。また、問題演習では、どのような点に着眼すると解答を導くことができるのかを学んでほしい。これにより、基本的な問題へのアプローチ方法を学ぶことができる。そして、授業中にノートをとることで、理解は一層深まる。それは、書くという行為や記録をまとめることが理解の一助になるからである。さらに、授業中に疑問に思ったことがあれば、授業中や授業後に、教員または周囲の友人に積極的に質問しよう。疑問に思ったことをすぐに解決しようとする習慣が、自主的に学習する姿勢につながり、数学への理解を深めたり定着させたりすることに役立つ。					
2 復習について まずは、授業で取り扱った問題を確実に復習することが大切である。さらに、何回も解き直すことで、基本事項の定着に繋がる。そして、授業中に解ききれなかった練習問題や、問題集(4STEPを中心に)を解くことで、より一層の定着を図ることができる。更なる理解を深めたい場合や、入試レベルの問題にまで深めたい場合は、4STEPのB問題やチャートなどを活用して問題演習を各自行ってほしい。授業のノートや参考書を活用し、あきらめず自力で完答できるまで取り組んでほしい。解き直しは、後日に行い、間違った場合はできるようになるまでこのプロセスを繰り返そう。数学の他分野との関連問題にも触れ、総合的な理解を目指してほしい。					
その他					
<ul style="list-style-type: none"> ・5年「数学B」は、前期末の成績をもって、学期途中での評定・履修・単位の認定を行う。 ・半期で習熟度別の少人数展開授業を実施する。定期考査、単元テストの結果によりクラス編成を見直す。 ・授業に関する質問は、数学科の教員全員で対応する。積極的に質問すること。 					

月	単元	学習目標
4月	第1章 数列 第1節 数列とその和 ・数列 ・等差数列とその和 ・等比数列とその和 ・複利計算と等比数列 ・和の記号 Σ ・階差数列 ・いろいろな数列の和	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた一般項から必要な項を求めることができる。それらから一般項を推測することができる。 等差数列の一般項や和の式を導き、計算をすることができる。一般項の式を活用して不等式としたり、和の式を2次関数として活用したりすることができる。 等比数列の一般項や和の式を導き、計算に活用することができる。また、複利法に応用ができる。 Σの公式や性質を理解し、複雑な計算をしたり、問題の解決に活用したりすることができる。 与えられた階差数列から一般項を求めることができる。また、初項から第n項までの和の式S_nから一般項a_nを求めることができる。
5月	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな数列の和 第2節 数学的帰納法 ・漸化式と数列 ・確率と漸化式 ・隣接3項間の漸化式 ・2つの数列の漸化式 ・数学的帰納法 ・自然数や整数に関わる命題のいろいろな証明 ・入試問題演習	<ul style="list-style-type: none"> 部分分数分解、階差の差による相殺や$S-rS$法を活用して数列の和を求めることができる。 群数列の原理を理解し、第n群の最初の項や第n群の和などを求めることができる。 漸化式の意味を理解し、漸化式から一般項を求めることができる。特に、確率漸化式や隣接3項1次形、連立漸化式等、汎用性のある漸化式についても理解を深め、具体的な事象に応用することができる。 数学的帰納法について理解できる。それを等式や不等式の証明、整数の性質に関する証明や、数列の漸化式から一般項を求める際に活用することができる。
	前期中間考査	
6月	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 ・確率変数と確率分布 ・確率変数の期待値と分散 ・確率変数の変換 ・確率変数の和と期待値 ・独立な確率変数と期待値・分散 ・二項分布 ・正規分布	<ul style="list-style-type: none"> 分布を数学的に定式化するなどの目的を明確にした上で、確率変数とその分布について理解し、確率分布を求めることができる。 確率分布の特徴を、確率変数の平均（期待値）、分散、標準偏差が確率分布のどのような特徴を示しているかを理解し、求めることができる。 確率変数の平均（期待値）、分散、標準偏差などを用いて考察することができる。 離散型確率分布である二項分布 $B(n, p)$ に従う確率変数 X の平均 np、分散 npq の特徴や分布の様子を理解し、求めることができる。 連続型確率分布である正規分布の特徴を具体的な例や実験などを通して、分布曲線の形や性質を理解し、期待値と標準偏差を求めることができる。
7・8月	<ul style="list-style-type: none"> 正規分布 第2節 統計的な推測 ・母集団と標本 ・標本平均とその分布 ・推定 ・仮説検定	<ul style="list-style-type: none"> 日常の事象や社会の事象などにおいて観測され、正規分布に従うとみなせる変量について理解し、考察することができる。 任意の標本における平均値から、母集団における平均値を推定することができる。 区間推定の意味や方法を理解し、母平均を推定することができる。 命題（帰無仮説）と観測された事象の矛盾を論理的矛盾ではなく確率が定められた値より小さいことで判断することができる。
	前期期末考査	
9月	数学B総合問題演習	<ul style="list-style-type: none"> 入試を意識した知識の習得と技能の習熟を図る。

※前期期末考査までの成績をもって、単位認定を行う。

学年	5年 (前期)	教科・科目 【講座名】	数学B【標準クラス】	単位数	2
				週の授業時数	4

教科書・補助教材	
教科書「数学B」(数研出版) 補助教材「新課程 4STEP 数学B」(数研出版) 「新課程 チャート式 基礎からの数学B」(数研出版)	
学習の目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1 数列、統計的な推測における考え方に興味・関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断できる。 2 数列、統計的な推測において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることができる。 3 数列、統計的な推測において、事象を数学的な表現・処理や推論ができる。 4 数列、統計的な推測における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付ける。 	
評価の方法	
<ol style="list-style-type: none"> 1 出席状況(履修条件) <u>※週の授業時数が4時間に対して、単位数が2であるから、欠時数に注意すること。</u> <u>※前期「数学B」と後期「数学Ⅲ」「数学演習」の欠時数は切り離して数える。</u> 2 前期2回の定期考査及び単元テスト等の素点 3 授業における課題への取り組みや学習状況の振り返り 4 提出課題や問題集への取り組み状況(平常点) 	
学習のアドバイス(授業への臨み方、予習や復習の方法)	
<ol style="list-style-type: none"> 1 授業について 重要な定理や公式は、証明方法を理解し、例題の解説を通して、その利用方法を身につけてほしい。また、問題演習では、どのような点に着眼すると解答を導くことができるのかを学んでほしい。これにより、基本的な問題へのアプローチ方法を学ぶことができる。そして、授業中にノートをとることで、理解は一層深まる。それは、書くという行為や記録をまとめることが理解の一助になるからである。さらに、授業中に疑問に思ったことがあれば、授業中や授業後に、教員または周囲の友人に積極的に質問しよう。疑問に思ったことをすぐに解決しようとする習慣が、自主的に学習する姿勢につながり、数学への理解を深めたり定着させたりすることに役立つ。 2 復習について まずは、授業で取り扱った問題を確実に復習することが大切である。さらに、何回も解き直すことで、基本事項の定着に繋がる。そして、授業中に解ききれなかった練習問題や、問題集(4STEPのA*B*問題を中心に)を解くことで、より一層の定着を図ることができる。更なる理解を深めたい場合や、入試レベルの問題にまで深めたい場合は、チャートなどを活用して問題演習を各自行ってほしい。授業のノートや参考書を活用し、あきらめず自力で完答できるまで取り組んでほしい。解き直しは、後日に行い、間違った場合はできるようになるまでこのプロセスを繰り返そう。数学の他分野との関連問題にも触れ、総合的な理解を目指してほしい。 	
その他	
<ul style="list-style-type: none"> ・5年「数学B」は、前期末の成績をもって、学期途中での評定・履修・単位の認定を行う。 ・半期で習熟度別の少人数展開授業を実施する。定期考査、単元テストの結果によりクラス編成を見直す。 ・授業に関する質問は、数学科の教員全員で対応する。積極的に質問すること。 	

月	単元	学習目標
4月	第1章 数列 第1節 数列とその和 ・数列 ・等差数列とその和 ・等比数列とその和 ・複利計算と等比数列 ・和の記号 Σ ・階差数列 ・いろいろな数列の和	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた一般項から必要な項を求めることができる。それらから一般項を推測することができる。 等差数列の一般項や和の式を導き、計算をすることができる。一般項の式を活用して不等式としたり、和の式を2次関数として活用したりすることができる。 等比数列の一般項や和の式を導き、計算に活用することができる。また、複利法に応用ができる。 Σの公式や性質を理解し、複雑な計算をすることができる。 与えられた階差数列から一般項を求めることができる。また、初項から第n項までの和の式S_nから一般項a_nを求めることができる。
5月	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな数列の和 第2節 数学的帰納法 ・漸化式と数列 ・確率と漸化式 ・隣接3項間の漸化式 ・2つの数列の漸化式 ・数学的帰納法 ・自然数や整数に関わる命題のいろいろな証明 ・入試問題演習	<ul style="list-style-type: none"> 部分分数分解、階差の差による相殺や$S-rS$法を活用して数列の和を求めることができる。 群数列の原理を理解し、第n群の最初の項や第n群の和などを求めることができる。 漸化式の意味を理解し、漸化式から一般項を求めることができる。特に、確率漸化式や隣接3項1次形、連立漸化式等、汎用性のある漸化式についても理解を深め、求めることができる。 数学的帰納法について理解できる。それを等式や不等式の証明、整数の性質に関する証明や、数列の漸化式から一般項を求めることができる。
	前期中間考査	
6月	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 ・確率変数と確率分布 ・確率変数の期待値と分散 ・確率変数の変換 ・確率変数の和と期待値 ・独立な確率変数と期待値・分散 ・二項分布 ・正規分布	<ul style="list-style-type: none"> 確率変数とその分布について理解し、確率分布を求めることができる。 確率分布の特徴を、確率変数の平均(期待値)、分散、標準偏差が確率分布のどのような特徴を示しているかを理解し、求めることができる。 確率変数の平均(期待値)、分散、標準偏差などを用いて考察することができる。 離散型確率分布である二項分布$B(n, p)$に従う確率変数Xの平均np、分散npqの特徴や分布の様子を理解し、求めることができる。 連続型確率分布である正規分布の特徴を具体的な例や実験などを通して、分布曲線の形や性質を理解し、期待値と標準偏差を求めることができる。
7・8月	<ul style="list-style-type: none"> 正規分布 第2節 統計的な推測 ・母集団と標本 ・標本平均とその分布 ・推定 ・仮説検定	<ul style="list-style-type: none"> 任意の標本における平均値から、母集団における平均値を推定することができる。 区間推定の意味や方法を理解し、母平均を推定することができる。 命題(帰無仮説)と観測された事象の矛盾を論理的矛盾ではなく確率が定められた値より小さいことで判断することができる。
	前期期末考査	
9月	数学B総合問題演習	<ul style="list-style-type: none"> 標準的な知識の習得と技能の習熟を図る。

※前期期末考査までの成績をもって、単位認定を行う。

学年	5年 (前期)	教科・科目 【講座名】	数学B【基礎クラス】	単位数	2
				週の授業時数	4

教科書・補助教材					
教科書「数学B」(数研出版)					
補助教材「新課程 4STEP 数学B」(数研出版)					
「新課程 チャート式 基礎からの数学B」(数研出版)					
学習の目標					
1 数列、統計的な推測における考え方に興味・関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断できる。					
2 数列、統計的な推測において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることができる。					
3 数列、統計的な推測において、事象を数学的な表現・処理や推論ができる。					
4 数列、統計的な推測における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付ける。					
評価の方法					
1 出席状況(履修条件) <u>※週の授業時数が4時間に対して、単位数が2であるから、欠席回数に注意すること。</u> <u>※前期「数学B」と後期「数学Ⅲ」「数学演習」の欠時数は切り離して数える。</u>					
2 前期2回の定期考査及び単元テスト等の素点					
3 授業における課題への取り組みや学習状況の振り返り					
4 提出課題や問題集への取り組み状況(平常点)					
学習のアドバイス(授業への臨み方、予習や復習の方法)					
1 授業について 重要な定理や公式は、証明方法を理解し、例題の解説を通して、その利用方法を身につけてほしい。また、問題演習では、どのような点に着眼すると解答を導くことができるのかを学んでほしい。これにより、基本的な問題へのアプローチ方法を学ぶことができる。そして、授業中にノートをとることで、理解は一層深まる。それは、書くという行為や記録をまとめることが理解の一助になるからである。さらに、授業中に疑問に思ったことがあれば、授業中や授業後に、教員または周囲の友人に積極的に質問しよう。疑問に思ったことをすぐに解決しようとする習慣が、自主的に学習する姿勢につながり、数学への理解を深めたり定着させたりすることに役立つ。					
2 復習について まずは、授業で取り扱った問題を確実に復習することが大切である。さらに、何回も解き直すことで、基本事項の定着に繋がる。そして、授業中に解ききれなかった練習問題や、問題集(4STEPのA問題を中心に)を解くことで、より一層の定着を図ることができる。更なる理解を深めたい場合や、入試レベルの問題にまで深めたい場合は、4STEPのB*問題やチャートなどを活用して問題演習を各自行ってほしい。授業のノートや参考書を活用し、あきらめず自力で完答できるまで取り組んでほしい。解き直しは、後日に行い、間違った場合はできるようになるまでこのプロセスを繰り返そう。数学の他分野との関連問題にも触れ、総合的な理解を目指してほしい。					
その他					
<ul style="list-style-type: none"> ・5年「数学Ⅱ」は、前期末の成績をもって、学期途中での評定・履修・単位認定を行う。 ・半期で習熟度別の少人数展開授業を実施する。定期考査、単元テストの結果によりクラス編成を見直す。 ・授業に関する質問は、数学科の教員全員で対応する。積極的に質問すること。 					

月	単元	学習目標
4月	第1章 数列 第1節 数列とその和 ・数列 ・等差数列とその和 ・等比数列とその和 ・複利計算と等比数列 ・和の記号 Σ ・階差数列 ・いろいろな数列の和	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた一般項から必要な項を求めることができる。 等差数列の一般項や和の式を導き、計算をすることができる。一般項の式を活用して不等式としたり、和の式を2次関数として活用したりすることができる。 等比数列の一般項や和の式を導き、計算に活用することができる。また、複利法を考えることができる。 Σの公式や性質を理解し、複雑な計算をすることができる。 与えられた階差数列から一般項を求めることができる。また、初項から第n項までの和の式S_nから一般項a_nを求めることができる。
5月	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな数列の和 第2節 数学的帰納法 ・漸化式と数列 ・確率と漸化式 ・隣接3項間の漸化式 ・2つの数列の漸化式 ・数学的帰納法 ・自然数や整数に関わる命題のいろいろな証明 ・入試問題演習	<ul style="list-style-type: none"> 部分分数分解、階差の差による相殺や$S-rS$法を活用して数列の和を求めることができる。 群数列の原理を理解し、第n群の最初の項や第n群の和などを求めることができる。 漸化式の意味を理解し、漸化式から一般項を求めることができる。特に、確率漸化式や隣接3項1次形、連立漸化式等、汎用性のある漸化式についても理解を深め、具体的な事象に応用することができる。 数学的帰納法について理解できる。それを等式や不等式の証明、整数の性質に関する証明や、数列の漸化式から一般項を求める際に活用することができる。
	前期中間考査	
6月	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 ・確率変数と確率分布 ・確率変数の期待値と分散 ・確率変数の変換 ・確率変数の和と期待値 ・独立な確率変数と期待値・分散 ・二項分布 ・正規分布	<ul style="list-style-type: none"> 確率変数とその分布について理解し、確率分布を求めることができる。 確率分布の特徴を、確率変数の平均（期待値）、分散、標準偏差が確率分布のどのような特徴を示しているかを理解し、求めることができる。 確率変数の平均（期待値）、分散、標準偏差などを用いて考察することができる。 離散型確率分布である二項分布 $B(n, p)$ に従う確率変数 X の平均 np、分散 npq の特徴や分布の様子を理解し、求めることができる。 連続型確率分布である正規分布の特徴を具体的な例や実験などを通して、分布曲線の形や性質を理解し、期待値と標準偏差を求めることができる。
7・8月	<ul style="list-style-type: none"> 正規分布 第2節 統計的な推測 ・母集団と標本 ・標本平均とその分布 ・推定 ・仮説検定	<ul style="list-style-type: none"> 任意の標本における平均値から、母集団における平均値を推定することができる。 区間推定の意味や方法を理解し、母平均を推定することができる。 命題（帰無仮説）と観測された事象の矛盾を論理的矛盾ではなく確率が定められた値より小さいことで判断することができる。
	前期期末考査	
9月	数学B総合問題演習	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。

※前期期末考査までの成績をもって、単位認定を行う。

学年	5年 (後期)	教科・科目 【講座名】	数学Ⅲ【発展クラス】	単位数	2
				週の授業時数	4

教科書・補助教材					
教科書「数学Ⅲ」(数研出版) 補助教材「新課程 4STEP 数学Ⅲ」(数研出版) 「新課程 チャート式 基礎からの数学Ⅲ」(数研出版)					
学習の目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1 微分法および積分法の発展的な内容についての理解を深め、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。 2 微分法および積分法の考えに基づき、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を身に付ける。 3 大学入試に対応できる学力を身に付ける。 					
評価の方法					
<ol style="list-style-type: none"> 1 出席状況(履修条件) ※週の授業時数が4時間に対して、単位数が2であるから、欠時数に注意すること。 ※前期「数学B」と後期「数学Ⅲ」の欠時数は切り離して数える。 2 前期2回の定期考査及び小テスト等の素点 3 授業における課題への取り組みや学習状況の振り返り 4 提出課題や問題集への取り組み状況(平常点) 					
学習のアドバイス(授業への臨み方、予習や復習の方法)					
<ol style="list-style-type: none"> 1 授業について 重要な定理や公式は、証明方法を理解し、例題の解説を通して、その利用方法を身につけてほしい。また、問題演習では、どのような点に着眼すると解答を導くことができるのかを学んでほしい。これにより、基本的な問題へのアプローチ方法を学ぶことができる。そして、授業中にノートをとることで、理解は一層深まる。それは、書くという行為や記録をまとめることが理解の一助になるからである。さらに、授業中に疑問に思ったことがあれば、授業中や授業後に、教員または周囲の友人に積極的に質問しよう。疑問に思ったことをすぐに解決しようとする習慣が、自主的に学習する姿勢につながり、数学への理解を深めたり定着させたりすることに役立つ。 2 復習について まずは、授業で取り扱った問題を確実に復習することが大切である。さらに、何回も解き直すことで、基本事項の定着に繋がる。そして、授業中に解ききれなかった練習問題や、問題集(4STEPを中心に)を解くことで、より一層の定着を図ることができる。更なる理解を深めたい場合や、入試レベルの問題にまで深めたい場合は、4STEPのB問題やチャートなどを活用して問題演習を各自行ってほしい。授業のノートや参考書を活用し、あきらめず自力で完答できるまで取り組んでほしい。解き直しは、後日に行い、間違った場合はできるようになるまでこのプロセスを繰り返そう。数学の他分野との関連問題にも触れ、総合的な理解を目指してほしい。 					
その他					
<ul style="list-style-type: none"> ・5年生では、後期からは進学先に応じて「数学Ⅲ」もしくは「数学演習」を選択して週4時間学習することになる。「数学Ⅲ」を希望する生徒は5年前期終了時までに数学ⅠAⅡBの範囲の復習を行い、微分法・積分法の応用的な内容について理解を深めることができるように準備しておくこと。 ・評定・履修・単位の認定は、5年前期の「数学B」と5年後期の「数学Ⅲ」では切り離して行う。欠時数についても切り離して数えるので注意すること。 ・授業に関する質問は、数学科の教員全員で対応する。積極的に質問すること。 					

月	単元	学習目標
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関数 <ul style="list-style-type: none"> ・分数関数 ・無理関数 ・逆関数と合成関数 ○ 極限 <ul style="list-style-type: none"> ・数列の極限 ・無限等比数列 ・無限級数 	<ul style="list-style-type: none"> ・関数の概念を理解し、それらを事象の考察に活用できる。連続・不連続関数の違いを理解する。 ・極限の概念を理解し、数列の事象の考察に活用できる。また、無限級数や極限値を具体的に求めることができる。
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・関数の極限 ・三角関数と極限 ・関数の連続性 ○ 微分法 <ul style="list-style-type: none"> ・微分係数と導関数 ・導関数の計算 ・いろいろな関数の導関数 ・第 n 次導関数 ・関数のいろいろな表し方と導関数 	<ul style="list-style-type: none"> ・関数の和・差・積・商の導関数、合成関数の導関数、三角関数・指数関数・対数関数の導関数を求めることができる。 ・微分法の定義を学び、導関数を求めることができる。
	後期中間考査	
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 微分法の応用 <ul style="list-style-type: none"> ・接線と法線 ・方程式の重解と微分 ・平均値の定理 ・平均値の定理の証明 ・関数の値の変化 ・関数の最大と最小 ・関数のグラフ ・方程式、不等式への応用 ・速度と加速度 ・近似式 ・1次と2次の近似値 	<ul style="list-style-type: none"> ・導関数を用いて、いろいろな曲線の接線の方程式を求め、関数の性質を増減表にまとめ、グラフの概形をかくことができる。また、それらを事象の考察に活用することができる。
1月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 積分法 <ul style="list-style-type: none"> ・不定積分とその基本性質 ・置換積分法 ・部分積分法 ・いろいろな関数の不定積分 ・定積分とその基本的性質 	<ul style="list-style-type: none"> ・積分法の定義を学び、種々の関数の不定積分を計算できる。
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・定積分の置換積分法 ・定積分の部分積分法 ・定積分の種々の問題 ○ 積分法の応用 <ul style="list-style-type: none"> ・面積 ・体積 ・一般の回転体の体積 	<ul style="list-style-type: none"> ・種々の関数の定積分の計算ができる。また、定積分の計算を用いて不等式の証明ができる。定積分を用いて、面積や体積を求めることができる。
	学年末考査	
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・曲線の長さ ・速度と道のり ・微分方程式 	<ul style="list-style-type: none"> ・積分法についての理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用することができる。

※後期開始から学年末考査までの成績をもって、単位認定を行う。

学年	5年 (後期)	教科・科目 【講座名】	数学Ⅲ【標準クラス】	単位数	2
				週の授業時数	4

教科書・補助教材					
教科書「数学Ⅲ」(数研出版) 補助教材「新課程 4STEP 数学Ⅲ」(数研出版) 「新課程 チャート式 基礎からの数学Ⅲ」(数研出版)					
学習の目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1 微分法および積分法の発展的な内容についての理解を深め、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。 2 微分法および積分法の考えに基づき、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を身に付ける。 3 大学入試に対応できる学力を身に付ける。 					
評価の方法					
<ol style="list-style-type: none"> 1 出席状況(履修条件) ※週の授業時数が4時間に対して、単位数が2であるから、欠時数に注意すること。 ※前期「数学B」と後期「数学Ⅲ」の欠時数は切り離して数える。 2 前期2回の定期考査及び小テスト等の素点 3 授業における課題への取り組みや学習状況の振り返り 4 提出課題や問題集への取り組み状況(平常点) 					
学習のアドバイス(授業への臨み方、予習や復習の方法)					
<ol style="list-style-type: none"> 1 授業について 重要な定理や公式は、証明方法を理解し、例題の解説を通して、その利用方法を身につけてほしい。また、問題演習では、どのような点に着眼すると解答を導くことができるのかを学んでほしい。これにより、基本的な問題へのアプローチ方法を学ぶことができる。そして、授業中にノートをとることで、理解は一層深まる。それは、書くという行為や記録をまとめることが理解の一助になるからである。さらに、授業中に疑問に思ったことがあれば、授業中や授業後に、教員または周囲の友人に積極的に質問しよう。疑問に思ったことをすぐに解決しようとする習慣が、自主的に学習する姿勢につながり、数学への理解を深めたり定着させたりすることに役立つ。 2 復習について まずは、授業で取り扱った問題を確実に復習することが大切である。さらに、何回も解き直すことで、基本事項の定着に繋がる。そして、授業中に解ききれなかった練習問題や、問題集(4STEP A*B*問題を中心に)を解くことで、より一層の定着を図ることができる。更なる理解を深めたい場合や、入試レベルの問題にまで深めたい場合は、チャートなどを活用して問題演習を各自行ってほしい。授業のノートや参考書を活用し、あきらめず自力で完答できるまで取り組んでほしい。解き直しは、後日に行い、間違った場合はできるようになるまでこのプロセスを繰り返そう。数学の他分野との関連問題にも触れ、総合的な理解を目指してほしい。 					
その他					
<ul style="list-style-type: none"> ・5年生では、後期からは進学先に応じて「数学Ⅲ」もしくは「数学演習」を選択して週4時間学習することになる。「数学Ⅲ」を希望する生徒は5年前期終了時までに数学ⅠAⅡBの範囲の復習を行い、微分法・積分法の応用的な内容について理解を深めることができるように準備しておくこと。 ・評定・履修・単位の認定は、5年前期の「数学B」と5年後期の「数学Ⅲ」では切り離して行う。欠時数についても切り離して数えるので注意すること。 ・授業に関する質問は、数学科の教員全員で対応する。積極的に質問すること。 					

月	単元	学習目標
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関数 <ul style="list-style-type: none"> ・分数関数 ・無理関数 ・逆関数と合成関数 ○ 極限 <ul style="list-style-type: none"> ・数列の極限 ・無限等比数列 ・無限級数 	<ul style="list-style-type: none"> ・関数の概念を理解し、それらを事象の考察に活用できる。連続・不連続関数の違いを理解する。 ・極限の概念を理解し、数列の事象の考察に活用できる。また、無限級数や極限値を具体的に求めることができる。
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・関数の極限 ・三角関数と極限 ・関数の連続性 ○ 微分法 <ul style="list-style-type: none"> ・微分係数と導関数 ・導関数の計算 ・いろいろな関数の導関数 ・第 n 次導関数 ・関数のいろいろな表し方と導関数 	<ul style="list-style-type: none"> ・関数の和・差・積・商の導関数、合成関数の導関数、三角関数・指数関数・対数関数の導関数を求めることができる。 ・微分法の定義を学び、導関数を求めることができる。
	後期中間考査	
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 微分法の応用 <ul style="list-style-type: none"> ・接線と法線 ・方程式の重解と微分 ・平均値の定理 ・平均値の定理の証明 ・関数の値の変化 ・関数の最大と最小 ・関数のグラフ ・方程式、不等式への応用 ・速度と加速度 ・近似式 ・1次と2次の近似値 	<ul style="list-style-type: none"> ・導関数を用いて、いろいろな曲線の接線の方程式を求め、関数の性質を増減表にまとめ、グラフの概形をかくことができる。また、それらを事象の考察に活用することができる。
1月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 積分法 <ul style="list-style-type: none"> ・不定積分とその基本性質 ・置換積分法 ・部分積分法 ・いろいろな関数の不定積分 ・定積分とその基本的性質 	<ul style="list-style-type: none"> ・積分法の定義を学び、種々の関数の不定積分を計算できる。
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・定積分の置換積分法 ・定積分の部分積分法 ・定積分の種々の問題 ○ 積分法の応用 <ul style="list-style-type: none"> ・面積 ・体積 ・一般の回転体の体積 	<ul style="list-style-type: none"> ・種々の関数の定積分の計算ができる。また、定積分の計算を用いて不等式の証明ができる。定積分を用いて、面積や体積を求めることができる。
	学年末考査	
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・曲線の長さ ・速度と道のり ・微分方程式 	<ul style="list-style-type: none"> ・積分法についての理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用することができる。

※後期開始から学年末考査までの成績をもって、単位認定を行う。

学年	5年	教科・科目 【講座名】	数学C【発展クラス】	単位数	1
				週の授業時 数	1

教科書・補助教材	
教科書「数学C」（数研出版） 補助教材「新課程 4STEP 数学C」（数研出版） 「新課程 チャート式 基礎からの数学C」（数研出版）	
学習の目標	
<ol style="list-style-type: none"> ベクトルにおける考え方に興味・関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断できる。 ベクトルにおいて、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることができる。 ベクトルにおいて、事象を数学的な表現・処理や推論ができる。 ベクトルにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付ける。 	
評価の方法	
<ol style="list-style-type: none"> 出席状況（履修条件） 年4回の定期考査及び小テストの素点 授業における課題への取り組みや学習状況の振り返り 提出課題や問題集への取り組み状況（平常点） 	
学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）	
<ol style="list-style-type: none"> 授業について 重要な定理や公式は、証明方法を理解し、例題の解説を通して、その利用方法を身につけてほしい。また、問題演習では、どのような点に着眼すると解答を導くことができるのかを学んでほしい。これにより、基本的な問題へのアプローチ方法を学ぶことができる。そして、授業中にノートをとることで、理解は一層深まる。それは、書くという行為や記録をまとめることが理解の一助になるからである。さらに、授業中に疑問に思ったことがあれば、授業中や授業後に、教員または周囲の友人に積極的に質問しよう。疑問に思ったことをすぐに解決しようとする習慣が、自主的に学習する姿勢につながり、数学への理解を深めたり定着させたりすることに役立つ。 復習について まずは、授業で取り扱った問題を確実に復習することが大切である。さらに、何回も解き直すことで、基本事項の定着に繋がる。そして、授業中に解ききれなかった練習問題や、問題集（4STEPを中心に）を解くことで、より一層の定着を図ることができる。更なる理解を深めたい場合や、入試レベルの問題にまで深めたい場合は、4STEPのB問題やチャートなどを活用して問題演習を各自行ってほしい。授業のノートや参考書を活用し、あきらめず自力で完答できるまで取り組んでほしい。解き直しは、後日に行い、間違った場合はできるようになるまでこのプロセスを繰り返そう。数学の他分野との関連問題にも触れ、総合的な理解を目指してほしい。 	
その他	
<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別の少人数展開授業を実施する。定期考査、単元テストの結果によりクラス編成を見直す。 授業に関する質問は、数学科の教員全員で対応する。積極的に質問すること。 	

月	単元	学習目標
4月	第1章 平面のベクトル 第1節 平面上のベクトルとその演算 ・平面上のベクトル ・ベクトルの演算	<ul style="list-style-type: none"> ・ベクトルの概念やスカラーとの違いについて理解する。 ・ベクトルの演算（和・差・実数倍）ができる。 ・ベクトルの分解の一意性を理解し活用できる。
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ベクトルの成分 ・ベクトルの内積 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベクトルの成分について理解し、成分を用いた計算ができる。 ・内積の定義や性質について理解し、計算に応用することができる。三角形の面積公式を理解し活用できる。 ・大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察できる。
	中間考査	
6月	第2節 ベクトルと平面図形 ・位置ベクトル ・ベクトルと図形	<ul style="list-style-type: none"> ・位置ベクトルの概念を理解する。また、平面図形上の点の位置を、ベクトルを用いて表すことができる。 ・位置ベクトルの考え方が問題解決に有効であることを理解し、実践的に活用する姿勢を身に付ける。
7・8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ベクトル方程式 ・入試問題演習 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形を点の集合と捉え、図形や領域を、ベクトルを用いて表すことができる。また、媒介変数を利用してスカラー式との相互利用ができる。
	前期期末考査	
9・10月	第2章 空間のベクトル ・空間の座標 ・空間のベクトル ・ベクトルの成分 ・ベクトルの内積	<ul style="list-style-type: none"> ・平面から空間への線形性から関連させ、空間の座標を捉えるとともに、2点間の距離を求めることができる。 ・空間の位置関係を把握するためにベクトルが有効であることに興味・関心を高める。 ・平面と同様にベクトルの演算ができる。 ・座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解する
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・位置ベクトル ・ベクトルと図形 ・ベクトルと図形 ・座標空間における図形 	<ul style="list-style-type: none"> ・平面と同様に内積の演算ができる。 ・空間における点の位置を、ベクトルを用いて表すことができ、問題解決に役立てることができる。 ・ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、平面図形や空間図形の性質を見いだし、多面的に考察することができる。
	後期中間考査	
12月	・ベクトルに関する入試問題演習	ベクトルの考え方を様々な図形の問題に応用できる。
1・2月	・ベクトルに関する入試問題演習	ベクトルの考え方を様々な図形の問題に応用できる。
	学年末考査	
3月	・ベクトルに関する入試問題演習	ベクトルの考え方を様々な図形の問題に応用できる。

学年	5年	教科・科目 【講座名】	数学C【標準クラス】	単位数	1
				週の授業時 数	1

教科書・補助教材					
教科書「数学C」（数研出版）					
補助教材「新課程 4STEP 数学C」（数研出版）					
「新課程 チャート式 基礎からの数学C」（数研出版）					
学習の目標					
1 ベクトルにおける考え方に興味・関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断できる。					
2 ベクトルにおいて、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることができる。					
3 ベクトルにおいて、事象を数学的な表現・処理や推論ができる。					
4 ベクトルにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付ける。					
評価の方法					
1 出席状況（履修条件）					
2 年4回の定期考査及び小テストの素点					
3 授業における課題への取り組みや学習状況の振り返り					
4 提出課題や問題集への取り組み状況（平常点）					
学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）					
1 授業について					
重要な定理や公式は、証明方法を理解し、例題の解説を通して、その利用方法を身につけてほしい。また、問題演習では、どのような点に着眼すると解答を導くことができるのかを学んでほしい。これにより、基本的な問題へのアプローチ方法を学ぶことができる。そして、授業中にノートをとることで、理解は一層深まる。それは、書くという行為や記録をまとめることが理解の一助になるからである。さらに、授業中に疑問に思ったことがあれば、授業中や授業後に、教員または周囲の友人に積極的に質問しよう。疑問に思ったことをすぐに解決しようとする習慣が、自主的に学習する姿勢につながり、数学への理解を深めたり定着させたりすることに役立つ。					
2 復習について					
まずは、授業で取り扱った問題を確実に復習することが大切である。さらに、何回も解き直すことで、基本事項の定着に繋がる。そして、授業中に解ききれなかった練習問題や、問題集（4STEPを中心に）を解くことで、より一層の定着を図ることができる。更なる理解を深めたい場合や、入試レベルの問題にまで深めたい場合は、4STEPのB問題やチャートなどを活用して問題演習を各自行ってほしい。授業のノートや参考書を活用し、あきらめず自力で完答できるまで取り組んでほしい。解き直しは、後日に行い、間違った場合はできるようになるまでこのプロセスを繰り返そう。数学の他分野との関連問題にも触れ、総合的な理解を目指してほしい。					
その他					
・習熟度別の少人数展開授業を実施する。定期考査、単元テストの結果によりクラス編成を見直す。					
・授業に関する質問は、数学科の教員全員で対応する。積極的に質問すること。					

月	単元	学習目標
4月	第1章 平面のベクトル 第1節 平面上のベクトルとその演算 ・平面上のベクトル ・ベクトルの演算	・ベクトルの概念やスカラーとの違いについて理解する。 ・ベクトルの演算（和・差・実数倍）ができる。 ・ベクトルの分解の一意性を理解し活用できる。
5月	・ベクトルの成分 ・ベクトルの内積	・ベクトルの成分について理解し、成分を用いた計算ができる。 ・内積の定義や性質について理解し、計算に応用することができる。三角形の面積公式を理解し活用できる。 ・大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察できる。
	中間考査	
6月	第2節 ベクトルと平面図形 ・位置ベクトル ・ベクトルと図形	・位置ベクトルの概念を理解する。また、平面図形上の点の位置を、ベクトルを用いて表すことができる。 ・位置ベクトルの考え方が問題解決に有効であることを理解し、実践的に活用する姿勢を身に付ける。
7・8月	・ベクトル方程式 ・入試問題演習	・図形を点の集合と捉え、図形や領域を、ベクトルを用いて表すことができる。また、媒介変数を利用してスカラー式との相互利用ができる。
	前期期末考査	
9・10月	第2章 空間のベクトル ・空間の座標 ・空間のベクトル ・ベクトルの成分 ・ベクトルの内積	・平面から空間への線形性から関連させ、空間の座標を捉えるとともに、2点間の距離を求めることができる。 ・空間の位置関係を把握するためにベクトルが有効であることに興味・関心を高める。 ・平面と同様にベクトルの演算ができる。 ・座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解する
11月	・位置ベクトル ・ベクトルと図形 ・ベクトルと図形 ・座標空間における図形	・平面と同様に内積の演算ができる。 ・空間における点の位置を、ベクトルを用いて表すことができ、問題解決に役立てることができる。 ・ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、平面図形や空間図形の性質を見だし、多面的に考察することができる。
	後期中間考査	
12月	・ベクトルに関する入試問題演習	ベクトルの考え方を様々な図形の問題に応用できる。
1・2月	・ベクトルに関する入試問題演習	ベクトルの考え方を様々な図形の問題に応用できる。
	学年末考査	
3月	・ベクトルに関する入試問題演習	ベクトルの考え方を様々な図形の問題に応用できる。

学年	5年	教科・科目 【講座名】	数学C【基礎クラス】	単位数	1
				週の授業時 数	1

教科書・補助教材					
教科書「数学C」(数研出版)					
補助教材「新課程 4STEP 数学C」(数研出版)					
「新課程 チャート式 基礎からの数学C」(数研出版)					
学習の目標					
1 ベクトルにおける考え方に興味・関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断できる。					
2 ベクトルにおいて、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることができる。					
3 ベクトルにおいて、事象を数学的な表現・処理や推論ができる。					
4 ベクトルにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付ける。					
評価の方法					
1 出席状況(履修条件)					
2 年4回の定期考査及び小テストの素点					
3 授業における課題への取り組みや学習状況の振り返り					
4 提出課題や問題集への取り組み状況(平常点)					
学習のアドバイス(授業への臨み方、予習や復習の方法)					
1 授業について					
重要な定理や公式は、証明方法を理解し、例題の解説を通して、その利用方法を身につけてほしい。また、問題演習では、どのような点に着眼すると解答を導くことができるのかを学んでほしい。これにより、基本的な問題へのアプローチ方法を学ぶことができる。そして、授業中にノートをとることで、理解は一層深まる。それは、書くという行為や記録をまとめることが理解の一助になるからである。さらに、授業中に疑問に思ったことがあれば、授業中や授業後に、教員または周囲の友人に積極的に質問しよう。疑問に思ったことをすぐに解決しようとする習慣が、自主的に学習する姿勢につながり、数学への理解を深めたり定着させたりすることに役立つ。					
2 復習について					
まずは、授業で取り扱った問題を確実に復習することが大切である。さらに、何回も解き直すことで、基本事項の定着に繋がる。そして、授業中に解ききれなかった練習問題や、問題集(4STEPを中心に)を解くことで、より一層の定着を図ることができる。更なる理解を深めたい場合や、入試レベルの問題にまで深めたい場合は、4STEPのB問題やチャートなどを活用して問題演習を各自行ってほしい。授業のノートや参考書を活用し、あきらめず自力で完答できるまで取り組んでほしい。解き直しは、後日に行い、間違った場合はできるようになるまでこのプロセスを繰り返そう。数学の他分野との関連問題にも触れ、総合的な理解を目指してほしい。					
その他					
・習熟度別の少人数展開授業を実施する。定期考査、単元テストの結果によりクラス編成を見直す。					
・授業に関する質問は、数学科の教員全員で対応する。積極的に質問すること。					

月	単元	学習目標
4月	第1章 平面のベクトル 第1節 平面上のベクトルとその演算 ・平面上のベクトル ・ベクトルの演算	<ul style="list-style-type: none"> ・ベクトルの概念やスカラーとの違いについて理解する。 ・ベクトルの演算（和・差・実数倍）ができる。 ・ベクトルの分解の一意性を理解し活用できる。
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ベクトルの成分 ・ベクトルの内積 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベクトルの成分について理解し、成分を用いた計算ができる。 ・内積の定義や性質について理解し、計算に応用することができる。三角形の面積公式を理解し活用できる。 ・大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察できる。
	中間考査	
6月	第2節 ベクトルと平面図形 ・位置ベクトル ・ベクトルと図形	<ul style="list-style-type: none"> ・位置ベクトルの概念を理解する。また、平面図形上の点の位置を、ベクトルを用いて表すことができる。 ・位置ベクトルの考え方が問題解決に有効であることを理解し、実践的に活用する姿勢を身に付ける。
7・8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ベクトル方程式 ・入試問題演習 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形を点の集合と捉え、図形や領域を、ベクトルを用いて表すことができる。また、媒介変数を利用してスカラー式との相互利用ができる。
	前期期末考査	
9・10月	第2章 空間のベクトル ・空間の座標 ・空間のベクトル ・ベクトルの成分 ・ベクトルの内積	<ul style="list-style-type: none"> ・平面から空間への線形性から関連させ、空間の座標を捉えるとともに、2点間の距離を求めることができる。 ・空間の位置関係を把握するためにベクトルが有効であることに興味・関心を高める。 ・平面と同様にベクトルの演算ができる。 ・座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解する
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・位置ベクトル ・ベクトルと図形 ・ベクトルと図形 ・座標空間における図形 	<ul style="list-style-type: none"> ・平面と同様に内積の演算ができる。 ・空間における点の位置を、ベクトルを用いて表すことができ、問題解決に役立てることができる。 ・ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、平面図形や空間図形の性質を見いだし、多面的に考察することができる。
	後期中間考査	
12月	・ベクトルに関する入試問題演習	ベクトルの考え方を様々な図形の問題に応用できる。
1・2月	・ベクトルに関する入試問題演習	ベクトルの考え方を様々な図形の問題に応用できる。
	学年末考査	
3月	・ベクトルに関する入試問題演習	ベクトルの考え方を様々な図形の問題に応用できる。

学年	5年 (後期)	教科・科目 【講座名】	数学演習【発展クラス】	単位数	2
				週の授業時数	4

教科書・補助教材					
教科書「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学A」「数学B」「数学C」(数研出版)					
補助教材「新課程 4STEP 数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学B、数学C」(数研出版)					
「新課程 チャート式 基礎からの数学Ⅰ+A、Ⅱ+B、C」(数研出版)					
「新課程 ベーシックスタイル 数学演習Ⅰ・A・Ⅱ・B・C 受験編」(数研出版)					
「改訂版 メジアン数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C 受験編」(数研出版)					
学習の目標					
これまで学んだ数学の知識・技能を整理し、難関大学入試に対応できる学力の基盤を固める。					
評価の方法					
1 出席状況(履修条件) ※週の授業時数が4時間に対して、単位数が2であるから、欠時数に注意すること。 ※前期「数学B」と後期「数学演習」の欠時数は切り離して数える。					
2 前期2回の定期考査及び小テスト等の素点					
3 授業における課題への取り組みや学習状況の振り返り					
4 提出課題や問題集への取り組み状況					
学習のアドバイス(授業への臨み方、予習や復習の方法)					
数学ⅠAⅡBCの単元についての復習と、入試に向けての実践的な演習を行う。					
これまでの授業や朝学習などで積み上げてきた典型問題の習得と基本事項の活用の仕方を、より実践的な形式で学ぶ授業となる。一度ではなかなか解けないかもしれないが、					
① 授業前の予習で疑問点を把握					
② 授業の解説で疑問点を解消					
③ その日のうちに自力でもう一度解いて定着度の確認					
という「1つの問題に3回触れるサイクル」をつくり、入試への実践的な対応力を身につけていくこと。典型問題については、自力で解けるまで繰り返し演習すること。					
その他					
・5年生では、前期で週4時間の数学Ⅱの学習を終わり、後期からは進学先に応じて「数学Ⅲ」もしくは「数学演習」を選択して週4時間学習することになる。					
・評定・履修・単位の認定は、5年前期の「数学B」と5年後期の「数学Ⅲ」では切り離して行う。欠時数についても切り離して数えるので注意すること。					
・授業に関する質問は、数学科の教員全員で対応する。積極的に質問すること。					

月	単元	学習目標
10月	メジアン 問題A* I 数と式 II 関数と方程式・不等式 VIII 三角・指数・対数関数 (三角比分野)	数と式・2次関数・図形と計量について既習事項を定着させ、国公立・中堅私立入試レベルの問題演習に活用できる。
11月	V 場合の数・確率 VI 図形の性質 IV 整数の性質	場合の数・確率・図形の性質・整数の性質について既習事項を定着させ、国公立・中堅私立入試レベルの問題演習に活用できる。
後期中間考査		
12月	III 式と証明 II 関数と方程式・不等式 (複素数と方程式分野) VII 図形と式	式と証明・複素数と方程式・図形と方程式について既習事項を定着させ、国公立・中堅私立入試レベルの問題演習に活用できる。
1月	VIII 三角・指数・対数関数 IX 微分法・積分法	三角・指数・対数関数・数学Ⅱ範囲の微積分について既習事項を定着させ、国公立・中堅私立入試レベルの問題演習に活用できる。
2月	X 数列 XI データの分析・統計的な推測	数列・データの分析・統計的な推測について既習事項を定着させ、国公立・中堅私立入試レベルの問題演習に活用できる。
学年末考査		
3月	XII ベクトル	ベクトルについて既習事項を定着させる。また、I A II B Ç の総合演習をし、既習事項を定着させ、国公立・中堅私立入試レベルの問題演習に活用できる。

※後期開始から学年末考査までの成績をもって、単位認定を行う。

学 年	5 年 (後期)	教科・科目 【講座名】	数学演習【標準クラス】	単位数	2
				週の授業時数	4

教科書・補助教材					
教科書「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学A」「数学B」「数学C」(数研出版)					
補助教材「新課程 4STEP 数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学B、数学C」(数研出版)					
「新課程 チャート式 基礎からの数学Ⅰ+A、Ⅱ+B、C」(数研出版)					
「新課程 ベーシックスタイル 数学演習Ⅰ・A・Ⅱ・B・C 受験編」(数研出版)					
「新課程 メジアン数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C 受験編」(数研出版)					
学習の目標					
これまで学んだ数学の知識・技能を整理し、難関大学入試に対応できる学力の基盤を固める。					
評価の方法					
1 出席状況(履修条件) ※週の授業時数が4時間に対して、単位数が2であるから、欠時数に注意すること。 ※前期「数学B」と後期「数学演習」の欠時数は切り離して数える。					
2 前期2回の定期考査及び小テスト等の素点					
3 授業における課題への取り組みや学習状況の振り返り					
4 提出課題や問題集への取り組み状況					
学習のアドバイス(授業への臨み方、予習や復習の方法)					
数学ⅠAⅡBCの単元についての復習と、入試に向けての実践的な演習を行う。					
これまでの授業や朝学習などで積み上げてきた典型問題の習得と基本事項の活用の仕方を、より実践的な形式で学ぶ授業となる。一度ではなかなか解けないかもしれないが、					
① 授業前の予習で疑問点を把握					
② 授業の解説で疑問点を解消					
③ その日のうちに自力でもう一度解いて定着度の確認					
という「1つの問題に3回触れるサイクル」をつくり、入試への実践的な対応力を身につけていくこと。典型問題については、自力で解けるまで繰り返し演習すること。					
その他					
・5年生では、前期で週4時間の数学Ⅱの学習を終わり、後期からは進学先に応じて「数学Ⅲ」もしくは「数学演習」を選択して週4時間学習することになる。					
・評定・履修・単位の認定は、5年前期の「数学B」と5年後期の「数学Ⅲ」では切り離して行う。欠時数についても切り離して数えるので注意すること。					
・授業に関する質問は、数学科の教員全員で対応する。積極的に質問すること。					

月	単元	学習目標
10月	メジアン 問題A* I 数と式 II 関数と方程式・不等式 VIII 三角・指数・対数関数 (三角比分野)	数と式・2次関数・図形と計量について既習事項を定着させ、国公立・中堅私立入試レベルの問題演習に活用できる。
11月	V 場合の数・確率 VI 図形の性質 IV 整数の性質	場合の数・確率・図形の性質・整数の性質について既習事項を定着させ、国公立・中堅私立入試レベルの問題演習に活用できる。
後期中間考査		
12月	III 式と証明 II 関数と方程式・不等式 (複素数と方程式分野) VII 図形と式	式と証明・複素数と方程式・図形と方程式について既習事項を定着させ、国公立・中堅私立入試レベルの問題演習に活用できる。
1月	VIII 三角・指数・対数関数 IX 微分法・積分法	三角・指数・対数関数・数学Ⅱ範囲の微積分について既習事項を定着させ、国公立・中堅私立入試レベルの問題演習に活用できる。
2月	X 数列 XI データの分析・統計的な推測	数列・データの分析・統計的な推測について既習事項を定着させ、国公立・中堅私立入試レベルの問題演習に活用できる。
学年末考査		
3月	XII ベクトル	ベクトルについて既習事項を定着させる。また、I A II B Ç の総合演習をし、既習事項を定着させ、国公立・中堅私立入試レベルの問題演習に活用できる。

※後期開始から学年末考査までの成績をもって、単位認定を行う。

学年	6年	教科・科目 【講座名】	理系数学探究演習 発展	単位数 週の授業時数	2
----	----	----------------	-------------	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書 「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学A」「数学B」「数学C」(数研出版)					
補助教材					
「2026スタンダード数学演習 I・II・A・B・C 受験編」(数研出版)					
「新課程 チャート式 基礎からの数学Ⅰ, A, II, B, C」(数研出版)					
「改訂版 大学入学共通テスト対策ニュースタンダード数学演習 I・II+A・B・C 受験編」(数研出版)					
学習の目標					
1 数学における基本的な概念や原理・法則の理解を深め、事象を数学的に考察し処理する能力を高め、数学的活動を通して創造性の基礎を身に付けるとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識し、それらを積極的に活用する態度を身に付ける。					
2 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を身に付ける。					
3 数量や図形における基礎的な知識・技能を習得し、それを基にして多面的にもものを見る力を付けるとともに、事象を数理的に考察する態度を身に付ける。					
4 旧帝大、難関国立大、有名私立大学の記述式入試問題に対応できるような、知識と応用力を身に付ける。					
評価の方法					
1 出席状況(履修条件)					
2 定期考査(前期中間・前期期末・後期中間)及び小テスト等の素点					
3 授業における課題への取り組みや学習状況の振り返り					
4 提出課題への取り組み状況(平常点)					
学習のアドバイス(授業への臨み方、予習や復習の方法)					
1 大学入試の過去問題を題材に、出題頻度が高く、重点をおいて対策すべき分野を中心に組み込むので、事前に既習事項の復習や予習が不可欠である。					
2 春休み中に、数学Ⅰ、Ⅱ、A、B、Cの既習事項の復習をしておくこと。					
3 問題を解く場合、問題の内容も自分のノート等に写してから、解き始めること。また、授業をきいてからのメモ等が取れるように、予めノート等の割り振りをしておくこと。					
4 授業進度を予測して、次の授業で扱われそうな問題は、必ず予習をしておくこと。解法の見当がつかない場合は、参考書等で類似問題を探して、解いてみる。解けなかった場合には、分からなくなった箇所がどこなのか、確認して授業に臨み、授業中は、分からなかった理由を確認してメモ等を取り、自分のこれからの学習の糧となるように取り組む。					
5 自分で解けなかった問題はもちろん、一度は解けた問題も、時間をおいてから再度解き直し、自分の力を確認していくことが望ましい。					
6 2単位の授業で総復習をし、さらに、大学受験に対応できる力を付けるためには、授業以外の場での取り組みが、不可欠となる。夏期休業期間等に、授業の補講を実施することもある。					
その他					
<ul style="list-style-type: none"> 「数学Ⅲ」を履修する生徒向けの科目で、科目横断型で学習する。 校外模試の活用も視野に入れる。 青チャートを活用する。 分からないことは、友人と議論したり教員に質問したりして、早めに解決すること。 					

月	単元	学習目標
4月	問題演習	問題集のA問題(*)のを解くことを通して、基本事項の確認をし、問題集のB問題が解けるようになる。
5月	問題演習	問題集のA問題(*)のを解くことを通して、基本事項の確認をし、問題集のB問題が解けるようになる。
	前期中間考査	
6月	問題演習	問題集のA問題(*)を解くことを通して、基本事項の確認をし、問題集のB問題が解けるようになる。
7・8月	問題演習	問題集のA問題の残りあるいはB問題(*)を解くことを通して、旧帝大、難関国立大、有名私立大学の記述式入試問題が解けるようになる。
	前期期末考査	
9月	問題演習	問題集のA問題の残りあるいはB問題(*)を解くことを通して、旧帝大、難関国立大、有名私立大学の記述式入試問題が解けるようになる。
10月	問題演習	問題集のA問題の残りあるいはB問題(*)を解くことを通して、旧帝大、難関国立大、有名私立大学の記述式入試問題が解けるようになる。
11月	総合演習	問題集のまだ扱っていない問題を、複数単元にわたって集めて解答することにより、応用力を身に付け、旧帝大、難関国立大、有名私立大学の記述式入試問題が解けるようになる。
	後期中間考査	
12月	総合演習	問題集のまだ扱っていない問題を、複数単元にわたって集めて解答することにより、応用力を身に付け、旧帝大、難関国立大、有名私立大学の記述式入試問題が解けるようになる。また、共通テストの対策として時間計測演習を行い、70分のIA、IBの問題に慣れていく。
1月	総合演習	
2月	個別指導	
3月	個別指導	

学年	6年	教科・科目 【講座名】	理系数学探究演習 標準	単位数 週の授業時数	2
----	----	----------------	-------------	---------------	---

教科書・補助教材					
補助教材 「2026スタンダード数学演習 I・II・A・B・C 受験編」(数研出版) 「新課程 チャート式 基礎からの数学I, A, II, B, C」(数研出版) 「改訂版 大学入学共通テスト対策ニュースタンダード数学演習 I・II+A・B・C 受験編」(数研出版)					
学習の目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1 数学における基本的な概念や原理・法則の理解を深め、事象を数学的に考察し処理する能力を高め、数学的活動を通して創造性の基礎を身に付けるとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識し、それらを積極的に活用する態度を身に付ける。 2 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を身に付ける。 3 数量や図形における基礎的な知識・技能を習得し、それを基にして多面的にものを見る力を付けるとともに、事象を数理的に考察する態度を身に付ける。 4 標準的な記述式入試問題や地方国公立大学、中堅私立大学の記述式入試問題に対応できるような、知識と応用力を身に付ける。 					
評価の方法					
<ol style="list-style-type: none"> 1 出席状況(履修条件) 2 定期考査(前期中間・前期期末・後期中間)及び小テスト等の素点 3 授業における課題への取り組みや学習状況の振り返り 4 提出課題への取り組み状況(平常点) 					
学習のアドバイス(授業への臨み方、予習や復習の方法)					
<ol style="list-style-type: none"> 1 大学入試の過去問題を題材に、出題頻度が高く、重点をおいて対策すべき分野を中心に組み合わせるので、事前に既習事項の復習や予習が不可欠である。 2 春休み中に、数学I、II、A、B、Cの既習事項の復習をしておくこと。 3 問題を解く場合、問題の内容も自分のノート等に写してから、解き始めること。また、授業をきいてからのメモ等が取れるように、予めノート等の割り振りをしておくこと。 4 授業進度を予測して、次の授業で扱われそうな問題は、必ず予習をしておくこと。解法の見当がつかない場合は、参考書等で類似問題を探して、解いてみる。解けなかった場合には、分からなくなった箇所がどこなのか、確認して授業に臨み、授業中は、分からなかった理由を確認してメモ等を取り、自分のこれからの学習の糧となるように取り組む。 5 自分で解けなかった問題はもちろん、一度は解けた問題も、時間をおいてから再度解き直し、自分の力を確認していくことが望ましい。 6 2単位の授業で総復習をし、さらに、大学受験に対応できる力を付けるためには、授業以外の場での取り組みが、不可欠となる。夏期休業期間等に、授業の補講を実施することもある。 					
その他					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「数学Ⅲ」を履修する生徒向けの科目で、科目横断型で学習する。 ・ 校外模試の活用も視野に入れる。 ・ 青チャートを活用する。 ・ 分からないことは、友人と議論したり教員に質問したりして、早めに解決すること。 					

月	単元	学習目標
4月	問題演習	問題集のA問題(*)のを解くことを通して、基本事項の確認をし、問題集のB問題が解けるようになる。
5月	問題演習	問題集のA問題(*)のを解くことを通して、基本事項の確認をし、問題集のB問題が解けるようになる。
	前期中間考査	
6月	問題演習	問題集のA問題(*)を解くことを通して、基本事項の確認をし、問題集のB問題が解けるようになる。
7・8月	問題演習	問題集のA問題の残りあるいはB問題(*)を解くことを通して、旧帝大、難関国立大、有名私立大学の記述式入試問題が解けるようになる。
	前期期末考査	
9月	問題演習	問題集のA問題の残りあるいはB問題(*)を解くことを通して、旧帝大、難関国立大、有名私立大学の記述式入試問題が解けるようになる。
10月	問題演習	問題集のA問題の残りあるいはB問題(*)を解くことを通して、旧帝大、難関国立大、有名私立大学の記述式入試問題が解けるようになる。
11月	総合演習	問題集のまだ扱っていない問題を、複数単元にわたって集めて解答することにより、応用力を身に付け、旧帝大、難関国立大、有名私立大学の記述式入試問題が解けるようになる。
	後期中間考査	
12月	総合演習	問題集のまだ扱っていない問題を、複数単元にわたって集めて解答することにより、応用力を身に付け、旧帝大、難関国立大、有名私立大学の記述式入試問題が解けるようになる。また、共通テストの対策として時間計測演習を行い、70分のIA、IBの問題に慣れていく。
1月	総合演習	
2月	個別指導	
3月	個別指導	

学年	6年	教科・科目 【講座名】	数学探究ⅢC 発展	単位数 週の授業時数	4
----	----	----------------	-----------	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書 「数学Ⅲ」「数学C」（数研出版）					
補助教材					
「新課程 数学 4STEP 数学演習Ⅲ・C」（数研出版）					
「新課程 オリジナル・スタンダード数学演習 Ⅲ・C 受験編」（数研出版）					
「ベーシックスタイル 数学演習Ⅲ・C」（数研出版）					
「新課程 チャート式 基礎からの数学Ⅰ，A，Ⅱ，B，C」（数研出版）					
「改訂版 大学入学共通テスト対策ニュースタンダード数学演習Ⅰ・Ⅱ+A・B・C 受験編」（数研出版）					
学習の目標					
1 数学における基本的な概念や原理・法則の理解を深め、事象を数学的に考察し処理する能力を高め、数学的活動を通して創造性の基礎を身に付けるとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識し、それらを積極的に活用する態度を身に付ける。					
2 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を身に付ける。					
3 数量や図形における基礎的な知識・技能を習得し、それを基にして多面的にもものを見る力を付けるとともに、事象を数理的に考察する態度を身に付ける。					
4 旧帝大、難関国立大、有名私立大学の記述式入試問題に対応できるような、知識と応用力を身に付ける。					
評価の方法					
1 出席状況（履修条件）					
2 定期考査（前期中間・前期期末・後期中間）及び小テスト等の素点					
3 授業における課題への取り組みや学習状況の振り返り					
4 提出課題への取り組み状況（平常点）					
学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）					
1 大学入試の過去問題を題材に、出題頻度が高く、重点をおいて対策すべき分野を中心に組み込むので、事前に既習事項の復習や予習が不可欠である。					
2 春休み中に、数学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、A、B、Cの既習事項の復習をしておくこと。					
3 問題を解く場合、問題の内容も自分のノート等に写してから、解き始めること。また、授業をきいてからのメモ等が取れるように、予めノート等の割り振りをしておくことと良い。					
4 授業進度を予測して、次の授業で扱われそうな問題は、必ず予習をしておくこと。解法の見当がつかない場合は、参考書等で類似問題を探して、解いてみる。解けなかった場合には、分からなくなった箇所がどこなのか、確認して授業に臨み、授業中は、分からなかった理由を確認してメモ等を取り、自分のこれからの学習の糧となるように取り組む。					
5 自分で解けなかった問題はもちろん、一度は解けた問題も、時間をおいてから再度解き直し、自分の力を確認していくことが望ましい。					
6 4単位の授業で総復習をし、さらに、大学受験に対応できる力を付けるためには、授業以外の場での取り組みが、不可欠となる。夏期休業期間等に、授業の補講を実施することもある。					
その他					
<ul style="list-style-type: none"> 「数学Ⅲ」を履修した生徒向けの科目で、科目横断型で学習する。 校外模試の活用も視野に入れる。 青チャートを活用する。 分からないことは、友人と議論したり教員に質問したりして、早めに解決すること。 					

月	単元	学習目標
4月	第6章 積分法の応用 (数学Ⅲ) 曲線の長さ 速度と道のり 微分方程式 第4章 式と曲線 (数学C) 第1節 2次曲線 第2節 媒介変数表示と極座標	<ul style="list-style-type: none"> ・微分法と積分法についての理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用することができる。 ・2次曲線の基本的な性質および曲線がいろいろな式で表現できることを理解し、具体的な事象の考察に活用できるようにする。 ・極座標の有用性を認識し、様々な曲線の考察に活用できるようにする
5月	第3章 複素数平面 (数学C) 問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・複素数の演算が平面上の図形的な性質として表されることを理解するとともに、複素数を用いて図形の性質を考察できるようになる。 <p>問題集のA問題(*)のを解くことを通して、基本事項の確認をし、問題集のB問題が解けるようになる。</p>
	前期中間考査	
6月	問題演習	問題集のA問題(*)を解くことを通して、基本事項の確認をし、問題集のB問題が解けるようになる。
7・8月	問題演習	問題集のA問題の残りあるいはB問題(*)を解くことを通して、旧帝大、難関国立大、有名私立大学の記述式入試問題が解けるようになる。
	前期期末考査	
9月	問題演習	問題集のA問題の残りあるいはB問題(*)を解くことを通して、旧帝大、難関国立大、有名私立大学の記述式入試問題が解けるようになる。
10月	問題演習	問題集のまだ扱っていない問題を、複数単元にわたって集めて解答することにより、応用力を身に付け、旧帝大、難関国立大、有名私立大学の記述式入試問題が解けるようになる。
11月	総合演習	国公立大の入試過去問を、複数単元にわたって集めて解答することにより、応用力を身に付け、旧帝大、難関国立大、有名私立大学の記述式入試問題が解けるようになる。
	後期中間考査	
12月	総合演習	国公立大の入試過去問を、複数単元にわたって集めて解答することにより、応用力を身に付け、旧帝大、難関国立大、有名私立大学の記述式入試問題が解けるようになる。
1月	総合演習	
2月	個別指導	
3月	個別指導	

学年	6年	教科・科目 【講座名】	数学探究Ⅲ C 標準	単位数 週の授業時数	4
----	----	----------------	------------	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書 「数学Ⅲ」「数学C」（数研出版）					
補助教材					
「新課程 数学 4STEP 数学演習Ⅲ・C」（数研出版）					
「ベーシックスタイル 数学演習Ⅲ・C」（数研出版）					
「新課程 オリジナル・スタンダード数学演習 Ⅲ・C 受験編」（数研出版）					
「新課程 チャート式 基礎からの数学Ⅰ, A, Ⅱ, B, C」（数研出版）					
「改訂版 大学入学共通テスト対策ニュースタンダード数学演習Ⅰ・Ⅱ+A・B・C 受験編」（数研出版）					
学習の目標					
1 数学における基本的な概念や原理・法則の理解を深め、事象を数学的に考察し処理する能力を高め、数学的活動を通して創造性の基礎を身に付けるとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識し、それらを積極的に活用する態度を身に付ける。					
2 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を身に付ける。					
3 数量や図形における基礎的な知識・技能を習得し、それを基にして多面的にものを見る力を付けるとともに、事象を数理的に考察する態度を身に付ける。					
4 標準的な記述式入試問題や地方国公立大学、中堅私立大学の記述式入試問題に対応できるような、知識と応用力を身に付ける。					
評価の方法					
1 出席状況（履修条件）					
2 定期考査（前期中間・前期期末・後期中間）及び小テスト等の素点					
3 授業における課題への取り組みや学習状況の振り返り					
4 提出課題への取り組み状況（平常点）					
学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）					
1 大学入試の過去問題を題材に、出題頻度が高く、重点をおいて対策すべき分野を中心に組み合わせるので、事前に既習事項の復習や予習が不可欠である。					
2 春休み中に、数学Ⅰ、Ⅱ、A、B、Cの既習事項の復習をしておくこと。					
3 問題を解く場合、問題の内容も自分のノート等に写してから、解き始めること。また、授業をきいてからのメモ等が取れるように、予めノート等の割り振りをしておくことと良い。					
4 授業進度を予測して、次の授業で扱われそうな問題は、必ず予習をしておくこと。解法の見当がつかない場合は、参考書等で類似問題を探して、解いてみる。解けなかった場合には、分からなくなった箇所がどこなのか、確認して授業に臨み、授業中は、分からなかった理由を確認してメモ等を取り、自分のこれからの学習の糧となるように取り組む。					
5 自分で解けなかった問題はもちろん、一度は解けた問題も、時間をおいてから再度解き直し、自分の力を確認していくことが望ましい。					
6 4単位の授業で総復習をし、さらに、大学受験に対応できる力を付けるためには、授業以外の場での取り組みが、不可欠となる。夏期休業期間等に、授業の補講を実施することもある。					
その他					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「数学Ⅲ」を履修した生徒向けの科目で、科目横断型で学習する。 ・ 校外模試の活用も視野に入れる。 ・ 青チャートを活用する。 ・ 分からないことは、友人と議論したり教員に質問したりして、早めに解決すること。 					

月	単元	学習目標
4月	第6章 積分法の応用 (数学Ⅲ) 曲線の長さ 速度と道のり 微分方程式 第4章 式と曲線 (数学C) 第1節 2次曲線 第2節 媒介変数表示と極座標	<ul style="list-style-type: none"> ・微分法と積分法についての理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用することができる。 ・2次曲線の基本的な性質および曲線がいろいろな式で表現できることを理解し、具体的な事象の考察に活用できるようにする。 ・極座標の有用性を認識し、様々な曲線の考察に活用できるようにする
5月	第3章 複素数平面 (数学C) 問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・複素数の演算が平面上の図形的な性質として表されることを理解するとともに、複素数を用いて図形の性質を考察できるようになる。 <p>問題集の Check の問題を解くことを通して、基本事項の確認をし、問題集の次の段階の問題が解けるようになる。</p>
	前期中間考査	
6月	問題演習	問題集の Style の問題を解くことを通して、重要事項の確認をし Semi Style の問題が解けるようになる。
7・8月	問題演習	問題集の Complete の問題を解くことを通して、A問題(*)が解けるようになる
	前期期末考査	
9月	問題演習	問題集のA問題(*)を解くことを通して、地方国公立大、中堅私立大学の記述式入試問題が解けるようになる。
10月	問題演習	問題集のまだ扱っていない問題を複数単元にわたって集めて解答することにより、方国公立大、中堅私立大学の記述式入試問題が解けるようになる。
11月	総合演習	地方国公立大、中堅私立大の入試過去問を、複数単元にわたって集めて解答することにより、応用力を身に付け、各自の志望大学の記述式入試問題が解けるようになる。
	後期中間考査	
12月	総合演習	地方国公立大、中堅私立大の入試過去問を、複数単元にわたって集めて解答することにより、応用力を身に付け、各自の志望大学の記述式入試問題が解けるようになる。
1月	総合演習	
2月	個別指導	
3月	個別指導	

学年	6年	教科・科目 【講座名】	文系数学探究演習 発展	単位数 週の授業時数	4
----	----	----------------	-------------	---------------	---

教科書・補助教材					
補助教材 「2026 スタンダード数学演習 I・II・A・B・C 受験編」(数研出版) 「新課程 チャート式 基礎からの数学 I, A, II, B, C」(数研出版) 「改訂版 大学入学共通テスト対策ニュースタンダード数学演習 I・II+A・B・C 受験編」(数研出版)					
学習の目標					
1 「数学I」「数学II」「数学A」「数学B」「数学C」の範囲において、単元横断型で学習することで数学の内容に興味・関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを大学入試問題の考察に応用して数学的な考え方に基づいて判断できる。					
2 「数学I」「数学II」「数学A」「数学B」「数学C」の範囲において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりし、大学入試問題の解決に導くことができる。					
3 「数学I」「数学II」「数学A」「数学B」「数学C」の範囲において、事象を数学的に表現・処理や推論をし、大学入試問題の解決に導くことができる。					
4 「数学I」「数学II」「数学A」「数学B」「数学C」の範囲における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、大学入試問題の考察に十分な知識を身に付ける。					
評価の方法					
1 出席状況(履修条件)					
2 定期考査(前期中間・前期期末・後期中間)及び小テスト等の素点					
3 授業における課題への取り組みや学習状況の振り返り					
4 提出課題への取り組み状況(平常点)					
学習のアドバイス(授業への臨み方、予習や復習の方法)					
授業において、1回あたりに扱う問題数が多いので、予習・復習を念入りに行うことが大切である。各教科の学習時間の配分をよく考え、時期に応じてその都度見直し、計画的に学習を進めてほしい。					
1 授業中に全員で取り組む問題番号は、事前に指定する。その中で、自分が指示された問題については、板書形式で発表できるように事前に解いておく。その際、解法が分からないときは前もって担当教員に質問に行き、解答を準備しておくこと(解いておかないと、授業の進度に影響が出る)。					
2 問題番号を書き、その下に入試を意識した答案を記述する。この講座では、様々な単元の問題演習を行いながら、入試レベルに対応した解法や記述方法について学習する。一般的に、過不足のない記述や考え方の手順が分かるようにならない限り、数学的な技能の向上は認められない。ノートをまとめ直すなど整理しておくことと良い。					
3 予習は、最低でも次の授業で演習する予定の範囲の問題は解いておく(それ以上進んでいけば申し分ない)。自分が担当していない問題などは完全に解けている必要はないが、チャートやこれまで使用した教材を活用し、自分の身に付いていない内容を復習しながらできる範囲で解いておく。					
4 復習は、授業で扱った問題の中で解けなかった問題を解くとよい。特に、記述のポイントを踏まえて、再度各問題の答案を書き直すくらいでちょうどよい。目で見て理解したと感じるレベルでは、実際に解けるようになったとは限らない。最低でも一年間で解き直しを2、3回は行うこと。					
その他					
<ul style="list-style-type: none"> ・発展クラスでは、共通テスト対策を後期中間考査後から始めるが、家庭でも2次試験の記述対策と並行して行うこと。 ・校外模試の活用も視野に入れる。 ・青チャートを活用する。 ・分からないことは、友人と議論したり教員に質問したりして、早めに解決すること。 					

月	単元	学習目標
4月	スタンダード レベルAの*・◎印問題 ベクトル (数学C) 数列 (数学B) 図形と式 (数学II)	<ul style="list-style-type: none"> ・数学I II ABCの定理・公式等の知識が不足なく習得されている。 ・入試問題を効率よく解く見通しを立て、計算ミス等なく解くことができる。 ・私立中堅大や地方国公立大2次入試問題を自力で解くことができる。
	5月	
前期中間考査		
6月	図形の性質 (数学A) 整数の性質 (数学A) 数と式 (数学I II)	<ul style="list-style-type: none"> ・数学I II ABCの定理・公式等の知識が不足なく習得されている。 ・入試問題を効率よく解く見通しを立て、計算ミス等なく解くことができる。 ・私立中堅大や地方国公立大2次入試問題を自力で解くことができる。
	7・8月	
前期期末考査		
9月	スタンダード Bの*、◎印問題 ベクトル (数学C) 数列 (数学B) 図形と式 (数学II) 三角・指数・対数関数 (数学II)	<ul style="list-style-type: none"> ・数学I II ABCの定理・公式等の知識が不足なく習得されている。 ・入試問題を効率よく解く見通しを立て、計算ミス等なく解くことができる。 ・私立大記述・国公立大2次記述問題の解答を、論理に不足なく記述することができる。
	10月	
11月	関数と方程式・不等式 (数学I II) 式と証明, 論理 (数学I II) データの分析 (数学I) 統計的な推測 (数学B)	
後期中間考査		
12月	共通テスト対策 私立大記述・国公立大2次記述問題対策	<ul style="list-style-type: none"> ・マークシート式問題や大学入試問題の過去問題または類題を、効率よく解く見通しを立て、制限時間内に計算ミスなく解くことができる。 ・私立大記述・国公立大2次記述問題の解答を、見通しを立て、論理に不足なく、制限時間内に記述することができる。
	1月	
2月	私立大記述・国公立大2次記述問題対策	
3月	国公立大2次(後期)記述問題対策	

学年	6年	教科・科目 【講座名】	文系数学探究演習 標準	単位数 週の授業時数	4
----	----	----------------	-------------	---------------	---

教科書・補助教材					
補助教材 「2026スタンダード数学演習 I・II・A・B・C 受験編」(数研出版) 「新課程 チャート式 基礎からの数学I, A, II, B, C」(数研出版) 「改訂版 大学入学共通テスト対策ニュースタンダード数学演習 I・II+A・B・C 受験編」(数研出版)					
学習の目標					
<ol style="list-style-type: none"> 「数学I」「数学II」「数学A」「数学B」「数学C」の範囲において、単元横断型で学習することで数学の内容に興味・関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを大学入試問題の考察に応用して数学的な考え方に基づいて判断できる。 「数学I」「数学II」「数学A」「数学B」「数学C」の範囲において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりし、大学入試問題の解決に導くことができる。 「数学I」「数学II」「数学A」「数学B」「数学C」の範囲において、事象を数学的に表現・処理や推論をし、大学入試問題の解決に導くことができる。 「数学I」「数学II」「数学A」「数学B」「数学C」の範囲における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、大学入試問題の考察に十分な知識を身に付ける。 					
評価の方法					
<ol style="list-style-type: none"> 出席状況(履修条件) 定期考査(前期中間・前期期末・後期中間)及び小テスト等の素点 授業における課題への取り組みや学習状況の振り返り 提出課題への取り組み状況(平常点) 					
学習のアドバイス(授業への臨み方、予習や復習の方法)					
<p>授業において、1回あたりに扱う問題数が多いので、予習・復習を念入りに行うことが大切である。各教科の学習時間の配分をよく考え、時期に応じてその都度見直し、計画的に学習を進めてほしい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業中に全員で取り組む問題番号は、事前に指定する。その中で、自分が指示された問題については、板書形式で発表できるように事前に解いておく。その際、解法が分からないときは前もって担当教員に質問に行き、解答を準備しておくこと(解いておかないと、授業の進度に影響が出る)。 問題番号を書き、その下に入試を意識した答案を記述する。この講座では、様々な単元の問題演習を行いながら、入試レベルに対応した解法や記述方法について学習する。一般的に、過不足のない記述や考え方の手順が分かるようにならない限り、数学的な技能の向上は認められない。ノートをまとめ直すなど整理しておくこと良い。 予習は、最低でも次の授業で演習する予定の範囲の問題は解いておく(それ以上進んでいけば申し分ない)。自分が担当していない問題などは完全に解けている必要はないが、チャートやこれまで使用した教材を活用し、自分の身に付いていない内容を復習しながらできる範囲で解いておく。 復習は、授業で扱った問題の中で解けなかった問題を解くとよい。特に、記述のポイントを踏まえて、再度各問題の答案を書き直すくらいでちょうどよい。目で見て理解したと感じるレベルでは、実際に解けるようになったとは限らない。最低でも一年間で解き直しを2、3回は行うこと。 					
その他					
<ul style="list-style-type: none"> 前半は記述問題を中心に演習に取り組む。 校外模試の活用も視野に入れる。 青チャートを活用する。 分からないことは、友人と議論したり教員に質問したりして、早めに解決すること。 					

月	単元	学習目標
4月	スタンダード レベルAの*・◎印問題 ベクトル (数学C) 数列 (数学B) 図形と式 (数学II)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学 I II ABC の定理・公式等の知識が不足なく習得されている。 ・ 入試問題を効率よく解く見通しを立て、計算ミス等なく解くことができる。 ・ 私立中堅大や地方国公立大 2 次入試問題を自力で解くことができる。
	5月	
前期中間考査		
6月	図形の性質 (数学A) 整数の性質 (数学A) 数と式 (数学I II)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学 I II ABC の定理・公式等の知識が不足なく習得されている。 ・ 入試問題を効率よく解く見通しを立て、計算ミス等なく解くことができる。 ・ 私立中堅大や地方国公立大 2 次入試問題を自力で解くことができる。
	7・8月	
前期期末考査		
9月	ニュースタンダード CHECK&REVIEW, TRIAL ベクトル (数学C) 数列 (数学B) 図形と式 (数学II) 三角・指数・対数関数 (数学II)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学 I II ABC の定理・公式等の知識が不足なく習得されている。 ・ 入試問題を効率よく解く見通しを立て、計算ミス等なく解くことができる。 ・ マーク式問題を効率よく解く見通しを立て、計算ミス等なく解くことができる。
	10月	
11月	関数と方程式・不等式 (数学I II) 式と証明, 論理 (数学I II) データの分析 (数学I) 統計的な推測 (数学B)	
後期中間考査		
12月	共通テスト対策 (パック V、プレノート)	<ul style="list-style-type: none"> ・ マークシート式問題や大学入試問題の過去問題または類題を、効率よく解く見通しを立て、制限時間内に計算ミスなく解くことができる。 ・ 私立マークシート型問題の解答を、見通しを立て、制限時間内に記述することができる。
	1月	
2月	私立マークシート型試験対策	
3月	個別入試問題対策	

学年	6年	教科・科目 【講座名】	総合数学ⅠA	単位数 週の授業時数	2
----	----	----------------	--------	---------------	---

教科書・補助教材					
補助教材 「2026スタンダード数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C受験編」(数研出版) 「新課程メジアン数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C(ベクトル)受験編」(数研出版) 「新課程チャート式基礎からの数学Ⅰ, A, Ⅱ, B, C」(数研出版) 「改訂版 大学入学共通テスト対策ニュースタンダード数学演習Ⅰ・Ⅱ+A・B・C受験編」(数研出版)					
学習の目標					
1 「数学Ⅰ」「数学A」の範囲において、単元横断型で学習することで数学の内容に興味・関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを大学入試問題の考察に応用して数学的な考え方に基づいて判断できる。 2 「数学Ⅰ」「数学A」の範囲における内容に興味・関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを問題の考察に応用して、数学的な考え方に基づいて判断できる。 3 「数学Ⅰ」「数学A」の範囲において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりし、事象を数理的に考察する態度を身に付ける。 4 「数学Ⅰ」「数学A」の範囲において、事象を数学的に表現・処理や推論をし、論理的な文章を書くことができる記述力を身に付ける					
評価の方法					
1 出席状況(履修条件) 2 定期考査(前期中間・前期期末・後期中間)及び小テスト等の素点 3 授業における課題への取り組みや学習状況の振り返り 4 提出課題への取り組み状況(平常点)					
学習のアドバイス(授業への臨み方、予習や復習の方法)					
入試に適応できる力が身に付くよう、予習をベースとして授業を行う。 1 予習は、問題集を少なくとも先10題程度は解いておく(自学自習)。これによって、次の授業では何について扱うのか、授業のポイント(利用する定理や公式など)は何かをあらかじめチェックしておく。人に説明できるように、忘れていた定理や公式などは調べておく。また、疑問点もはっきりさせておく。適切に予習できなければ、学習効果は希薄になる。 2 授業では、問題演習を通して定理や公式の活用の仕方を理解する。特に、「提示されている問題のどのような点に着目するのか」、「与えられた条件をどのように記述で表現すると、論理的欠陥がないのか」を学んでほしい。授業では様々な答案に触れることになる。「自分の理解を助けるため」「いつでも見返して確認するため」という意識でノートにまとめることが大切である。勿論、別解があるときには、それらも記録して解法の幅を広げるように努めてほしい。 3 復習は、予習の段階で間違えた問題や授業で気付きのあった問題は解き直し、理解を深める。授業のノートや参考書を活用し、最初から最後まで自力で完答できるまで取り組んでほしい。特に、学力上位層を目指す生徒は、数学の他分野との関連問題にも触れ、総合的な理解を目指してほしい。また、重要な定理や公式は、その意味や、それが導き出された過程(証明)をしっかりと学び直し、理解してほしい。					
その他					
<ul style="list-style-type: none"> ・「数学Ⅱ」「数学B」「数学C」の内容と関連付けながら「数学Ⅰ」「数学A」の範囲を中心に科目横断型で学習する。 ・校外模試の活用も視野に入れる。 ・青チャートを活用する。 ・分からないことは、友人と議論したり教員に質問したりして、早めに解決すること。 					

月	単元	学習目標
4月	スタンダード基本問題、A* メジアンA* 数と式 (数学I) 関数と方程式・不等式 (数学I)	定理・公式等の知識が不足なく習得されている。 入試問題を解く見通しを立て、計算ミス等なく解くことができる。
5月	2次方程式の理論 (数学I) 式と証明, 論理 (数学I)	定理・公式等の知識が不足なく習得されている。 入試問題を解く見通しを立て、計算ミス等なく解くことができる。
	前期中間考査	
6月	スタンダード基本問題、A* メジアンA* 三角比と三角形 (数学I) 場合の数と確率 (数学A)	定理・公式等の知識が不足なく習得されている。 入試問題を解く見通しを立て、計算ミス等なく解くことができる。
7・8月	場合の数と確率 (数学A) 図形の性質 (数学A)	定理・公式等の知識が不足なく習得されている。 入試問題を解く見通しを立て、計算ミス等なく解くことができる。
	前期期末考査	
9月	スタンダード基本問題、A* メジアンA* 図形の性質 (数学A) データの分析 (数学I)	定理・公式等の知識が不足なく習得されている。 入試問題を解く見通しを立て、計算ミス等なく解くことができる。
10月	ニュースタンダード TRIAL 問題 共通テスト対策 大学入試過去問演習 私立マークシート型・記述試験対策	定理・公式等の知識が不足なく習得されている。 入試問題を解く見通しを立て、計算ミス等なく解くことができる。 マークシート式問題や大学入試の過去問を、解く見通しを立て、制限時間内に計算ミスなく解くことができる。
11月	共通テスト対策 私立マークシート型・記述試験対策	マークシート式問題や大学入試の過去問を、解く見通しを立て、制限時間内に計算ミスなく解くことができる。
	後期中間考査	
12月	共通テスト対策 私立マークシート型・記述試験対策	マークシート式問題や大学入試の過去問を、解く見通しを立て、制限時間内に計算ミスなく解くことができる。
1月	共通テスト対策 (共通テスト後) 私立マークシート型・記述試験対策	マークシート式問題や大学入試の過去問を、解く見通しを立て、制限時間内に計算ミスなく解くことができる。 過去問題または類題を、解く見通しを立て、制限時間内に計算ミスなく解くことができる。 私立記述問題の解答を、見通しを立て、論理性に不足なく、制限時間内に記述することができる。
2月	私立マークシート型・記述試験対策	過去問題または類題を、解く見通しを立て、制限時間内に計算ミスなく解くことができる。
3月	個別入試問題対策	私立記述問題の解答を、見通しを立て、論理性に不足なく、制限時間内に記述することができる。

学年	6年	教科・科目 【講座名】	総合数学ⅡBC	単位数 週の授業時数	2
----	----	----------------	---------	---------------	---

教科書・補助教材					
補助教材 「2026スタンダード数学演習 I・II・A・B・C 受験編」(数研出版) 「新課程 メジアン数学演習 I・II・A・B・C (ベクトル) 受験編」(数研出版) 「新課程 チャート式 基礎からの数学 I, A, II, B, C」(数研出版) 「改訂版 大学入学共通テスト対策ニュースタンダード数学演習 I・II+A・B・C 受験編」(数研出版)					
学習の目標					
1 「数学Ⅱ」「数学B」「数学C」の範囲において、単元横断型で学習することで数学の内容に興味・関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを大学入試問題の考察に応用して数学的な考え方に基づいて判断できる。					
2 「数学Ⅱ」「数学B」「数学C」の範囲における内容に興味・関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを問題の考察に応用して、数学的な考え方に基づいて判断できる。					
3 「数学Ⅱ」「数学B」「数学C」の範囲において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりし、事象を数理的に考察する態度を身に付ける。					
4 「数学Ⅱ」「数学B」「数学C」の範囲において、事象を数学的に表現・処理や推論をし、論理的な文章を書くことができる記述力を身に付ける					
評価の方法					
1 出席状況(履修条件)					
2 定期考査(前期中間・前期期末・後期中間)及び小テスト等の素点					
3 授業における課題への取り組みや学習状況の振り返り					
4 提出課題への取り組み状況(平常点)					
学習のアドバイス(授業への臨み方、予習や復習の方法)					
入試に適応できる力が身に付くよう、予習をベースとして授業を行う。					
1 予習は、問題集を少なくとも先10題程度は解いておく(自学自習)。これによって、次の授業では何について扱うのか、授業のポイント(利用する定理や公式など)は何かをあらかじめチェックしておく。人に説明できるように、忘れていた定理や公式などは調べておく。また、疑問点もはっきりさせておく。適切に予習できなければ、学習効果は希薄になる。					
2 授業では、問題演習を通して定理や公式の活用の仕方を理解する。特に、「提示されている問題のどのような点に着目するのか」、「与えられた条件をどのように記述で表現すると、論理的欠陥がないのか」を学んでほしい。授業では様々な答案に触れることになる。「自分の理解を助けるため」「いつでも見返して確認するため」という意識でノートにまとめることが大切である。勿論、別解があるときには、それらも記録して解法の幅を広げるように努めてほしい。					
3 復習は、予習の段階で間違えた問題や授業で気づきのあった問題は解き直し、理解を深める。授業のノートや参考書を活用し、最初から最後まで自力で完答できるまで取り組んでほしい。特に、学力上位層を目指す生徒は、数学の他分野との関連問題にも触れ、総合的な理解を目指してほしい。また、重要な定理や公式は、その意味や、それが導き出された過程(証明)をしっかりと学び直し、理解してほしい。					
その他					
・「数学Ⅰ」「数学A」の内容と関連付けながら「数学Ⅱ」「数学B」「数学C」の範囲を中心に科目横断型で学習する。					
・校外模試の活用も視野に入れる。					
・青チャートを活用する。					
・分からないことは、友人と議論したり教員に質問したりして、早めに解決すること。					

月	単元	学習目標
4月	スタンダード基本問題、A* メジアンA* 数と式 (数学Ⅱ) 関数と方程式・不等式 (数学Ⅱ) 式と証明, 論理 (数学Ⅱ)	定理・公式等の知識が不足なく習得されている。 入試問題を解く見通しを立て、計算ミス等なく解くことができる。
5月	図形と式 (数学Ⅱ) 三角関数 (数学Ⅱ) 数列 (数学B)	定理・公式等の知識が不足なく習得されている。 入試問題を解く見通しを立て、計算ミス等なく解くことができる。
	前期中間考査	
6月	スタンダード基本問題、A* メジアンA* 数列 (数学B) 指数・対数関数 (数学Ⅱ) 微分法 (数学Ⅱ) ベクトル (数学C)	定理・公式等の知識が不足なく習得されている。 入試問題を解く見通しを立て、計算ミス等なく解くことができる。
7・8月	微分法 (数学Ⅱ)	定理・公式等の知識が不足なく習得されている。 入試問題を解く見通しを立て、計算ミス等なく解くことができる。
	前期期末考査	
9月	スタンダード基本問題、A* 積分法 (数学Ⅱ)	定理・公式等の知識が不足なく習得されている。 入試問題を解く見通しを立て、計算ミス等なく解くことができる。
10月	スタンダード基本問題、A* メジアンA* ベクトル (数学C) 統計的な推測 (数学B) ニュースタンダード TRIAL 問題 共通テスト対策 大学入試過去問演習 私立マークシート型・記述試験対策	定理・公式等の知識が不足なく習得されている。 入試問題を解く見通しを立て、計算ミス等なく解くことができる。 マークシート式問題や大学入試の過去問を、解く見通しを立て、制限時間内に計算ミスなく解くことができる。
11月	共通テスト対策 私立マークシート型・記述試験対策	マークシート式問題や大学入試の過去問を、解く見通しを立て、制限時間内に計算ミスなく解くことができる。
	後期中間考査	
12月	共通テスト対策 私立マークシート型・記述試験対策	マークシート式問題や大学入試の過去問を、解く見通しを立て、制限時間内に計算ミスなく解くことができる。
1月	共通テスト対策 私立マークシート型・記述試験対策	マークシート式問題や大学入試の過去問を、解く見通しを立て、制限時間内に計算ミスなく解くことができる。
2月	私立マークシート型・記述試験対策	過去問題または類題を、解く見通しを立て、制限時間内に計算ミスなく解くことができる。
3月	個別入試問題対策	私立記述問題の解答を、見通しを立て、論理性に不足なく、制限時間内に記述することができる。

理科 学習指導計画

教科の目標	本物から学ぶ理科授業を実践し、次の5点の育成を目標とする。				
	<ol style="list-style-type: none"> 1 自然の事物・現象に進んで関わる。 2 目的意識をもって観察、実験などを行う。 3 科学的に探究する能力と態度を養う。 4 自然の事物・現象についての理解を深める。 5 科学的な見方や考え方を養う。 				
	学年	区分	区分の目標	学習内容	学習の特色
前期課程	第1学年	基礎学力養成期	多くの観察・実験を行う。実体験を重視し、本物に触れる	(化学分野) 身の回りの物質 化学変化と原子・分子 (地学分野) 大地の成り立ちと変化 気象とその変化	専門教員による学習分野別指導 化学分野, 地学分野
	第2学年			(物理分野) 身近な物理現象 電流とその利用 (生物分野) 植物の生活と種類 動物の生活と生物の変遷	専門教員による学習分野別指導 物理分野, 生物分野
	第3学年	充実期	観察・実験の結果から、自ら考える。本物から考える	(物理分野) 運動とエネルギー (化学分野) 化学変化とイオン (生物分野) 生命の連続性 (地学分野) 地球と宇宙 (総合) 科学技術や自然と人間	専門教員による学習分野別指導
後期課程	第4学年	充実期	観察・実験の結果から、自ら考える。本物から考える	【物理基礎】 運動とエネルギー, エネルギーの利用 【化学基礎】 化学と人間生活, 物質の構成, 物質の変化 【生物基礎】 遺伝子, 体内環境の維持, 多様性と生態系	3領域を学び, 基礎的な科学的素養を幅広く養う。
	第5学年	発展期	観察・実験を通して, 本物を探究する。科学の本質を探究する。	【化学】 無機物質, 有機化合物, 高分子化合物 【物理】 様々な運動, 波, 電気と磁気 【生物】 生命現象と物質, 生殖と発生	【化学】に加え, 希望に合わせて, 【物理】 【生物】から1科目を選択する。
	第6学年			【物理基礎演習】 運動とエネルギー, エネルギーの利用 【物理、物理演習】 電気と磁気, 原子 【化学基礎演習】 化学と人間生活, 物質の構成, 物質の変化 【化学、化学演習】 物質の状態, 物質の変化 【生物基礎演習】 遺伝子, 体内環境の維持, 多様性と生態系 【生物、生物演習】 環境応答, 生態と環境, 進化と系統 遺伝子とバイオテクノロジー	【物理、化学、生物】 5年生から継続して学習し, 科学的に探究する能力と態度を養う。 【物理演習、化学演習、生物演習】 進路希望に合わせて選択し, 学習の深化をはかる。

学 年	4 年	教科・科目 【講座名】	物理基礎	単位数 週の授業時数	2
--------	-----	----------------	------	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書「物理基礎」（数研出版） 補助教材「セミナー 物理基礎」（第一学習社）					
学習の目標					
<ol style="list-style-type: none"> 身のまわりの物理的事物・事象に対する知識と理解を深め、科学的思考力を身に付ける。 自然現象を整理して認識するための方法として、物理学の基本的概念や原理、法則について学習し、実際の自然現象にどのように当てはめられるのかを、実験、観察、演習を通して考察する。 自然現象を数学的に取り扱うための考え方や計算の方法を学習し、様々な問題が解ける力を身に付ける 					
評価の方法					
定期考査、小テスト、自宅学習課題、実験レポート等を合わせて、総合的に判断し評価する。					
学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）					
<ol style="list-style-type: none"> 物理学は、自然を認識するための基礎を学ぶ科目である。全ての自然現象に共通する規則性・法則性を学ぶことで、科学的な思考力を身につけることができる。授業には積極的に学ぼうとする意欲をもって臨んで欲しい。 この講座で学ぶ「力学」の方法がすべての基礎になるので、授業後の復習に時間をとり、理解した内容が定着するよう問題演習を各自で行うこと。 学習内容や問題の解き方等で、よく分からないところが出てきたときはそれをノートにメモし、授業中や授業後に質問をすること。「分からないこと」をそのままにして放っておくことが、最もよくないことである。また、疑問を持って学習することは、そのことについての理解を深めるうえで、とても役に立つので、常に「なぜだろう」と考えてみること。 問題を解く過程で、法則や原理をどのように使うのか、また、それはなぜなのかということに、いつも気をつけて学習をすすめること。解き方を暗記するだけでは理解には結びつかない。 自分の考え方を他の人に伝えたり、人の意見を聞いて自分と比較したりすることで、より正しい認識へと理解が深まっていくので、他の人と積極的に意見交換したり、疑問点を教えあったりすることが重要である。 					
その他					

月	単元	標準的な学習目標	発展的な学習目標
4月	1 運動の表し方	<ul style="list-style-type: none"> 速度、加速度とは何か説明することができる。 自由落下、鉛直投射について理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 物体の運動を時刻 t の関数として表し、そのグラフを描くことができる。 水平投射、斜方投射について理解を深める。
5月	2 運動の法則	<ul style="list-style-type: none"> 様々な力を図示し、必要に応じて合成や分解ができる。 運動方程式を立式することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> つり合う力の大きさを求めることができる。 運動の3法則の内容を理解し、問題を考える際に利用することができる。
前期中間考査			
6月	2 運動の法則	<ul style="list-style-type: none"> 二種類の摩擦力について理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の表し方と関連させて運動の法則を考えることができる。
7・8月	2 運動の法則	<ul style="list-style-type: none"> 圧力や水圧についての理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 浮力の式を導くことができる。
前期期末考査			
9月	3 仕事と力学的エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 仕事、運動エネルギー、位置エネルギーの大きさが計算できる。 力学的エネルギー保存の計算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 仕事とエネルギーとの関係について理解できている。 保存力以外の力が仕事をする場合があることを活用して問題を解くことができる。
10月	4 熱とエネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 熱と温度の違いを理解する。 物質の三態について理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 熱量保存、潜熱を用いて問題を解くことができる。
11月	5 波の性質	<ul style="list-style-type: none"> 波のグラフから各物理量を読み取ることができる。 横波と縦波の違いを説明できる。 2つの波の合成波を作図することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> $y-x$ 図を $y-t$ 図に変換できる。 合成波を時間追跡し、定在波になることを理解する。
後期中間考査			
12月	5 波の性質	<ul style="list-style-type: none"> 音の性質について理解する。 弦や気柱内部に定在波ができることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 弦の張力や線密度によって弦を伝わる速さが変化することを理解する。 開口端補正を考えることができる。
1月	6 電気	<ul style="list-style-type: none"> 電流や抵抗の性質を理解する。 ジュール熱の発生を理解し、問題を解くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 回路の電位を意識して、回路内の方程式を考えることができる。
2月	7 磁気 8 エネルギーとその利用	<ul style="list-style-type: none"> 交流と直流の性質の違いを理解する。 交流発電の原理を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> フレミング左手の法則でモーターの回転方向を理解する。
学年末考査			
3月		<ul style="list-style-type: none"> 様々な発電方法について理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> グレイ、シーベルト、ベクレルの区別をつけることができる。

学 年	4 年	教科・科目 【講座名】	化学基礎	単位数 週の授業時数	2
--------	-----	----------------	------	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書 「高等学校 化学基礎」 (第一学習社)					
補助教材 「新課程版 セミナー化学基礎+化学」 (第一学習社)					
「スクエア 最新図説化学」 (第一学習社)					
学習の目標					
1 物質について、構成粒子、構造、結合などをもとに理解する。また、それらがどのように反応するかを実験によって観察し、科学的な知識や考え方を元に理解する。					
2 物質が現代社会においてどのように利用されており、またそれらが地球環境にどのような影響を与えているかを科学的に思考できるようにする。					
評価の方法					
計4回の定期テストを中心にして、小テストや提出課題、実験レポート、授業に臨む姿勢の評価を加えて総合的に評価する。					
学習のアドバイス (授業への臨み方、予習や復習の方法)					
理科学習の大きな目的は、「科学的なものの見方や考え方」を身につけることです。そのために最も大切なのは、毎回の授業です。授業に集中し、よく考える姿勢が必要です。					
教室の授業では、黒板の内容をただ書き写すのではなく、説明されたことや疑問に思ったことをメモしましょう。その日の復習では、メモを整理してまとめ直しましょう。					
実験の授業では、積極的に参加するだけでなく、「実験で何がわかったか」「何のための実験だったのか」ということを考え、レポートにまとめることが必要です。「楽しかった」というだけの実験にせず、常に考える姿勢を貫いてください。基礎知識を身に付ける、実験で確かめる、実験でわかったことをまとめる、という一連の流れを繰り返すことが「科学的なものの見方や考え方」を育てます。					
その他					
4年生の段階では先取り学習をする必要はほぼありません。しかし、日々の学びを定着させ、自らの力とするためには予習と復習、問題演習が必要です。授業前に必ず教科書を読んでおきましょう。また、授業中に演習をする時間はあまりありませんから、授業後の復習を必ず行いましょう。特に復習の方に力を入れて、学習するようにしてください。					

月	単元	標準的な学習目標	発展的な学習目標
4月	化学と人間生活 物質の構成	・物質の分類について説明できる。	・物質の分離法について説明できる。
5月	物質の構成粒子	・原子の構造を理解し、単原子イオンができるしくみを説明できる。	・原子の構造を理解し、多原子イオンについて説明できる。
	前期中間考査		
6月	粒子の結合	・イオン結合、共有結合ができるしくみを理解し、組成式や分子式を説明できる。	・イオン結合、共有結合ができるしくみを理解し、電子式や構造式を説明できる。
7・8月	粒子の結合	・金属結合のしくみを理解し、金属の性質を説明できる。	・金属の結晶構造について説明できる。
	前期期末考査		
9月	物質質量と化学反応式	・原子量、分子量、式量について説明できる。	・同位体が存在する場合、原子量を求める計算ができる。
10月	物質質量と化学反応式	・物質質量の単位「mol」について説明できる。 ・化学反応の量的関係を反応式から説明できる。	・物質質量と質量や体積との間で換算ができる。 ・化学反応の量的関係の計算ができる。
11月	酸と塩基の反応	・酸と塩基の定義や性質を説明できる。 ・pHについて説明できる。	・酸と塩基の広義の定義を説明できる。 ・pHについて簡単な計算ができる。
	後期中間考査		
12月	酸と塩基の反応	・中和反応の量的関係を説明できる。 ・中和滴定の実験操作を習得する。	・中和反応の量的関係の計算ができる。 ・中和滴定の実験操作上の注意点を説明できる。
1月	酸化還元反応	・酸化還元の定義を理解する。 ・酸化剤と還元剤の反応式を説明できる。	・酸化数を求めることができる。 ・酸化剤と還元剤の反応式をつくることができる。
2月	酸化還元反応	・イオン化傾向について理解し、電池のしくみを理解する。	・イオン化傾向から金属の反応や電池のしくみを説明できる。
	学年末考査		
3月	化学基礎のまとめ	・化学基礎の学習をまとめる。	・化学基礎の学習をまとめる。

学年	4年	教科・科目 【講座名】	生物基礎	単位数 週の授業時数	2
----	----	----------------	------	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書 「改訂 生物基礎」 (東京書籍)					
補助教材 「スクエア最新図説生物 neo 改訂」 (第一学習社)					
「ニューグローバル生物基礎」 (東京書籍)					
「大学入学共通テスト対策 チェック&演習 生物基礎」 (数研出版)					
学習の目標					
1 日常生活や社会との関連を図りながら生物や生命現象に対する興味や関心を高める。					
2 生命現象に対する観察・実験を通じて、生物学的に探究する能力と態度を身に付ける。					
3 生物学の基本的な概念や原理についての理解を深め、科学的な自然観を身に付ける。					
評価の方法					
定期考査の得点を中心に、学習活動・課題等の取組状況を合わせて、総合的に判断し評価します。					
学習のアドバイス (授業への臨み方、予習や復習の方法)					
1 生物基礎の学習における特徴					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 物理基礎や化学基礎より要求される知識量が多い。 ・ 一つのテーマに基づいて単元が設定されており、学習する範囲が限られている。 <p>生物基礎は、覚えるべき事柄が多く、自主学習においても多くの時間を必要としますが、「生物の共通性と多様性」という一つのテーマに沿って単元が設定されているため、学びやすい科目であるとも言えます。すべての生物が細胞を基本単位とするという共通性から、1000万種以上もいると考えられる生物たちの多様性まで、テーマを意識して学習することで、生命や自然の神秘さを感じることができる素晴らしい科目です。楽しく学んでください。</p>					
2 アドバイス					
(1) 授業を大切に					
生物基礎は要求される知識量が多く、学習に多くの時間を必要とします。しかし、生物基礎の学習に充てられる時間にも限りがあります。そのため、時間を大切に、集中して授業に臨みましょう。その際、ただ用語などを覚えるのではなく、説明をよく聞き、「流れ」や他の用語との「つながり」を意識しながら学んでください。					
(2) 復習を大切に					
授業の後は、どのような形であれその日のうちに復習してください。電車内、風呂、トイレなどいつでもどこでも構いません。その後、3日以内に問題演習も含めたきちんとした復習を行いましょう。					
(3) イメージを大切に					
生物基礎は図説を見ながら学習すると、教科書の文章からは伝わってこないイメージを図や写真から得ることができます。図説を愛読書とし、楽しみながら学習してください。しかし、ただ眺めるだけでなく、模式図やグラフなどを、細部まで、流れを意識しながら、紙に図示できるようにします。アウトプットなくして、生物基礎を理解することはできません。					
(4) 読解力と論理的思考力を大切に					
以前よりも単語だけを問うような単純な問題が減り、実験から推論させる問題も出題されるようになりました。そのため、読解力と論理的思考力が要求されます。生物基礎の学習だけでなく、物理基礎や化学基礎はもちろんのこと、現代文や数学など他教科の学習も大切にしてください。					
(6) 問題演習を大切に					
問題演習において、わからない問題が出てきたら、「何がわからないのか?」「問題の何が重要なのか?」といった分析に時間を割き、一問一問を丁寧に処理してください。分析のない学習を続けても理解は深まりません。					
その他					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実験及び観察を行う際は、白衣、(保護眼鏡)を持参してください。 					

月	単元	標準的な学習目標	発展的な学習目標
4月	生物の多様性と共通性 細胞にみられる多様性と共通性 生命活動とエネルギー代謝、酵素	<ul style="list-style-type: none"> 生物は多様でありながら共通性をもっていることを理解する。 顕微鏡を用いた細胞の観察の技能を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生物に多様性が真核細胞と原核細胞の違いから説明できる。 顕微鏡に関わるスケールの計算や様々な生物の観察方法を提案できる。
5月	生命活動とエネルギー エネルギー変換 光合成 呼吸	<ul style="list-style-type: none"> 生命活動に必要なエネルギーと代謝について理解する。 仮説や計画の立て方、考察の方法の手順を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> エネルギーと代謝について具体的な現象をもとに説明できる。 仮説、考察から新たな課題を導き出すことができる。
	前期中間考査		
6月	生物と遺伝子 DNAの構造、 DNAとゲノム 遺伝情報の分配 細胞周期 DNA複製	<ul style="list-style-type: none"> 遺伝情報を担う物質としてのDNAの特徴について理解する。 DNAの正確に複製・分配されることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> DNAの特徴を化学的な根拠から述べるができる。 遺伝情報の半保存的複製が成り立つ必要性について考察することができる。
7・8月	遺伝情報とタンパク質 タンパク質の合成 遺伝子の発現	<ul style="list-style-type: none"> DNAの情報に基づいてタンパク質が合成されることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> セントラルドグマに関わる具体的な生命現象について考察することができる。
	前期期末考査		
9月	体内環境の維持 恒常性と神経系 循環 恒常性と血液 体内環境の調節	<ul style="list-style-type: none"> 生物の体内環境の維持について観察、実験などを通して探究し、生物は体内環境を一定に維持していることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 腎臓、肝臓、心臓等の器官や神経系のはたらきが生命維持につながることを理解する。 具体的な生命現象を恒常性の観点から説明することができる。
10月	体内環境を保つしくみ 血糖濃度とホルモン、自律神経のしくみ 体温調節とホルモン、自律神経のしくみ 血液凝固のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> 体内環境の維持に自律神経とホルモンがかかわっていることを理解する。 体内環境の維持と健康との関係について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 生体反応に自律神経とホルモンを使い分けていることを理解する。 健康について体内環境の維持から説明することができる。
11月	体内環境を守るしくみ 免疫のシステム 免疫とヒト	<ul style="list-style-type: none"> 病原菌などの異物を認識、排除して体内環境を保つ仕組みを理解する。 免疫と健康との関係について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 生体防御が段階的であり、免疫に関わる各細胞のはたらきについて述べるができる。 具体的な免疫に関わる治療法を説明することができる。
	後期中間考査		
12月	植生の多様性と遷移 植生、生態系、遷移	<ul style="list-style-type: none"> 植生は長期的に移り変わっていくことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な植生の特徴が遷移の全体像を決めることを理解する。
1月	バイオームとその分布 地球上の植生分布 様々なバイオーム	<ul style="list-style-type: none"> 気温と降水量の違いによって様々なバイオームが成立していることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> バイオームに含まれる様々な動植物の環境への適応についても考察することができる。
2月	生態系とその保全 生態系でのエネルギーと物質の流れ 生態系のバランス 生物多様性の保全	<ul style="list-style-type: none"> 生態系では、物質の循環とともにエネルギーが移動することを理解する。 生態系について理解し、保全の重要性を認識する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生態学を通して再生可能な循環型エネルギーについても考察することができる。 「里山」を具体例に環境保全の態度が身についている。
	学年末考査		
3月	1年間のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 「生物基礎」で学習した生物や生物現象の概念について確認し、「生物」の学習に役立つよう理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 生物のしくみが人間社会に応用されていることを理解し、保全や新しい発想に向けた態度が身についている。

学年	5年	教科・科目 【講座名】	物理	単位数 週の授業時数	3
----	----	----------------	----	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書 「改訂版 物理」 (数研出版) 補助教材 「セミナー物理」 (第一学習社)、「入門問題精講」 (旺文社)					
学習の目標					
1 身の回りの物理的事物・事象に対する知識と理解を深め、科学的思考力を身に付ける。 2 自然現象を整理して認識するための方法として、物理学における基本的概念や原理、法則について学習し、実際の自然現象にどのように当てはめられるのかを、実験、観察、演習を通して考察する。					
評価の方法					
定期考査得点、課題、小テスト、実験レポート等の提出物の内容を合わせて、総合的に判断し評価する。					
学習のアドバイス (授業への臨み方、予習や復習の方法)					
1 物理学は、『粒子や物体に対する様々な作用が、どのようにはたらき、その結果として何が起こるのか。』ということを明らかにしていく学問である。物理基礎で学習した「力学」の方法がすべての基礎になるので、しっかり復習しておくこと。 2 授業での説明をしっかり聞き、必ず毎週1回は自宅学習で復習をすること。 3 よく分からないところが出てきたら、それをノートにメモし、授業中や授業後に質問をすること。「分からないこと」をそのままにして、放っておくことが最もよくないことである。 4 問題を解く過程で、物理法則や原理をどのように使うのかということにいつも気をつけて、学習を進めること。解答方法を暗記するだけでは、様々な問題に対応できない。物理学は暗記科目ではない。					
その他					

月	単元	標準的な学習目標	発展的な学習目標
4月	平面運動の速度・加速度	・平面運動の速度や加速度を求めることができる。	速度ベクトルを水平成分と垂直成分に分解し、考えることができる。
5月	剛体のつり合い 運動量	・力のモーメントの計算ができる。 ・平面運動における運動量の計算ができる。	・剛体の運動を並進運動と回転運動で考えることができる。 ・平面運動における運動量保存則について理解することができる。
前期中間考査			
6月	円運動 単振動	・等速円運動するのに必要な向心力を理解できている。 ・等速円運動と単振動の関係を理解することができる。	・遠心力を含めたつり合いの式を導き出すことができる。 ・等速円運動をしている物体の正射影の動きから、単振動をしている物体の時刻 t における位置や速度、加速度、力を与える式を書くことができる。
7・8月	万有引力	・万有引力の法則を使った基本的な問題を解くことができる。	・「静止衛星」とは何かを説明でき、静止衛星の高さを求めることができる。「第一宇宙速度」、 「第二宇宙速度」をそれぞれ求めることができる。
前期期末考査			
9月	熱と温度・熱量保存則 ・熱力学第一法則 気体分子運動論・内部エネルギー	・熱と分子の関係について説明ができる。	・熱と分子の関係について、エネルギーの観点で考えることができる。
10月	波動の基礎（復習） ドップラー効果	・これまでに学習した内容を復習する。 ・ドップラー効果により波の伝わり方を理解することができる。	・ドップラー効果の仕組みを理解し、様々な設定の問題を解くことができる。
11月	光波 レンズによる像	・光の波動性を理解する。 ・屈折の現象を理解し、基本的な問題を解くことができる。	・屈折の法則を理解することができる。 ・写像公式を導き出すことができる。
後期中間考査			
12月	光波 ・回折と干渉	・回折格子とヤングの実験との同じ点、異なる点を理解し、薄膜、くさび形空気層、ニュートンリングで光が干渉する理由を説明できる。	・回折格子とヤングの実験、薄膜、くさび形空気層、ニュートンリングの問題を解くことができる。
1月	静電気力、電場、電位	・電荷の周りに電場が生じることを理解している。	・電荷の周りの電場の強さや向きについて考察することができる。
2月	原子	・電子や光の粒子性について観察・実験を通して理解する。	・エネルギーと関連付けて考えることができる。
学年末考査			
3月	一年間のまとめ	・5年で学習した内容の基本的な問題を解くことができる。	・5年で学習した内容の発展的な問題を解くことができる。

学 年	5年	教科・科目 【講座名】	化学	単位数 週の授業時数	3
--------	----	----------------	----	---------------	---

教科書・補助教材	
教科書	「高等学校 化学」(第一学習社)
補助教材	「九訂版 スクエア最新図説化学」(第一学習社) 「セミナー化学基礎+化学」(第一学習社)
学習の目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1 「化学基礎」との関連を図りながら、化学的方法で自然の事物・現象に関する問題を取り扱い、実験などを通して、化学の基本となる概念や原理・法則を活用する能力を身に付ける。 2 自然界の事物・現象を分析的、総合的に考察する能力を身に付ける。 	
評価の方法	
計4回の定期テストを中心にして、提出課題の内容および実験レポートの評価、授業に臨む姿勢等を加えて総合的に評価する。	
学習のアドバイス(授業への臨み方、予習や復習の方法)	
<p>学習内容は4年生の「化学基礎」と比較し、覚えなければならない知識量が圧倒的に増える。以下に示すのは、5年「化学」における特段の留意点であり、学習者に求めることである。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ある程度教科書等をざっくりと読み、予備知識を身に付けたうえで授業に臨むこと。 (2) 化学の基本となる体系化された知識を身に付けること。 (3) 実験を通して、実体験に基づいた理解を深めること。 (4) 化学的な知識と探究手法に基づいて、総合的に考察する力を高めること。 <p>5学年で扱う内容は講義内容、実験内容共に、高度なものとなる。 また、学習内容は蓄積されていくものとなるため、日頃からの復習を大切にすること。</p>	
その他	

月	単元	標準的な学習目標	発展的な学習目標
4月	無機物質(周期表と元素)	・周期表と元素の性質の関係を理解できる。	・周期表と元素の性質の関係を説明することがで

			きる。
5月	無機物質（非金属元素の単体と化合物） 無機物質（典型金属元素の単体と化合物）	・非金属元素・典型金属元素の性質を知る。 ・実験を通して代表的な非金属元素・典型金属元素の性質を調べることができる。	・非金属元素・典型金属元素の性質を説明できる。 ・実験を通して代表的な非金属元素・典型金属元素の性質について考察することができる。
	前期中間考査		
6月	無機物質（典型金属元素の単体と化合物）	・典型金属元素の性質を知る。 ・実験を通して、典型金属元素の性質を調べることができる。	・典型金属元素の性質を説明できる。 ・実験を通して、典型金属元素の性質について考察することができる。
7・8月	無機物質（遷移金属元素） 無機物質（生活と無機物質）	・遷移金属元素の性質を知る。 ・実験を通じて、鉄、銅、銀の性質を調べることができる。	・遷移金属元素の性質を説明できる。 ・実験を通じて、鉄、銅、銀の性質について考察することができる。
	前期期末考査		
9月	有機化合物（有機化合物の特徴と分類）	・有機化合物の基本的な性質を知る。	・有機化合物の基本的な性質を説明できる
10月	有機化合物（脂肪族炭化水素）	・脂肪族炭化水素の性質を知る。 ・アルカン、アルキン、アルケンの性質の違いを実験によって確かめることができる。	・脂肪族炭化水素の性質を説明できる。 ・アルカン、アルキン、アルケンの性質の違いを実験によって考察することができる。
11月	有機化合物（酸素を含む脂肪族化合物）	・酸素を含む脂肪族化合物の性質を知る。	・酸素を含む脂肪族化合物の性質を説明できる。
	後期中間考査		
12月	有機化合物（酸素を含む脂肪族化合物）	・アルコール、アルデヒドの性質を実験によって確かめることができる。	・アルコール、アルデヒドの性質を実験によって考察することができる。
1月	有機化合物（芳香族化合物）	・芳香族化合物の性質を知る。 ・実験を通してフェノール類、芳香族アミンの性質を知る。	・芳香族化合物の性質を説明できる。 ・実験を通してフェノール類、芳香族アミンの性質を考察することができる。
2月	有機化合物（高分子化合物）	・高分子化合物の性質を知る。 ・実験を通して高分子化合物の性質を知る。	・高分子化合物の性質を説明できる。 ・実験を通して高分子化合物の性質を考察することができる。
	学年末考査		
3月	有機化合物（生活と有機化合物）	・有機化合物が生活でどのように利用されているかを説明できる。	・有機化合物が生活でどのように利用されているかを説明できる。

学年	5年	教科・科目 【講座名】	生物	単位数 週の授業時数	3
----	----	----------------	----	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書 「生物」 (東京書籍)					
補助教材 「スクエア最新図説生物 neo」 (第一学習社)					
「ニューグローバル生物」 (東京書籍)					
「大学入学共通テスト対策 チェック&演習 生物」 (数研出版)					
学習の目標					
1 生物や生命現象に対する興味関心を高める。					
2 観察や実験を行い、科学的に探究する能力と態度を身に付ける。					
3 生物や生命現象についての基本的な概念の理解を深め、科学的自然観を身に付ける。					
4 問題演習を行い、大学受験に対応できる学力を身に付ける。					
評価の方法					
定期考査の得点や学習活動への取組状況、課題の提出状況を合わせて、総合的に評価します。					
学習のアドバイス (授業への臨み方、予習や復習の方法)					
1 高校生物の学習における特徴					
・物理や化学より要求される知識量が圧倒的に多い。					
・生物の問題は、単純な知識を問う問題から理論的思考力を問う問題まで幅が広い。					
上記のように、生物は癖のある難しい科目ですが、生命現象の神秘に触れ、自然や生命の尊さを感じることが出来る素晴らしい科目です。楽しんで学んでください。					
2 アドバイス					
(1) 授業を大切に					
生物は要求される知識量が圧倒的に多く、毎日学習しないとすぐに記憶から抜けてしまいます。しかし、生物の学習に充てられる時間にも限りがあります。そのため、時間を大切に、集中して授業に臨みましょう。その際、ただ用語などを覚えるのではなく、説明をよく聞き、「流れ」を意識しながら学んでください。					
(2) 復習を大切に					
授業の後は、どのような形であれその日のうちに復習してください。その後、3日以内にきちんとした復習を行きましょう。					
(3) イメージを大切に					
生物は図説を見ながら学習すると、教科書の文章からは伝わってこないイメージを図や写真から得ることができます。図説を愛読書とし、楽しみながら学習してください。					
しかし、ただ眺めるだけでなく、模式図やグラフなどを、流れを意識しながら、細部まで紙に図示できるようにします。アウトプットなくして、生物を理解することはできません。					
(4) 読解力と論理的思考力を大切に					
生物では実験から推論させる問題が多く出題されるため、読解力と論理的思考力が要求されます。生物の問題を大量に解けば理論問題がすぐに解けるようになる訳ではありません。現代文や数学など他教科の学習も大切にしてください。討論やディベートも論理的思考力を養ういい学習です。					
(6) 問題演習を大切に					
問題演習において、わからない問題が出てきたら、「何がわからないのか?」「問題の何が重要なのか?」といった分析に時間を割き、一問一問を丁寧に処理してください。分析のない学習を続けても理解は深まりません。					
その他					

月	単元	標準的な学習目標	発展的な学習目標
4月	<細胞と分子> 1. 生体を構成する物質 2. タンパク質の構造と性質	生物を構成する物質と生命活動を担うタンパク質の基本的な特徴について理解する	生物を構成する物質と生命活動を担うタンパク質の基本的な特徴について理解し、発展的な演習問題に応用する。
5月	3. 酵素のはたらき 4. 細胞の構造	酵素の働きと生体内の化学反応について理解する。 細胞小器官とその相互関係や、生体膜について理解する。	酵素の働きと生体内の化学反応と細胞小器官とその相互関係や、生体膜について理解し、発展的な演習問題に応用する。
	前期中間考査		
6月	5. 物質の輸送とタンパク質 6. 情報伝達・認識とタンパク質	分子の大きさと細胞膜の透過性の関連について理解する。	細胞膜の透過性について正確に理解し、発展的な演習問題に応用する。
7・8月	<代謝> 1. 代謝とエネルギー 2. 呼吸と発酵	呼吸によって有機物からエネルギーが取り出されるしくみを理解する。	呼吸のしくみを理解し、発展的な演習問題に応用する。
	前期期末考査		
9月	3. 光合成	光合成によって光エネルギーを用いて有機物がつくられるしくみを理解する。	光合成のしくみを分子レベルで理解し、発展的な演習問題に応用する。
10月	4. 窒素同化	窒素同化について理解する。	窒素同化について理解し、発展的な演習問題に応用する。
11月	5. 生態系の物質生産と物質循環	窒素や炭素などの物質生産と生態系内の循環について理解する。	実際の生態系における物質の生産や循環について問題を解き、説明することができる。
	後期中間考査		
12月	<進化のしくみ> 1. 生物の起源と進化 2. 生物の系統と多様性	生物の起源と進化の変遷について理解する。生物の進化のしくみについて理解する。生物はその系統に基づいて分類できることを理解する。	生物の起源と進化の変遷について説明できる。生物の進化のしくみについて説明できる。生物はその系統に基づいて分類できることを説明できる。
1月	3. 人類の系統と進化	脊椎動物の進化に関して、特に哺乳類から霊長類、人類への進化の仕組みについて理解する。	ヒトと他の生物を分ける特徴について、進化の観点から説明することができる。
2月	<生殖と発生> 1. 遺伝子と染色体 2. 減数分裂と遺伝情報の分配	減数分裂による遺伝子の分配と受精により多様な遺伝的な組合せが生じることを理解する。	減数分裂のしくみを的確に理解し、発展的な演習問題に応用する。
	学年末考査		
3月	3. 遺伝子の多様な組み合わせ 4. 遺伝子とバイオテクノロジー	遺伝子の連鎖と組換えについて理解する。 DNA とバイオテクノロジーの利用を理解する。	遺伝子の連鎖と組換えについて理解し、発展的な演習問題に応用する。

学年	6年	教科・科目 【講座名】	物理演習	単位数 週の授業時数	4
----	----	----------------	------	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書 「改訂版 物理」 (数研出版)					
補助教材 「セミナー物理基礎+物理」 (第一学習社)					
「物理重要問題集ー物理基礎・物理」 (数研出版)					
「共通テスト対策直前演習 物理」 (進研学参)					
「共通テスト実践問題パック V」 (駿台文庫)					
学習の目標					
1 物理法則を適用して、自然現象を論理的に理解することができる力を身に付ける。					
2 抽象的な概念を、数学を利用して記述する方法を学び、計算的な方法によって物理現象を理解し、将来の現象を予測することができる力を身に付ける。					
3 大学入試に対応できる学力を身に付ける。					
評価の方法					
定期考査の得点、授業への取組み、課題の提出状況を合わせて、総合的に判断し評価する。					
学習のアドバイス (授業への臨み方、予習や復習の方法)					
1 授業内でおおまかな内容が理解できるように努める。					
2 授業内で行う問題演習では、理解した点・理解していない点を確認、理解していない点はその場で解決できるように努める。					
3 問題集 (セミナー) の基本問題を、教科書やプリントなどの説明を見ることなく解けるようになることを目標に、各自で復習を進める。					
4 4、5年生で学習した内容も含めて、内容の理解度について自己評価を行い、苦手な分野・理解が不足している分野について、繰り返し学習を行うことが大切である。					
5 問題の解き方をただ憶えるだけは、物理現象に対する理解は深まらず、大学入試に対応できる力が十分に身に付いたとは言えない。各分野の物理法則についてよく理解し、問題を解く際にそれらを順序立てて適用して、正しい結果を得ることがきる考え方の経緯を十分に把握していくことが重要である。					
その他					

月	単元	標準的な学習目標	発展的な学習目標
4月	光波 ・レンズによる像 ・回折と干渉	・光の波動性を理解する。 ・屈折の現象を理解し、基本的な問題を解くことができる。 ・回折格子とヤングの実験との同じ点、異なる点を理解し、薄膜、くさび形空気層、ニュートンリングで光が干渉する理由を説明できる。	・屈折の法則を理解することができる。 ・写像公式を導き出すことができる。 ・回折格子とヤングの実験、薄膜、くさび形空気層、ニュートンリングの問題を解くことができる。
5月	電磁気 ・電場 ・電位 ・コンデンサー ・電流 ・電気回路	・電場/電位について視覚的に理解し、単位などを説明できる。 ・コンデンサーについて電気容量や静電エネルギーの計算ができる。 ・電流の定義や電気回路	・コンデンサーの仕組みについて理解を深め、様々な設定の問題を解くことができる。
前期中間考査			
6月	電磁気 ・電流と磁場 ・磁場中の荷電粒子 ・電磁力 ・電磁誘導	・磁場/磁束について単位などの知識を深め、電流がつくる磁場を求めることができる。 ・磁場中で電流が受ける力、ローレンツ力についての基礎的な問題を解くことができる。	・電流がつくる磁場や磁場中で電流が受ける力、ローレンツ力についての標準/応用問題を解くことができる。
7・8月	原子 ・電磁場中の粒子の運動 ・電気素量 ・光電効果 ・スペクトルと原子構造	・陰極線の性質、電子の比電荷や電気素量を求める実験、光電効果やラウエ斑点、ブラッグ反射、コンプトン効果についての知識を深める。 ・原子の構造について理解を深め、原子スペクトルや核反応に関する問題を解くことができる。	・光電効果やラウエ斑点、ブラッグ反射、コンプトン効果について理解を深め、標準/応用問題を解くことができる。
前期期末考査			
9月	発展演習 ・大学入試過去問題演習	・力学分野の大学入試レベルの問題の解き方の糸口を見つけることができる。	・力学分野の大学入試レベルの問題に解答することができる。
10月	発展演習 ・大学入試過去問題演習	・波動分野の大学入試レベルの問題の解き方の糸口を見つけることができる。	・波動分野の大学入試レベルの問題に解答することができる。
11月	発展演習 ・大学入試過去問題演習	・電磁気分野の大学入試レベルの問題の解き方の糸口を見つけることができる。	・電磁気分野の大学入試レベルの問題に解答することができる。
後期中間考査			
12月	発展演習 ・共通テスト対策演習	・共通テスト予想問題において、40%以上の得点(40点以上)を得ることができる。	・共通テスト予想問題において、80%以上の得点(80点以上)を得ることができる。
1月	発展演習 ・共通テスト対策演習	・共通テスト予想問題において、60%以上の得点(65点以上)を得ることができる。	・共通テスト予想問題において、85~100%の得点(85~100点)を得ることができる。
2月	課題研究 進路に応じて個別対応		
3月	課題研究 進路に応じて個別対応		

学年	6年	教科・科目 【講座名】	化学演習	単位数 (週の授業時数)	4
----	----	----------------	------	-----------------	---

教科書・補助教材	
教科書	「化学 academia」(実教出版)
補助教材	「スクエア 最新図説化学」(第一学習社) 「セミナー化学基礎+化学」(第一学習社) 「2026 化学重要問題集 化学基礎・化学」(数研出版) 「2026 大学入試共通テスト 実践問題パック V 化学」(駿台文庫)
学習の目標	
<ol style="list-style-type: none"> 身近な自然現象を論理的に理解し、説明できるようになる。 観察や実験を行い、科学的に探究する能力と態度を身に付ける。 授業に個別の問題演習を取り入れ、進路実現に向けた学力を身に付ける。 	
評価の方法	
授業内で行う演習や、3回の定期考査、提出物等を総合的に判断して評価する。	
学習のアドバイス(授業への臨み方、予習や復習の方法)	
<ol style="list-style-type: none"> 5年生までに学習した内容はセミナー等を利用して、確実に理解しておく。 授業を大切にし、重要な概念を授業内で理解する。 学習した内容については、すぐに演習問題による復習をし、解けなかった問題は必ず解きなおしを行い、学習内容を正確に身に付ける。 受験科目として使用する生徒は、前期の間に理論分野をしっかりと理解できるようなペースで学習を進めること。 	
その他	
<ul style="list-style-type: none"> 演習用教材として、5年次に購入した次の教材を用いる。 「セミナー化学基礎+化学」(第一学習社) 	

月	単元	標準的な学習目標	発展的な学習目標
4月	物質の状態 化学結合、気体の性質 基礎演習	<ul style="list-style-type: none"> 物質の状態や化学結合に関する内容を、化学基礎の内容と絡めて理解し、化学の基本問題を解くことができる。 基本的な用語や計算問題ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 物質の状態や化学結合に関する内容を、化学基礎の内容と絡めて理解し、化学の応用問題を解くことができる。 基本的な用語や計算問題をミスがなく解くことができる。
5月	溶液の性質 基礎演習	<ul style="list-style-type: none"> 溶液の性質に関する内容を、化学基礎の内容と絡めて理解し、化学の基本問題を解くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 溶液の性質に関する内容を、化学基礎の内容と絡めて理解し、化学の応用問題を解くことができる。

		・基本的な用語や計算問題ができる。	・基本的な用語や計算問題をミスがなく解くことができる。
	前期中間考査		
6月	物質の変化と平衡 物質とエネルギー、反応の速さ 基礎演習	・物質とエネルギーや反応の速さに関する内容を、化学基礎の内容と絡めて理解し、化学の基本問題を解くことができる。	・物質とエネルギーや反応の速さに関する内容を、化学基礎の内容と絡めて理解し、化学の応用問題を解くことができる。 ・実験を通して、エネルギーや反応の速さに関する理解を深めることができる。
7・8月	物質の変化と平衡 化学平衡 基礎演習 高分子化合物 基礎演習	・化学平衡に関する内容を、化学基礎の内容と絡めて理解し、化学の基本問題を解くことができる。 ・高分子化合物に関する内容を、化学基礎の内容と絡めて理解し、化学の基本問題を解くことができる。	・化学平衡に関する内容を、化学基礎の内容と絡めて理解し、化学の応用問題を解くことができる。 ・高分子化合物に関する内容を、化学基礎の内容と絡めて理解し、化学の応用問題を解くことができる。 ・実験を通して、化学平衡に関する理解を深めることができる。
	前期期末考査		
9月	発展演習および実験 大学入試問題の演習（個別対応を含む）	・大学入学共通テストレベルの問題を解くことができる。	・大学入学共通テストレベルの問題を高い正答率で解くことができる。
10月	発展演習および実験 大学入試問題の演習（個別対応を含む）	・大学入学共通テストレベルの問題を解くことができる。	・大学入学共通テストレベルの問題を高い正答率で解くことができる。
11月	発展演習および実験 大学入試問題の演習（個別対応を含む）	・大学入学共通テストレベルの問題を解くことができる。	・大学入学共通テストレベルの問題を高い正答率で解くことができる。
	後期中間考査		
12月	発展演習 大学入試問題の演習（個別対応を含む）	・大学入学共通テスト及び私立、国公立2次レベルの問題を解くことができる。	・大学入学共通テスト及び私立、国公立2次レベルの問題を高い正答率で解くことができる。
1月	発展演習 大学入試問題の演習（個別対応を含む）	・各自の必要に応じた課題を解決する。	・各自の必要に応じた課題を解決する。
2月	課題研究 進路に応じて個別対応	・各自の必要に応じた課題を解決する。	・各自の必要に応じた課題を解決する。
	学年末考査		
3月	課題研究 進路に応じて個別対応	・各自の必要に応じた課題を解決する。	・各自の必要に応じた課題を解決する。

学年	6年	教科・科目 【講座名】	生物演習	単位数 週の授業時数	4
----	----	----------------	------	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書 「生物」 (東京書籍)					
補助教材 「スクエア最新図説生物 neo」 (第一学習社)					
「ニューグローバル生物」 (東京書籍)					
「大学入学共通テスト対策 チェック&演習 生物」 (数研出版)					
「生物重要問題集 生物基礎・生物」 (数研出版)					
「大学入学共通テスト 実戦問題 パック V 生物」 (駿台文庫)					
学習の目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1 生物基礎との関連に注意しながら、生物や生命現象に対する興味関心を高める。 2 観察や実験を行い、科学的に探究する能力と態度を身に付ける。 3 生物や生命現象についての基本的な概念の理解を深め、科学的自然観を身に付ける。 4 問題演習を行い、受験に対応できる学力を身に付ける。 					
評価の方法					
定期考査の得点を中心に、授業への取組み、課題の提出状況を合わせて、総合的に判断し評価する。					
学習のアドバイス (授業への臨み方、予習や復習の方法)					
<ol style="list-style-type: none"> 1 何よりもまず自然や生き物の尊さ、生命現象の神秘に触れ、生物学を楽しみましょう。問題演習の際も、問題を解くことを楽しむつもりで取り組んでみましょう。 2 じっくり考え、理解することへの努力を惜しまないでください。 3 本質的な概念をつかみ、自分の頭の中でミクロからマクロまでの世界がイメージできることが大切です。教科書や図説などを使って、想像力を十分にはたらかせて生命現象の理解に努めましょう。動画などの学習コンテンツは理解を助ける良いツールです。ただし、初めから動画に頼ることはおすすめしません。 4 他者の説明で「わかったつもり」にならず、対話を通して「本当にわかる」ことを目指しましょう。 5 生物学の用語の定義を一つひとつ大切にしましょう。 6 生物学の用語を正しく用いて、適切な文章で生物学の様々な事象について論述できるようにトレーニングを積みましょう。その際、文字数制限を何通りか決めて行うことをお勧めします。また、作文したものは仲間同士で添削し合ってみましょう。添削する側も力が付きます。 7 生物学の専門的な文章を素早く読めるトレーニングを積みましょう。大学入試過去問の問題文を読むことをお勧めします。また、文章からイメージされる図を自分なりに描いてみましょう。 					
その他					

月	単元	学習目標	発展学習目標
4月	動物の発生	<ul style="list-style-type: none"> ・卵割から器官分化の始まりまでの過程について理解する。 ・細胞の分化と形態形成のしくみを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卵割から器官分化の始まりまでの過程について説明できる。 ・細胞の分化と形態形成のしくみを説明できる。
5月	植物の発生 動物の反応と行動	<ul style="list-style-type: none"> ・配偶子形成と受精および胚発生過程について理解する。 ・被子植物の器官の分化の過程について理解すること。 ・動物の刺激の受容と反応のしくみと行動について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・配偶子形成と受精および胚発生過程について説明できる。 ・被子植物の器官の分化の過程について説明できる。 ・動物の刺激の受容と反応のしくみと行動について説明できる。
前期中間考査			
6月	植物の環境応答	<ul style="list-style-type: none"> ・植物が環境の変化に対応するしくみについて理解する。 ・植物ホルモンの役割と、植物の生理的機能について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・植物が環境の変化に対応するしくみについて説明できる。 ・植物ホルモンの役割と、植物の生理的機能について説明できる。
7・8月	個体群と生物群集	<ul style="list-style-type: none"> ・個体群とその変動について理解する。 ・様々な個体群間の関係について理解する。 ・生物群集の成り立ちについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個体群とその変動について説明できる。 ・様々な個体群間の関係について説明できる。 ・生物群集の成り立ちについて説明できる。
前期期末考査			
9月	生態系	<ul style="list-style-type: none"> ・生態系における物質生産とエネルギー効率について理解する。 ・生態系における生物多様性に影響を与える要因を理解し、生物多様性の重要性を認識する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生態系における物質生産とエネルギー効率について説明できる。 ・生態系における生物多様性に影響を与える要因を理解し、生物多様性の重要性を説明できる。
10・11月	発展演習 大学入学共通テスト 問題演習 大学入試問題の演習（個別対応を含む）	大学入試問題で6割を獲得できる。	大学入試問題で8割を獲得できる。
後期中間考査			
12月	発展演習 大学入試問題の演習（個別対応を含む）	大学入試問題で6割を獲得できる。	大学入試問題で8割を獲得できる。
1月	発展演習 大学入試問題の演習（個別対応を含む）	大学入試問題で6割を獲得できる。	大学入試問題で8割を獲得できる。
2月	課題研究 進路に応じて個別対応	各自の必要に応じた課題を解決する。	各自の必要に応じた課題を解決する。
3月	課題研究 進路に応じて個別対応	各自の必要に応じた課題を解決する。	各自の必要に応じた課題を解決する。

学 年	6年	教科・科目 【講座名】	物理基礎演習	単位数 週の授業時数	2
--------	----	----------------	--------	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書「改訂版 物理基礎」(数研出版) 補助教材「セミナー物理基礎」(第一学習社) 「大学入学共通テスト 物理基礎 単元別問題集」(駿台文庫) 「大学入学共通テスト 直前演習 物理基礎」((株)ラーンズ) 「共通テスト実践問題パックV 物理基礎」(駿台文庫)					
学習の目標					
大学入学共通テストの出題内容に即した授業・実験実習・問題演習を行い、試験に対応できる学力を身に付ける。					
評価の方法					
定期考査得点、模擬演習問題得点に演習課題、実験レポート等の提出物の内容を合わせて、総合的に判断し評価する。					
学習のアドバイス(授業への臨み方、予習や復習の方法)					
<ol style="list-style-type: none"> 1 授業内でおおまかな内容が理解できるように努める。 2 授業内で行う問題演習では、理解した点・理解していない点を確認、理解していない点はその場で解決できるように努める。 3 問題集(セミナー)の基本問題を、教科書やプリントなどの説明を見ることなく解けるようになることを目標に、各自で復習を進める。 4 4年生で学習した内容も含めて、内容の理解度について自己評価を行い、苦手な分野・理解が不足している分野について、繰り返し学習を行うことが大切である。 5 問題の解き方をただ憶えるだけは、物理現象に対する理解は深まらず、大学入試に対応できる力が十分に身に付いたとは言えない。各分野の物理法則についてよく理解し、問題を解く際にそれらを順序立てて適用して、正しい結果を得ることがきる考え方の経緯を十分に把握していくことが重要である。 					
その他					

月	単元	標準的な学習目標	発展的な学習目標
4・5月	力学復習 ・問題演習	・速度や力の合成/分解や等速直線運動、等加速度運動、落下運動、圧力/浮力、仕事、力学的エネルギーについて基礎的な問題を解くことができる。	・速度や力の合成/分解や等速直線運動、等加速度運動、落下運動、圧力/浮力、仕事、力学的エネルギーについて標準/発展問題を解くことができる。
	前期中間考査		
6月	熱とエネルギー復習 ・問題演習	・温度/比熱/熱容量や熱量保存/熱力学第一法則/熱効率について基礎的な問題を解くことができる。	・温度/比熱/熱容量や熱量保存/熱力学第一法則/熱効率について標準/発展問題を解くことができる。
7・8月	波動復習 ・問題演習	・波の周期/振動数/波長/速さや重ねあわせの原理、定常波、弦/気柱の振動について基礎的な問題を解くことができる。	・波の周期/振動数/波長/速さや重ねあわせの原理、定常波、弦/気柱の振動について標準/発展問題を解くことができる。
	前期期末考査		
9月	電磁気復習 ・問題演習	・オームの法則、右ねじの法則、フレミングの左手の法則、レンツの法則を用いて基礎的な問題を解くことができる。 ・電力/電力量、抵抗率、交流の実効値等を確実に求めることができる。 ・静電気や電磁誘導についての基礎的な問題を解くことができる。	・オームの法則、右ねじの法則、フレミングの左手の法則、レンツの法則を用いて標準/応用問題を解くことができる。
10月	発展演習 ・大学入学共通テスト対策演習	・大学入学共通テスト予想問題において、50%以上の得点(25点以上)を得ることができる。	・大学入学共通テスト予想問題において、70%以上の得点(35点以上)を得ることができる。
11月	発展演習 ・大学入学共通テスト対策演習	・大学入学共通テスト予想問題において、60%以上の得点(30点以上)を得ることができる。	・大学入学共通テスト予想問題において、70%以上の得点(35点以上)を得ることができる。
	後期中間考査		
12月	発展演習 ・大学入学共通テスト対策演習	・大学入学共通テスト予想問題において、70%以上の得点(35点以上)を得ることができる。	・大学入学共通テスト予想問題において、80%以上の得点(40点以上)を得ることができる。
1月	発展演習 ・大学入学共通テスト対策演習	・大学入学共通テスト予想問題において、70%以上の得点(35点以上)を得ることができる。	・大学入学共通テスト予想問題において、85~100%の得点(42点~50点)を得ることができる。
2月	課題研究 進路に応じて個別対応		
3月	課題研究 進路に応じて個別対応		

学 年	6年	教科・科目 【講座名】	化学基礎演習	単位数 週の授業時数	2
--------	----	----------------	--------	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書 「化学基礎 academia」（実教出版） 補助教材 「スクエア 最新図説化学」（第一学習者） 「大学入学共通テスト 実戦問題 パック V 化学基礎」（駿台文庫） 「共通テスト対策 実力完成 直前演習 化学基礎」（Learn-S） 「大学入学共通テスト対策 チェック&演習 化学基礎」（数研出版） 「セミナー化学基礎+化学」（第一学習社）					
学習の目標					
化学基礎の全範囲について、大学入試（主に大学入学共通テスト）に即した問題演習を行い、受験に対応できる学力を身に付ける。					
評価の方法					
計3回の定期考査および授業ごとの振り返り等を総合的に判断して評価する。					
学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）					
<ol style="list-style-type: none"> 1 5年生までに学習した内容を確実に理解しておきましょう。特に4学年の内容を中心に復習しておくことが大切です。 2 授業を大切にし、重要な概念を授業内で理解すること。 3 学習した内容についてはすぐに復習をし、専門用語を正確に身に付けること。 4 学習した内容についての基本問題演習にすぐに取り組み、出題傾向を把握すること。 5 問題演習は、できる問題とできない問題を明らかにしながら進めること。 6 できなかった問題を中心に繰り返し演習を行うこと。 					
その他					
自主学習用として、4年次に購入した以下の教材を用いる。 「セミナー化学基礎+化学」（第一学習社）					

月	単元	標準的な学習目標	発展的な学習目標
4月	基礎演習 物質の構成	・物質の構成の分野について、大学入学共通テストレベルの問題を解くことができる。	・物質の構成の分野について、大学入学共通テストレベルの問題を高い正答率で解くことができる。
5月	基礎演習 物質の構成	・物質の構成の分野について、大学入学共通テストレベルの問題を解くことができる。	・物質の構成の分野について、大学入学共通テストレベルの問題を高い正答率で解くことができる。
前期中間考査			
6月	基礎演習 物質の変化	・物質の変化の分野について、大学入学共通テストレベルの問題を解くことができる。	・物質の変化の分野について、大学入学共通テストレベルの問題を高い正答率で解くことができる。
7・8月	基礎演習 物質の変化	・物質の変化の分野について、大学入学共通テストレベルの問題を解くことができる。	・物質の変化の分野について、大学入学共通テストレベルの問題を高い正答率で解くことができる。
前期期末考査			
9月	発展演習 実践演習	・大学入学共通テストレベルの問題を解くことができる。	・大学入学共通テストレベルの問題を高い正答率で解くことができる。
10月	発展演習 実践演習	・大学入学共通テストレベルの問題を解くことができる。	・大学入学共通テストレベルの問題を高い正答率で解くことができる。
11月	発展演習 実践演習	・大学入学共通テストレベルの問題を解くことができる。	・大学入学共通テストレベルの問題を高い正答率で解くことができる。
後期中間考査			
12月	発展演習 実践演習	・大学入学共通テストレベルの問題を解くことができる。	・大学入学共通テストレベルの問題を高い正答率で解くことができる。
1月	課題研究 進路に応じて個別対応	・各自の必要に応じた課題を解決する。	・各自の必要に応じた課題を解決する。
2月	課題研究 進路に応じて個別対応	・各自の必要に応じた課題を解決する。	・各自の必要に応じた課題を解決する。
学年末考査			
3月	課題研究 進路に応じて個別対応	・各自の必要に応じた課題を解決する。	・各自の必要に応じた課題を解決する。

学年	6年	教科・科目 【講座名】	生物基礎演習	単位数 週の授業時数	2
----	----	----------------	--------	---------------	---

教科書・補助教材

教科書「高等学校生物基礎」（第一学習者）
 補助教材「スクエア最新図説生物 neo 改訂」（第一学習社）
 「ニューグローバル生物基礎」（東京書籍）
 「大学入学共通テスト 実戦問題 パック V 生物基礎」（駿台文庫）
 「大学入学共通テスト対策 チェック&演習 生物基礎」（数研出版）
 「直前演習 生物基礎」（進研学参）

学習の目標

- 1 生命現象についての観察や実験を行い、生物学的に探究する能力と態度を身に付ける。
- 2 生物や生命現象についての基本的な概念の理解を深め科学的自然観を身に付ける。
- 3 大学入試過去問題の演習を行い、受験に対応できる学力を身に付ける。

評価の方法

定期考査の得点を中心に、授業への取組み、課題の内容を合わせて、総合的に判断し評価する。

学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）

- 1 じっくり考え、理解することへの努力を惜しまないでください。
- 2 本質的な概念をつかみ、自分の頭の中でマイクロからマクロまでの世界がイメージできることが大切です。教科書や図説などを有効に活用し、生命現象の理解に努めましょう。動画などの学習コンテンツは理解を助ける良いツールです。
- 3 問題を解くうえで、条件を整理する力が求められます。ただ解くだけでなく、対話をしながら解く上でのポイントをつかむようにしてください。
- 4 生物学の用語の定義はしっかりと整理し、理解してください。
- 5 教科書などに載っている用語を暗記するのではなく、それぞれの用語を関連させて理解することに重点を置きましょう。

その他

月	単元	学習目標	発展的な学習目標
4月	生物の共通性（演習） 生命活動とエネルギー（演習）	・生物基礎の基本的な問題を解くことができる。	・生物基礎の基本的な問題を問題文の前提条件を整理して説明することができる。
5月	生物と遺伝子（演習） 遺伝子の均等配分（演習） 体内の環境維持（演習）	・生物基礎の基本的な問題を解くことができる。	・生物基礎の基本的な問題を問題文の前提条件を整理して説明することができる。
	前期中間考査		
6月	体内の環境維持（演習） 免疫のシステム（演習） 免疫とヒト（演習）	・生物基礎の基本的な問題を解くことができる。	・生物基礎の基本的な問題を問題文の前提条件を整理して説明することができる。
7月 8月	植物の多様性（演習） 気候とバイオーム（演習） 生態系とその保全（演習）	・生物基礎の基本的な問題を解くことができる。	・生物基礎の基本的な問題を問題文の前提条件を整理して説明することができる。
	前期期末考査		
9月	大学入学共通テスト対策演習	・生物基礎の大学入学共通テストレベルの問題を解くことができる。	・大学入学共通テストレベルの問題を問題文の前提条件を整理して説明することができる。
10月	大学入学共通テスト対策演習	・生物基礎の大学入学共通テストレベルの問題を解くことができる。	・大学入学共通テストレベルの問題を問題文の前提条件を整理して説明することができる。
11月	大学入学共通テスト対策演習	・生物基礎の大学入学共通テストレベルの問題を解くことができる。	・大学入学共通テストレベルの問題を問題文の前提条件を整理して説明することができる。
	後期中間考査		
12月	大学入学共通テスト対策演習	・生物基礎の大学入学共通テストレベルの問題を解くことができる。	・大学入学共通テストレベルの問題を問題文の前提条件を整理して説明することができる。
1月	総合演習個別対応	・各自の必要に応じた課題を解決する。	・各自の必要に応じた課題を解決する。
2月	課題研究 進路に応じて個別対応	・各自の必要に応じた課題を解決する。	・各自の必要に応じた課題を解決する。
3月	課題研究 進路に応じて個別対応	・各自の必要に応じた課題を解決する。	・各自の必要に応じた課題を解決する。

保健体育科 学習指導計画

教科の目標	1 6年間の一貫した授業を通して、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を身に付ける。				
	2 健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図る。				
3 運動やスポーツを通じて協働性や自己表現力を養い、多様な価値観を尊重する態度を形成する。					
	学年	区分	区分の目標	学習内容	学習の特色
前期課程	第1学年	基礎学力養成期	<p>各種の運動の合理的な実践を通して運動の楽しさや喜びを味わい、生活を明るく健全にする態度を身に付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体育分野 体づくり運動（ラジオ体操、体力トレーニング） 器械運動（マット運動） 陸上競技（短距離走・リレー・長距離走） 水泳（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ） 球技（バスケットボール・ティーボール） ダンス、武道（柔道）、体育理論 ・保健分野 健康な生活と疾病の予防① 心身の機能の発達と心の健康 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎力を身に付けることに重点を置き、教員主体の一斉授業の形態で行う。 ・個人ファイルを使用し、生徒が自ら準備や実践、点検が行えるようにする。
	第2学年			<ul style="list-style-type: none"> ・体育分野 体づくり運動（ラジオ体操、体力トレーニング） 器械運動（マット運動、跳び箱運動） 陸上競技（短距離走・リレー・長距離走） 水泳（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ） 球技（サッカー・バレーボール） ダンス、武道（剣道）、体育理論 ・保健分野 傷害の防止 健康な生活と疾病の予防② 	<ul style="list-style-type: none"> ・ティームティーチングを有効に活用し、習熟度に応じたきめ細かい指導を展開する。 ・個人ファイルを使用し、生徒が自ら準備・実践・点検が行えるようにする。
	第3学年	充実期	<p>運動における競争や協同の経験を互いに協力して責任を果たす態度を育てる。健康・安全に留意し運動することができる態度を身に付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体育分野 体づくり運動（ラジオ体操、体力トレーニング） 器械運動（マット運動） 陸上競技（短距離走・跳躍・投擲・長距離走） 水泳（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ） 球技（バドミントン・アルティメット） 体育理論 ・保健分野 健康と環境、健康な生活と疾病の予防③ 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎力養成期に学習した内容をさらに充実させ、生徒主体の活動を取り入れる。 ・運動の特性に応じて、自己やグループの課題の解決を目指し、活動の仕方を考えたり工夫したりする。
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> 【体育】 体づくり運動（サーキットトレーニング） 陸上競技（短距離走・長距離走） 水泳（平泳ぎ） 球技（バスケットボール・ティーボール） 体育理論 【保健】 現代社会と健康、安全な社会生活 			<ul style="list-style-type: none"> ・生徒主体の活動（グループ学習）を行う。 ・グループごとのノートを使用し、運動の行い方、戦術や課題を研究し、学習計画表にまとめる。 ・リーダーシップ・フォロワーシップをもって主体的に活動する。 	
後期課程	第5学年	発展期	<p>生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現するための資質や能力、健康の保持増進のための実践力を身に付け、心身を鍛える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 【体育】 体づくり運動（サーキットトレーニング） 陸上競技（長距離走） 水泳（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ） 球技（バスケットボール・バレーボール・アルティメット） ニュースポーツ 体育理論 【保健】 生涯を通じる健康、健康を支える環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決型学習によって、グループごとに主体的に学習を進める。 ・運動の特性に合わせた学習の計画、実行、自己評価・総合評価を行う。
	第6学年			<ul style="list-style-type: none"> 【体育】 体づくり運動 陸上競技（長距離走） 球技（バドミントン・卓球・ティーボール等） ニュースポーツ 体育理論 ダンス 	<ul style="list-style-type: none"> ・発展期のまとめとして、課題解決型学習を充実させる。 ・心身の働き、生活における運動の取り入れ方や意義に関する知識を理解し、身に付け、活かしていくことができるようにする。

学年	4年	教科・科目 【講座名】	体育	単位数 週の授業時数	2
----	----	----------------	----	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書 「新高等保健体育」 (大修館書店) 補助教材 「Active Sports」 (大修館書店)					
学習の目標					
1 体力テストの結果を踏まえて、体力の維持向上を目指す。					
2 至大荘行事に向け、基礎的な泳力向上と遠泳における泳法 (至大荘泳ぎ) の習得を目指す。					
3 球技の授業において、グループ毎に学習計画を立て、実行し、振り返り反省をし、次回の目標、計画を立てるPDC Aサイクルが身に付くことを目指す。					
4 長距離走において体力向上を目指すとともに、記録向上を目指す。					
評価の方法					
1 知識・技能・・・・・・・・種目研究の内容、各種目の記録、実技テスト (種目による) 等					
2 思考・判断・表現・・・・学習の計画表、種目研究の記述、振り返り等					
3 主体的に学習に取り組む態度・・・・授業中の取り組み、出欠席、見学 (見学課題) 等					
上記の3つの観点から授業観察も含め総合的に判断し、評価する。					
学習のアドバイス (授業への臨み方、予習や復習の方法)					
○ 授業への臨み方					
1 学習計画を立てる際は、補助教材などを参考にして、それぞれのグループおよび個人の課題をどのようにして解決できるかを念頭に計画を立てる。					
2 授業で行う種目のルールや基本的な技術について、事前に調べたり映像を見たりすると理解が深まり、授業に取り組みやすくなる。					
3 計画者が欠席しても、その学習計画表を見ればどのように運営すればよいか明確であるような計画を立てる。					
4 計画者以外のメンバーは、計画者の意図することを理解し、グループ全員で実践しようとする態度が求められる。					
5 授業の後に自分の取り組みを振り返り、良かった点や改善点を整理することが重要である。					
6 実技においては苦手な種目に対しても積極的に参加し、指導者および経験者などから、自ら助言をもらうような姿勢で取り組むことが向上のポイントである。					
○ 予習や復習の方法					
1 各単元の学習カードや資料は、個人ファイルで管理し、予習・復習に役立てること。					
2 教科書や学習カードを熟読し、ポイントを理解しておく。					
その他					
怪我や疾患により長期間の見学になる場合は、担当の教員に相談すること。					

月	単元	学習目標
4月	・体づくり運動 ・体育理論	【体づくり運動】体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとしたり、話合いに貢献しようとしたり、健康・安全を確保したりしている。
5月	・体づくり運動 ・水泳（クロール・平泳ぎ）	【体づくり運動】長縄の中で短縄を跳べるようになる。ダブルダッチができるようになる。
前期中間考査		
6月	・水泳（クロール・平泳ぎ・至大荘泳ぎ）	【水泳】クロール・平泳ぎの基礎的な泳法を活かし、至大荘泳ぎを身に付ける。技術の名称や行い方について理解する。また、安全に注意して、活動に取り組むことができる。
7・8月	・水泳（クロール・平泳ぎ・至大荘泳ぎ）	【水泳】至大荘泳ぎで安定して泳げるようになる。隊列を組んで至大荘泳ぎを行うことができる。
前期期末考査		
9月	・球技（ティーボール・バスケ）	【ゴール型球技】状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって、空間への侵入などからの攻防を楽しむことができる。 【ベースボール型球技】安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすることができる。
10月	・球技（ティーボール・バスケ）	【球技】グループ内で目標を立て、学習計画担当者がその目標を達成するための計画を立てる。生徒役は、学習計画担当者の意図を理解し、協力して学習を進める。
11月	・球技（ティーボール・バスケ）	【球技】ゲームとグループ練習を繰り返すことで、新たな課題を発見し、その解決に向けて練習を行い、グループ全体で技能を向上させていく。
後期中間考査		
12月	・陸上（長距離走）	【陸上】長距離走では、ペースを守り一定の距離を走ることができる。公道でのマナーを守り安全に留意して取り組むことができる。
1月	・陸上（長距離走）	【陸上】徐々に設定距離を伸ばして記録の向上を目指し、ペースや走りの技術について考察して実践する。
2月	・体育理論 ・体づくり運動	【体育理論】スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。
学年末考査		
3月	・体育理論 ・体づくり運動	【体育理論】運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて試行し判断すると共に、他者に伝えることができる。

学年	4年	教科・科目 【講座名】	保健	単位数 週の授業時数	1
----	----	----------------	----	---------------	---

教科書・補助教材	
教科書「新高等保健体育」（大修館書店）	
学習の目標	
保健の見方・考え方を働かせて、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。	
<ol style="list-style-type: none"> 1 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技術を身に付けるようにする。 2 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 3 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。 	
評価の方法	
1 知識・技能	～ 定期考査、発表など
2 思考・判断・表現	～ 演習プリントへの取り組みと記述、発表など
3 主体的に学習に取り組む態度	～ 授業中の取り組み、演習プリント・ノートへの記述など
学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）	
<p>授業への臨み方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的に学ぶ姿勢：保健の授業は、自分の健康や生活習慣に直接関わる知識を学ぶ大切な時間である。授業で学んだことが自分の生活にどう役立つかを意識し、主体的に取り組むこと。 ・ 実生活での実践の意識：保健は理論だけでなく、日々の生活での実践が重要である。授業内容を自分の生活にどう活かせるかを考え、健康な生活習慣を身につける意識を持って授業に臨むこと。 ・ 仲間との意見交換：保健の授業では、生活習慣や健康について、他の人の視点や考え方を聞くことで、自分自身の健康への理解が深まるため、頻繁に意見交換を行う。 <p>予習や学習の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業前に身近なテーマを調べる：保健の授業で取り上げられる健康や食事、メンタルヘルスなどのテーマについて、授業前に簡単に調べておくと、授業内容の理解がスムーズになる。 ・ 日々の生活習慣を見直す：授業後には、自分の生活習慣を振り返り、改善できる点を考える。授業で学んだ知識を日常生活に取り入れることで、健康管理能力が高まる。 ・ 関連情報を集めて深める：例えば、睡眠やストレス管理など興味がある分野について、自主的に調べたり、本を読んだりすることが、学びの定着につながる。 <p>授業方法は、講義形式および実習やグループ学習、研究発表の形態をとることもある。それぞれ積極的に取り組むことを期待する。</p>	
その他	
授業で発表を行うこともある。	

月	単元	学習目標
4月	オリエンテーション 現代社会と健康 日本における健康課題の変遷 健康の考え方と成り立ち	前期課程と大きく異なることを理解し、授業に取り組む。 国民の健康課題について理解する。 個人や集団の健康への考え方の変化と、健康の成立について理解する。
5月	現代社会と健康 ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり 健康に関する意思決定・行動選択	健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方にに基づき、適切な意思決定や行動選択により自らの健康を適切に管理することと、環境づくりが重要であることを理解する。
前期中間考査		
6月	安全な社会生活 応急手当の意義と救急医療体制 心肺蘇生法	適切な応急手当の意義について理解し、自ら進んで行う態度が必要であることと、救急医療体制について深める。 実習を通して理解し、心肺蘇生法ができるようにする。
7・8月	現代社会と健康 現代における感染症の問題 感染症の予防 前期のまとめ	感染症は、時代や地域によって様々な影響を受け、発生や流行に違いが見られることを理解する。その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを理解する。
前期期末考査		
9月	現代社会と健康 性感染症・エイズとその予防 生活習慣病の予防と回復	性感染症について正しく理解し、日本及び世界での取組についても深める。 生活習慣病が、日常における生活に大きく関わることを理解し、予防についても実践できるようにする。
10月	現代社会と健康 身体活動・運動と健康 食事と健康 休養・睡眠と健康	豊かで健康的な生活を送るために必要な知識を持ち、お互いに高め合っていくような意識を持てるようにする。
11月	現代社会と健康 がんの予防と回復 喫煙と健康 飲酒と健康	がんの予防と回復について理解し、社会的な取組についても深める。 喫煙・飲酒・薬物における心身の健康問題、社会問題について理解する。
後期中間考査		
12月	現代社会と健康 薬物乱用と健康 精神疾患の特徴 精神疾患への対応	精神疾患について正しく理解する。 予防と回復には身体同様に、調和の取れた生活を実践するなど、社会の状況なども含め、理解する。
1月	安全な社会生活 事故の現状と発生要因 交通事故防止の取り組み	交通事故の現状について理解する。 交通事故防止のための取り組みと事故の責任と補償について理解する。
2月	安全な社会生活 安全な社会の形成 日常的な応急手当	安全な交通社会をつくるために必要なことを理解する。 基本的な応急手当の方法や手順があることを、実習を通して理解し、応急手当ができるようにする。
学年末考査		
3月	1年間のまとめ	1年間を振り返る。

学年	5年	教科・科目 【講座名】	体育	単位数 週の授業時数	2
----	----	----------------	----	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書 「新高等保健体育」 (大修館書店) 補助教材 「Active Sports」 (大修館書店)					
学習の目標					
<ol style="list-style-type: none"> 球技 (バスケットボール) と水泳 (背泳ぎ・バタフライ) では、授業に主体的に取り組むとともに、自身が行う種目についての知識をつける。 球技 (バレーボール、アルティメット) ではグループで学習を行うので、学習の計画・実行・評価ができるようにするとともに、個人の技能やチームワークの向上やコミュニケーション能力を養う。 陸上 (長距離走) では自分の体力に合ったペースで走り切ることができ、かつ、タイムの向上を目標とする。 ニュースポーツでは、生涯スポーツについて考える契機とする。体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等に関わらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を社会で実践するための基礎を養う。 					
評価の方法					
<ol style="list-style-type: none"> 知識・技能・・・・・・・・種目研究の内容、各種目の記録、実技テスト(種目による) 等 思考・判断・表現・・・・学習の計画表、種目研究の記述、振り返り等 主体的に学習に取り組む態度・・・・授業中の取り組み、出欠席、見学 (見学課題) 等 <p>上記の3つの観点から、授業観察も含めて総合的に判断し、評価する。</p>					
学習のアドバイス (授業への臨み方、予習や復習の方法)					
<ol style="list-style-type: none"> 授業への臨み方 <ul style="list-style-type: none"> 積極的に取り組む姿勢：授業中は積極的に体を動かし、指導に応じて自分で工夫して取り組むことが大切です。積極性が技能向上につながり、楽しさも増します。 仲間との協力：体育はグループやチームで活動することが多いので、仲間と協力し合い、チームワークを意識しましょう。これは社会で役立つコミュニケーション力の向上にもつながります。 安全意識：特に体育はケガのリスクもあるため、準備運動をしっかりと行い、自分や他人の安全に注意しながら活動することが重要です。 予習や復習の方法 <ul style="list-style-type: none"> 基礎知識の予習：授業で行うスポーツや運動のルールや基本的な技術について、事前に調べたり映像を見たりすると理解が深まり、授業でスムーズに参加できるようになります。 復習としての体力維持：授業後や日常生活でも簡単なストレッチやトレーニングを取り入れることで、運動能力の向上や維持が図れます。特に授業で取り組んだ内容を復習することで、次の授業がより効果的になります。 自己評価と反省：授業の後に自分の取り組みを振り返り、良かった点や改善点を整理することも大切です。 					
その他					
怪我や疾患により長期間の見学になる場合は、担当の教員に相談すること。					

月	単元	学習目標
4月	体づくり運動 体育理論	<p>【体づくり運動】 体づくり運動に積極的に取り組み、仲間と協力し、分担した役割を果たそうとしている。ねらいや体力に応じて効率よく体力を高めることができる。</p> <p>【水泳】 水泳に積極的に取り組み、ストロークやキック動作といった運動学的な理論を理解し、実践に活かす。</p> <p>【球技】 グループ学習を行う中で授業計画担当者が技術の向上やチームワークの向上を目指した計画を立て、協力して実践し、課題解決を図る。 球技の特性やルールを理解し、練習やゲーム運営を主体的に行えるようになる。</p>
5月	体づくり運動 水泳（背泳ぎ・バタフライ） 球技（バスケットボール）	
	前期中間考査	
6月	水泳（背泳ぎ・バタフライ） 球技（バスケットボール）	
7・8月	水泳（背泳ぎ・バタフライ） 球技（バスケットボール）	
	前期期末考査	
9月	球技（バレーボール・アルティメット）	
10月	球技（バレーボール・アルティメット）	
11月	球技（バレーボール・アルティメット）	
	後期中間考査	
12月	球技（バレーボール・アルティメット） 陸上（長距離走）	<p>【陸上】 長距離走では、ペースを守り一定の距離を走ることができる。公道でのマナーを守り安全に留意して取り組む。また、徐々に設定距離を伸ばして記録の向上を目指し、ペースや走りの技術について考察して実践する。</p>
1月	陸上（長距離走）	
2月	ニュースポーツ	<p>【ニュースポーツ】 生涯スポーツについて考える契機とする。体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等に関わらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を社会で実践できるようにする。</p>
	学年末考査	
3月	体づくり運動 体育理論	<p>【体育理論】 体力向上、トレーニングの原理について理解を深める。</p>

学年	5年	教科・科目 【講座名】	保健	単位数 週の授業時数	1
----	----	----------------	----	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書 「新高等保健体育」 (大修館書店)					
学習の目標					
<p>ヘルスプロモーションの考え方を生かし、健康に関する個人の適切な意思決定や行動選択及び健康的な環境づくりの重要性について理解を深めるとともに、心身の健康の保持増進を図るための思考力、判断力、表現力等や明るく豊かに生活する態度などの資質や能力を育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 第3単元「生涯を通じる健康」では生涯にわたって健康に生きていくためには、生涯の各段階と健康との関りを踏まえて、適切な意思決定や行動選択及び社会環境づくりが不可欠であることを理解する。 第4単元「健康を支える環境づくり」では、全ての人が健康に生きていくためには、環境を整備し、それを活用する上で課題を発見し、その解決を目指した活動をしていくことが必要であることを理解する。 					
評価の方法					
1	知識・技能		～	定期考査、発表など	
2	思考・判断・表現		～	プリントへの取り組みと記述、発表など	
3	主体的に学習に取り組む態度		～	授業中の取り組み、プリント・ノートへの記述など	
学習のアドバイス (授業への臨み方、予習や復習の方法)					
<p>授業への臨み方</p> <ul style="list-style-type: none"> 主体的に学ぶ姿勢：保健の授業は、自分の健康や生活習慣に直接関わる知識を学ぶ大切な時間です。授業で学んだことが自分の生活にどう役立つかを意識し、主体的に取り組んでください。 実生活での実践を意識：保健は理論だけでなく、日々の生活での実践が重要です。授業内容を自分の生活にどう活かせるか考え、健康な生活習慣を身につける意識を持って授業に臨みましょう。 仲間との意見交換：保健の授業では、時に生活習慣や健康について意見交換を行うこともあります。他の人の視点や考え方を聞くことで、自分自身の健康への理解が深まります。 <p>予習や学習の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業前に身近なテーマを調べる：保健の授業で取り上げられる健康や食事、メンタルヘルスなどのテーマについて、授業前に簡単に調べておくと、授業内容の理解がスムーズになります。 日々の生活習慣を見直す：授業後には、自分の生活習慣を振り返り、改善できる点を考えてみましょう。授業で学んだ知識を日常生活に取り入れることで、健康管理能力が高まります。 関連情報を集めて深める：例えば、睡眠やストレス管理など興味がある分野について、自主的に調べたり、本を読んだりすることが、学びの定着につながります。 					
その他					
自分で調べたテーマに対して発表を行うこともある。					

月	単元	学習目標
4月	オリエンテーション 生涯を通じる健康 思春期と健康 性意識の変化と性行動の選択	学習の進め方、評価について理解する。 思春期における心身の発達や健康課題について理解する。 性的成熟にともない、心理面、行動面が変化することについて学び、これらの変化に適切に対応できること。
5月	生涯を通じる健康 結婚生活と健康 妊娠・出産と健康	妊娠・出産は、女性にとって心身ともに大変な労力のいるライフイベントであることを理解する。
	前期中間考査	実施しない
6月	生涯を通じる健康 家族計画	家族は、個人の健康の保持増進に直接関係があり、家族を築く出発点が結婚であるということをしかりと理解する。 性交をすれば、妊娠する可能性があるということ、望まない妊娠は絶対に避けなければならないことを理解する。
7・8月	生涯を通じる健康 加齢と健康 高齢社会に対応した取り組み	加齢にともなう心身の変化を、形態面と機能面の両方から理解する。また、若いころからの健康管理の要点を理解し、日常生活に生かせるようにすること。
	前期期末考査	実施する
9月	生涯を通じる健康 働くことと健康 労働災害の防止 健康的な職業生活	労働による怪我や病気について理解する。また、職場での心身両面にわたる積極的な健康づくり活動について理解する。
10月	健康を支える環境づくり 大気汚染と健康 水質汚濁・土壌汚染と健康	大気汚染、水質汚濁、土壌汚染による健康への影響について理解する。
11月	健康を支える環境づくり 健康被害を防ぐための環境対策 環境衛生に関わる活動	環境汚染による健康への影響を防ぐための対策について理解する。 安全な水の確保のために必要な上下水道の整備の現状と課題について理解する。また、生活環境を保全するためのごみ処理の現状と、今後の課題について理解する。
	後期中間考査	実施しない
12月	健康を支える環境づくり 食品の安全性と健康 食品の安全性を確保する取り組み	人々の健康を支えるためには食品の安全性の確保が重要であることを理解する。 食品の安全性を確保するための行政や生産・製造者の役割について理解する。また、食品による健康被害を防ぐために消費者が果たす役割について理解する。
1月	健康を支える環境づくり 保健制度とその活用 医療制度とその活用	保健行政の役割について理解する。 医療保険の仕組みについて理解し、医療サービスの適切な活用方法について理解する。
2月	健康を支える環境づくり 医薬品の制度とその活用	医薬品には承認制度や販売に関する規制が設けられていることについて理解する。 また、医薬品は使用法に関する注意を守り、正しく使う必要があることを理解する。
	学年末考査	実施する
3月	健康を支える環境づくり 様々な保健活動や対策 誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり	日本や世界では健康課題に対応した保健活動や対策が行われていることを理解する。 自他の健康の保持・増進には健康を支える環境づくりが重要であることを理解する。

学年	6年	教科・科目 【講座名】	体育	単位数 週の授業時数	3
----	----	----------------	----	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書「現代高等保健体育改訂版」（大修館書店） 補助教材「Active Sports」（大修館書店）					
学習の目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1 種目選択制のグループ学習では種目（バドミントン・テニス・卓球）の特性に合わせた専門的な学習の計画、実行、自己評価、総合評価ができることを目標とする。 2 球技では、グループでの学習、試合を通じて、個人技能を高め、チームワークの向上やコミュニケーション能力を養う。 3 ダンスでは、グループメンバーで協力し、選曲、ダンスの構成をして、グループごとに発表会に参加することを目標とする。 4 ニュースポーツでは、生涯スポーツについて考える契機とする。運動やスポーツの多様な楽しみ方を社会で実践するための基礎を養う。 					
評価の方法					
<ol style="list-style-type: none"> 1 知識・技能・・・・・・・・学習の計画表、各種目の記録、実技テスト（種目による）など 2 思考・判断・表現・・・・・・・・振り返り、単元のまとめ、レポートなど 3 主体的に学習に取り組む態度・・・・・・・・授業中の取り組み、出欠席、見学（見学課題）など 上記の3つの観点から総合的に判断し、評価する。 					
学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）					
<ol style="list-style-type: none"> 1 種目選択では、バドミントン・テニス・卓球の中から、前期に1種目、後期に1種目選択する（前期に選択した種目を後期に再度選択することはできない）。また、学習の計画表を事前に作成し、期日までに提出すること。 2 グループの中で自分の役割を考え、その能力を最大限に発揮するとともに、グループのメンバーと協力して取り組むこと。 3 見学や公欠については、事前に届け出ること。 4 欠席や見学、公欠は補習に参加し、体力・技能の向上に努めること。 5 健康上の理由により補習に参加することが難しい場合は、レポートの課題を課す場合もある。 					
その他					
怪我や疾患により長期間の見学になる場合は、担当教員に相談すること。					

月	単元	学習目標
4月	体づくり運動 体育理論	【体づくり運動】基礎体力の維持・向上 【体育理論】豊かなスポーツライフの設計の仕方
5月	体づくり運動 種目選択 (バドミントン・テニス・卓球) ダンス 球技	【体づくり運動】基礎体力の維持・向上 【種目選択】グループ学習活動計画立案(個人技能の向上) 【ダンス】選曲とダンスの構成、発表会に参加・運営 【球技】作戦や状況に応じた技能、仲間と連携した動きを身に付ける
	前期中間考査	授業内評価
6月	種目選択 (バドミントン・テニス・卓球) ダンス 球技	【種目選択】グループ学習活動計画立案(集団の課題発見、集団技能の向上) 【ダンス】選曲とダンスの構成、発表会に参加・運営 【球技】作戦や状況に応じた技能、仲間と連携した動きを身に付ける
7・8月	種目選択 (バドミントン・テニス・卓球) ダンス 球技	【種目選択】グループ学習活動計画立案(トーナメント戦、リーグ戦の実施運営) 【ダンス】選曲とダンスの構成、発表会に参加・運営 【球技】作戦や状況に応じた技能、仲間と連携した動きを身に付ける
	前期期末考査	授業内評価
9月	種目選択 (バドミントン・テニス・卓球) ダンス 球技	【種目選択】グループ学習活動計画立案(トーナメント戦、リーグ戦の実施運営) 【ダンス】選曲とダンスの構成、発表会に参加・運営 【球技】作戦や状況に応じた技能、仲間と連携した動きを身に付ける
10月	種目選択 (バドミントン・テニス・卓球) 球技	【種目選択】グループ学習活動計画立案(集団の課題発見、集団技能の向上) 【ニュースポーツ】生涯にわたり運動する力を育成
11月	種目選択 (バドミントン・テニス・卓球) 球技 ニュースポーツ	【種目選択】グループ学習活動計画立案(トーナメント戦、リーグ戦の実施運営) 【ニュースポーツ】生涯にわたり運動する力を育成
	後期中間考査	授業内評価
12月	種目選択 (バドミントン・テニス・卓球) 球技 ニュースポーツ	【種目選択】グループ学習活動計画立案(トーナメント戦、リーグ戦の実施運営) 【ニュースポーツ】生涯にわたり運動する力を育成
1月	体育理論 1年間のまとめ	【体育理論】豊かなスポーツライフの設計の仕方
2月		
	学年末考査	
3月		

音楽科 学習指導計画

教科の目標		1 表現および鑑賞の幅広い活動を通して、生涯に渡り音楽を愛好する心情を育てる。 2 音楽に対する感性を豊かにし、更に高める。 3 音楽活動の諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う。 4 音楽文化についての理解を深める。		
学年	区分	区分の目標	学習内容	学習の特色
前期課程	第1学年	基礎学力養成期	《表現》 歌唱：声楽の基礎、混声三部合唱 器楽：アルトリコーダー楽、箏（器奏法の基礎、独奏、二重奏） 創作：簡単なリズム創作・旋律創作 《鑑賞》 西洋音楽：歌曲、管弦楽曲 日本とアジアの音楽：雅楽ほか 《楽典・聴音》 音楽通論の基礎	・発達段階に応じた合唱 ・雅楽鑑賞教室(宮内庁楽) ・合唱コンクール ・和楽器に親しむ ・和楽器への体系的な取り組み ・和楽器の基礎技能 ・楽典・聴音の知識を活かした創作
	第2学年		《表現》 歌唱：楽曲に応じた発声方法、混声三部合唱 器楽：アルトリコーダー、箏（楽器奏法の応用、二重奏） 《鑑賞》 西洋音楽：歌曲、管弦楽曲 日本や世界の郷土音楽 《楽典》 音楽通論の応用	・発達段階に応じた合唱 ・合唱コンクール ・和楽器に親しむ ・和楽器への体系的な取り組み ・和楽器の基礎技能
	第3学年	充実期	《表現》 歌唱：美しい発声法、混声四部合唱 器楽：アルトリコーダー、箏（楽器奏法の応用、三重奏） 《鑑賞》 西洋音楽：歌劇・管弦楽曲 日本音楽：歌舞伎 《楽典》 音楽通論の発展	・発達段階に応じた合唱 ・合唱コンクール ・箏曲創作 ・和楽器への体系的な取り組み ・歌舞伎鑑賞
後期課程	第4学年	感性を高め、音楽活動の幅を広げ、創造的に表現する能力と幅広く鑑賞する能力を伸ばす	歌唱：楽曲に応じた美しい発声法、ア・カペラ、混声四部合唱、世界の歌曲 器楽：ギター、箏、器楽アンサンブル 創作：リズム創作 鑑賞：歌劇、ミュージカル、近現代音楽日本伝統音楽	・混声合唱 ・独唱 ・器楽アンサンブル ・創作発表会

学 年	4 年	教科・科目 【講座名】	音楽 I	単位数 週の授業時数	2
--------	-----	----------------	------	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書 「MOUSA 1」 (教育芸術社)					
学習の目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1 音楽を愛好し、音や音楽に関心をもち、意欲的、主体的に音楽活動を行いその喜びを味わう。 2 感性を働かせて音楽の諸要素を知覚し、音楽の美しさを感じ取り、創造的な音楽活動をする。 3 自己のイメージをもち、創造的な表現をするための技能を身に付ける。 4 多様な音楽を理解し、その良さや美しさを創造的に味わう。 					
評価の方法					
<ol style="list-style-type: none"> 1 実技試験を兼ねた発表会 2 出席状況 3 提出物の提出状況及びその内容 4 授業内での小テスト 					
学習のアドバイス (授業への臨み方、予習や復習の方法)					
<p>〔授業への臨み方〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 毎時間の授業に全力で取り組んでください。選択科目なので、主体的かつ積極的に授業に臨み、常によりよい音楽を創り上げようとする気持ちを大切にしてください。 2 正しい発声法による、豊かな歌唱表現を目指してください。 3 ミュージックベル、ギターなど、様々な楽器を用いたアンサンブルを経験していきます。グループで意見を出し合い、自分たちで音楽を創る過程を大切にしてください。 4 発表の機会を通して生涯学習につながる音楽活動を目指します。意欲的に取り組むことはもちろん、聴いている人にも楽しんでいただける演奏を目指してください。 5 楽器は共用のものもあります。丁寧に扱しましょう。 6 忘れ物がないように、しっかりと持ち物の管理をしてください。 7 提出物は期日までに必ず提出をするようにしてください。 8 分からないことがあれば積極的に質問しましょう。 <p>〔復習について〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 題材ごとのプリント等は、きちんと管理し、復習に役立ててください。 2 授業で学ぶソルフェージュはより深い音楽表現に繋がります。家庭でも復習をしてください。 3 実技試験の前には、練習会を開きます。個人・グループ問わず、積極的に参加をしてください。 					
その他					
<p>前期課程で習得したことを基礎に、更に積極的に技能を高め、表現する楽しさや喜びを味わいましょう。そのために、より主体的に表現する気持ちを持ち参加していきましょう。また、表現においても、主体的に音楽を創り上げる気持ちで取り組んでください。</p>					

月	題材	学習目標
4月	オリエンテーション 歌唱：混声三部合唱 器楽：ギター①基本的な奏法	・基本的な発声を意識しながら、楽曲の表現意図を感じ取って合唱することができる。 ・ギターの基本的な奏法や楽譜の読み方を理解できる。
5月	歌唱：混声四部合唱 器楽：ギター②コードを使用した奏法	・混声四部合唱のハーモニーを感じ取り、周囲との調和やバランスに留意しながら合唱することができる。 ・ギターの簡単なコードを習得し、演奏することができる。
前期中間考査		
6月	歌唱：混声四部合唱 器楽：ギター③コード伴奏を用いた弾き歌い ⇒実技試験	・楽曲にふさわしい表現について考え、工夫して合唱することができる。 ・ギターの簡単なコードを習得し、歌唱と合わせて弾き歌いをすることができる。
7・8月	歌唱：混声四部合唱 ⇒実技試験 イタリア歌曲、日本歌曲の独唱 器楽：ミュージックベル	・独唱曲の各楽曲の特徴を感じ取り、それぞれの曲の良さを生かした表現を工夫できる。 ・合唱曲と独唱曲の違いに気付き、それぞれの良さを生かして歌唱することができる。
前期期末考査		
9月	歌唱：イタリア歌曲、日本歌曲の独唱 ⇒実技試験 器楽：ミュージックベル	・独唱曲の各楽曲の特徴を感じ取り、それぞれの曲の良さを生かした表現を工夫しながら、自分なりの表現で歌唱することができる。 ・ミュージックベルの基本的な奏法を理解し、演奏することができる。
10月	歌唱：混声四部合唱 器楽：ミュージックベル ⇒実技試験	・楽曲にふさわしい表現について考え、工夫して合唱することができる。 ・ミュージックベルの基本的な奏法を生かしながら、周囲と調和してアンサンブルをすることができる。
11月	創作：オルゴールづくり 器楽：箏	・様々な音階や和音をつかい、曲づくりを行う。 ・日本音楽特有のテンポや間、余韻を感じ、心を合わせて演奏する。
後期中間考査		
12月	歌唱：混声四部合唱 器楽：グループコンサートに向けての練習	・楽曲の特徴やフレーズの特徴を感じ取り、ふさわしい表現を工夫しながら合唱することができる。
1月	歌唱：混声四部合唱 学習発表会に向けて 器楽：グループコンサートに向けての練習	・楽曲の特徴やフレーズの特徴を感じ取り、ふさわしい表現を工夫し、周囲との調和やバランスに留意しながら合唱することができる。
2月	歌唱：混声四部合唱 学習発表会に向けて 器楽：グループコンサート	・楽曲にふさわしい奏法や表現を工夫して演奏することができる。 ・楽曲の特徴や良さを感知取って鑑賞することができる。
学年末考査		
3月	歌唱：混声四部合唱 ⇒実技試験	・楽曲の特徴やフレーズの特徴を感じ取り、ふさわしい表現を工夫し、周囲との調和やバランスに留意しながら合唱することができる。

美術科 学習指導計画

教科の目標		(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表す。 (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練り、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深める。 (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。		
学年	区分	区分の目標	学習内容	学習の特色
前期課程	第1学年	基礎学力養成期	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・文字のデザイン (デザイン) ・色彩の基礎知識 ・構成美の要素 ・自己紹介カード (絵画・デザイン) ・堆朱のキーホルダー (工芸) ・色彩構成 (絵画・デザイン) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ティームティーチングによる個に応じた学習指導 ・校内作品展示
	第2学年		<ul style="list-style-type: none"> ・色彩構成 (絵画・デザイン) ・ロゴマーク (デザイン) ・英国家具 (鑑賞) ・西洋美術史 (鑑賞) ・立体造形 (彫刻・鑑賞) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ティームティーチングによる個に応じた学習指導 ・学校行事との関連課題 ・校内作品展示
	第3学年	充実期	<ul style="list-style-type: none"> ・立体造形 (彫刻) ・日本の工芸作品 (鑑賞) ・沈金のお盆 (工芸) ・日本美術史 (鑑賞) ・透視図法を用いた絵画作品 (絵画) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ティームティーチングによる個に応じた学習指導 ・学校行事との関連課題 ・校内作品展示
後期課程	第4学年		<ul style="list-style-type: none"> ・「鉛筆画」 (絵画) ・「コラージュ」 (デザイン) ・Music Videoの制作 (映像表現) 	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた学習指導 ・学校行事との関連課題 ・校内作品展示

学年	4年	教科・科目 【講座名】	美術 I	単位数 週の授業時数	2
----	----	----------------	------	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書 「高校生の美術 I」 (日本文教出版)					
学習の目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1 さまざまな造形要素や材料の特性を理解し、目的や意図に合わせた表現方法を選択し表出する技能を身につける。また、今までに学んだ技法を用いて創造的な表現を迫及する態度を培う。 2 幅広い作品制作や鑑賞活動を通して、美術を愛好する心情を育てるとともに、自分の思いやイメージを具現化、言語化する能力を培う。 3 表現活動や他者との対話活動を通して、一人一人が「自分なりのものの見方」を追究し、粘り強く思考を広げていく態度を培う。 4 鑑賞活動を通して、作者の心情や意図、表現の工夫についての理解を深め、自身の考えを互いに伝えあう力を高める。 					
評価の方法					
<ol style="list-style-type: none"> 1 提出された作品、ワークシート、および制作過程の記録による評価 2 机間指導による評価 (グループワーク等での主体性および他者と関わる態度等) 3 毎授業のリフレクションシートによる評価 					
学習のアドバイス (授業への臨み方、予習や復習の方法)					
*授業への臨み方					
<ol style="list-style-type: none"> 1 絵画、デザイン、映像メディア表現を中心とした題材設定です。 2 主に作品制作を行います。鑑賞活動およびワークショップ (短時間で行う身体をつかった造形表現体験) 等の小単元も設定しています。楽しみつつメリハリをもって授業に臨んでください。 3 美術 I の授業では、「自分なりのものの見方をみつけよう。」という授業目標を設定しています。デッサンによるモノの観察、デザインによるコンセプト化、映像メディア表現によるオリジナル世界の構想等に伴って様々な思考力が求められます。その際、他者と比較するのではなく自分だけのモノ・コトへのアプローチ方法をみつけ、是非授業の中で深めていって欲しいと思います。 4 長期的に作品制作を行う単元が多いです。自分できちんと制作計画をたて、見通しをもって制作に臨むことが重要です。 					
*予習や復習の方法					
<ol style="list-style-type: none"> 1 表現に必要な基礎知識の解説や、表現の幅を広げ深めていくためのアドバイス等は授業中に適宜行っていきます。基本的に、活動前および活動中に解説を行います。活動後に teams にアップロードされた資料を見返したり、自分なりに表現方法を追究したりするなど、授業外での探求活動を積極的に行ってください。 2 スクラップブックおよびスケッチブック等として扱えるクロッキー帳を一人一冊配布します。自分の好きなように、自由に使ってかまいません。是非日頃から「美術の目」を働かせて物事を観察してください。 					
その他					

月	単元	学習目標
4月	オリエンテーション 「アートについて考えよう」 デッサン単元 「道具の扱い方を学ぼう」 「モチーフの基本形態をとらえよう」	「アートとはなにか」という問いに対し、自分なりの考えを言語化する。 鉛筆の削り方、H～B系の濃さの違い、練り消しの扱い方等デッサンに必要な基礎知識を学ぶ。 シンプルなモチーフをデッサンし、形態の特徴を捉える。
5月	デッサン単元 「ものの陰影を意識して描こう」 「質感の違いを意識して描こう」	光の方向や当たり方による陰影のできかたの違いを理解する。「陰」と「影」の違いを言語化できるようにする。 モチーフの質感を描き分ける。
前期中間考査		
6月	デッサン単元 「鉛筆による構成デッサンをしよう」 コラージュ 「構成における遠近法を知ろう」	デッサンにおける基礎知識を応用し、複数のモチーフを一つの画面上に構成し、数時間かけてデッサンを行う。 雑誌等の写真を切り貼りし、コラージュする。構成の美しさを理解する。
7・8月	漫画単元 「パラパラ漫画をつくろう」 「アニメーションの基礎を知ろう」	アニメーション（連続性を用いて、対象物を動かす技法）の基礎知識を学ぶ。 画角の工夫、全体構成のバランス、動きの滑らかさなどアニメーションに必要な知識を、制作を通して理解する。
前期期末考査		
9月	映像メディア単元 「ミュージックビデオを制作しよう」 (アニメーション及び映像) 「絵コンテを作成しよう」	絵コンテの役割やかき方等を理解し、見直しをもって制作計画をたてる。 映像編集ソフトの基礎的な名称や操作方法を理解する。 映像編集ソフトを使って、自分の表したい映像世界及びアニメーション世界を構想する。意図に合った表現方法について試行錯誤する。
10月	映像メディア単元 「動画およびアニメーションの素材を制作しよう」	各々の得意分野を生かした役割分担を行い、主体的および協働的に映像制作を行う。
11月	映像メディア単元 「テキストやエフェクトを挿入して、ミュージックビデオに深みをだそう」	
後期中間考査		
12・1月	デザイン単元 「オリジナルキャラクターをつくろう」 高校1年生である今の自分を、キャラクター化してみる。	自己分析を通して自分と対話する。 自分を客観的に捉えるとともに、他者に伝わる表現について考える。
2月	デザイン単元 「オリジナルキャラクターを他者に紹介しよう」	互いのキャラクターを見合い、友達が自分のことをどう見つめているのか考えることを通して、自分との向き合い方について考える。
学年末考査		
3月	1年間のまとめ 「アートについて考えよう」	1年間の美術の授業を振り返り、いま一度「アートとは何か」について考え言語化し、互いに学びを共有する。

※ 単元の順序および内容の詳細は変更する場合があります。

学 年	4 年	教科・科目 【講座名】	書道 I	単位数 週の授業時数	2
--------	-----	----------------	------	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書 「書 I」 (光村図書)					
学習の目標					
<p>【A：知識及び技能】書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>【B：思考力、判断力、表現力等】書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。</p> <p>【C：学びに向かう力、人間性等】主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>					
評価の方法					
<ol style="list-style-type: none"> 1 実技課題 (字形・線質・配列の三つの観点から、主な古典の臨書の出来栄を評価) 2 ワークシート、授業への取り組み、出席状況 3 1と2を総合的に評価します <p>※ 定期考査はありません</p>					
学習のアドバイス (授業への臨み方、予習や復習の方法)					
<ol style="list-style-type: none"> 1 授業では実技・鑑賞を行います。初回授業には書道用具一式と筆記用具を持参してください。 2 試験はありません。右ページ丸数字のついた課題の出来栄を中心 3 すべての課題について範書を行います。注意深く観察し、表現のヒントにしてください。 5 予習や復習はとくにありません。日頃から身の回りの書に興味関心を持ちましょう。 6 「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」3つのテーマで授業を展開します。 <p><漢字の書></p> <p>書体の変遷：書体の変遷は、時代背景や当時使われていた用具の影響を大きく受けています。実技とともに書の歴史や書の周辺に理解を深めましょう。</p> <p>楷書：常用漢字で馴染みのある「楷書」。この「楷書」の全盛期である中国の唐代の名筆、さらに北魏、日本の奈良時代の名筆からさまざまな書風を理解し表現しましょう。</p> <p>行書：実用書に便利であり、抑揚表現豊かな「行書」。文字の仕組みや運筆のリズムを書聖王羲之の名筆から学びます。</p> <p>隸書：中国後漢の正式書体「隸書」。現代では、その造形美が紙幣や新聞タイトルのデザインに生きています。逆筆や波磔といった隸書独特の用筆を学びましょう。</p> <p>篆書：文字の歴史で最も古い「篆書」。中でも秦の始皇帝が正式な書体として定めた「小篆」から篆書を学びます。</p> <p>草書：平仮名と密接に関わる「草書」。正しく知り美しい平仮名を書く手掛かりにしましょう。</p> <p><仮名の書></p> <p>仮名の変遷：日本独自の伝統文化である「仮名」。学習した漢字の書との関わり、平仮名と変体仮名の関係について理解し表現しましょう。</p> <p>仮名の書：用具や線の表現方法、構成を知り、平安古筆の名品から日本の美を学びましょう。</p> <p><漢字仮名交じりの書></p> <p>創作：学習してきた漢字と仮名を調和させ書作品を仕上げる。</p>					
その他					
筆、硯、文鎮については各自で高等学校芸術科書道の学習に相応しい用具を用意してください。詳細は初回授業にて解説します。仮名の教材には費用がかかります。					

月	単元	学習目標
4月	<ul style="list-style-type: none"> ● [初回ガイダンス] 書写から書道へ ● 楷書の古典に学ぼう ① 虞世南「孔子廟堂碑」 ② 欧陽詢「九成宮醴泉銘」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年次までの書写の学習を振り返り、書写と書道の共通点と相違点を理解する。 ・ 古典のもつ趣きや拓本について理解を深める。
5月	<ul style="list-style-type: none"> ③ 褚遂良「雁塔聖教序」 ④ 顔真卿「顔氏家廟碑」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ さまざまな楷書古典の臨書学習により、基本的な点画や線質の表し方、用筆法・運筆法を学ぶ。 ・ 唐時代の歴史を知り、初唐の三大家と太宗との関係について理解を深める。
前期中間考査		
6月	<ul style="list-style-type: none"> ● 多様な楷書の古典に親しもう ① 写経・牛欄造像記 ② 硬筆による楷書の古典の臨書 ● 漢字仮名交じりの書の変遷 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 祈りの心と書の関係について理解を深める。 ・ 漢字と仮名を交えた日本語表記の歴史を理解し、テーマとなった言葉を工夫して表現する。
7・8月	<ul style="list-style-type: none"> ● 対話型鑑賞 ● 双鉤填墨にチャレンジしよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対話型鑑賞や双鉤填墨を通して様々な書の表現にふれ、感じたことや連想したことを自分の言葉で表現し、友人と共有したり、自身の制作の参考としたりする。
前期期末考査		
9月	<ul style="list-style-type: none"> ● 行書・草書の古典に学ぼう ① 王羲之「集王聖教序」 ② 王羲之「蘭亭序」 ③ 空海「風信帖」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ さまざまな行書古典の臨書学習により、基本的な点画や船室の表し方、用筆法・運筆法を学ぶ。 ・ 王羲之と「蘭亭序」について理解を深める。
10月	<ul style="list-style-type: none"> ● 多様な行書・草書の古典に親しもう ● 硬筆による行書・草書の古典の臨書 ● 多様な隷書・篆書の古典に親しもう ● 毛筆による隷書・篆書の古典の臨書 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 蘇軾・黄庭堅・米芾の書、智永と「真草千字文」を知る。 ・ 身の回りにある草書に気づき、その効果について考える。 ・ 篆書（甲骨・金文・小篆）、隷書（木簡・碑）にみる隷書の表現に親しむ。
11月	<ul style="list-style-type: none"> ● 仮名の書の古典に学ぼう ① 平仮名と変体仮名 A ② 平仮名と変体仮名 B ③ 平仮名と変体仮名 C ④ 連綿 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仮名の成立と変遷、種類について理解する。 ・ 仮名の用具・用材と姿勢や執筆法を理解し、基本用筆を学ぶ。
後期中間考査		
12月	<ul style="list-style-type: none"> ⑤ 伝藤原行成「蓬萊切」 ⑥ 伝紀貫之「高野切第三種」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仮名の書の特徴を、平安時代の古筆の表現に学ぶ。
1月	● 篆刻にチャレンジしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの学習を活かした制作（書道が関わる表現）を通して、自由に表現する喜びを味わい、友人の作品を鑑賞し、感じたことを自分の言葉でまとめて意見交換する。
2月	● 自由制作	
学年末考査		
3月	● 自由制作・合評会	

英語科 学習指導計画

教科の目標		<p>1 4技能の力をバランスよく身に付け、英語を使ってさまざまなコミュニケーションをとることができる。</p> <p>2 英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。</p> <p>3 興味をもっていることや勉強を深めたい分野について英語を媒介として独学することができる。</p> <p>4 大学入試で進路実現が可能な学力を身に付ける。</p>			
学年	区分	区分の目標	学習内容	学習の特色	
前期課程	第1学年	基礎学力養成期	英語の学習に慣れる。 基礎的な知識や技能を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・フォニックス（文字と音） ・基本的な文法事項（人称代名詞、疑問詞疑問文、canなどの助動詞、進行形、過去形、三人称単数現在形など） ・基礎的な4技能5領域の力 	【学習内容】 教科書の内容を発展させたスキットを演じたり、教科書の内容を元に物語を作成し演じたりする。 【形態】 習熟の程度を考慮した少人数展開授業を基本とする。
	第2学年		<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な文法事項（SVOOやSVOCなどの句型、未来表現、助動詞、動名詞、接続詞、現在完了、受動態など） ・基本的な4技能5領域の力 	【学習内容】 教科書の内容を自分の言葉で説明する。 【形態】 習熟の程度を考慮した少人数展開授業を基本とする。	
	第3学年	充実期	英語の学習を広げる。 英語に関することに挑戦する。	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な文法事項（分詞、関係代名詞、間接疑問文、It is ... to～の構文、仮定法など） ・意思疎通のできる基本的な4技能5領域の力 	【学習内容】 教科書の内容を端的にまとめ、自分の言葉で説明する。高校1年生レベルの多読や文法を学ぶ。 【形態】 習熟の程度を考慮した少人数展開授業を基本とし、一部の授業において習熟度別の少人数展開授業を実施する。
後期課程	第4学年	発展期	英語の学習を深める。 英語を使って様々なことを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・英語コミュニケーションⅠ(ECⅠ) ・論理表現Ⅰ(LEⅠ) ・文法事項（後置修飾、過去完了、仮定法、比較など） ・意思疎通のできる基本的な4技能5領域の力 	【学習内容】 様々なジャンルの文章を読んで、意見や感想を述べる。 【形態】 ECⅠは習熟の程度を考慮した少人数展開授業を基本とし、LEⅠは習熟度別の少人数展開授業を実施する。
	第5学年		<ul style="list-style-type: none"> ・英語コミュニケーションⅡ(ECⅡ) ・論理表現Ⅱ(LEⅡ) ・文法事項（倒置、挿入、特別な構文など） ・意思疎通が十分にできる4技能5領域の力 	【学習内容】 ディベートやディスカッションに取り組む。 【形態】 ECⅡは習熟の程度を考慮した少人数展開授業を基本とし、LEⅡは習熟度別の少人数展開授業を実施する。	
	第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・英語コミュニケーションⅢ(ECⅢ) ・論理表現Ⅲ(LEⅢ) ・意思疎通が十分にできる高度な4技能5領域の力 ・大学入試問題に対応する力 	【学習内容】 英字新聞や雑誌、論文などを読み、自分の意見を書く。 【形態】 習熟度別の少人数展開授業を基本とする。		

学年	4年	教科・科目 【講座名】	英語コミュニケーションⅠ	単位数 週の授業時数	3
----	----	----------------	--------------	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書 「ELEMENT English Communication I」 (啓林館) 補助教材 「ELEMENT ワークブック アドバンスト」 (啓林館) 「総合英語 Evergreen」 (いいずな書店) ※継続使用 「総合英語 Evergreen English Grammar 30 Lessons Workbook」 (いいずな書店) 単語帳					
学習の目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1 音声や語彙, 表現, 文法, 言語の働きなどの理解を深めるとともに, これらの知識を, 実際のコミュニケーションにおいて, 目的や場面, 状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付ける。 2 日常的, 社会的な話題について, 情報や考えなどの概要や要点, 詳細, 話し手や書き手の意図などを的確に理解したり, これらを活用して適切に表現したり伝え合う力を養う。 3 背景にある文化に対する理解を深め, 聞き手, 読み手, 話し手, 書き手に配慮しながら, 主体的, 自律的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 					
評価の方法					
<ol style="list-style-type: none"> 1 定期考査【知識・技能】【思考・判断・表現】 2 スピーチ, プレゼンテーション, などの発表【思考・判断・表現】 3 ライティングテスト・リスニングテスト・パフォーマンステストなど【知識・技能】【思考・判断・表現】 4 家庭学習課題, 授業における活動の観察【主体的に学習に取り組む態度】 					
学習のアドバイス (授業への臨み方, 予習や復習の方法)					
<ol style="list-style-type: none"> 1 KUDAN CAN-DO リストの学習到達目標を達成するための言語活動を行う。 →教科書の本文を基本として, スピーチ, プレゼンテーションなどの言語活動 (コミュニケーション活動) を授業の中で多く取り入れている。その基本になる音読練習では, 教科書のモデル文を何度も聞きながら, くり返し音読練習をする。また, クラスメイトの良い表現を見て, お互いに学び合い, 高め合う。 2 文法, 語彙, 発音などの学習活動と言語活動をバランスよく行う。 →授業で学んだ文法事項や語彙などは, 目, 耳, 声, 手を使って何度もふれる努力をする。 3 授業内での教え合い活動や答案相互チェックなどを通じて, 知識を深めていく。 →積極的に話し合い等に参加する。 4 既習の言語材料を総合的に使用しながら, 自己表現活動を行う。 →習ったことはすぐに取り入れ, 繰り返し使う。そうすることで, 学習したことが自然と定着し, 表現の幅も広がる。 5 インプットだけでは英語力は高まらない。アウトプット活動を重視した学習を通じて総合的な英語力の向上に努める。 6 わからないことがあったらすぐに先生に聞くのではなく, まずは参考書や辞書を利用して自身で調べる習慣を身に付ける。それでもわからなければ, 友人に尋ねるなどして解決するように心がける。 <p>(予習や復習の方法) 原則, 予習をする必要はありません。しかし, 復習を行わなければ学習内容は定着しません。後期課程生用 5 Steps に準じて, 教科書の音読, 音読筆写, ワークブックによる言語材料の復習を中心に家庭学習を行ってください。</p>					
その他					
<ol style="list-style-type: none"> 1 教科書音読, 音読筆写, 多読を中心とした家庭学習で徹底的に復習する習慣をつける。 2 TEP CUP (東京都高等学校英語プレゼンテーション) への参加, 実用英語技能検定 (2級, 準1級) など, 教科以外の学習を自主的に行う。 					

月	単元	標準的な学習目標	発展的な学習目標
4月	Lesson 1: Intercultural Relationships	<ul style="list-style-type: none"> 英語特有のリズム・イントネーションを聞き、発話を理解できる。 物語文を読んで概要と要点を理解することができる。 自分のことについて伝え合える。 自己紹介メールを書ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の生徒の発表に対して、即興的に感想を言うことができる。
5月	Lesson 2: Love beyond Species	<ul style="list-style-type: none"> つながりやすい音や変化しやすい音を聞き分けられる。 物語文を読んで概要と要点を理解することができる。 設定された場面で質疑応答できる。 ストーリーレポートができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文の内容に自分の考えを付け加えて発表することができる。
6月	Lesson 3: Contributing to Our Planet	<ul style="list-style-type: none"> 消える音や弱くなる音を聞き分けられる。 物語文を読んで概要と要点を理解することができる。 意見・理由を伝え合うことができる。 勧誘するメール文を書ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文の内容に自分の考えを付け加えて発表することができる。
	Further Reading 1 : Toward Sustainable Development Goals	<ul style="list-style-type: none"> スピーチを読みながら、情報を事実と意見に整理することができる。 	
7・8月	Communication in Practice 1	<ul style="list-style-type: none"> パンフレットを読んで、必要な情報を読み取り、話し合うことができる。 SNSに投稿する感想が書ける。 	
前期期末考査			
9月	Lesson 4: Messages for World Peace	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶や指示を理解できる。 説明文を読んで概要と要点を理解することができる。 社会的な事柄について自分の考えや気持ちを伝えることができる。 意見文を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文の内容に対して、準備せずにディスカッションをすることができる。
10月	Lesson 5: Respecting Each Other	<ul style="list-style-type: none"> 会話や説明を理解できる。 物語文を読んで概要と要点を理解することができる。 気持ちを伝え、質疑応答できる。 意見や感想を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文の内容についてイラスト等を使い、即興で説明することができる。
11月	Lesson 6: Language and Culture	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な情報を聞き取れる。 説明文を読んで概要と要点を理解することができる。 自分の興味について伝え合える。 説明文を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文の内容に自分の考えを付け加えて発表することができる。
後期中間考査			
12月	Further Reading 2: Pictures without Shadows	<ul style="list-style-type: none"> エッセイを読んで概要と要点を理解することができる。 	
	Communication in Practice 2: Taking Part in International Volunteer Work	<ul style="list-style-type: none"> インターネット広告から必要な情報を読み取ることができる。 社会的な事柄について意見を伝え合える。 	
1月	Lesson 7: Technology and Discoveries	<ul style="list-style-type: none"> アナウンスから情報を理解できる。 説明文を読んで概要と要点を理解することができる。 身近で社会的な事柄について意見交換ができる。 説明文を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 電子書籍より紙の書籍を好む理由を対比しながら書くことができる。
2月	Lesson 8: Standing Up for Human Rights	<ul style="list-style-type: none"> 会話文を聞いて概要を理解できる。 説明文を読んで概要と要点を理解することができる。 時系列に沿って説明文を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的な事柄について、短い英文や簡単な表現をつなげて即興で発表できる。
学年末考査			
3月	Communication in Practice 3: Looking for an Apartment for Studying Abroad	<ul style="list-style-type: none"> インターネット広告から必要な情報を読み取ることができる。 身近な事柄について意見を伝え合うことができる。 必要な情報や質問が書ける。 	

学年	4年	教科・科目 【講座名】	論理・表現 I	単位数 週の授業時数	2
----	----	----------------	---------	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書「EARTHRISE English Logic and Expression I Advanced」(数研出版)					
補助教材「総合英語 Evergreen」(いいずな書店) ※継続使用					
「総合英語 Evergreen English Grammar 30 Lessons Workbook」(いいずな書店)					
単語帳					
学習の目標					
1 音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深め、これらの知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付ける。					
2 日常的、社会的な話題について、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合う力を養う。					
3 背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。					
4 KUDAN CAN-DO リストの学習到達目標を達成する。					
評価の方法					
1 定期考査【知識・技能】 【思考・判断・表現】					
2 スピーチ、プレゼンテーションなどの発表【思考・判断・表現】					
3 ライティング、リスニング、パフォーマンスなどのテスト【知識・技能】 【思考・判断・表現】					
4 家庭学習課題、授業における活動の観察【主体的に学習に取り組む態度】					
学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）					
1 ライティング、スピーチ、プレゼンテーションなどの言語活動（コミュニケーション活動）を授業の中で多く取り入れている。お互いに学び合い、高め合う。					
2 授業で学んだ文法事項や語彙などは、目、耳、声、手を使って何度もふれる努力をする。					
3 積極的に話し合い等に参加する。					
4 習ったことはすぐに取り入れ、繰り返し使うこと。学習したことが定着し表現の幅も広がる。					
5 アウトプット活動を重視した学習を通じて総合的な英語力の向上に努める。					
6 分からないことがあれば、まずは参考書や辞書を利用して自身で調べる習慣を身に付ける。					
その他					
1 KUDAN CAN-DO リストの学習到達目標を達成するための言語活動を行う。 →教科書の本文を基本として、スピーチ、プレゼンテーションなどの言語活動（コミュニケーション活動）を授業の中で多く取り入れている。その基本になる音読練習では、教科書のモデル文を何度も聞きながら、くり返し音読練習をする。また、クラスメイトの良い発表を見て、お互いに学び合い、高め合う。					
2 文法、語彙、発音などの学習活動と言語活動をバランスよく行う。 →授業で学んだ文法事項や語彙などは、目、耳、声、手を使って何度もふれる努力をする。					
3 授業内での教え合い活動や答案相互チェックなどを通じて、知識を深めていく。 →積極的に話し合い等に参加する。					
4 既習の言語材料を総合的に使用しながら、自己表現活動を行う。 →習ったことはすぐに取り入れ、繰り返し使うこと。そうすることで、学習したことが自然と定着し、表現の幅も広がる。					
5 インプットだけでは英語力は高まらない。アウトプット活動を重視した学習を通じて総合的な英語力の向上に努める。					
6 わからないことがあったらすぐに先生に聞くのではなく、まずは参考書や辞書を利用して自身で調べる習慣を身に付ける。それでもわからなければ、先生・友人に尋ねるなどして解決するように心がける。					
(予習や復習の方法)					
原則、予習をする必要はありません。しかし、復習を行わなければ学習内容は定着しません。復習を中心に家庭学習を行ってください。					

月	単元	学習目標
4月	L1 Introduce yourself to your class L2 How do you spend your weekends?	L1～L6 の学習目標 <ul style="list-style-type: none"> ・取り上げた文法事項を用いて、自分の考えをパートナーと伝え合うことやロールプレイをすることができる。 ・約 60 秒で適切にプレゼンテーションをすることができる。 ・約 50 語で、ブログやメールを書くことができる。
5月	L3 Where did you go on vacation? L4 How can I get there?	
	前期中間考査	
6月	L5 Would you like to come with me?	
7・8月	L6 Something really Japanese L7 Do you do any volunteer activities?	
	前期期末考査	
9月	L7 Do you do any volunteer activities? L8 Let's enjoy school life! L9 Are you eco-friendly?	L7～L12 の学習目標 <ul style="list-style-type: none"> ・取り上げた文法事項を用いて、情報をパートナーと伝え合うことやロールプレイをすることができる。 ・約 90 秒で適切にプレゼンテーションをすることができる。 ・約 80 語で、スピーチ原稿やレポートを書くことができる。
10月	L9 Are you eco-friendly? L10 What sports do you like?	
11月	L10 What sports do you like? L11 That's new to me!	
	後期中間考査	
12月	L11 That's new to me! L12 Which Nobel Prize winner do you admire most?	
1月	L12 Which Nobel Prize winner do you admire most? L13 I'm interested in history	
2月	L13 I'm interested in history L14 Various countries around the world	L13～L15 の学習目標 <ul style="list-style-type: none"> ・取り上げた文法事項を用いて、情報をパートナーと伝え合うことができる。 ・約 120 秒で適切にプレゼンテーションをすることができる。 ・約 100 語で、レビューやレポート、自分のプロフィールを書くことができる。
	学年末考査	
3月	L14 Various countries around the world L15 What job are you interested in?	

学年	5年	教科・科目 【講座名】	英語コミュニケーションⅡ	単位数 週の授業時数	4
----	----	----------------	--------------	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書 「ELEMENT English Communication Ⅱ」 (啓林館)					
補助教材 「ELEMENT WORKBOOK ADVANCED」 (啓林館)					
単語帳					
「総合英語 Evergreen」 (いいずな書店)					
学習の目標					
1 音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付ける。					
2 日常的、社会的な話題について、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合う力を養う。					
3 背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。					
評価の方法					
1 定期考査【知識・技能】 【思考・判断・表現】					
2 スピーチ、リテリングなどの発表【思考・判断・表現】					
3 ライティングテスト・リスニングテスト・パフォーマンステストなど【知識・技能】 【思考・判断・表現】					
4 家庭学習課題、授業における活動の観察【主体的に学習に取り組む態度】					
学習のアドバイス (授業への臨み方、予習や復習の方法)					
1 KUDAN CAN-DO リストの学習到達目標を達成するための言語活動を行う。 →教科書の本文を基本として、スピーチ、プレゼンテーションなどの言語活動(コミュニケーション活動)を授業の中で多く取り入れている。その基本になる音読練習では、教科書のモデル文を何度も聞きながら、くり返し音読練習をすること。また、クラスメイトの良い発表を見て、お互いに学び合い、高め合うこと。					
2 文法、語彙、発音などの学習活動と言語活動をバランスよく行う。 →授業で学んだ文法事項や語彙などは、目、耳、声、手を使って何度もふれる努力をすること。					
3 授業内での教え合い活動や答案相互チェックなどを通じて、知識を深めていく。 →積極的に話し合い等に参加すること。					
4 既習の言語材料を総合的に使用しながら、自己表現活動を行う。 →習ったことはすぐに取り入れ、繰り返し使うこと。そうすることで、学習したことが自然と定着し、表現の幅も広がる。					
5 インプットだけでは英語力は高まらない。アウトプット活動を重視した学習を通じて総合的な英語力の向上に努めること。					
6 わからないことがあったらすぐに先生に聞くのではなく、まずは参考書や辞書を利用して自身で調べる習慣を身に付けること。それでもわからなければ、友人に尋ねるなどして解決するように心がけること。					
(予習や復習の方法)					
各 Lesson の冒頭は予習が必要です。それ以降は後期課程生用 7 Steps に準じて、教科書の音読、ワークブックによる言語材料の復習を中心に家庭学習を行います。					
その他					
・ 授業以外でも自ら学ぶ姿勢が大切である。学校で推奨している NHK 語学番組の視聴や、洋書の講読、ニュース記事・映像や映画を見たりするなど、アプリ等も利用して様々な英語に触れる機会を増やしてほしい。					

月	単元	標準的な学習目標	発展的な学習目標
4月	Lesson 1: Cultures around the World	<ul style="list-style-type: none"> 異なる文化を持つ人同士の会話の概要・詳細を聞き取ることができる。 文化の違いについての説明文を読み、リテリングを行うことができる。 日本の習慣について質問したり答えたりできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 異文化交流について書くことができる。
5月	Lesson 2: Power of Words	<ul style="list-style-type: none"> 身近な事柄についての会話を聞き、詳細を聞き取ることができる。 将来になりたい職業などについてのスピーチを聞きリテリングを行うことができる。 設定された場面で質疑応答できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文の内容に自分の考えを付け加えて発表することができる。
6月	Lesson 3: Preconception	<ul style="list-style-type: none"> 社会的な事柄について、情報を事実と意見に整理することができる。 ジェンダーについての説明文を読みリテリングを行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文の内容に自分の考えを付け加えて発表することができる。
	Further Reading 1 : The True Story of the Bear behind Winnie-the-Pooh	<ul style="list-style-type: none"> 短い物語文を読みながら、概要や詳細を理解することができる。 	
7・8月	Communication in Practice 1: International Days of Happiness	<ul style="list-style-type: none"> 社会的な事柄について、自分の意見を伝え合うことができる。 	
前期期末考査			
9月	Lesson 4: The Century of War	<ul style="list-style-type: none"> 短い物語文を読んで、詳細を理解したり行間を読んだりすることができる。 戦争に関する物語を読みリテリングを行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> グラフや図表を読み取りながら意見を交換することができる。
10月	Lesson 5: How Our Minds Work	<ul style="list-style-type: none"> 社会的な事柄についての説明文を読んで、構成を把握したり情報を事実と意見に整理することができる。 人間の心理と行動についての説明文を読みリテリングを行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な事柄について即興で説明することができる。
11月	Lesson 6: IT and Life	<ul style="list-style-type: none"> 短い物語文を読んで、概要や詳細を理解したり、行間を読んだりすることができる。 一人の青年についての物語文を読みリテリングを行うことができる。 オンライン授業の是非について自分の考えを書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文の内容に自分の考えを付け加えて発表することができる。
後期中間考査			
12月	Further Reading 2: Miss Moore Thought Otherwise	<ul style="list-style-type: none"> 短い物語文を読んで、概要や詳細を理解することができる。 	
	Communication in Practice 2: Asking for Opinions on Social Media	<ul style="list-style-type: none"> 身近で社会的な事柄について、あまり準備をしなくても④自分の意見を伝え合うことができる。 	
1月	Lesson 7: Advances in Medical Technology	<ul style="list-style-type: none"> 説明文を読んで、構成を把握したり、情報を事実と意見に整理することができる。 医療技術の進歩と発展についての説明文を読みリテリングを行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> グラフや表を参考に、簡単な語句や表現を使って、自分の考えを書くことができる。
2月	Lesson 8: A Tiny Step, a Big Impact	<ul style="list-style-type: none"> 会話文を聞いて、出来事の順番を理解することができる。 技術革新についての説明文を読みリテリングを行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的な事柄について、短い英文や簡単な表現をつなげて即興で発表できる。
学年末考査			
3月	Communication in Practice 3: Visiting a Space Center	<ul style="list-style-type: none"> 話し合った内容について、要点を伝えることができる。 	

学年	5年	教科・科目 【講座名】	論理・表現Ⅱ 【発展クラス】	単位数 週の授業時数	2
----	----	----------------	-------------------	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書 「EARTHRISE English Logic and Expression II Advanced」 (数研)					
補助教材 「総合英語 Evergreen」 (いわずな書店) ※継続使用					
「CLIL 英語で培う文化間意識」 (三修社)					
単語帳					
「4th Edition Vintage 英文法・語法」 (いわずな書店)					
学習の目標					
1 音声や語彙, 表現, 文法, 言語の働きなどの理解を深め, これらの知識を, 実際のコミュニケーションにおいて, 目的や場面, 状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付ける。					
2 日常的, 社会的な話題について, 情報や考えなどの概要や要点, 詳細, 話し手や書き手の意図などを的確に理解したり, これらを活用して適切に表現したり伝え合う力を養う。					
3 背景にある文化に対する理解を深め, 聞き手, 読み手, 話し手, 書き手に配慮しながら, 主体的, 自律的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。					
4 KUDAN CAN-DO リストの Grade 5、Grade 6 の一部の学習到達目標を達成する。					
5 自分とは異なる文化の視点・考え・意識を学ぶことで, 高い思考力と寛容な姿勢を身につける。					
評価の方法					
1 定期考査【知識・技能】 【思考・判断・表現】					
2 スピーチ、ディベート、プレゼンテーションなどの発表【思考・判断・表現】					
3 ライティング、パフォーマンスなどのテスト【知識・技能】 【思考・判断・表現】					
4 家庭学習課題、授業における活動の観察【主体的に学習に取り組む態度】					
学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）					
1 KUDAN CAN-DO リストの学習到達目標を達成するための言語活動を行う。 →教科書の題材を元に、スピーチ、プレゼンテーション、ディベートといった言語活動を授業の中で多く取り入れている。英語での発信活動に積極的に取り組むとともに、クラスメイトの各発表から新しい知識・思考を学び、互いに高め合う。					
2 論理的な文章展開や、聞き手や読み手を意識した表現の方法を学習し、まとまりのある英文を書く。基本的な文法に加え、複雑な文法も用いて正しく書ける力を身に付けていく。					
3 既習の言語材料を総合的に使用しながら、自己表現活動を行う。 →習ったことはすぐに取り入れ、繰り返し使うこと。そうすることで、学習したことが自然と定着し、表現の幅も広がる。					
4 日常的に単語帳を用いて学ぶことで幅広い語彙を獲得し、書く・話す表現活動に表出する。					
5 インプットとアウトプット活動を組み合わせた学習を通じて、総合的な英語力の向上に努める。					
その他					
・英語に留まらず、自分の生活圏以外のニュース記事や本を読む。ニュース映像や映画を見るなどして、授業以外でも主体的に学ぶ姿勢を持つ。					
・本国とそれ以外の国の記事から、自分の身の回りの物事を異なる視点でも理解できる視野を養う。					

月	単元	学習目標
4月	(Part 1) L1 Have you ever experienced any cultural differences?	Part 1 の学習目標 <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや情報を Basic Expressions を参考に表現し、パートナーと伝え合うことができる。 自分の意見を分かりやすくまとめ、1～2分で適切にプレゼンテーションをすることができる。 Basic Expressions を参考に表現し、約80語で、各種申し込みフォームや買い物、本、映画などのレビューを書くことができる。
5月	L2 Where do you usually buy things? L3 International events and cultural exchange Unit1 Develop Your Intercultural Awareness	
	前期中間考査	
6月	L4 How have you been lately? L5 How do you watch movies and things? Unit2 Understand Intercultural Diversity in Peoples and Places Unit3 Be a Good Consumer	Part 2 の学習目標 <ul style="list-style-type: none"> Functional Expressions の表現を使い、自分の考えや情報をパートナーと伝え合うことができる。 自分の意見を分かりやすくまとめ、2分程度で適切にプレゼンテーションをすることができる。 Functional Expressions の表現を使って約120 - 150語で、スピーチ原稿や意見文を書くことができる。
7・8月	(Part 2) L1 Make life better Unit4 Learn about Food, Culture and Society	
	前期期末考査	
9月	L2 Good eating habits L3 Visiting a new place Unit5 Have Better Lifestyles in Different Cultures	Part 3 の学習目標 <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや情報を具体例や利点・欠点、理由などとともにパートナーと伝え合うことができる。 自分の意見を分かりやすくまとめ、1～2分で適切にプレゼンテーションをすることができる。 適切なつなぎ表現を使って、100~150語で文章を書くことができる。
10月	L4 Where would you like to live in the future? L5 Which candidate is the right person? Unit6 Be an Intercultural Traveler	
	後期中間考査	
11月	(Part 3) L1 Advertising a language school L2 Inventions and discoveries Unit8 Study the Education System Unit9 Appreciate the Arts	Part 3 の学習目標 <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや情報を具体例や利点・欠点、理由などとともにパートナーと伝え合うことができる。 自分の意見を分かりやすくまとめ、1～2分で適切にプレゼンテーションをすることができる。 適切なつなぎ表現を使って、100~150語で文章を書くことができる。
12月	L3 How people use their smartphones Unit10 See the Potential of Artificial Intelligence	
1月	L4 Our accommodation in Okinawa Unit13 Pray for No More Wars and Just Peace	
2月	L4 Our accommodation in Okinawa Unit14 Address Immigration Issues	
	学年末考査	
3月	L5 Getting ready for high school exams Unit15 Engage a Lot More in Globalization	

学年	5年	教科・科目 【講座名】	論理・表現Ⅱ 【標準クラス】	単位数 週の授業時数	2
----	----	----------------	-------------------	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書「EARTHRISE English Logic and Expression II Advanced」(数研) 「総合英語 Evergreen」English Grammar 30 lessons 補助教材「総合英語 Evergreen」(いいずな書店)※継続使用 単語帳 「4th Edition Vintage 英文法・語法」(いいずな書店)					
学習の目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1 音声や語彙, 表現, 文法, 言語の働きなどの理解を深め, これらの知識を, 実際のコミュニケーションにおいて, 目的や場面, 状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付ける。 2 日常的, 社会的な話題について, 情報や考えなどの概要や要点, 詳細, 話し手や書き手の意図などを的確に理解したり, これらを活用して適切に表現したり伝え合う力を養う。 3 背景にある文化に対する理解を深め, 聞き手, 読み手, 話し手, 書き手に配慮しながら, 主体的, 自律的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 4 KUDAN CAN-DO リストの Grade 5 の学習到達目標を達成する。 					
評価の方法					
<ol style="list-style-type: none"> 1 定期考査【知識・技能】 【思考・判断・表現】 2 スピーチ, ディベート, プレゼンテーションなどの発表【思考・判断・表現】 3 ライティング, パフォーマンスなどのテスト【知識・技能】 【思考・判断・表現】 4 家庭学習課題, 授業における活動の観察【主体的に学習に取り組む態度】 					
学習のアドバイス (授業への臨み方, 予習や復習の方法)					
<ol style="list-style-type: none"> 1 KUDAN CAN-DO リストの学習到達目標を達成するための言語活動を行う。 →教科書の題材を元に, スピーチ, プレゼンテーション, ディベートといった言語活動を授業の中で多く取り入れている。英語での発信活動に積極的に取り組むとともに, クラスメイトの各発表から新しい知識・思考を学び, 互いに高め合う。 2 論理的な文章展開や, 聞き手や読み手を意識した表現の方法を学習し, まとまりのある英文を書く。基本的な文法に加え, 複雑な文法も用いて正しく書ける力を身に付けていく。 3 既習の言語材料を総合的に使用しながら, 自己表現活動を行う。 →習ったことはすぐに取り入れ, 繰り返し使うこと。そうすることで, 学習したことが自然と定着し, 表現の幅も広がる。 4 日常的に単語帳を用いて学ぶことで幅広い語彙を獲得し, 書く・話す表現活動に表出する。 5 インプットとアウトプット活動を組み合わせた学習を通じて, 総合的な英語力の向上に努める。 6 わからないことをそのままにせず, 参考書や辞書を利用して自身で調べる習慣を身に付ける。それでもわからなければ, クラスメイトや教員に自分から質問し, すぐに解決するよう努力する。 					
その他					
<ul style="list-style-type: none"> ・英語に留まらず, 自分の生活圏以外のニュース記事や本を読む。ニュース映像や映画を見るなどして, 授業以外でも主体的に学ぶ姿勢を持つ。 ・本国とそれ以外の国の記事から, 自分の身の回りの物事を異なる視点でも理解できる力を養う。 ・反復学習で定着と, 正しい英語運用を図る。 					

月	単元	学習目標
4月	(Part 1) L1 Have you ever experienced any cultural differences?	Part 1 の学習目標 ・自分の考えや情報を Basic Expressions を参考に表現し、パートナーと伝え合うことができる。 ・約 40 秒で適切にプレゼンテーションをすることができる。
5月	L2 Where do you usually buy things? L3 International events and cultural exchange	
	前期中間考査	
6月	L4 How have you been lately? L5 How do you watch movies and things?	・Basic Expressions を参考に表現し、約 80 語で、各種申し込みフォームや買い物、本、映画などのレビューを書くことができる。
7・8月	(Part 2) L1 Make life better	Part 2 の学習目標 ・Functional Expressions の表現を使い、自分の考えや情報をパートナーと伝え合うことができる。 ・約 40 秒で適切にプレゼンテーションをすることができる。 ・Functional Expressions の表現を使って約 90 語で、スピーチ原稿や意見文を書くことができる。
	前期期末考査	
9月	L2 Good eating habits L3 Visiting a new place	
10月	L4 Where would you like to live in the future? L5 Which candidate is the right person?	
11月	(Part 3) L1 Advertising a language school L2 Inventions and discoveries	Part 3 の学習目標 ・自分の考えや情報を具体例や利点・欠点、理由などとともにパートナーと伝え合うことができる。 ・約 1 分で適切にプレゼンテーションをすることができる。 ・適切なつなぎ表現を使って、約 100 語で文章を書くことができる。
	後期中間考査	
12月	L3 How people use their smartphones	
1月	L4 Our accommodation in Okinawa	
2月	L4 Our accommodation in Okinawa	
	学年末考査	
3月	L5 Getting ready for high school exams	

学年	6年	教科・科目 【講座名】	コミュニケーション英語Ⅲ	単位数 週の授業時数	3
----	----	----------------	--------------	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書「ELEMENT ENGLISH COMMUNICATION Ⅲ」（啓林館） 補助教材「ELEMENT ENGLISH COMMUNICATION Ⅲ Workbook」（啓林館） 「大学入試長文読解問題集 Cutting Edge」（EMILE）等					
学習の目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 2 まとまりのある情報や考えを読んだり聞いたりして理解する能力を育成する。 3 自分自身の考えや客観的に得た情報を、書いたり話したりして伝える能力を育成する。 4 平易な構造の英文を適切に精読し和訳を行う能力を育成する。 5 KUDAN CAN-DO リストの Grade 6 プラスの学習目標を達成する。 					
評価の方法					
<ol style="list-style-type: none"> 1 定期考査【聞く力・読む力・書く力・知識理解】 2 スピーチ、プレゼンテーション、リテリングなどの発表【話す力】 3 ライティングテスト・小テスト・パフォーマンステストなど【書く力・読む力・聞く力・話す力・文法・語いの知識】 4 家庭学習課題、授業における活動の観察【関心・意欲・態度】 					
学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 復習を重視し、授業で取り扱った英文に対して繰り返し音声を使用して音読を繰り返すことが大切である。 2. 授業内での教え合い活動や答案相互チェックなどを通じて、知識を深めていく。積極的に話し合い等に参加をすること。 3. インプットだけでは英語力は高まらない。アウトプット活動を重視した学習を通じて総合的な英語力の向上に努めること。 4. 授業に積極的に参加をすること。受験予定の大学に対応した力をつけることを目標とせず、どこの入試問題であっても十分に合格点が取れる学習を心掛けること。 5. 大学受験の先にある、「英語を使って何ができるようになるか」を意識した学習を心掛けること。 					
その他					
<ul style="list-style-type: none"> ・自己の答案の添削力の向上など、主体的学習を積極的に行うこと。 ・後期より習熟度別（希望制）の少人数クラス展開を実施する予定である。 					

月	単元	学習目標
4月	教科書 L1 Energy	移動の際に最も環境負荷の低い交通手段について意見を書いたり発表したりできる。 自然保護とオランウータンの関係について理解し、高いレベルで意見を書いたり発表したりできる。
	教科書 L2 Environment and Life	
5月	教科書 L3 Health and Life	睡眠の大切さについて理解し、高いレベルで意見を書いたり発表したりできる。 デジタル時代の記憶の変化について理解し、高いレベルで意見を書いたり発表したりできる。
	教科書 L4 Humans and Technology	
前期中間考査		
6月	教科書 L5 Diversity	絵文字の抱える多様性について理解し、高いレベルで意見を書いたり発表したりできる。 スタンフォード大で講義について理解し、意見を書いたり発表したりできる。
	教科書 L6 Education	
7・8月	教科書 L7 Miracles of Nature	卵の形の多様性、自然科学の面白さについて理解し、意見を書いたり発表したりできる。 持続可能な社会を目指す試みについて理解し、高いレベルで意見を書いたり発表したりできる。
	教科書 L8 Sustainable Development	
前期期末考査		
9月	教科書 L9 Art and Heart	デューラーの「祈りの手」秘話について理解し、高いレベルで意見を書いたり発表したりできる。 人生を支えた学校時代の思い出について理解し、高いレベルで意見を書いたり発表したりできる。
	教科書 L10 Human Relationships	
10月	長文問題集	英文全体の中での論理展開の追い方を知ることができる。 大学入学共通テストを時間内に解き、合格点を取る。
	大学入学共通テスト演習	
11月	長文問題集	和訳や英訳などを適切にできる。 大学入学共通テストを時間内に解き、合格点を取る。
	大学入学共通テスト演習	
後期中間考査		
12月	長文問題集	英文要約のポイントを知り、合格点を取れる答案を書ける。 大学入学共通テストを時間内に解き、合格点を取る。
	大学入学共通テスト演習	
1月	長文問題集	制限時間内で減点されない答案づくりの方法を知る。 大学入学共通テストを時間内に解き、合格点を取る。
	大学入学共通テスト演習	
2月	総合演習	

学年	6年	教科・科目 【講座名】	論理表現Ⅲ	単位数 週の授業時数	2
----	----	----------------	-------	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書 「EARTHRISE English Logic and Expression III Advanced」 (数研出版)					
補助教材 「Vintage 4th Edition」 (いいずな書店)					
「Vintage 4th Edition 準拠実践問題集 Drive」 (いいずな書店)					
「四訂版 入試必携 英作文 Write to the Point」 (数研出版)					
「キクタン【Super】」 (アルク)					
「Evergreen」 (いいずな書店) 等					
学習の目標					
1 スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、複数の段落から成る文章を書くことなどを通して、聞き手や読み手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して話したり書いたりして詳しく伝える、または伝え合うことができるようになる。					
2 書いた内容を読み返して推敲するなどの活動を通じて、正しい英文を書くことができる。					
3 KUDAN CAN-DO リストの Grade 6 の学習目標を達成する。					
評価の方法					
1 定期考査【知識・技能, 思考・判断・表現】					
2 スピーチ、リテリングなどの発表【思考・判断・表現】					
3 ライティングテスト・小テストなど【知識・技能, 思考・判断・表現】					
4 家庭学習課題、授業における活動の観察【主体的に学習に取り組む態度】					
学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）					
1. 復習を重視し、授業で取り扱った英文に対して繰り返し音声を使用して音読を繰り返すことが大切である。					
2. 授業内での教え合い活動や答案相互チェックなどを通じて、知識を深めていく。積極的に話し合い等に参加をする。					
3. インプットだけでは英語力は高まらない。アウトプット活動を重視した学習を通じて総合的な英語力の向上に努める。					
4. 授業に積極的に参加し、受験予定の大学に対応した力をつけることを目標とせず、難しいレベルの入試問題であっても十分に合格点が取れる学習を心掛ける。					
5. 大学受験の先にある、「英語を使って何ができるようになるか」を意識した学習を心掛ける。					
その他					
・ 2コマの授業のうち1つの授業において、通年で習熟度別の少人数展開授業を実施する。					
・ 自己の答案の添削力の向上など、主体的学習を積極的に行う。					

月	単元	学習目標
4月	はじめに Lesson 1 Coming to Japan	パラグラフの展開パターン パラグラフの構成、例示・列挙、比較・対照、原因・結果、時間的順序について理解する。 受け取ったメールへの返信を書くことができる。
5月	Lesson 2 Online Shopping	注文した商品の不備を報告するとともに、その後の対応について質問するメールを書くことができる。
前期中間考査		
6月	Lesson 3 Preparing to Study Abroad Lesson 4 24-hour stores	留学予定先の学校に懸念点を質問するメールを書くことができる。 コンビニエンスストアの24時間営業の是非について意見を述べることができる。
7・8月	Lesson 5 Start Agriculture	スマート農業の普及に関して意見を述べるすることができる。
前期期末考査		
9月	Lesson 6 Aiman, the Household Robot Lesson 7 Recipes	人気になると思う家事ロボットの機能について意見を述べるすることができる。 お好み焼きの作り方を説明することができる。
10月	Lesson 8 A Helping Hand Lesson 9 International Science Fair	駅への道で遭遇した出来事について説明することができる。 高校生向けの化学イベントへの参加申込書を作ることができる。
11月	Lesson 10 Future Career Plans Lesson 11 Media Reliability	インターンシップへの応募書類を作ることができる。 情報の信頼性に関する資料の要点を整理するとともに意見を述べることができる。
後期中間考査		
12月	Lesson 12 Garbage Problems	ごみ問題に関する資料の要点を整理するとともに意見を述べることができる。
1月	英文の推敲を行い完成させた英文を書く。	自分自身の英文を振り返り、適切に修正等を加えることができる。
2月	総合演習	
3月	総合演習	

学年	6年	教科・科目 【講座名】	【発展・標準】英語演習	単位数 週の授業時数	2
----	----	----------------	-------------	---------------	---

教科書・補助教材					
補助教材 SKYWARD [COSMOS] (桐原書店) SKYWARD [CLOUDS] (桐原書店)					
学習の目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1 中堅私立大学入試で出題される難度の英文を読んで概要・要点・詳細を理解することができる。 2 私立大学入試で出題される難度の英文法の問題を理解することができる。 3 制限時間内に合格点に到達するための設問処理能力をつけることができる。 4 紛らわしい選択肢の選び方を身につけることができる。 5 KUDAN CAN-DO リストの Grade 6 の学習目標を達成する。 					
評価の方法					
<ol style="list-style-type: none"> 1 授業内テスト 2 家庭学習課題、授業における活動の観察 <p>上記を総合的に判断し、評価する。</p>					
学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業は復習を重視し、授業で取り扱った英文に対して繰り返し音声を使用して音読を繰り返すことが大切である。 2. 授業内での教え合い活動や答案相互チェックなどを通じて、知識を深めていく。積極的に話し合い等に参加をすること。 3. インプットだけでは英語力は高まらない。アウトプット活動を重視した学習を通じて総合的な英語力の向上に努めること。 4. 授業に積極的に参加をすること。受験予定の大学に対応した力だけでなく、標準的な入試問題であれば十分に合格点が取れる学習を心掛けること。 5. 大学受験の先にある、「英語を使って何ができるようになるか」を意識した学習を心掛けること。 					
その他					
<ul style="list-style-type: none"> ・通年で習熟度別の少人数展開授業を実施する。クラス編成は通年で統一したもので実施する。 ・自己の答案の添削力の向上など、主体的学習を積極的に行うこと。 					

月	単元	学習目標
4月	中堅私大レベルの演習	中堅私大の入試問題を解き、それが正答である理由を説明できる。
5月	中堅私大レベルの演習	中堅私大の入試問題を解き、それが正答である理由を説明できる。
	前期中間考査	
6月	中堅私大レベルの演習	中堅私大の入試問題を解き、それが正答である理由を説明できる。
7・8月	中堅私大レベルの演習	中堅私大の入試問題を解き、それが正答である理由を説明できる。
	前期期末考査	
9月	中堅私大レベルの演習	難関大の入試問題を解き、それが正答である理由を説明できる。
10月	共通テスト・私大の入試演習	難関大の入試問題を解き、それが正答である理由を説明できる。また、時間内に解き、合格点を取ることができる。
11月	共通テスト・私大の入試演習	難関大の入試問題を解き、それが正答である理由を説明できる。また、時間内に解き、合格点を取ることができる。
	後期中間考査	
12月	共通テスト・私大の入試演習	難関大の入試問題を解き、それが正答である理由を説明できる。また、時間内に解き、合格点を取ることができる。
1月	共通テスト・私大の入試演習	難関大の入試問題を解き、それが正答である理由を説明できる。また、時間内に解き、合格点を取ることができる。
2月	個別指導	志望校の過去問を解くことができる。
3月		

技術・家庭科（家庭分野） 学習指導計画

教科の目標	家庭や生活の営みを人の一生の関わりの中でとらえ、家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣、食、住、消費生活を通して自分らしく生きる方法を学び自立して生活できる力を身に付ける。また、環境にやさしい生活の仕方を学び、一人一人がよりよい生活をするよう主体的にかかわる態度を高めていく。				
	学年	区分	区分の目標	学習内容	学習の特色
前期課程	第1学年	基礎学力養成充実期	生活全般の基礎的知識、技術を習得する	技術・家庭科（家庭分野） ○家族・家庭生活 ・ガイダンス ・家庭のはたらきと家庭の仕事 ○衣食住の生活〔食生活〕 ・食品と栄養素 ・中学生に必要な食事 ・日常食調理と地域の食文化 ・献立づくり	・講義と実習 ・調理実習、調べ学習では少人数展開授業
	第2学年			技術・家庭科（家庭分野） ○衣食住の生活〔衣生活〕 ・衣服の選択と手入れ ・布を用いた作品 ○衣食住の生活〔住生活〕 ・安全で健康的な住生活 ○消費生活・環境 ・購入・支払いと生活情報 ・消費生活が環境に与える影響	・講義と作品制作
	第3学年			技術・家庭科（家庭分野） ○家族・家庭生活 ・幼児の生活と家庭 ・幼児が安心できるかかわり ・かかわり合う地域と家庭	・講義と作品制作
後期課程	第5学年	発展期	学習したことを生かし内容を深める	家庭基礎 ○人の一生と家族 ○保育 ○高齢者 ○共生社会 ○食生活 ○衣生活 ○住生活 ○消費生活 ○環境	・人の一生を生涯発達の視点でとらえ、各ライフステージの特徴と課題について理解させ、共に支え合って生活することの重要性を認識させる

学年	5年	教科・科目 【講座名】	家庭科【家庭基礎】	単位数 週の授業時数	2
----	----	----------------	-----------	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書 「家庭基礎 自立・共生・創造」 (東京書籍) 副教材 「LIFE おとなガイド」 資料 (教育図書)					
学習の目標					
<ul style="list-style-type: none"> ○生活に必要な知識と技術を習得する。 ○青年期だけでなく乳幼児の心身の発達、高齢期の生活を理解し、人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえる。 ○環境に配慮したライフスタイルについて考え、主体的に生活設計をする。 					
評価の方法					
<ul style="list-style-type: none"> ○授業への取り組み、実習や課題ごとに作成するワークシート、小テスト、実技テスト、長期休暇の課題の提出状況などで評価します。 ○作品については、机間巡視で、その時間の課題の達成度や進度、技能や工夫点などを補助簿兼進度表に記入し、授業中と完成時に評価します。 ○調べ学習・作品は、クラスごとに発表の場を設け、生徒同士知識を広げるとともに工夫点などを評価します。 ○前期期末考査、後期期末考査では、知識・理解の部分を中心に総合的に評価します。 					
学習のアドバイス (授業への臨み方、予習や復習の方法)					
<p>☆授業への臨み方</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特別な予習・復習の必要はありませんが、実習や製作、演習、講義などを通して生活の自立、生活を豊かにするための授業ですから、毎時間の授業に全力で楽しい気持ちで取り組んでください。 ○授業に必要な用具や物などの準備をし、忘れ物のないようにしましょう。 ○提出物は、期日を守って必ず提出してください。 ○授業や展覧会などで発表の場があります。準備をして臨むことと、友達の発表から情報を取り入れ、自分の生活に活かしていきましょう。 <p>☆予習や復習の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業で習ったことは実際に自分の家庭生活でやってみましょう。 (技術的なことは、何回も繰り返すことによりうまくなります。) ○授業では基本的なことを学びますが、やり方は一つでないものもたくさんあります。展示物を見たり、話を聞いたり、調べたり、やってみて、知識を広げ、深めましょう。 					
その他					
<p>家庭科の授業は、基本的には一斉授業で行い、内容に応じて実習や実験を取り入れた授業を行います。知識を得て理解し、繰り返しやってみることで技術が身につき、理解が深まります。また、基本的なことは変わらないものも多くありますが、友達の意見もよく聞いて、自分の家庭生活で活かす工夫をしていきましょう。</p>					

月	単元	学習目標
4月	○ 食生活 ・ 食事と健康	・ 健康で安全な食生活を営むために必要な栄養、食品、調理及び食品衛生などの基礎的・基本的な知識と技術を習得し、生涯を見通した食生活を営むことができる。
5月	・ 栄養と食事 ・ 食品と調理	・ 食事の役割や栄養素の種類と機能について、青年期と家族の各ライフステージの栄養的な特徴について理解する。 ・ 日常用いられている主な食品を取り上げ、食品の栄養的特質と調理上の性質について理解する。
6月	○ 人の一生と家族・家庭及び福祉 ・ 青年期の自立と家族・家庭 ・ 子どもの発達と保育 ・ 高齢期の生活 ・ 共生社会と福祉	・ 人の一生を生涯発達の視点でとらえ、各ライフステージの特徴と課題について理解するとともに、家族や家庭生活の在り方、子どもと高齢者の生活と福祉について考え、共に支え合って生活することの重要性についてわかる。
7・8月	○ 衣生活 ・ 被服の機能と着装 ・ 被服の管理と計画 作品制作	・ 被服管理に必要な被服材料、被服構成などの基礎的・基本的な知識と技術を習得し、目的に応じて着装を工夫し、健康で快適な衣生活を営むことができる。 ・ 基本的な裁縫技能を振り返る。
9月	作品制作	・ 基本的な裁縫技能を振り返り、発展的な技能を身につける。
10月	○ 消費生活と生涯を見通した経済の計画	・ 消費生活の現状と課題や消費者の権利と責任について理解し、適切な意思決定に基づいて行動できるようにするとともに生涯を見通した生活における経済の管理や計画をたてることができる。
11月	○ 消費生活と生涯を見通した経済の計画	・ 消費生活の現状と課題や消費者の権利と責任について理解し、適切な意思決定に基づいて行動できるようにするとともに生涯を見通した生活における経済の管理や計画をたてることができる。
12月	調理実習① 和食 魚をさばく 調理実習② 洋食	・ 調理法の要点を踏まえ、目的を明確にした調理実習を通して調理技術を習得する。 ・ 食生活の安全や、衛生について、調理実習とかかわらせて理解し、配膳や食事マナーを身につける。 ・ 食事開始時間から逆算し、能率やタイミングを考えて計画的に協力して調理ができる。
1月	○ 住生活 ・ 住居と住環境	・ 住宅の機能、住居と地域社会のかかわりなどに必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得し、安全で環境に配慮した住生活を営むことができる。
2月	・ ライフスタイルと環境	・ 生活と環境とのかかわりについて理解し、持続可能な社会を目指してライフスタイルを工夫し、主体的に行動する。
3月	○ 生涯の生活設計	・ 生涯を見通した自己の生活について考えるとともに、主体的に生活を設計できる。

情報科 学習指導計画

教科の目標		1 情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、情報活用能力・課題解決能力を高める。 2 情報社会への進展に対応するために必要な知識や知見を身に付け、その発展に寄与するための資質・能力を育む。		
学年	区分	区分の目標	学習内容	学習の特色
前期課程	第1学年	基礎学力養成期	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 20px; padding: 20px; width: fit-content; margin: auto;"> 技術・家庭科（技術分野）参照 </div>	
	第2学年			
	第3学年			
後期課程	第4学年	充実期 情報の科学的な理解をし、課題解決やアカデミックスキルを身に付ける。	【情報Ⅰ】 ・情報社会の問題解決 ・コミュニケーションと情報デザイン ・コンピュータとプログラミング ・情報通信ネットワークとデータ活用	協働学習による問題解決型学習により情報活用能力の向上 アクティブラーニングによるアカデミックスキルや課題解決能力の習得
	第6学年	発展期 情報と情報技術を適切かつ効果的、創造的に課題解決に活用し、情報社会に主体的に参画する資質・能力を育む。	【情報Ⅱ】 ・情報社会の進展と情報技術 ・コミュニケーションとコンテンツ ・情報とデータサイエンス ・情報システムとプログラミング ・情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探究 【情報探究】 ・情報Ⅰを基にした実践課題の演習 ・総合演習	情報に関わるあらゆる分野に関する基本的な知識と技術を統合的に理解 Society5.0における諸課題を主体的、合理的に発見・解決を行おうとする態度の育成

学年	4年	教科・科目 【講座名】	情報【情報Ⅰ】	単位数 週の授業時数	2
----	----	----------------	---------	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書「情報Ⅰ Step Forward!」（東京書籍） 補助教材「情報最新トピック集高校版」（日経BP社、日本文教出版） 「ベストフィット情報Ⅰ」（実教出版） 「TECHTAN やさしくたのしく学べる情報Ⅰ単語帳」（翔泳社） 「デジタルファブ리케이션ワークブック」（実教出版） 「未来を拓く探究シリーズ 探究ナビ」（ベネッセコーポレーション）*総合探究と共通					
学習の目標					
1 具体的な問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題解決に向けて情報と情報技術を活用するための知識と技能を身につける。 2 情報と情報技術を適切かつ効果的に活用するための力を養う。 3 情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。 4 協働学習を通し、思考の方法やコミュニケーション力を身に付ける。 5 情報リテラシーやICTリテラシー、アカデミックスキルを活用する実践力を身に付ける。					
評価の方法					
次の3点を評価の対象とする。 1 授業ノート、レポートや制作する作品、リフレクションなどの提出物 2 授業中の取り組み状況、問題集の取り組み状況 3 授業内テスト、定期考査					
学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）					
<p>情報を収集・分析・統合・発信する活動を繰り返し、思考を深め、自己の学びがどうであったかを振り返るとともに、他者との関わり合いにより学びの質を高めます。課題解決型学習では協働学習も行います。課題を完成させるだけでなく、思考のプロセスを大事にし、それも含めて表現します。また、自らの評価の質を高めていき、一人一人が学習者として自立しつつ、他者と学び合うことで課題解決能力を高めます。自ら考え行動できるようになりましょう。</p> <p>【学習のポイント】 自分に合ったより良い習得法を学びましょう。例えばノートを編集・構成するとき、要点は何か、どのようなことが関連しているかなどを考え、表現するようにしてみる、というようなことです。どのような情報を得て活用し、表現したら良いのかという思考を繰り返すことで、問題解決の質を高めます。また、学びを充実させていけるよう、プロセスも含め、振り返りを丁寧にしましょう。</p> <p>情報活用能力は、年間を通じて主体的に取り組むことで向上していきます。スキルだけでなく、知識基盤社会で活躍するための資質や科学的な理解を深めていきましょう。</p> <p>協働学習では、コミュニケーションによりさらに理解が深まっていきます。わからないことや困ったことがあれば、相談しあったり、教え合ったりしましょう。人に話したり教えたりできるかという視点で、自分がどのくらい理解しているかを確認できます。一人で学んでいる以上に、聞いた人も話した人も互いにさらに理解が深まります。そのためにも、一人一人が自立し、自ら考え行動できるようになり、他の人の学びを自分に活かしましょう。</p> <p>これまでの時代にはなかった技術やシステムが圧倒的な速さで登場し、利用される社会となりました。理系文系といった旧来の分類ではなく、総合力が問われます。情報学はすべての基礎となるものです。情報や情報技術を適切に活用し、新たな価値を生み出す創造力をもつことで、国際競争力のある人材となり、これからの時代に豊かな生活を送ることのできる力として身につけましょう。</p> <p>【自主学习について】 授業とそれに関連する内容を整理してまとめるようにしましょう。要点は何かを考え、成果物として表現できるよう、思考して工夫することも大切です。また、先を見越して自ら学ぶ意識を持ちましょう。インターネット上の情報はたくさんありますが、学習に役立つ情報、メディアを選択できるようにしましょう。学校だけでなく、自宅でも学習できるよう自らの学習環境を作り、実践しましょう。</p>					
その他					
上記教科書・補助教材の他にオンライン学習教材等を使用します。 次ページの計画は履修者の習得状況等により随時、再構成・調整します。					

月	単元	学習目標
4月	情報社会の問題解決	情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身に付け、その役割と影響を科学的に考察する。情報社会における法規やモラルを理解し、情報技術の適切な活用を通じて、望ましい情報社会の構築について考える力を養う。
5月	コミュニケーションと情報デザイン	受け手に分かりやすく情報を伝えるために、メディアとコミュニケーション手段の特性等を科学的に理解し、情報デザインの役割や方法を身に付ける。また、目的や状況に応じたメディアの選択や効果的な情報デザインを通じて、コミュニケーションを行う能力を養う。
前期中間考査		
6月	コンピュータの仕組み 情報通信ネットワーク	コンピュータや外部装置の仕組み、情報の内部表現と計算の限界、情報通信ネットワークの構造やプロトコルについて理解し、これらを活用する技能を身に付ける。コンピュータの能力と情報の特徴の関係や、ネットワークの必要要素と情報セキュリティの方法を考え、問題解決に役立つ情報システムの効果的活用について考察する力を養う。
7・8月	データの活用	データの収集、整理、分析、活用について理解し、それらの技能を身に付ける。具体的な事例に基づいて、データの取り扱いにおける、収集から分析、結果の表現までを適切に選択し実行できる思考力と改善能力を養う。
前期期末考査		
9月	モデル化とシミュレーション	社会や自然などにおける事象をモデル化する方法、シミュレーションを通してモデルを評価し改善する方法について理解する。目的に応じたモデル化やシミュレーションを適切に行うとともに、その結果を踏まえて問題の適切な解決方法を考える。
10月	アルゴリズムとプログラム	アルゴリズムを表現する手段、プログラミングによってコンピュータや情報通信ネットワークを活用する方法について理解し技能を身に付ける。
11月	アルゴリズムとプログラム	目的に応じたアルゴリズムを考え適切な方法で表現し、プログラミングによりコンピュータや情報通信ネットワークを活用するとともに、その過程を評価し改善する。
後期中間考査		
12月	総合実習	これまでの知識・技術を統合的に理解して深め、ひとつの情報システムとして構築する場合の企画・設計・開発・運用プロセスにおいて、どのように機能するかを思考しながら、領域横断的かつ体験的に問題解決のために試行錯誤する。
1月	総合実習	
2月	総合実習	
学年末考査		
3月	自己評価	情報Ⅰの学習を振り返り、これからの情報社会において必要な資質能力について考察する。

学年	6年	教科・科目 【講座名】	情報【情報Ⅱ】	単位数 週の授業時数	2
----	----	----------------	---------	---------------	---

教科書・補助教材					
教科書「情報Ⅱ」（日本文教出版）					
学習の目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1 多様なコミュニケーションの実現、情報システムや多様なデータの活用について理解を深め、技能を習得するとともに、情報技術の発展と社会の変化について理解を深める。 2 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的、創造的に活用する力を養う。 3 情報と情報技術を適切に活用するとともに、新たな価値の創造を目指し、情報社会に主体的に参画してその発展に寄与する態度を養う。 					
評価の方法					
実習の科目であるので、授業の課題、リフレクションなどを含む提出物、授業中の取り組み状況などを総合的に判断して評価を行う。					
学習のアドバイス（授業への臨み方、予習や復習の方法）					
<p>授業は、PBL(課題解決学習)の形式で学びます。</p> <p>「情報Ⅰ」で身に付けた資質・能力を総合的に活用し、段階的に「情報Ⅱ」で身に付けた資質・能力も総合的に活用することで、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する活動を通して、新たな価値の創造を目指し、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する資質・能力を高めていきます。</p> <p>具体的な問題の発見・解決を行う学習活動を通して、それに向けて情報と情報技術を活用するための知識と技能を身に付けるようにし、適切かつ効果的、創造的に活用する力を養い、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与するための資質・能力を養います。</p> <p>授業では、情報を収集・分析・統合・発信する活動を繰り返し、自己の学びがどうであったかを振り返るとともに、他者との関わり合いにより学びの質を高めます。課題を完成させるだけでなく、学習のプロセスを大事にし、考えたことをプロセスも含めて表現します。自らの評価の質を高めていき、一人一人が学習者として自立しつつ、他者と学び合うことで課題解決能力を高めます。自ら考え行動できるようになることを目指します。</p> <p>本科目は、大学の受験要件で情報Ⅱが課されている等を含めて、情報活用能力を実践的に高めた生徒、情報学を主体的に学びたい生徒を対象としています。</p>					
その他					
副教材については、取り組む実習内容によって教材費が異なる可能性があります。次ページについては受講生の習熟度や探究テーマに応じて再構成するため、記載の月に実施することを示すものではありません。考査の実施についても同様です。					

月	単元	学習目標
4月	情報社会の進展と情報技術	情報技術の発展の歴史を踏まえて、情報セキュリティ及び情報に関する法規・制度の変化を含めた情報社会の進展、情報技術の発展や情報社会の進展によるコミュニケーションの多様化や人の知的活動に与える影響を理解し、コンテンツの創造と活用、情報システムの創造やデータ活用の意義について考える。
5月	コミュニケーションとコンテンツ	コミュニケーションを適切に行うために、目的や状況に応じてコンテンツを制作し、発信する学習活動を通じて、情報の科学的な見方・考え方を働かせ、多様なメディアを組み合わせてコンテンツを制作する方法やコンテンツを発信する方法を理解し、必要な技能を身に付ける。
	前期中間考査	授業内課題
6月	コミュニケーションとコンテンツ	情報デザインに配慮してコンテンツを制作し評価し改善する力を養う。 学習活動を通して制作したコンテンツを適切かつ効果的に発信しようとする態度、コンテンツを社会に発信した時の効果や影響を考えようとする事及び、コンテンツを評価し改善しようとする態度を養う。
7・8月	情報とデータサイエンス	情報の科学的な見方・考え方を働かせて、問題を明確にし、分析方針を立て、社会の様々なデータ、情報システムや情報通信ネットワークに接続された情報機器により生成されているデータについて、整理・整形・分析などを行う。
	前期期末考査	授業内課題
9月	情報とデータサイエンス	不確実な事象を予測するなどの問題発見・解決を行うために、データの収集・整理・整形・モデル化・可視化・分析・評価・実行・効果検証などの各過程における方法を理解し、必要な技能を身に付け、データに基づいて科学的に考えることにより問題解決に取り組む。
10月	情報システムとプログラミング	実際に稼働している情報システムを調査する活動や情報システムを設計し制作する活動を通して、情報の科学的な見方・考え方を働かせ、情報システムの仕組み、情報セキュリティを確保する方法、情報システムを設計しプログラミングする方法を理解し、必要な技能を身に付ける。
11月	情報システムとプログラミング	情報システムの制作によって課題を解決したり、新たな価値を創造したりする。
	後期中間考査	授業内課題
12月	情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探究	情報と情報技術を活用して問題発見・解決の探究を通して、情報の科学的な見方・考え方を働かせ、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用するための知識及び技能の深化・総合化、思考力、創造力、判断力、表現力等の向上を図る。
1月	個別指導	個別指導
2月	個別指導	個別指導
3月	個別指導	個別指導

学年	6年	教科・科目 【講座名】	情報・情報探究	単位数 週の授業時数	2
----	----	----------------	---------	---------------	---

教科書・補助教材					
補助教材 「実戦攻略 情報Ⅰ 大学入学共通テスト問題集」 (実教出版) 「情報Ⅰ 大学入学共通テスト対策」 (インプレス) 「共通テスト対策【実力完成】直前演習 情報Ⅰ」 (ベネッセコーポレーション) 「共通テスト実戦問題パックⅤ 情報Ⅰ」 (駿台文庫)					
学習の目標					
1 情報に関わるあらゆる分野に関する基本的な知識と技術を統合的に理解する。 2 教科及び領域間で複合的・発展的な内容を取り入れた大学入試等にも対応できる情報活用能力を育む。 3 協働学習を行い、情報社会に参画する実践的な態度を高め、Society5.0における諸課題を主体的、合理的に解決しようとする態度を育む。					
評価の方法					
次の3点を評価の対象とする。 1 授業の課題、リフレクションなどの提出物 2 授業中の取り組み状況、出席状況 3 授業内テスト、定期考査					
学習のアドバイス (授業への臨み方、予習や復習の方法)					
<p>知識・技能の習得を含め、協働学習により、受験で必要な思考力・判断力等を段階的に養うため、主体的・対話的に学ぶことが必須になります。共通テストで情報Ⅰを受験予定の生徒も対象とします。</p> <p>情報を収集・分析・統合・発信する活動を繰り返し、自己の学びがどうであったかを振り返るとともに、他者との関わり合いにより学びの質を高めます。課題を完成させるだけでなく、学習のプロセスを大事にし、考えたことをプロセスも含めて表現します。協働学習では、学びあうことで主体的に学習し、コミュニケーションによりさらに理解が深まっていきます。わからないことや困ったことがあれば、相談しあったり、教え合ったりすることで高め合っていきましょう。人に話したり教えたりできるということは理解できている証であり、自分がどのくらい理解しているかを確認することができます。一人で学んでいる以上に、聞いた人も話した人も互いにさらに理解が深まります。そのためにも、一人一人が自立し、自ら考え行動できるようになりましょう。自分がどのように学んでいるかを客観的に評価できるようにし、評価の質を高めることで学びの質は高まります。他の人の学びを自分に活かして、互いに協力しつつ切磋琢磨して高めましょう。</p> <p>受験科目として必要なくなった場合や、他の科目がより重要であるかどうか等に関わらず、授業時間中は本科目の学習に専念して取り組むこととします。</p>					
その他					
上記教科書・補助教材の他にオンライン学習教材を使用します。 履修要件を満たしていても、欠席が多く取り組み不十分と考えられる場合は修得不可となる可能性がありますので注意してください。					

月	単元	学習目標
4月	「情報社会の問題解決」「コミュニケーションと情報デザイン」の各領域の再学習	各領域の基本的知識を習得し、思考・判断・表現するために、自らの学びを調整しながら取り組む。
5月	「コンピュータとプログラミング」「情報通信ネットワークとデータの活用」の各領域の再学習	各領域の基本的知識を習得し、思考・判断・表現するために、自らの学びを調整しながら取り組む。
前期中間考査		
6月	「情報社会の問題解決」「コミュニケーションと情報デザイン」「コンピュータとプログラミング」「情報通信ネットワークとデータの活用」の領域を融合した演習	各領域を融合した知識を理解し、領域を融合して思考・判断・表現するために、演習に粘り強く取り組む。
7・8月	「情報社会の問題解決」「コミュニケーションと情報デザイン」「コンピュータとプログラミング」「情報通信ネットワークとデータの活用」の領域を融合した演習	各領域を融合した知識を理解し、領域を融合して思考・判断・表現するために、演習に粘り強く取り組む。
前期期末考査		
9月	領域・教科横断的な実践課題の演習	他領域や他教科の関連した知識を理解し、横断的な課題について思考・判断・表現するために、情報の学習内容を関連させながら自らの学びに試行錯誤して取り組む。
10月	領域・教科横断的な実践課題の演習	他領域や他教科の関連した知識を理解し、横断的な課題について思考・判断・表現するために、情報の学習内容を関連させながら自らの学びに試行錯誤して取り組む。
11月	領域・教科横断的な実践課題の演習	他領域や他教科の関連した知識を理解し、横断的な課題について思考・判断・表現するために、情報の学習内容を関連させながら自らの学びに試行錯誤して取り組む。
後期中間考査		
12月	領域・教科横断的な実践課題の演習	他領域や他教科の関連した知識を理解し、横断的な課題について思考・判断・表現するために、情報の学習内容を関連させながら自らの学びに試行錯誤して取り組む。
1月	個別指導	個別指導
2月	個別指導	個別指導
3月	個別指導	個別指導

令和8年度 学習指導計画 後期課程

編集・発行 千代田区立九段中等教育学校
〒102-0073 東京都千代田区九段北二丁目2番1号
電話 03(3263)7190 (代表) ファクシミリ 03(3288)3499
ホームページ <http://www.kudan.ed.jp>